

めらんこり
性暴動發作

精神の症候。感情ハ持續的悲哀或ハ苦悶性乃至茫乎タル感アルモノニシテ之レト共ニ考慮制止運動稀少寡言稀ニ苦悶性興奮ト共ニ意思奔逸症アルコトアリ。厭世トナリ。或ハ自ラ力ナク無能力ノ感アルモノアリ。又一般ニ意志ノ抑制セラルコトヲ覺ユ。屢々同型ノ妄想アリ。即チ罪業貧困心氣性追跡等ノ妄想多ク時ニ強迫念慮アルコトアリ。稀ニ苦悶性又ハ恐怖性ノ妄覺アルコトアリ。又時ニ意識渾濁暴行ヲ伴フ一時的ノ烈シキ苦悶發作ヲ發スルコトアリ。之ハめらんこり性暴動發作ト名ヅケラレ數分乃至數時間ニテ終ル。又一二日苦悶性興奮又ハ制止ヲ伴フコトアリ。制止ノ烈シキ時ハ強度ノ抑止狀態或ハ昏迷狀態ヲ示シ其ノ際ニハ強梗症蠟屈症ヲモ伴フコトアリ。

病型ヲ左ノ數種ニ別タル。

單一性抑鬱狀
態

妄想性抑鬱狀
態

遲鈍性又ハ昏
迷性憂鬱病

極昏迷狀態ニ陥リ寡言マタ全クノ緘默狀ニ陥リ問ヘドモ答ナク動作全ク停止スルニ

(一)單一性抑鬱狀態 Einfache Depression, 單一性憂鬱病 Einfache Melancholie. ヲハ不快性悲哀性ナル情調輕度ノ考慮及ビ運動制止自覺的無能力ノ感ヲ主トスルモノナリ。而シテ經過短キモ時々發作スルモノト經過長クテ體質性ニ然カル如ク見ユルモノトアリ。

(二)妄想性抑鬱狀態 Depression mit Wahnidee. 精神運動制止悲觀性情緒ノ外ニ妄想殊ニ被害妄想罪障妄想等ヲ有スルモノ。

(三)遲鈍性又ハ昏迷性憂鬱病 Stuporöse Depression. 抑鬱性顔貌強度ノ制止アリ。時ニ其ノ極昏迷狀態ニ陥リ寡言マタ全クノ緘默狀ニ陥リ問ヘドモ答ナク動作全ク停止スルニ

興奮性憂鬱病

至ルモノトス。豫後比較的好良ナリ。全經過概ネ三乃至六ヶ月トス。

(四)興奮性憂鬱病 Agitierte Melancholie, 又ハ苦悶性憂鬱病 Angstmelancholie トシテ烈シキ苦悶ヲ有シ運動性不安アリ。苦惱哀訴ノ念絶ヘズ之レニ加フルニ罪障妄想アリ自殺ノ意去ラズ其ノ烈シキニ至リテハ狂暴狀ニ達スルモノアリ。豫後不良ナリ。殊ニ五十歲以後ニ發セルモノニハ治療困難トス。

抑鬱性妄覺病

(五)抑鬱性妄覺病 Depressiver Wahnsinn トテ抑鬱狀態ニテ幻錯覺妄想多キモノアリ。其ノ制止烈シキトキハ烈シキ昏迷狀ニ陥リ而カモ其ノ間幻覺多キモノナリ。豫後概ネ好良ナリト信ゼラル。

以上ノ如ク本病ニハ多クノ定型アリ其ノ豫後亦多大ノ差異アルモノナレバ本病診斷ノ際ニハ宜シク病型ノ差異ヲ明カニスルノ要アリ。

類症鑑別。精神病中悲哀性又ハ苦悶性情調ヲ示ス病症ハ頗ル多シ從ツテ本病ト鑑別ヲ要スルモノハ尠カラザルナリ。而シテ左ニ其ノ必要ナルモノヲ舉ゲムトス。

麻痺性癡呆ノ抑鬱性定型。本病ハ躁鬱病ノ抑鬱狀態ト誤ラルコト多キモ麻痺性癡呆ニハ其ノ身體症狀アルヲ以テ鑑別セラル只麻痺性癡呆ノ初期ニ於テ尙未ダ身體症狀ヲ具備セザル時ニハ往々ニシテ之レト誤ラルコトアリ。サレバ三十五六歲以後ノ本病者ニハ必ズ血清ノワッセルマン氏反應ヲ檢スベク同反應ノ缺クル時ハ先ヅ之レヲ以テ麻痺性癡呆ナラズトシテ大過ナキモノノ如シ。

破瓜病及ビ緊張病ノ悲觀性ノモノニハ其ノ言フトコロハ悲觀性ナルモ其ノ情緒淺薄ニシテ寧ロ感情鈍麻ノ狀ヲ示シ意識明亮ナルニ關ハラズ思想纏ラズ判斷不良ニシテ支離滅裂ノ狀アリ。又制止甚シカラズシテ既ニ周圍ニ對スル興味ヲ失ヒ、衝動性拒絶症狀衝動性動作衝動性不安意志阻礙命令自動言語錯亂ノ風ヲ示スモノヲ多シトス。

妄想性癡呆又ハ偏執病ニテ抑鬱性情緒ヲ示ス時ハ其ノ抑鬱性感情ハ寧ロ被害其ノ他ノ妄想ニ伴フ續發的感情タル如キ感アリ。且之レニ加フルニ著明ノ妄想ヲ有ス。

動脈硬化性癡呆ニテ悲觀性情緒ヲ示スモノハ又めらんこりト認メラルコトアルモコレニ於テハ第一回發病ガ概ネ高齡ニ發シ血管ノ硬化並ビニ蜿蜒蛋白尿アリ。加之悲觀性ナルモ感情ノ變化多ク刺戟性ナルコト烈シク且記憶判斷不良ニシテ身體的ニハ腦性竈局症狀アリ。多クハ朝不良ニシテ夕ニ判斷及ビ記憶ノ好良ナルモノアリ。又動脈硬化症者ノ多クハ病覺ヲ有スル時アリ。

老老性癡呆、高齡精神衰弱狀態殊ニ記憶力ハ著シク不良ニシテ指南力失セ感情鈍麻ノ狀ニヨリ區別セララル。

癲癇ニモ悲觀性情緒ヲ示スモノアレドモ之レニ於テハ既往歴ニ痙攣又ハ眩暈ノ發作アルコトヲ知ラレ又其ノ狀態ニ於テ單ニ悲觀性ナルモノノ外ニ激怒ヲ起シ易ク多クハ意識濁濁ヲ伴フモノナリ。癲癇性抑鬱狀態ハ其ノ經過短キモノナリ。

混合狀態

ひすてりー。本症ニテ悲觀性ナルモノハ單ニ悲觀性ノミナラズシテ刺戟性感情ヲ伴ヒ而カモ其ノ感情ハ外界ノ刺戟ニ應ジテ左右セラレ易ク且其ノ悲觀症ハ各發作ノ前後ニ來ルコト多ク又ひすてりー性特徵ヲ具有スルモノナリ。

丙。混合狀態ニハ考慮貧弱性躁病 Unproductive Mania、躁病性昏迷 Manischer Stupor、逸性抑鬱狀態 Ideenfluchtige Depression 等ヲ普通トスルモ其ノ鑑別ハ前回發作ヲ知ラザレバ困難ナリ。即チ鑑別上ノ要點ハ前回ノ躁病又ハ抑鬱狀態ノ有無ヲ知ルコトニシテ若シ第一回ノ發病ナル時ハ中ミニ診斷シ難タシ。殊ニ外見上酷似スルガ故ニ之レヲ早發性癡呆ト誤マラルコト多シ。コハ願慮スベキコトナリ。其ノ詳シキコトハ前卷精神病學躁鬱病篇ヲ見ヨ。

療法。外界ノ刺戟ヲ避ケ發揚症ニハ沈靜劑苦悶ニハ阿片劑其ノ他ハ對症療法トス。ナレバ前卷躁鬱病ノ項及ビ本卷前章治療總論殊ニ二六六頁邊ヲ參照スベシ。

白癡

五 白癡 Idiot.

既。往。歴。兩親ノ精神病白癡大酒家微毒其ノ他之レニ類スル遺傳分曉時ノ外傷幼時ノ腦病例之腦水腫腦質炎及ビ腦膜炎ヲ知リ。又生後發育ノ遅キコト即チ歩行發音ノ普通兒童ニ比シ遙カニ遅クレ多クハ二三歳ニナルモ言語發育セズ只異様ナル叫聲ヲ發スルニ止マリ三四歳ニ達シテ尙歩行不能又大小便ヲ教ヘズ。更ラニ長ズルモ兩親ニ愛着セズ教化全ク不可能ナルモノナリ。

身體的症候。全ク異常ナキモノアレドモ、多クハ頭蓋過大、過小又ハ他ノ畸形アリ。四肢ニ麻痺、攣縮、反射機能障礙、癲癇様痙攣等ヲ示スモノ多シ。精神の症候。幼年ノ中ハ勿論、成長セルモノニモ言語、全クナキカ又ハ僅カ數エウルニ止マリ。大小便ノ始、末モ獨リニテハ充分ナラズ。讀書、書字ヲ教ユルコト全然不能ナリ。運動ハ多ク拙劣ニシテ癡鈍ナリ。時ニハ又反ツテ不安ニシテ興奮狀ノモノアリ。類症鑑別。

幼若麻痺性癡呆。反射性瞳孔強直及ビ言語蹉躑アル外、本病ハ生來性ナラズ多クハ十年以後ニ發シ、六七歳ニテ發スルモノモ少ナシトセズ。其ノ後天性ナルコトニヨリ區別セラル。緊張病性癡呆。五六歳ヨリ早發性癡呆ノ發スルコト稀ニアリ。然カルトキハ之レト誤ラルコトアルモ、詳シク檢スレバ本病ニハ既得智識ノ殘遺アリ、生來性白癡者ノ如ク何モ辨ヘザルモノニアラズ。

癲癇性癡呆。幼年ニシテ真正ノ癲癇發作ガ頻々起ルトキハ比較的早ク癡呆ニ陥ルコトアリ。コハ白癡ニテ癲癇發作ヲ伴フモノト區別スルノ要アルコトアリ。サレドモ一ハ生來性ニ發シ他ハ後天性ノ病ナルヲ以テ既往歴ニヨリ區別セラル。白癡ニハ又其ノ原因ノ先天性ナルヤ後天性ナルヤヲ鑑別シ、併セテ其ノ病原ノ何ナルヤヲ鑑別スルノ要アリ。(前卷精神病學各論白癡ノ篇ヲ見ヨ)。

治療。最モ重キモノハ只保護スルノミ、稍ヤ輕キモノハ之レヲ白癡學校ニテ教育ス。他ハ症候のニ治療ス。(前卷白癡ノ章治療ノ項ニ詳シ)。

癡愚

癡愚 Imbecillität

既往歴。屢々遺傳ヲ證ス。殊ニ親ノ癡愚變人、酒客又ハ微毒等ハ其ノ重要ナルモノナリ。遺傳ノ外ニハ分娩時外傷、小兒期ニ於ケル頭部外傷、腦水腫、幼時ノ腦質炎及ビ腦膜炎、室扶斯、いんふるゑんざ、其他ノ熱性病ニ罹レルコトヲ探知セララルコトアリ。然カレドモ亦何等ノ原因ヲ徵スルコトナク、原因全ク不明ニシテ本病ニ陥レルモノアリ。其中ニハ家族ノ變質狀態ニ基キ來ルモノヲ多シトス。本人發育史中幼時ヨリ一般ニ精神發育遲延シ、小學ニ入リテモ發音不明、智能劣リ、學業成績惡シク、就中記憶算數ノ成績ニ於テ不良ナルヲ聞クモノ多シトス。人ニヨリ學校ノ落第ハナシト云フモ、コハ當テニナラス場合多シ。長ジテ後チ兵役又ハ一般職業ニ堪ヘズ。反社會的傾向多クアルモノナリ。

身體的症候。白癡者ノ如ク著明ナルモノナク、又其ノ症候ノ數モ少ナキモ頭圍短縮、頭形、口蓋齒列ノ異常、一側ノ痙攣性麻痺、腦性小兒麻痺、斜視、吃吶、其ノ他言語ノ異常アルモノ多シ。

精神の症候。生來性精神發育不良者ニハ年齡ニ應ゼルダケノ精神機能ナク、殊ニ數ノ觀念、判斷力ニ乏シク、又高等ナル道德的觀念ニ缺クルトコロ多シ。

普通兒童ノ身體並ニ精神發育ノ順序ハ白癡癡愚程度診斷ノ上ニ參考トナルトコロ頗ル多シ。サレバ余ハ左ニ普通兒ニ關スル其等ノ事項中殊ニ必用ナル事實二三ヲ掲ゲント欲ス。勿論是等ノ事實ハ個性ニヨリ多大ノ遲速アルヲ以テ僅カニ之レト異ナレルトコロアリトテ之レヲ以テ直チニ該兒ノ精神發育病の不良ナリト爲スノ早計ニ陥ラザルヤウ慎ムベシ。

頭圍。生後一ヶ月ノ終ニハ三六仙達。一ヶ年ノ終四五仙達。二ヶ年ノ終四八仙達。五ヶ年ノ終五〇仙達。

額門ノ閉ヅルハ普通十五乃至十八ヶ月トス。

運動。頭部ノ固定ハ四ヶ月ノ末。軀幹ノ固定ハ六ヶ月ノ末。手ニ與ヘタル物ヲ握ルハ五ヶ月。手近ニアルモノヲ自ラ取ラムトスルハ六ヶ月。其ノ頃ヨリ獨リニテ起キカヘル。九

乃至十ヶ月ニテ立ツ。十八ヶ月ニテ歩ム。

言語。十二ヶ月ニテ言語ヲ模倣シ。十六ヶ月少シク話初ム。十八ヶ月目ニハ二乃至六十位ノ言語ヲ獨リニテ繰ル。滿二歳頃ニ至リテハ片語交リニテ話スコト盛ントナル。其ノ頃

ハ發音不明症ヲ爲サザル話シアリ。四五歳トナリ發音不明症去ル。

失禁。晝間大小便ヲ教ヘズニ洩ラスコト無クナルハ普通滿二歳頃トス。

以上ハ大凡ノ標準トナルモノニテ發育早キモノハ之ニ比シ旬旬歩行言語トモ尙頗ル早ク現ラハルモノナリ。而シテ以上引用セル時日ハ發育特ニ早キ兒童ノ期日ヲ舉ゲタルト思フヨリハ中ニハ寧ろ稍々遅キニ失セルニアラズヤト思ハルモノアリ。

又普通小學ニテハ如何ナルモノヲ教ヘ居ルカ即チ普通學齡兒童ニテ通學セルモノハ如何ナルモノヲ學ビ如何ニ其ノ智能ノ啓發セラレツツアルヤハ癡愚者診斷上屢々知ラムト欲スルトコロノモノナリ。之レガ爲メ余ハ左ニ現今我國尋常小學ニテ教ヘツツアルトコロノ學課ヲ表示スベシ。

身 修

友達は助け合へ、喧嘩をするな、元氣よくあれ、からだを大切にせよ、行儀よくあれ、整頓物を粗末にするな、親の恩、親を大切にせよ、親のいひつけを守れ、兄弟仲よくせよ、家庭の樂み、天皇陛下、忠義、過をかくすな、うそを言ふな、自分の物と人の物、近所の人、思ひやり、生物を苦しめるな、人に迷ひをかけるな、よい子供	め、親類、學問、勤儉、先祖を尊べ、召使をいたはれ、食物に氣をつけよ、さまじりよくせよ、臆病であるな、友達に助け合へ、不作法なことをするな、人の過を許せ、悪しきすゝめに従ふな、正直、天皇陛下、皇太后宮、忠義、約束を守れ、恩を忘るな、辛抱強、あれ、規則に従へ、老人には親切なれ、善い子供	兄弟、勉強、規律、正直、朋友、敬師、遵法、行儀、勇氣、堪忍、沈黙、皇家を尊べ、勇、親日、皇室を尊べ、儉約、慈善、恩を忘るるな、謙遜、寛大、健くせよ、知識をひろめ、自立自營、志を堅、孝行、兄弟、召使、身體、自信を避けよ、克己、禮儀、生物をあらはれぬ、博愛、國旗、祝日、大祭日、法令を重んぜよ、公益、人の名譽を重んぜよ、人は萬物の長、よい日本人	仁と勇、信儀、誠實、忠君愛國、忠孝、祖先、油断をするな、堅志儉約、産業を興せ、孝行、兄弟、進取、忍耐、禮儀、習慣、勉學、朋友、主人と召使、德行、度量、謝恩、廉潔、博愛、生物を憐れめ、女子の務、よき日本人	忠君愛國、忠孝、祖先、沈勇、膽力、自立自營、規律、公益、慎獨、産業に工夫をこらせ、慈善、勤勉、迷信、敬師、衛生、國民の公務、男女の務、教育、勸語
--	---	--	---	--

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	第十六	第十七	第十八	第十九	第二十	第二十一	第二十二	第二十三	第二十四	第二十五	第二十六	第二十七	第二十八	第二十九	第三十	第三十一	第三十二	第三十三	第三十四	第三十五	第三十六	第三十七	第三十八	第三十九	第四十	第四十一	第四十二	第四十三	第四十四	第四十五	第四十六	第四十七	第四十八	第四十九	第五十	第五十一	第五十二	第五十三	第五十四	第五十五	第五十六	第五十七	第五十八	第五十九	第六十	第六十一	第六十二	第六十三	第六十四	第六十五	第六十六	第六十七	第六十八	第六十九	第七十	第七十一	第七十二	第七十三	第七十四	第七十五	第七十六	第七十七	第七十八	第七十九	第八十	第八十一	第八十二	第八十三	第八十四	第八十五	第八十六	第八十七	第八十八	第八十九	第九十	第九十一	第九十二	第九十三	第九十四	第九十五	第九十六	第九十七	第九十八	第九十九	第一百
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----

前篇智力測定法ニ記セルコトヨリ其ノ智力ノ足ラザルトコロヲ檢定スベシ。
 本病者ニハ又往々刺戟性、狂暴、一時的幻覺妄想、及ビ衝動性行動等ヲ示スモノアリ。
 療法。早クヨリ適當ナル教育ヲ施スベシ。所謂補助學校、又感化院ノ適當ナルモノニ
 送クルヲヨシトス。(前卷癡愚ノ項ニ詳シ。參照スベシ)。

魯鈍

魯鈍 Debilis.

魯鈍トハ癡愚ニ比シ、能力ノ足ラザルトコロ稍ヤ輕ク、日常ノ應對動作ハ全ク普通人
 ト同様ナルモ、而カモ既得ノ智識ヲ應用シ、自家獨立ノ計ヲ立ツルノ能力ニ乏シク、利己
 心ハ相應ニアルニ拘ラズ、廣キ意義ニ於ケル抽象的概念、道義ノ念、社交上ノ義務、報公ノ
 任務ヲ解セズ、判斷皮想的ニシテ行ヒ、前後ノ熟慮ヲ缺キ、之レガ爲メ輕舉妄信、教唆サ
 レ、易スキ行爲ヲ呈スルモノ多シ。又稀ニ器械的記憶ニ堪能ナルモノアルモ、概シテ記
 憶鈍ク、追想ノ誤リ多ク、想像ニ富ミ、容易ニ虛構症即チ作話症ニ陥ルモノアリ。普通低
 能ト云フモノハ多ク本症ナリ。診斷ニハ智力測定法ヲ參照セヨ。
 類症鑑別。既往歴ニヨリ、其ノ低能ガ生來性ノモノナルヤ否ヤヲ定メ、然カル上其ノ智
 識ノ程度ヲ智能測定法ニヨリ檢出シ、其ノ動作行爲ヨリ其ノ感情抽象概念ノ發達ヲ知
 リ、相互ヲ參酌シテ診斷ヲ確定セラレモノナリ。
 療法。ハ早クヨリ之レヲ檢定シ適當ノ教育ヲ施コスニ止マルモノトス。

惛德病

惛德病 Moral insanity.

各種精神病ノ主徵候ト類症鑑別並ビニ各病治療ノ要旨

生來性犯罪者

悖德病ノ命名ニ就キテハ多クノ異說アルモ、余ハ茲ニ假リニ癡愚者ニテ特ニ高等ナル道德的觀念ノ缺如セルモノヲ悖德病ト名ヅクルノ說ニ從フ。然カラバ本病ニハ先ヅ悖德行爲ガ生來性ニシテ原因ナクシテ五六歳頃ヨリ兆シ訓戒懲治其ノ效ナク同時ニ身體的ニモ他ノ多クノ變質徴候アリ。精神的ニハ他ノ著明ノ興奮幻覺妄想昏迷等所謂狂者ノ症狀ヲ缺キ(之レアルモノハ他ノ精神病ガ一時之レニ加ハリタルカ又ハ元來ガ他ノ病ニテ一時悖德性ノ症狀ヲ示セルモノト思フベシ)。智力發育ノ不良ナルコトニヨリ鑑別セラレモノナリ。而カモ其ノ鑑別ニハ須ラク經過ヲ見ルノ要アルコトヲ多シトス。

生來性犯罪者

Delinquente nato, der Geborener Verbrecher トハ其ノ智能ノ缺點輕クシテ行爲ニ犯罪的傾向多ク、他ニ尙變質性症狀ノ存スルモノヲ名ヅク。而カモ此種變質者ニハ他ノ疾病症狀例之幻覺妄想感情鈍麻等ヲ有セズ。其ノコレアル早發性癡呆等ト區別スルヲ要ス。

くれちにすむす

くれちにすむす Cretinismus.

本病ハ我が國ニハ稀ナルモノニシテ必要少ナキニヨリ簡畧ニ記スベシ。而シテ本病ハ或地方ニ限リ發生スルモノト散在性ニ存在スルモノトノ二種アリ。(本邦ニテハ臺灣ニアリト云フ)。少年期ヨリ既ニ精神發育停止シ其ノ狀白癡又ハ重症癡呆ノ程度ニ終ルモノアリ。身體的症狀、侏儒巨頭、鼻根窪、顔面廣ク皺皺多ク、腹部膨クレテ前出シ、皮膚肥大シ、歩行蹣跚タリ。甲狀腺ハ腫大又ハ消失シ、生殖器發育不全ナルアリ。屢々重聽、扁桃腺肥大、口唇肥厚、口腔開放、流涎等ノ症狀アリ。

粘液水腫

粘液水腫 Myxödem.

本症ハ甲狀腺ノ疾患又ハ剔出ノ後チニ來ル皮膚肥厚ト性格異常ヲ來タスモノナリ。其ノ精神的症状ハ遲鈍性精神低格、記憶不良、疲勞性亢進ト屢々抑鬱及ビ錯亂ノ狀態ニ陥レルモノトナ

普通トス。

身體的症狀、中ニハ皮膚緊滿シ之レニ觸ルレバ脂肪様物質ニ觸ルル、如キ軟弱ノ感アレドモ水腫ノ如ク指壓ニヨリ壓痕ヲ止ムルコトナシ。又表皮ハ乾燥シ、瓜牙ハ龜裂性トナリ、汗液分泌減少ス。之レト共ニ遲脈、低溫、眩暈、失神、指尖及ビ舌ノ振顫歩行異常等ノ症狀アリ。

ひすてりー性精神病

六、ひすてりー性精神病 Hysterische Psychose.

既往歴ニ嘗ツテひすてりー性精神病異常ヲ示セルモノアリ、又ひすてりー性身體的特徴、ひすてりー性氣質ノ存セシコトヲ知ラル。發病ノ誘因トシテ精神的原因、例之恐怖憤懣、失望、心痛、苦慮、又ハ外傷、疾病、過勞、月經、妊娠等ノ存スルコトアリ。身體的症狀、所謂ひすてりー性特徵(すちぐま)ナル身體的特徴ヲ有ス。即チ精神的影响ニヨル一部又ハ半身乃至全身ノ麻痺、痙攣、皮膚ノ觸痛、溫覺等ノ感覺障礙、卵巢痛、ひすてりー球、視野ノ狭少、味嗅覺異常、不規則ナル振顫等之レナリ。精神的症状、本症ノ特徴ハ先ヅひすてりー性性格トシテ外界ノ刺激ニヨル被影響性、亢進、興奮性強キモノナルガ、其ノ度重キニ至ラバひすてりー性變質ト名ヅクベキ狀ニ陥リ極メテ僅カノ原因ヨリ、感激シ激烈ナル氣分轉換像ノ湧出、場合ニヨリ痙攣ヲ惹起シ、尙道義ノ念薄ラギ、時ニ不正當ナル追想像性虛構症、強キ利己心ヲ生ジ、己ノ病患ヲ誇大ニシ、爲メニ人ヲ陥レ、自己身體ヲ傷害シテマデモ人ヲ欺クガ如キ行爲アルコトアリ。

ひすてりー者ハ其ノ礎地ノ上ニ突然數日乃至數週間持續シテ終ル。一時的[○]精神[○]異常[○]ヲ生ズルコトアリ。コハ間歇時ヲ措キテ再三發現スルコトヲ多シトス。而シテ其ノ一時的[○]精神[○]異常[○]ニハ其ノ病型ニ種々ノ別アリ。即チ其ノ一ハ發作性ニ短時間現ラハルル叫喚、狂暴演劇的動作ヲ伴ヘル苦悶又ハ憤怒性ノ興奮狀態 Raptus et Furor hystericius ニシテ之レニハ時ニ意識[○]濁濁[○]指南喪失、自殺企圖、妄覺、追想不全等ノ症狀ヲ伴フコトアリ。

第二種病型ニ屬スルモノハ臆[○]臆[○]狀態[○]又ハ錯亂[○]狀態[○]ト名ヅケラルルモノニシテ、斯カルモノハ先ヅ意識[○]濁濁[○]領解不良、指南力喪失ヲ主トスル夢幻[○]性[○]昏愒[○]トナリ又ハ幻覺[○]ヲ伴ヒ、黒キ人影、幽靈、死體、墓場、象、獅子等ノ幻影ヲ見、又一時性[○]妄想[○]ヲ呈スルコトアリ。或ハ又意識[○]濁濁[○]ハ聯想ノ異常其ノ主ナルモノニシテ、就中當意即答症トテ他人ノ話シヲヨク理解シ其ノ考ヲヨク辨ヘ居ルモ、故ラニ知ラザルガ如ク答ヘ又ハ求メテ誤リタル答ヲナスガ如キ症狀ヲ示スコトアリ。コハ殊ニガンゼル氏[○]臆[○]臆[○]狀態[○]ノ名アルモノトス。又或臆[○]臆[○]狀態[○]ニテハ、殊ニ多數[○]ハ、妄覺[○]ヲ有シ且暗示性[○]亢[○]マリ、行爲[○]ハ演劇的[○]ニシテ自己ノ地位ヲ空想シテ動作スルモノアリ。コハひすてりー性[○]譫妄[○]狀態[○]ノ名アリ。又時ニハ烈[○]シキ興奮[○]狀態[○]ヲ示シ、又ハ睡眠[○]發作[○]昏迷[○]昏睡[○]假死[○]ノ狀ヲ呈スルモノアリ。又ひすてりーニハ其ノ他ニ意識[○]濁濁[○]ヲ伴ハザル精神病[○]的[○]狀態[○]、例之、躁[○]暴[○]狀態[○]、めらんこり、一様[○]乃至妄想[○]病樣[○]狀態[○]ノ現ルルコトアリ。

類症鑑別。ひすてりー性[○]精神病[○]ハ少ナキモノナレバ其ノ病タルコトヲ確定スルニハ先ヅ他ノ精神病[○]ニ非ラザルコトヲ確定スベシ。而シテ我國醫師ノ多クガひすてりート名ヅクルモノノ多クハ眞[○]ノひすてりーニアラズシテ或ハ神經衰弱[○]症[○]カ、又ハ輕躁病[○]早發性[○]癡呆[○]、麻痺性[○]癡呆[○]等ノ輕[○]キ症狀[○]ヲ呈スル精神病[○]ナリ。實ニ精神[○]輕[○]ク變調[○]シ、殊ニ感情[○]ノ變化[○]シ易ク一見[○]ひすてりーラシキモノハ其等ノ病[○]ニ多ク、殊ニハ器質[○]的[○]腦疾[○]患[○]例之、多發性[○]硬化[○]症[○]、腫瘍[○]、腦脊髓[○]微毒[○]ノ如キモノニテ屢々ひすてりー樣[○]症狀[○]ヲ以テ初發スルモノアルヲ注意スベシ。

而シテ眞[○]ニひすてりーナルコトヲ知ルニハ先ヅ其ノ既往[○]、歴[○]ヲ精査[○]シ、ひすてりー性[○]氣質[○]ノ存在[○]ヲ認メ、現[○]精神[○]異常[○]ガ感動[○]的[○]事蹟[○]ニ踵[○]イデ發現[○]シ、又前[○]ニモ之[○]レト同様[○]ハ病アリシコト、及ビひすてりー性[○]ノ身體[○]的[○]特徵[○]、就中痙攣[○]發作[○]アリシヤヲ知リ、痙攣[○]ハ時ニ輕[○]キ振顫[○]ニ止マルコトアリ。之レニヨリ略[○]ボ同症[○]ガひすてりーナルベク豫想[○]サレ、次イテ現在[○]ノ狀態[○]ガ上記[○]ひすてりー性[○]臆[○]臆[○]狀態[○]其ノ他ノ精神[○]異常[○]ニ似且身體[○]的[○]ニ半身[○]症狀[○]其ノ他ノ徵候[○]存スル時[○]ハ茲[○]ニ其ノ病[○]ガひすてりーナルコトヲ是認[○]セララルモノトス。尙[○]之[○]レニツキテハ前卷[○]ひすてりーノ章[○]ヲ參照[○]セヨ。

七、神經衰弱症 Neurasthenie.

既往[○]、歴[○]、生來[○]性[○]神經[○]質[○]者[○]ニハ遺傳[○]的[○]負因[○]、神經[○]的[○]低格[○]者[○]、大酒家[○]ノ存在[○]、後[○]、天[○]性[○]、神經[○]衰

弱症者ハ疾病過勞衰憊等ノ原因アリ。身體的症候。膝蓋腱反射亢進舌及ビ指尖ノ震顫皮膚紋畫症筋肉ノ器械的刺戟ニ對スル興奮性ノ亢進脈搏不整又ハ易變性心悸亢進消化不良皮膚感覺異常脊柱壓痛遺精陰萎頭痛頭壓眩暈不眠多夢等。精神的症候。注意散亂過早ノ疲勞性無氣力業務嫌厭刺戟性不機嫌時ニ心氣性念慮強迫觀念恐怖症アルコトアリ。類症鑑別。破瓜病及ビ緊張病ノ初期ニハ神經衰弱ノ如キ症狀アリ。然カレドモ之等ノ病ニハ少ナクモ感情鈍麻支離滅裂衝動動作街奇症狀拒絶症狀ノ痕跡作業不能不規律等ノ徵候アリ加之病覺ナキヲ例トス。時ニ其ノ反對ニ病感アレバ其ハ其ノ度頗ル強ク他人ノ説明ニテ安ズル能ハザル病的な氣性妄想ニ近キモノトス。麻痺性癡呆ノ初期ニ神經衰弱ノ如ク思ハルル症狀アルコトアルモ之レニハ反射性瞳孔強直言語構言障礙淋巴球增多精神能力減退記憶判斷不良等ノ症候アリテ病覺ナキヲ例トス。尙神經衰弱症ニ於ケル強度不機嫌狀態ハ屢々憂鬱病ト誤マラルモ神經衰弱ニハ著明ノ妄想制止作用ナク判斷普通ナルヲ例トス。而カレドモ其ノ區別往々ニシテ困難ナリ。サレバ客觀的ニ見テ制止ナキ假性めらんこりー Pseudomelancholie 又ハ神經衰弱性めらんこりー Neurasthenische Melancholie ノ病名ヲ設クル人アリ。ひすてりトハ其ノ身體的特徴ニヨリ區別セララル。一般ニ幻覺妄想ノ著明ナルモノ

ひぼこんでり

ハ神經衰弱症ナラズト知ルベシ。療法。意思ノ訓練強壯劑輕キ鎮經藥等。轉地。休憩ト作業トノ調和。

八 ひぼこんでりー Hypochondria

本病名ハ現今獨立セル一疾病ト看做サレズシテ只生來性神經質神經衰弱症ひすてりー又ハ憂鬱病偏執病緊張病破瓜病麻痺性癡呆等ノひぼこんでりー症狀アルモノトセララルモ時ニハ主トシテ身體ノ異常感覺ヲ訴ヘ自己ガ重病ニ罹カレル如キ考ヘテ妄想的ニ有シテ除ク能ハザル一種ノ神經症アリ。然カル場合ニハ之レヲひぼこんでりート名ヅクルヲ得ベシ。其ノ身體症狀ニハ特徴トスベキモノナシ。療法。前ト同ジ。

外傷性神經症

九 外傷性神經症 Traumatische Neurosen

コハ不時ノ災害ニ際シ其ノ恐怖ノ後ニ神經衰弱症性心氣性又ハひすてりー性ノ症候ヲ發スルモノナリ。其ノ症狀トシテハ多ク悲觀性神經衰弱様ニシテ頭痛眩暈萎弱カタク刺戟性元氣失セ業務嫌厭記憶減退記銘不能不眠ナルヲ多シトスルモ時ニひすてりーノ如キ感覺異常就中痛覺脫失震顫意識溷濁性發作ヲ示スモノアリ。其ノ甚シキニ至リテハ精神病ト思ハルル症狀例之幻覺妄想就中好訴妄想等ヲ發スルモノアリ。鑑別トシテハ其等症狀ノ外傷ニ續キ發セシコトヲ確カムルノ外ナキモノナリ。又伴病アルコトニ注意スベシ。只本病ノタメニ訴フルトコロノ誇張的ノ主訴ヲ伴病ト考へ過スコトハ注意スベシ。尙前卷外傷性神經症ノ項ヲ參照セヨ。

各種精神病ノ主徴候ト類症鑑別並ニ各病治療ノ要旨

十。バセドウ氏病ニ伴フ精神病 Psychosen bei Basedow'scher Krankheit.

バセドウ氏病ノ身體症狀トシテハ心悸亢進、甲状腺腫、眼球突出、振顫、下痢、多汗症等ナルガ其ノ際來ル精神病狀ニハ(一)刺激性怒り、易ク激シヤスク、疲勞シ易ク、注意散亂シ不眠ナルヲ例トスルモ尙時ニハ其上ニ(二)ひすてりー性症狀、(三)躁病性或ハ憂鬱病性狀態又烈シキ苦悶、發作及ビ(四)譫妄又ハあめんちや様ノ狀態ヲ呈スルコトアリ。宜シク原病ノ診斷ニヨリ其ノ精神異常ノ種類ヲ確立スベシ。

十一。舞蹈病ニ伴フ精神病 Psychosen bei Chorea.

(イ)刺激性ニシテ泣キ易キヲ普通トスルモ、時ニ口ひすてりー性症狀、(ハ)躁病又ハ憂鬱病樣狀態、(ニ)譫妄、特ニあめんちや樣狀態ヲ示シ。又(ホ)稀ニハ偏執病樣症狀アルモノアリ。之レト區別スベキハハンチントン氏舞蹈病トテ中年ニ發シ、徐ロニ進ミ、多クハ同種遺傳アリ、精神進行性ニ荒廢シテ遂ニ癡呆ニ陥ルモノトノ區別ナリ。然カレドモ小舞蹈病ハ多ク年若キ人ニ發シ、豫後ヨク、之レガ爲メ癡呆ニ陥ルコトナシ。之レニヨリ區別セラル。又ハンチントン氏舞蹈病モ其ノ經過ノ間ニ一時性興奮妄覺及ビ被害妄想、眩暈發作ヲ示スコトアリ。

十二。癲癇性精神病 Epileptisches Irresein.

既往歴。兩親ノ酒精中毒又ハ微毒。本病ハ幼時又ハ其ノ後ニ腦膜炎、腦質炎、佝僂病ヲ受ケタルカ、室扶斯ニ罹リタルカ、頭部外傷ヲ受ケタルカ、酒精濫用、鉛中毒トナル機會アルカ、微毒ニ感染セシカ等ヲ聞クベシ。時ニ其ノ存在ヲ認メラルコトアレドモ其等原因ヲ證セラレザルモノ寧ロ多シ。眞性癲癇ハ普通十年未滿又ハ十代ノウチニ發スルモノ多ク殊ニ初期ニハ癲癇ト氣附カズシテ其ノ代理症タル幼少時ヨリ存スル遺尿、眩暈、失神、睡遊夜驚、狂暴發作、顔面搐搦、痙攣等ノ症狀ヲ以テ始マルモノ多シ。又時ニハ若キ間ニハ何等ノ異常ヲ認メラレズ、晩年ニナリテ始メテ發スルモノアリ。之レヲ晩發性癲癇 Epilepsia tardaト名ヅク。剖見上其ノ多クハ動脈硬化症、酒精中毒、微毒等ニヨル變化ヲ示スモノトス。

身體的症狀。特徴ハ癲癇性痙攣發作ナリ。即チ同發作ハ前驅症狀、前兆アリ。其ノ後突然意識渾濁、卒倒、叫喚、強直性痙攣、間代性痙攣、昏睡ニシテ其ノ發作後ニハ舌ノ咬痕、顔面ノ皮下出血、バビンスキー氏現象、足間代時ニ視野狹小、半身感覺鈍麻、運動衰弱ノ如キ症狀ヲ殘シ、又癲癇性錯亂ニアリテハ多クハ痛覺脫失、時ニ失語症ヲ起スコトアリ。然カレドモ時ニ極メテ短キ小發作トシテ眩暈、眼前暗黒ナドノ症狀ニ止マルコトアリ。精神的症候。普通癲癇發作時ハ全ク無意識ナルモ、其ノ發作時以外ノ時ノ精神狀態ハ全ク健全ナルヲ例トス。然カレドモ若シ該發作ガ若クシテ發シ、而カモ頻々起ルモノニ於テハ氣質變シ刺激性トナリ、怒リ易ク、他人ト融和セズ、自我心強キニ至ル。之レヲ癲癇性變質ト名ヅケラル。更ラニ進ンデハ記憶減弱、判斷耗弱、頑迷トナリ、智力衰弱シ其ノ極癡呆ニ陥ルコトアリ。又癲癇者ニハ斯カル持續的性格異常ノアル上ニ痙攣發作ノ前後又ハ之レト無關係ニ獨立シテ來タル一時的ノ精神異常ヲ現ハスコトアリ。其ノ持續時間ハ數時間乃至數週ニ互リ、其ノ病型ニハ種々アルモ多クハ意識渾濁與奮ヲ伴フモノニシテ普通臆狀態ト名ヅクルモノ即チ是レナリ。(其ノ症狀ニツキテハ

前卷癲癇ノ項ヲ參照セヨ。又斯カル間ノ出來事ハ後日全ク之レヲ知ラズ即チ健忘症ヲ呈スルヲ例トシ時ニハ其ノ健忘ガ發作前ニ波及シ逆行性健忘症ヲ示スコトアリ。類症鑑別。既往症又現症ニ癲癇アルコトニヨリ區別セラル。之レト誤ラルルハひすてり、器質的腦疾患ニ來ル症候的痙攣發作トス、後者ハ麻痺性癡呆、腦動脈硬化症、腫瘍、腦微毒等ナリ。而シテ其等ト癲癇トノ區別ハ前章記スル所ノ痙攣發作以外ノ他ノ精神身體症候ニヨルモノナリ。又癲癇性膝臟狀態ト區別スルノ要アルモノハ緊張病、躁暴狀態、熱性精神病等ナリ。其ノ鑑別ハ其等各條ニ記シアリ、就イテ之レヲ見ヨ。療法。對症療法トシテ臭剝劑るみななる等ヲ用ヒラル。(一般治療法同項參照)。

腦腫瘍ニ伴フ精神病

十三。腦腫瘍ニ伴フ精神病 Psychosen bei Hirntumoren.

既往歴。頭痛、眩暈、嘔吐アリ。而カモ其等症候ノ體位變換ニヨリ著シキコト及ビ歩行透進、視力不全、症等ヲ聞ク。身體的症候。多クハ一般症候トシテ上記セル頭痛、嘔吐、眩暈ノ外ニ鬱血、乳頭、遲脈、腦脊髓液、壓ノ昂進アリ。又腫瘍ノ位置ニヨリテ腦性、竈局、症狀トシテ半盲症、痙攣、麻痺、幻覺等ノ症狀アリ。尙膿瘍ニ原因スル頭蓋壓痛、發熱ヲ示シ又癲癇樣發作ヲ來タスコト多シトス。精神的症候。嗜眠、但シ癡呆ナラズ。患者ハ常ニ眠レルガ如クニシテ其ノウチ一時醒覺シ意識清明トナルモ、又忽チ眠ルノ狀ニ陥ル特徴アリ。其ノ他ニハ一時的ニ錯亂與

外傷性精神病

十四。外傷性精神病 Traumatische Psychosen.

奮關係妄想、妄覺、記銘力障礙等ノ症狀ヲ示スコトアリ。之レニヨリ場合ニヨリテハコルサコフ氏精神病ニ類似セル病像ヲ呈スルコトアリ。既往歴。急性ノ外傷性精神病異常ハ烈シキ頭部外傷ニ引キ續キテ一時意識喪失、嘔吐、遲脈等ノ腦振盪ノ徵候ヲ示ス。身體的症候。頭蓋骨折等アル大ナル頭部損傷ノ場合ニハ腦神經ノ麻痺、言語障礙、顔面筋、肉潤、攣縮、稀ニ兩側ノ、多クハ完全性瞳孔強直又ハ瞳孔反應遲鈍、步行蹣跚、感覺過敏、膝反射亢進ヲ示スモ然カラザル場合ニハ著明ナル身體症狀ナシ。精神的症候。無意識狀態ニ次イデ興奮、譫妄性錯亂、記銘障礙、コルサコフ氏精神病ニ似タル追想ノ缺漏及ビ虛構症ヲ示スモノアリ。而カモ本病ノ症狀ハ極メテ多種ノモノニテ一般ノ通則ヲ設ケ難クシ。又慢性ノモノニハ急性外傷性精神病ニ引キ續キテ來ルモノアリ、又ハ一定時ヲ隔キテ來ルモノアリ。其ノ狀態ニハ種々ノ差異アルモノトス。其等ノ各病型ハ前卷外傷性精神病異常ノ項ヲ見ヨ。類症鑑別。確カニ外傷ヲ受ケタルコト、其ノ前ニ病ナク、外傷後ニ精神異常ヲ發シタルコト、他種精神病、例之麻痺性癡呆、緊張病、躁病、酒客譫妄、其ノ他ノ病症ナラザルコトヲ確カムルノ外ナシ。

動脈硬化ニ伴フ精神病

十五。動脈硬化ニ伴フ精神病 Psychosen bei Hirnarteriosclerosis.

各種精神病ノ主徴候ト類症鑑別並ニ各病治療ノ要旨

既往歴。通常六十歳以後ノモノニ來ルモ、稀ニ四十歳前後ノ者ニモ見ラル。多クハ全身ノ動脈硬化アリ、腕骨動脈、頰動脈ノ硬化、腕腕ヲ觸知スルヲ得。眼底ノ血管ニモ同様ノ變化アリ、又動脈硬化性萎縮腎ノ爲ニ蛋白尿アリ。心臟障礙、糖尿等アルモノアリ。而シテ初發腦症狀ハ頭痛、眩暈、眼花、閃發、耳鳴、追憶不良、刺戟症、精神活動減退症等ニシテ數年ノ後チニ著明ノ精神異常現ラツルモノトス。

身體的症狀。腦血塞又ハ軟化ニヨリ腦神經領域ノ一部麻痺、又ハ半身不隨、半盲症、失語症等ノ症狀ヲ示シ、或ハ痙性麻痺性歩行、足間代、パピンスキー氏現象、或ハ視神經萎縮、膀胱障礙、梅毒瘰癧下麻痺、球形言語異常等ノ症狀ヲ生ジ、又時ニ癲癇様發作ヲ來タスコトアリ。

精神的症候。精神衰弱シ、記憶、記銘ノ力減弱シ、疲勞性亢進シ、感情刺戟性トナリ、啼泣シ易ク、時ニ強迫啼泣ヲ示スコトアリ。稀ニ妄想、妄覺、烈シキ興奮ヲ示スコトアルモ、コハ一過性ニシテ多クハ新ラシキ軟化竈ノ發生セル時ニ來ルモノトス。

類症鑑別。麻痺性癡呆、神經衰弱症、老性癡呆、あめんちあ、憂鬱病ト區別スベシ。即チ其ノ多クハ腦竈局症狀ノ存在年齢等ニヨリテ區別セラル。(各項參照)

老性癡呆

十六、老性癡呆 Dementia senilis.

精神症狀。高齡ノモノニシテ、漸次精神能力減弱シ、性格變化シ、記憶衰へ、判斷鈍リ、利己心亢リ、猜疑刺戟性トナリ、道義心失セ、且屢々色慾亢進ヲ來スモノアリ。而シテ其ノ初

ふれすびをおれに

期ノモノニハ一時快活苦悶、興奮、譫妄狀態、追跡、誇大妄想、妄覺等ノ來ルモノアリト雖モ其ノ幾分ガ老性ノ症狀ニシテ他ノ幾分ガ他ノ原因ニ待ツ精神異常ナルカ不明ニシテ現今ニ於テハ尙本病ニ疑フベキ點少ナカラザルモノトス。
身體的症候。身體ニ於ケル一般老類症狀、角膜ニ於ケル老人環、縮瞳症及ビ瞳孔反應減弱震顫アリ。老性癡呆ノ一種ニふれすびをおれに Presbyophrenie ナルモノアリ、甚ダシキ記憶力障礙ノ爲メニ追想ノ缺漏及ビ虛構症アリテ一見コルサコフ氏精神病ニ酷似スルモノアリ。
類症鑑別。高齡ニ於ケル躁鬱病、麻痺性癡呆等ト區別スル必要アリ。其ノ要點ハ其等各項ヲ見ヨ。

腦徵毒ニ因ル精神病

十七、腦徵毒ニ因ル精神病 Syphilitische Psychosen.

既往歴。多ク三、四年前ニ、徵毒ニ感染ス(時ニ一年未滿又ハ十年前ニ感染セルモノアリ)。補助原因トシテ酒精濫用、精神過勞、興奮頭部外傷等アリ。發病以來夜間ノ劇シキ頭痛、眩暈、嘔吐ヲ覺ユルコトアリ。

本症ハ病理解剖上ノ所見ヨリ三種ニ別タレ各々異ナレル症狀ヲ示ス。即チ(一)護謨腫性病型ハ其ノ身體的及ビ精神的症狀トシテ腦腫瘍ト同ジ症狀アリ。驅徵法ニヨリ輕快スル場合多シ。

(二)腦膜炎性病型ノ身體的症候ハ(甲)腦底部ニアレバ其ノ蔓延ニ因リ視神經炎、視神經萎

各種精神病ノ主徴候ト類症鑑別並ビニ各病治療ノ要旨

縮鬱血乳頭半盲症嗅覺脫失眼筋麻痺完全性瞳孔強直尙時ニハ神經麻痺性角膜炎末梢性顏面神經麻痺(乙)腦穹窿部ニアレバ失語症腕又ハ脚ノ單癱症限局性あてとせ又ハ舞蹈病ジャクソン氏癲癇限局性頭蓋壓痛精神神經的症候トシテハ輕度癡呆記憶減弱不管症ヲ主トシ又發作性ニ來ル意識溷濁妄覺ヲ伴フ譫妄性興奮誇大及ビ追跡妄想錯亂考慮轉動性抑鬱的情緒ヲ示スモノアリ。

(三)血管炎性病型ニテハ身體的症候トシテ一時性又ハ持續性ニ來ル半身不隨半身感覺脫失失語症球性言語嚙下困難並ビニ卒中様又ハ癲癇様發作等アリ。精神の症候トシテハ概シテ輕度癡呆記憶不能又コルサコフ氏精神病ニ於ケル如キ追想ノ缺如虛構症アルモノアリ。又一時性朦朧狀態及ビ幻覺性興奮狀態ヲ示スコトアリ。而シテ是等ハ一時的又ハ發作性ニシテ其ノ間ニハ著シキ寛解ヲ示スモノトス。又腦脊髄微毒ニアリテハ腦微毒ト共ニ脊髄ノ後索又ハ側索ガ微毒ニ罹リ後者ニ於テハ多發性硬化症ト同様ノ病象ヲ呈シ。腦脊髄膜ノ共ニ犯サルレバ神經根症狀即チ疼痛及ビ萎縮ヲ起スヲ例トス。

以上ノ三定型ハ實際ニ於テハ合併シテ同時ニ現ハルルコト多ク從ツテ其ノ病型不判明ニシテ時ニハ又完全性瞳孔強直腦脊髄液ノ硫酸苦土ニ依ル溷濁淋巴球增多症。膝反射ノ左右強度ノ差違ノアルヲ示スコトアリ。類症鑑別。麻痺性癡呆トノ鑑別困難ニシテ又必要ナリ。而シテ腦微毒ニ於テハ視神經動眼神經ヲ犯カシ精神症狀輕ク麻痺性癡呆ノ如ク著明ナル癡呆言語障礙痛覺鈍麻

ナク又腦脊髄液ノワッセルマン氏反應ヲ缺クモノ多シ。

療法。驅微療法ヲ試ムベシ。他ハ對症療法トス。(二三七頁邊參照)。

十八。中酒性精神病 Alcoholic Psychosen.

(一) 病的酩酊 Pathologischer Rausch.

生來性變質者殊ニ癲癇ひすてり、神經衰弱症者慢性酒精中毒飲酒不堪症ヲ有スル生來性低格者重症頭部外傷後又ハ或精神病ヲ有スル人ニシテ普通ト異ナレル異常ノ酩酊狀態ヲ呈スルモノヲ病的酩酊ト名ヅク。

身體的の症候。顔面ハ蒼白又ハ潮紅シ、目視固定、口角泡沫發生、瞳孔反應遲徐又ハ稀ニ強直ナルコトアリ。口中ヨリ酒精ノ臭氣烈シク出ヅ。時ニ普通酩酊時ノ如キ步行滄浪タルコトヲ缺ク。

精神の症狀。突然意識溷濁錯亂シ前後ノ思慮ナキ強劇ナル暴行時ニハ一定ノ人ニ向ツテ突撃スルコトアリ。又妄覺殊ニ幻視多ク或ハ妄想性位置誤認症ヲ呈スルコトアリ。稀ニ精神發揚シテ誇大的ノ念慮自殺企圖ノ傾向ヲ示スコトアリ。經過ハ數時間乃至一二日ニシテ終末期睡眠 Terminuschlaf ニ陥リテ治シ發作後ニハ其ノ當時ノコトニ對シ部分的又ハ全部健忘症ヲ殘ス。

類症鑑別。通常ノ酩酊ト區別スベシ。蓋シ普通ノ酩酊ニテモ屢々異常ノ行爲アリ、追

嗜酒症

想ヲ缺キ、病的酩酊ニ類スルコトアリ。然レドモ病的酩酊ニハ其ノ人格ニ既ニ病的素因アリ、其ノ症狀上記ノ如ク激甚ナルモノトス。尙前卷酒精中毒ノ篇ニ詳シ、病的酩酊ハ又他ノ早發性癡呆、躁病、麻痺性癡呆者ノ酒精ニヨリ興奮スルモノト區別スベシ。

(二) 嗜酒症 *Dipsomania*

本病ハ止メ度ナキ飲酒慾時々發作的ニ起リ、而カモ其ノ發作時ノ狀態ハ殆ンド常ニ同一型ニシテ又或發作ト他ノ發作トノ間ノ間歇期ニハ少シモ飲酒ノ慾ナキモノニテ、時ニハ寧ロ却ツテ之レヲ嫌フモノアリ。而シテ發作前ニハ前驅症トシテ抑鬱、苦悶、不安、不眠、厭世、稀ニハ關係妄想生ジ、不安ノ爲メ酒ヲ求ムルモノアリ。而カモ一度盃ヲ手ニスレバ止メ度ナク酒ヲ飲ミ、全ク意識ヲ失フニ至リテ止ム。茲ニ於テ深キ睡眠起コリ、醒ムレバ其ノ間ノ事ヲ全ク知ラザルヲ例トシ、悔悟沈鬱ニ陥ルモノトス。其ノ全經過ハ略ボ二週間位トスルモ長短頗ル一致ヲ缺クモノトス。

身體的症候。甚ダ稀ニ發作ニ先立テ瞳孔左右不等、言語難澁等アルコトアリ。

類症鑑別。癲癇、ひすてり、又ハ躁鬱病者ニテ定期的ニ現ハルル精神異常ニ基ク深キ飲酒癖ト區別スベシ。殊ニ酩酊後意識渾濁強ク、興奮無意味ノ悖理的行爲ヲ多ク伴フモノハ癲癇ノ疑ヒアリ。既往歴ヲ精査スベシ。尙本書前卷ノ同項ヲ參照スベシ。

慢性酒精中毒

(三) 慢性酒精中毒 *Chronischer Alcoholismus*

既往歴。遺傳、殊ニ同種遺傳。十年以上モ引キ續キ大酒ナルコト、生來性低格變質外傷、

過勞、感動、誘惑ノ存在。

身體的症候。紅色ニシテ浮腫アル如キ顏貌、結膜充血、舌尖及ビ手指ノ振顫、咽頭充血、其部ノ反射亢進、屢々朝時嘔吐、食思缺乏、胃部壓痛、四肢ノ大ナル神經幹ノ壓痛時ニハ又筋肉ノ壓痛、神經炎及ビ神經筋肉炎、蛋白尿、肝臟腫脹、黃疸樣著色アルコト。初期ニハ全身肥滿シ、後惡液質トナリ瘦ス。時ニ眼筋麻痺、眼筋神經核ニ於ケル小出血ニ基ク腦灰白質炎、癲癇樣痙攣發作、ロムベルグ氏症狀等ヲ認メラル。

精神的症候。耐忍シ難キ飲酒ノ慾求、感情性ニシテ激怒、爆發シ易ク、高等ナル道德感情ヲ失ヒ、羞耻心ナク、義務奉公ノ念薄シ。智的作業能力減退シ、記憶衰弱、銘能力減弱、意志薄弱トナル。屢々嫉妬心、慕ルモノアリ。又眩暈、癲癇發作ヲ認メラル場合多シ。

又慢性酒精中毒ニハ其ノ礎地ノ上ニ中酒性癲癇 *Alkoholplepsie* 又ハ其ノ他ノ病的精神興奮又ハ眞性精神病ノ發生ヲ見ルコトアリ。其ノ最モ普通ナルハ酒客譫妄、中酒性妄覺病トス。

酒客譫妄

(四) 酒客譫妄 *Delirium tremens*

既往歴。慢性酒精中毒(多クハ燒酎)ニ加フルニ外傷、熱性病、全身病、胃加答兒、過勞、感動、強禁、急激ナル飲酒禁制等ノ誘因アリ。發病ノ前驅症トシテ短時ノ不眠、苦悶、眩暈、頭痛、下痢、嘔吐、癲癇樣痙攣發作アリ。本病ハ急激ニ、多クハ夜間ニ發來シ、全經過ハ二乃至十日、普通四五日間トス。コルサコフ精神病ニ移行スル時ニハ經過長ク又豫後好良ナラズ。

各種精神病ノ主徴候ト類症鑑別並ビニ各病治療ノ要旨

中酒性癲癇

酒客譫妄

身體的症候。強度振顫、發汗、蛋白尿、尿圓錐、不眠、步行不確實、屢々麻痺性癡呆患者ニ見ル如キ言語蹉跌様ノ發音障礙、癲癇性痙攣、眼筋障礙、發熱、脈搏異常アリ。心臟衰弱ノ恐れアリ。

精神的症候。時處ニ關スル指南力ヲ失フモ自己ニ對スル認識ハ正常ナリ。職業、謔妄アリ。活潑ニ動作スル多數ノ幻視アリ。多クハ動物、人間ノ姿、演劇ノ光景等ヲ見ルモノナリ。又時ニ幻聽幻觸アリ。暗示性強ク、白紙ヲ見セテ暗示性ニ文字アルガ如クニ教唆セバ患者ハ之レニ應ジテ何物カヲ朗誦スルコトアリ。平衡感覺障礙アリテ地面震動シ壁障倒レカカル如クニ感じ、時ニハ患者自己起立セルヤ横臥セルヤ自ラ感知セザルコトアリ。領解不良、記銘不良ナリ。意識混濁ノ強度ハ一様ナラズ時々變化アルモノ多キモ概シテ夜間ニ強度ナリ。快活性諧謔ニ富ムモ時ニ苦悶性妄想アリ。類症鑑別。患者ノ慢性酒精中毒者ナルコトヲ知ラズトモ以上ノ症狀ヨリ其ノ本病ナルコトヲ知ラルコトアリ。但シ麻痺性癡呆、癲癇性謔妄、傳染病性並ビニ中毒性謔妄、腦膜炎、結核性稀ニ流行性腦脊髓膜炎ニモ同様ノ症狀ヲ呈スルコトアルヲ以テ是等ノ疾病ヲモ顧慮セザルベカラズ。而シテ之レガ鑑別ニハ麻痺性癡呆、腦膜炎等トハ其ノ身體症狀即チ頭痛、項部強直、嘔吐、眼筋及ビ顔面神經障礙、眼球振盪、鬮牙、視神經炎及ビ鬱血乳頭、全身痙攣、發熱、遲脈ヲ檢知セラレ、又時ニヨリ腦脊髄液中ノ蛋白質、淋巴球並ビニワッセルマン氏反應ノ存在ニヨリ診斷ヲ確定セラル。

急性中酒性妄覺病

Akuter halucinatorische Wahnsinn.

(五) 急性中酒性妄覺病。既往歴。本病者ガ久シキ以前ヨリ酒精濫用者ニシテ其ノ者ガ突然又ハ短時ノ不安頭痛、眩暈、耳鳴等ノ前驅症狀ヲ經テ突然人語幻聽、苦悶、妄想等ヲ發シ、而カモ現症ニ於テ意識明亮、指南正確ナルモノナルコトヲ知レバ略ボ本病ナラズヤト考ヘラル。本病全經過ハ二週乃至數月間トス。

精神的症候。多クハ己ヲ罵詈スル等ノ人語ヲ幻聽シ、之レニ伴フテ罪業及ビ追跡妄想、苦悶性興奮、自殺企圖、周圍ヲ攻撃スルノ症狀等アリ。時トシテ情緒發揚シテ誇大妄想ヲ抱クコトアリ。

類症鑑別。大酒家ナルコト、以上ノ精神症狀ヨリ鑑別セラル。

中酒性麻痺性癡呆

Alkoholische Pentoparalyse.

(六) 中酒性麻痺性癡呆。既往歴。慢性酒精中毒者ニ發シ、發病年齡大凡五十歲前後ノ人ニ多シ。酒精飲用ヲ禁ズレバ平癒シ全治ニ至ルコトアリ。經過ハ六乃至十二週間。

身體的症候。構音障礙、顔面肉腫稀ニ瞳孔強直アリ。多クハ神經炎ノ爲メ膝反射消失ス。筋肉ノ疼痛甚ダシク、振顫及ビロムベルグ氏症狀アリ。

精神的症候。遲鈍性無表情、茫然トナリ、記憶力著シク犯サレ、時ニ僅カノ誇大念慮アリ。一見癡呆ノ狀ヲ示ス。我國ニハ稀ナリ。

類症鑑別。眞ノ麻痺性癡呆トハ原因の事項ニヨリテ別タルモ、尙麻痺性癡呆ニ固有ナ

各種精神病ノ主徴候ト類症鑑別並ビニ各病治療ノ要旨

コルサコフ氏
精神病

ル瞳孔變化、血清、腦脊髓液所見ニヨリ容易ニ區別セラレコトアリ。

(七) コルサコフ氏精神病 Korsakow'sche Psychose.

既往歴。多年ニ亙ル慢性酒精中毒者ニシテ、從來屢々譫妄状態、殊ニ酒客譫妄様ノ状態、癲癇性症狀、嫉妬妄想ノ存在セシコトヲ聞クコト多シ。而シテ本病發病初期ハ忘却シ易ク、又四肢ノ疼痛、麻痺等ヲ覺ユルコトアリ。

身體症候。慢性酒精中毒ノ症狀ノ外ニ多クハ神經炎性症狀、即チ神經及ビ筋肉ノ壓痛、萎縮、截癱、膝反射消失等アリ。

精神症候。記憶力亡失。時處ニ關スル指南力喪失。追想缺如、多年ニ遡ル逆行性健忘、虛構症。氣分ハ概シテ平靜安眠ナルモ、マタ快戯性苦悶性ナルトコロアリ。時トシテ一時性ニ殊ニ夜間ニ職業譫妄アリ。通例ハ漸次衰弱ニ陥ルモ治スルコト稀ナラズ。

我國ニハ稀ナリ。

類症鑑別。既往歴ニ大酒家ナルコト、現在ニ固有ノ精神身體症狀アルコトニヨリ明カトス。只其ノ他ノ中毒症、砒素又ハ窒扶斯、死企圖、後、腦振盪、後又ハ腦腫瘍、腦脊髓微毒、麻痺性癱瘓、動脈硬化性癱瘓、特ニ老耄性癱瘓、ニ於テモ本病ト同様ナル症狀ヲ呈スルコトアリ。能ク注意スベシ。而カモ之等ノ病ニ於テハ其ノ經過一時的トナス。

(八) 中酒性嫉妬妄想 Eifersuchtswahn der Trinker.

慢性酒精中毒者ガ其ノ礎地ノ上ニ屢々一時性ノ偏執病ニ見ルガ如キ系統アル嫉妬

中酒性嫉妬妄
想病

妄想ノ發生ヲ見ルコトアリ。而シテ患者ハ其ノ妄想ヨリ一時的ノ興奮状態ヲ呈シ其ノ妻ヲ打擲シ又侮辱シテ之レヲ虐遇スルニ至ルコト多シ。時ニ安覺ノ來ルコト稀ナラズト雖モ、寧ろ錯覺ニ近キモノヲ多シトス。酒精禁斷ニヨリ凡テノ嫉妬的念慮ヲ速カニ除却スルコトヲ得ベシ。

療法。中酒性精神病ニハ酒精禁斷、他ハ對症療法。

十九。莫爾比涅及古加乙涅中毒性精神病 Morphium- und Kokain-Psychosen.

既往歴。初メ疼痛甚ダシキ疾患アリ之レヲ治療スル爲メニ莫比ヲ使用スルニ始マリ漸次之レニ慣レテ遂ニハ斷ツ能ハザルニ至ルコトヲ聞ク。

身體的症候。縮腫症古加乙涅ニテハ散腫症、對光反應減弱、四肢ニ於ケル多數ノ注射針痕、時ニハ化膿セルモノヲ交フ。膝反射脫失シ、顔貌弛緩シ、惡液質、脫毛、陰萎、月經困難、異常感覺不眠アリ。莫比ヲ禁斷スル時ニハ甚ダシキ苦悶、倦怠、欠伸、戰慄、嘔吐、下痢、發汗、心悸亢進、小脈時ニ暴行或ハ虛脫ニ陥ルコトアリ。

精神的症候。莫比注射前ハ倦怠、不滿、苦惱性トナリテ職ヲ執ルニ堪ヘザルモ、注射スレバ、其ノ後ハ快活トナリ、業ニ堪ユルニ至ル。而カモ漸次性格退行シ自我性強ヨク人ヲ信セズ、好訴性トナリ、道義的感情ヲ失ヒ、莫比又ハ古加乙涅ヲ求ムル爲メニ財寶ヲ棄テ、又ハ竊盜欺偽、僞印僞造、自ラ醫師ト僞リ藥ヲ求メテマデモ之レヲ行フモノトス。

慢性古加乙涅中毒者ニハ其ノ礎地ノ上ニ發スル人語幻聽、追跡念慮、動物ヲ見ル所ノ

各種精神病ノ主徴候ト類症鑑別並ビニ各病治療ノ要旨

莫爾比涅、古
加乙涅中毒

古加乙涅妄覺病

傳染病性精神異常

各種精神病ノ主徴候ト類症鑑別並ビニ各病治療ノ要旨
一時性精神病アリ。之レヲ古加乙涅妄覺病(Cocainwahnsinn)ト云フ。コハ古加乙涅使用ヲ廢スル時ハ數週ニシテ治ス。

二十。傳染病性精神異常 (Geistesstörungen bei febrilen Erkrankungen.)

既往歴。急性傳染病ニ罹カルトキハ其ノ潜伏期及ビ初期ニ於テ潜伏期譫妄又ハ初斯譫妄アリ。發熱期ニハ熱性譫妄アリ。降熱期ニハ解熱期譫妄アリ。又病後ノ後症狀トシテ一時的的精神異常ヲ來タスコトアリ。後者ハ特ニ室扶斯關節痲痺質斯舞蹈病、心内膜炎、いんふるえんざ、肺炎、痘瘡、麻疹、猩紅熱、實布瑤里、丹毒、百日咳、流行性腦膜炎、及ビ結核等ニ多シトス。
身體的症候。發熱及ビ爾餘ノ熱性病的徴候アリ。言語ハ屢々痲痺性癡呆ニ於ケル如キ構音障礙アルコトアリ。其ノ他ニハ失調振顫、癲癇様又ハひすてりー様發作アルコトアリ。又肺炎ノ初期ニ一時瞳孔強直ヲ呈スルコトアリ。
精神的症候。夢幻性意識濁濁、指南力喪失、不安、妄覺、騒音、音樂、星光、物像等、動搖ノ感、各種妄想、感情轉換、苦悶、憤怒、大悦、快活、色情、感情減退、熟慮、困難、記銘、減弱、虛構症アリ。又時ニハ一時的の衝奇症狀、常同症ヲ認メラレ緊張病ニ類似スル狀態ヲ示スコトアリ。
類症鑑別。酒客譫妄ニハ酒客タルコト、職業譫妄症狀、發汗、振顫、活潑ナル幻視、幻觸是等ノ者ハ暗示ニヨリテ人爲的ニ起スコトヲ得アリテ區別セラル。癲癇性譫妄ニハ既往ニ於ケル痲痺發作、衝動性暴行及ビ之レニ伴ヘル強度錯亂ノ存在ニヨリ區別セラル。

あめんちあ

二十一。あめんちあ幻覺性錯亂、急性幻覺性精神病 (halluzinatorische Irresein), Amantia (halluzinatorische Verwirrtheit), akute

本病名ハ學者ニヨリ其ノ指示スルトコロヲ異ニスルモノナレバ、能ク其ノ意義ヲ明瞭ニスルコトヲ要ス。
既往歴。過勞、營養不良、傳染病、產褥授乳等ニヨル衰憊各種ノ痲疾、監禁、精神感動等ノ原因ニ基キテ發病セリトノコトヲ聞ク。又前驅症狀トシテ短時日ノ神經症狀、不眠、食思缺乏アリ、其ノ後、急性ニ突發シ、身體的症候トシテ本症ノ原因トナルベキ疾患ノ症狀、及ビ屢々振顫、痲痺、反射亢進、營養減退等アリ。其ノ他ニハ特徴的變化ナシ。
精神的症候。強度ノ意識濁濁、考慮ノ澁滯、且轉導性時處ニ關スル指南力喪失。妄覺及ビ變換性ノ妄想、言語錯亂アリ。

而シテ本症狀ハ又他ノ躁病緊張病等ニモ基キ來ルモノ多ケレバ、眞ニあめんちあト名クベキ、疾病ハ近來頗ル稀有ノモノトナレリ。

急性昏迷

急性昏迷 Acute Stupor.

あめんちあニ類似セル病型ニシテ主トシテ昏迷狀態ヲ示ス。原發性考慮轉導性アリ。妄覺妄想等ハ緊要ナル症狀ナラズ。此ノ急性昏迷ト名ヅケラルモノガ特殊ノ疾病ナルカ又ハ緊張病或ハ躁鬱病ノ一變型ナルヤハ明カナラザルモ、多クノ場合ニハ後説ヲ採ルベキモノト認メラルモノトス。

急性譫妄

急性譫妄 Delirium acutum.

從來ハ本病ヲ特殊ノ疾患トシ、其ノ主徴候ヲ烈シキ譫妄、錯亂、運動不安、發熱及ビ體力衰憊トシ、經過早クシテ屢々死ニ歸スルモノトセシガ、近時コハ躁病、憂鬱病、痲痺性癡呆、緊張病等ノ經過中ニ現ハルル一ノ症狀群ニ外ナラズシテ特別ノ病トセザル人多シ。
各種精神病ノ主徴候ト類症鑑別並ビニ各病治療ノ要旨

此ノ他ノ精神異常ニ關スル鑑別ハ其ノ要少ナキヲ以テ茲ニ再記スルヲ略スベシ。
宜シク上卷精神病各論ニ記セル鑑別ノ項ニ就キ檢索セラルベシ。

第七編 解剖學的診斷法

精神病者ノ解剖的變化ニ關スル智識ガ既往十數年間ニ著シキ變遷發達ヲ爲セルハ疑フベカラズ。而シテ余ハ茲ニ精神病ノ鑑別ニツキテ剖見上如何ナル點ガ必要ナルヤ、又之レヲ組織學的ニ研鑽シ類症鑑別ノ助ケトナサントスルニハ如何ナル方法ヲ用フベキヤノ大要ヲ略記セント欲ス。而シテ特殊ノ研究事項ニ關スル事實ハ縱令其ノ說ノ嶄新奇拔ナルモノアリト雖モ、未ダ普ク實用ニ適シ難キモノハ特更ラ茲ニ擧ゲザルベシ。

第一章 精神病者屍體ノ剖檢

精神病ノ主徴候ハ精神ノ異常ニ過ギザルガ故ニ其ノ精神ノ主坐タル大腦皮質ノ研究ヲ以テ能事了レリト考フルモノナキニアラザレドモ、其ノ實精神病ハ唯精神ノ疾病ノミニ止マラズシテ其ノ多クハ身體全部ノ異常ヲモ伴ヒ、又身體ノ異常ヲ原因トシテ精神ノ異常ヲ發スルモノナルガ故ニ、精神病者ノ剖見ハ變質徴候トシテ内臟ノ畸形變位ノミナラズ尙腎、肝、心、肺、胃、腸、血管系等ヨリ末梢神經其ノ他全身ニ互ル各部分ノ臟器殊ニ内分泌ニ關係アル甲状腺、下垂體、副腎等ノ檢査ヲモ怠ルベカラザルモノトス。蓋シ精神病中多クノモノハ其ノ原因自家中毒ナルベシトノ說多ク、殊ニ麻痺性癡呆者ノ

屍體ニ肝腎等内臓ニ變化ヲ見出シ其ノ變化ハ慢性中毒症ノモノニ現ラハルモノト一致シ、早發性癡呆ノ副腎乃至甲狀腺ニモ變化アルヲ主唱セルノ人尠カラザレバナリ。

解剖上中樞神經系ノ變化ヲ檢スルノ順序ハ先ヅ頭蓋腔ヲ開クニアリ。其ノ際腦脊髓液又ハ血液ノ流出スルアラバ其等ノ液量及ビ性質ニ注意シ、次イデ頭蓋骨ノ厚薄、内外面ノ異常、硬腦膜ノ性状、硬腦膜ト骨軟腦膜トノ關係、並ビニ靜脈竇中ニ存セル血液ノ狀況等ヲ檢スベシ。次イデ硬膜ヲ開キ軟膜ノ狀況殊ニ乳様、溷濁、充血等ヨリ軟腦膜ト腦トノ癒著ノ有無、大小腦表面ノ性状、血管ノ關係ヲ視、次イデ腦ヲ取出シ其ノ腦ノ全量ヲ量ルト共ニ腦水腫ノ有無ニ注意シ、更ラニ上下左右前後ノ各面ニアル變化例ヘバ異常廻轉、萎縮、血管硬化、パピオニ顆粒ノ多寡ヲ檢シタル後刀ヲ以テ腦ヲ割キ腦ノ内部ヲ檢スベキモノトス。

マイネルト氏法

腦ヲ割クニハ舊來ハウヰルヒウ氏ノ法ヲ用ヒタレドモ該法ハ腦ヲ貯藏シ後日ノ檢査ニ供スルニ便ナラザルノ缺點アルヲ以テ近來ハ殆ンドマイネルト氏ノ法ニヨリ唯腦ヲ横ニ換言セバ大腦ノ縱軸ニ直角ニ截斷スルノ法ヲ賞用スルニ至レリ。

普通腦底視神經交叉部ニ當リ腦底ニ垂直ニシテ縱軸ニ直角ナルベキ面ニ截斷シ、蓋シ之レニヨリ腦幹部、れんす核、視神經床、内囊等ノ相互關係ヲ最モ明瞭ニ現出スルコトヲ得レバナリ、次ギニ其ノ截斷面ニ平行シテ之レニ前後シテ數箇ノ斷面ニ截斷スルモノトス。又腦ノ重量ハ大腦各半球ト小腦全部、腦幹部ノ各部ヲ別トニ量リ、其等ノ重量

相互ノ比較ヲ明ラカニスル事ヲ得ベシ。

脊髓ヲ取り出シタル時ハ其ノ被膜ノ狀況實質ノ著色等ヲ視、次イデ之レヲ横斷シ、後索部又ハ側索部、或ハ兩者ニ灰白變性出血其ノ他ノ肉眼的變化ナキヤ否ヤヲ檢スベシ。

第二章 鏡檢用ニ截出スベキ腦脊髓部位

鏡檢ノ目的ヲ以テ截出スベキ部分ハ各自ノ任意ナリト雖モ、余ハ多數人ノ執レル方法ニ依ルノ便ナルヲ信ズルモノナリ。即チ腦ニアリテハ前頭葉ノ第一、第二廻轉ノ中央部、副正中小葉、前後各正中廻轉ノ中央部、後頭葉ノ距廻轉、顛顛葉第一廻轉中央部及ビ小腦半球及ビ蟲様部ノ皮質、脊髓ニテハ頸髓、胸髓、腰髓ノ各部ヲ執ルモノトス。而シテ其ノ他ノ場合ニ特殊ノ病的變化ヲ伺ハントシテ特別ノ部位ヲ採出スルハ隨意ナリ。

例之癲癇者、老老性癡呆者等ニテアンモン角麻痺性癡呆者ニテ第四腦室底部ヲ取り出スコト等是ナリ。而カモコハ特別ノ場合ニ屬シ、普通ニハ前記ノ各部位ヲ截出スルヲ以テ足レルモノトス。

何故ニ以上記載ノ部分ヲ截出スベキカハ別ニ理由ナキコトニシテ何レノ部分ヲ取リテ檢査スルモ差岡ナキコトナリト雖モ、多少大腦皮質ノ各中樞部位ニ相當スルト、又若シ多クノ人ガ同一ノ場所ニツキ研究スルトキハ其ノ結果ヲ彼我對照スル上ニ於テ便利ナルガ故ニ過ギザルモノトス。サレバ其ノ他ノ部位ヲ或特別ノ目的ヨリ截

出スルハ任意ノモノナリ。

而シテ普通ノ截出ニハ必ズ廻轉ノ縱軸ニ直角タルベシ。然カラザレバ圓錐體細胞ガ其ノ形ヲ不規則ニ現ハシ、又ハ各層ノ厚サガ一定セザル等ノ不便ヲ生ズルモノトス。截出スル塊片ノ厚サハ普通半乃至一仙迷ヲ以テ足レリトス。又常ニ軟膜ト皮質トハ互ニ離レザル様注意スベシ。然カラザレバ兩者ノ關係ヲ逸シ、診斷上頗ル遺憾ノ事アレバナリ。

第三章 鏡檢ノ目的上截出セル腦及ビ脊髓ノ浸液

腦又ハ脊髓ヲ鏡檢ノ目的ニ蓄フルニハ解剖ニ先立ツテ次ギノ四種ノ溶液ヲ製シ置クベシ。又組織學的研査マデヲナスベキ屍體ハ成ルベク新鮮ナルヲ要ス。何トナレバ死後長時間ヲ經タル屍體ハ縱令腐敗セザルマデモ死後ノ變化著シキモノナルヲ以テ細微ナル檢査ニハ不適當ナレバナリ。

一。九六〇%あるこほーる(鈍酒精)

塊片ハ截出後水ニ濡ラス事ナク直チニ此ノ液ニ入ルベシ。

イ。之レニヨリ得タル切片ハ直チニニッスル氏めちーれん青又ハとるいちん或ハちをにん染色法ヲ行フカ、又ハ

ロ。つよらいちんニテ固メタル後、とるいちんぶらう又ハちをにん等ニテ染色スルヲ得

液 ふるまりん

二。一〇〇%ふるまりん水溶液

之レニ入レタルモノハ後チニ

イ。ミユルレル氏液ニ移シテ固定セル上、次ギニ記セルミユルレル氏液ニ漬ケタル切片ト同一ノ諸方法ニ用ヒラレ、又ハ

ロ。ふるまりん液ニアル一日ノ後チ凍結みくろとーむニテ切レバ其ノ切片ハピルシヨウスキー氏法ニ應用セラルルノ外、尙ホワイゲルト膠質組織染色法ニモ叶ヒ、又急速媒染法 Schnellbeiz ヲ行ヒ之レヨリ髓鞘染色法ヲ行フコトヲ得ルノ便アリ。

三。ミユルレル氏液 Miller'sche Flüssigkeit (重くろーむ酸加里二・五。硫酸なとりうむ一・〇。水一〇〇・〇)。

之レニ貯ヘタル者ハ中樞神経系ニテハ髓鞘染色法をちんへまときしりん、ワングーソン氏法ニ適シ、最モ廣ク使用セラルルモノトス。但シ前記ノ如ク豫メふるまりんニ浸セルモノヲミユルレル氏液ニ移ツセルモノハ直接ミユルレル氏液ニ入レタルモノト同様ノ目的ニ使用セラルルモ染色稍不良ナルノ憾アリ。

四。ワイゲルト氏膠質組織染色液 (其ノ製法ハ後條膠質纖維染色法ニアリ)。

塊片ヲ可成薄クシテ此液ニ入ルルヲ原則トスルモ、直接本液ニ材料ヲ入ルルヨリハ寧ロー先ヅふるまりん液ニ入レタルモノヲ凍結みくろとーむニテ切り、其ノ切片ヲ本液ニ入ルルヲ以テ優レリトス。余等ハ普通後者即チ本液ニ直接材料ヲ入レザ

液 ミユルレル氏

ルノ方法ヲ探レリ。

カハール氏液

五。

カハール氏液 Cajal'sche Lösung (九六・〇% 酒精一〇〇・〇、あむもにあ〇・二五乃至一〇・〇) 片塊ヲ之レニ入ルルヤ直チニ三十七度ノ溫度ナル孵卵器ニ入ルベシ。

カイゼルリン
グ氏液

尙腦及ビ脊髓其ノ他ノ臟器ヲ肉眼の標本トシテ自然色ヲ保存シナガラ久シキニ互リ蓄ヘント欲スル時ハカイゼルリング氏液 Kaiserling'sche Flüssigkeit ニ蓄ヘ置クベシ。但シ是ハ後日組織學的標本ヲ製作スルニ堪ヘザルモノト知ルベシ。

カイゼルリング Kaiserling 氏液製法ハ次ギノ如シ。

第一液

- ふたるまりん 七五〇〇
- 蒸溜水 一〇〇〇〇
- 硝酸加里 一〇〇
- 醋酸加里 三〇〇

ニ二十四時間乃至四十八時間漬ケ。次ギニ八〇% 酒精十二時間。最後ニ九五% 酒精ニ二時間漬ケタル後チ

第二液即チりすりん四〇〇、水二〇〇〇、醋酸加里二〇〇ヲ加ヘタルモノニ入ル。

第五。中樞神経系組織學的染色法一般

中樞神経系ノ組織學的染色法ハ其ノ目的ノ異ナルニ從ヒ差違アリト雖モ最モ普通ニ用ヒラルルモノハ次ギノ數種ニ過ギズ。余ハ其等ノ方法大要ヲ次ギニ記シ初學者

ノ参照ニ供スベシ。

イ 全體ノ像ヲ一般ニ巨リテ見ント欲スルトキ。

ワンギーン
ン氏法

一。ワンギーンン氏法 Van-Gieson'sche Methode.

(1) ミュレル氏液ニテ固定シタル切片ニアリテハ染色前光ゾウービ酸ヲ除去スル爲メニ切片ヲ少時〇・二五% 過滿俺加里液ニ浸シ、(2) 水ニ洗ヒ、(3) 次イデ藤酸液ト亞硫酸なとりーむ水溶液各一%ヲ等量ニ混ジタルモノノ中ニ入レテ全ク脱色スルニ至ラシメ、(4) 良ク洗ヒ、次イデへまときしりんあらうむニ入レ、稍ヤ濃厚ニ過ゲル位ニ染メ、(5) 暫ク新タシキ水中ニ放置シテ一層暗紫色タラシム、(6) びくりん酸ノ飽和水溶液二〇〇ニ一%ぞいれふくしん水溶液約四五滴ヲ入レタルモノニ短時間二三秒入レ、(7) 直チニ水ニテ洗ヒ、酒精ニテ脱水、かるほーるきしろーるニテ透明ニシばるさむニテ封鎖ス。

へまときしり
んあらうむ

へまときしりんあらうむヲ製スルニハ〇・五へまときしりん結晶ヲ溶ケル丈ケノ可成僅ノ純酒精ヲ以テ溶カシ其ノ飽和溶液ヲ一〇〇・〇ノ一% 明礬水溶液ニ混和スルヲ以テ足レリトス。而シテ同液ノ使用ニ堪ユルニハ同液ヲ製セル後約一ヶ月ノ後タルヲ普通ナリトス。

へまときしり
んをじん染
色法

本法ハ或特別ノ目的例之中樞神経系中ノ腫瘍又ハ血管ノ病的變化等ノ爲メニ用フルノ外中樞神経系ニハ適セズト雖モワンギーンン氏法ノ標本ヨリ永ク蓄ヘラルルノ特長アリ。

かるみん染色
法

(1) あらうむへまときしりんニテ染色、(2) 水ニテ洗フ、(3) 時ニ一% 鹽酸酒精ニテ輕ク脱色スルヲヨシトス、(4) 酒精、(5) 一% 系をじん酒精溶液ニ極メテ短ク染ム、殆ンド一二秒ニテ足ル、(6) 酒精中ニ入レ適當ノ色ニ至ルマデ脱色ス、(7) 無水酒精、(8) かるほーるきしろーる、(9) 封鎖、(10) かるみん染色法。

解剖學的診斷法

髓鞘染色法

ワイゲルト氏法

クルチツツキ
1氏(まときし
りん)

染速成法

○ノ割ニ混ジタルモノヲ室内ニ放置シあんもに於テ過剰ヲ去ラシメ濾過シタルモノヲ二三週間放置シ熱シタル後之ヲ薄メ用ヒ又ハあらうんか、る、みん、か、る、みん、五〇、あらうん五〇ヲ水一〇〇〇ニ溶キ煮沸、冷却後濾過ニ一時間乃至晝夜染色。又市販ばら、る、みん、原液ニ適宜ノ時間普通一二分乃至五六分間ニ染色スルノ法アリ。

髓鞘染色法 Marscheidenfärbung

1. ワイゲルト、パール氏法 Weigert-Pal'sche Methode.

(1) ミュレル氏液ニ固定セラレタル切片ヲ先ヅくろーむ酸溶液ニ浸漬スベシ。其ノ時間ハ該液ノ一〇%液ナレバ三十分乃至二時間。〇三—〇五%液ナレバ二十四時間位ニシテ、次ギニヨク水ニテ洗ヒタル後チ、

(2) クルチツツキ Kulschitzky 氏へまときしりん液(即チ一〇%へまときしりん酒精溶液一〇〇ナ二〇%醋酸水九〇〇中ニ入レタルモノ)ニ入レ、三十七度ノ温度ニ保テル孵卵器ニ入ルルコト二十四時間乃至四十八時間。小ナル切片ナレバ高温ヲ加ヘ數分間ニ短縮スルヲ得。

(3) 水ニテ洗フ。(4) 〇三%過滿俺加里液ニ三十秒乃至一二分間。(5) 水ニテ洗フ。(6) 新シク溶カセル一〇%ノ蔘酸水溶液ト一〇%ノ亞硫酸加里水溶液又ハ亞硫酸那篤留膜液ヲ使用前ニ等分ニ混ジタルモノニ一—二分間入レ區分脱色ス。(7) 水ニテ洗フ。若シ此際髓鞘ナキ部分ガ尙暗褐色ヲ呈セバ是レ尙區分ノ充分ナラザルガ爲トシ、(4)ト(6)トヲ反復シ、髓鞘ナキ部分ノ全ク白色ヲ呈スルニ至ルマデ之ヲ行フ。

(8) 時ニハ其ノ後〇一%炭酸りちうむ水ニ浸スコト二十分間水洗後、あるこゝるニ移スコトアリ。此ノ處置ハ爲サザルモヨキモ此ノ法ヲ用フルタメニ髓鞘ハ緑青色ニ他ノ部ハ殆んど透明ニシテ其ノ境界ヲ一層明瞭タラシムルコトヲ得ルコトアリ。又本法ヲ完成スルニ速成ノ法アリ。ツハふるまりんニ入レタル材料ヲ凍結みくろとーむ

ニテ切り、其ノ切片ヲ速成媒染液 Zinnholerfärbung (重くろーむ酸加里五〇、ふるまりんろくろーむ二〇、水一〇〇〇ニ溶カシタルモノ)ニ略ボ三日間漬シ、然ル後水洗、クルチツツキ氏液ニ染メ、過まんがん酸加里液蔘酸亞硫酸加里水溶液ニテ區分スルノ法アリ。斯クテ小サキ材料ナラバ充分ノ成績ヲ得ルモノトス。

パール氏法ニテ染色シタル後、こへにーるあらうむ又ハかるみんニテ重複染色ヲナス時ハ有髓纖維ト共ニ神經細胞膠質組織等ノ全般ノ像ヲ見ルコトヲ得。一般ニ髓鞘染色法ハ脱色ノ餘リ強クシテ必要ナル多クノ神經纖維ガ共ニ脱色セラルルノ缺點アリ。サレバ之レニ多クノ變法アレドモ吾人ハ右ノ方法ヲ以テ足レルモノトス。特志ノ士ハ其等ノ變法ヲ参照セラルベシ。

軸索染色法 Achsenfärbung

前記ワシ、ギーン氏染色法ヲ以テモ軸索ヲ染色シ得ベキモ、亦にぐろじん染色法又ハマローリー氏 Mallory 染色法ヲ施シテモ之レヲ染出スルコトヲ得ム。殊ニハマローリー氏法ハ同時ニ膠質纖維ヲ染色シ甚ダ便ナリ。其ノ方法左ノ如シ。

(1) 切片ヲ二十分乃至一時間薄メタルハマローリー氏液中ニテ染色ス。(但シ染色液ハ製劑後二三週間日光ニ暴露シ熱シタルモノヲ用ヒ染メ方ハ四二三頁ニアリ)。
一〇〇% 燐もりぶでん酸
へまときしりん
一七五
水
二〇〇〇
五〇

結晶石炭

(2) 水洗、次ギニ五〇%酒精中ニテ脱色ス。又軸索ヲ染色スル他ノ方法ハビルショウスキー氏法ヲヨシトス。コハ後ニアリ。

解剖學的診斷法

ハマローリー氏液

軸索染色法

神經細胞染色法
ニッスル氏法

解剖學的診斷法

二。神經細胞染色法 Nervenzeilenfärbung.

1. ニッスル氏法 Nissl'sche Methode.

- (1) 可成新鮮ナル材料ヲ薄ク切り、之レヲ直チニ多量ノ九六乃至九八%あるこほるニテ固定シ、其ノ日ノウチニ數回あるこほるヲ取り換へ、翌日軟膜ヲ剝ガシ二日後ニ其ノ固定セル材料ヲあらびあごむニテこるく上ニ貼附シテ片切ヲ作ル。
- (2) 切片ヲ靜カニ皺襞ヲ作ラザル様左ノ液中ニ入レ、熱ヲ加ヘ氣泡ノ出ヅルヲ度トシテ止ム(但シ色素液ハ製造後少ナクトモ三箇月ヲ經タルモノニシテ使用時振盪濾過シタルモノニ限ル)。

めちーれん青 B

三七五

うみれちあん石鹼

一七五

蒸溜水

一〇〇〇〇

(3) あにりん油あるこほる(あにりん油一〇.九六%あるこほる九〇中ニ移シ、色素雲ノ出デザルマデ脱色)。

(4) 次ギニ切片ヲ載物硝子上ニ移シ、濾紙ニテ液體ヲ吸收ス。

(5) 後かやぶちー油一滴ヲ其ノ上ニ加ヘ、切片ヲ透明トシ、かやぶちー油ヲ再ビ濾紙ニテ取ル。

(6) 直ニべんちんヲ注加シ、かやぶちー油ヲ去ル。

(7) 濾紙ヲ以テ壓シ、べんちんヲ除ク。

(8) 直ニべんちんころほに、いむ(べんちんニテころほに、いむヲ溶カシ、略濃キかなだばるさむ狀トナセルモノヲ點ジテ少シク熱シテ封ズ)。

此法ニ因リ神經細胞内ノ顆粒ハ判然めちーれん青ニテ著色ス。

二。ちなにん染色ニ因ルニッスル氏法變法。

ちなにん染色法

(1) 最初ヨリ無水酒精ニテ固メテ切レルモノハ染マリ方最良トスルモ、其ノ順序ヲ經ザルモノ、例之ふるまりん液ニ漬ケシモノナドハ之レヲ普通酒精ニ入レ、無水酒精ニ代ヘ其ノ後つゝろいぢん又ハばらふんニテ包埋シ、切片ヲ作ルモノトス。初メヨリ普通酒精ニアリシモノハ之レヲ無水酒精ニテ固メ、つゝろいぢん又ハばらふんニテ包埋シ、切片ヲ作ルモノナリ。

(2) ちをにんノ飽和水溶液ニテ著色スルコト少時、(殆ンド二三分間ニテ足ル)。

(3) 蒸溜水ニテ(僅カ一ニ秒間)洗フ。

(4) あにりんあるこほるニテ注意シテ區分、脱色セシム(無色あにりん油一〇あるこほる九〇)。

(5) 切片ヲかやぶちー油中ニ入レテ透明ナラシム。

(6) きしろーるばるさむニテ封ズ。

本。神經原纖維染色法 Neurofibrillenfärbung.

ビルシヨウスキー氏及ビカハール氏ノ二法ヲ用フ。而シテ其ノ二法ニ多クノ變法アレドモ次

ギノ二法ハ余等ノ實驗シテ最モ確カナルモノト思フモノナリ。

1. ビルシヨウスキー氏銀浸潤法 Bielschowsky's Silberimprägnation.

(1) 一〇%ノふるまりん溶液中ニ塊片ヲ入レテ一日乃至數日間放置ス。此際塊片ハ小ナルヲ良トス。

(2) 然カル後此小片ヲ數時間蒸溜水中ニ投ズ。

(3) 之レヲ凍結みくろとーむニテ切り、厚サ一〇 μ 、切片ヲ蒸溜水中ニ入レテ更ニ二%硝酸銀液中ニ二十四時間(晝夜)浸ス。(暗キ所ニ置クベシ)。

(4) 一回蒸溜水中ヲ通ジテ次ギノ液中ニ入ル。

二%硝酸銀液

一〇〇〇

四〇%那篤倫油汁

二乃至三滴

解剖學的診斷法

原纖維染色法
ビルシヨウス
キー氏銀浸潤
法

原纖維染色法

カハール氏
索及ビ神經
纖維染色法

- 但シ此ノ際前液中ニ後者ヲ入ルル時ハ其ノ液中ニ黑色ノ沈澱ヲ生ズ。之レニ安母尼亞液ヲ加ヘツツ硝子棒ニテ攪拌シ、其ノ生シタル黑色沈澱ノ全ク溶解スルマテ安母尼亞液ヲ入ル。此液中ニ切片ヲ其ノ大サニ依テ異ナルモ通常一分乃至二分間位置グ。
- (5) 次ギニ一回蒸溜水ヲ通シ直チニ二〇%（ふろるまりん液ニ入ルルコト約十分（即チ普通市販ふろるまりん二〇ニ水ヲ八〇ノ割合ニ混ジタルモノナリ）
 - (6) 次ギニ蒸溜水中ニ投ズ。
 - (7) 直チニ鍍金法ニ移ル。即チ一〇立方仙迷ノ蒸溜水中ニ一%鹽化金液ノ二乃至十滴ヲ入ルル割合ニ點滴シ水ガ稍々黄色ヲ帶ブルニ至ルモノ。其ノ液中ニ切片ヲ入レテ其ノ切片ガ暗紫色ヲ帶ブルニ至リテ止ム。
 - (8) 次ギニ直チニ五%次亞硫酸曹達水中ニ入ル（二分乃至二十分）。
 - (9) 蒸溜水中ニテ洗ヒあるこほる。次ギニかるほーるきしろーる終ニかなだばるさむニテ封ズ。片塊ノママ染色スルノ法ハ成功シ難シ。
- (二) **カハール(Carl)氏軸索及ビ神經原纖維染色法。**
- (1) 前記九六%あるこほる一〇〇〇中ニ安母尼亞液〇二五乃至一〇ヲ混ジタル液中ニ三乃至五密迷厚ノ片塊ヲ二十四時間入ル。
 - (2) 片塊ヲ水中ニ入レテ片塊ガ水底ニ沈ムマデ水ヲ取り代フ。
 - (3) 次ギニ一五%硝酸銀溶液中ニ入レ三十度乃至三十五度ノ解卵器中ニ三乃至四日間放置ス。
 - (4) 次ギニ

ひどろひのん 四〇
 ほろるまりん 一〇〇
 蒸溜水 二〇〇〇

ワイゲルト氏
質組織染色法

- 又ハ
- 浸食子酸 二〇
 ほろるまりん 五〇
 蒸溜水 一〇〇〇
- ノ液中ニ二十四時浸ス。
- (5) 之レヲ脱水シテつえろいぢん又ハばらふんニテ包埋シテ切ル。
 - (6) 此儘ニテモヨク又ハビールショウスキー氏法ト同様ノ鍍金法ヲ行フモ可ナリ。
- へ、**膠質組織染色法 (Gliafarbung)**
- (一) **ワイゲルト氏膠質染色法 (Weygert's Gliafarbung)**
- (1) 充分新鮮ナル材料ヲふろるまりんニテ數日間固定シタル後凍結みくろとーむニテ切り、次ギノ媒染液中ニ入ルルコト數日間

くろとむ明礬 二・五
 水 一〇〇〇
 右熱ヲ加ヘテ煮沸溶解セシメタル後火焰ヲ去リ、之レニ
 通常醋酸 五・〇
 粉末ニセル中性醋酸銅 五・〇
 ナ加ヘテ強ク攪拌シ、冷後
 ふろるまりん 一〇〇
 ナ加ヘタルモノ

- (2) 水洗
- (3) 〇三%過滿俺酸加里水中ニ十分間浸シ、水洗

(4) 次ギノ液九〇c.c.ニ使用前一〇%亞硫酸普達水一〇c.c.ヲ加ヘタルモノノ中ニ入ル。然カル時ハ數分ニシテ脱色ス。

くろもげーん

蟻酸

一〇

水

一〇

(5) 水洗二回。

二〇〇

(6) 五%くろもげーん中ニ浸スコト二十四時間。(之ハ普通省略ス)

(7) 切片ヲ載物硝子上ニ探リ、少時次ギノけんちなびをれと液ヲ以テ染色シ、後濾紙ニテ色素ヲ吸ヒ取ル。

製法。温メタル七〇—八〇%熱キ酒精ニげんちなびをれとヲ飽和セシメ、冷ヘタル後上清ヲ探リ、其ノ液一〇〇c.c.ニ五%酢酸水五c.c.ヲ加ヘタルモノ。

(8) 次ギニ切片上ニ五%ノ沃度加里液ニ沃度ヲ飽和溶解セシメタルモノヲ點滴作用セシムルコト數秒ニシテ濾紙ニテ吸ヒ取ル。

(9) 等分ノおりにりんきしろーるニテ區分的脱色。

(10) きしろーるヲ注ギ洗滌。

(11) きしろーるかなだばるさむ封鎖。

(二) アルツハイメル氏あめーは様膠質細胞及ビ其ノウチニ包マルル顆粒并ビニ含蓄物染色法

マロリー氏液
ニテあめーは
様細胞ヲ染ム
ル法

A. 膠質媒染結切片ニへまごきしりん染色法 Die Hämatoxylinfärbung mit Glutaze-Gefrierschnitt.

(1) ふるままりん液ニ漬ケアリシ片塊ヨリ凍結切片ヲ作り、之レヲワイゲルト氏膠質媒染液ニ入レ三十七度ノ解卵器ニ入ルルコト三晝夜。

(2) 水洗

(3) 蒸留水一〇c.c.ニ氷醋酸一滴ノ割ニ混ジタル水中ニ二分間。

(4) マロリー氏へまごきしりん液ヲ強ク薄メタルモノニ二分間入ル

同液處(分前出ト同ツ)

一〇%燐もりぶでん酸

一〇〇

へまごきしりん

一七五

結晶石炭酸

五〇

蒸留水

二〇〇〇

(5) 蒸留水中ニテ數分間洗フ。

(6) 酒精中ニ洗フ。切片ノ帯紅青色ニ至ルヲ度トス。純酒精きしろーるばるさむ封鎖。

右マロリー氏へまごきしりん液ハ古キヲヨシトス。同液ノ稀薄法ハ大ナルしやれ中ニ水ヲ約七一八〇入レ、之レニ同液五六滴ヲ入ル。同器底ガ之レニヨリ見エ難キ位ヲ以テ度トス。又之レニヨリ染メラレタル切片ハ帯赤青色ナルヲ適度トシ洗フ。之レニヨリあめーは細胞中ノ顆粒ハ美麗ニ染マルノミナラズ、血管外壁ニアルモノモヨク染マル。

B. 之レト同ジクふくしんりひとぐりん染色法めちーるぶらうをじん染色法アルモ餘リ専門的ナルヲ以テ茲ニハ之レヲ記サザルベシ。

ト. マルヒー Marchi 氏變性纖維及ビ脂肪性物質染色法。

(1) 少ナクトモ八日間ミユルレル氏液中ニ固ム(水ク浸漬シ置クモ差支ナシ)。

(2) 薄キ一片約五耗厚ヲ水洗スルコトナク直チニ次ギノ液ニ入レ、五乃至八日間三十七度解卵器暗所ニ置ク。

一%おすふーむ酸

一分

ミユルレル氏液(新シキモノニ限ル)

二分

マルヒー氏法

ワイゲルト氏
彈力纖維染色
法

- (4) 脱水、つゝろいぢん包埋切片。
- (5) 脱水、石炭酸きしろゝる、きしろゝるばるさむ。

チ。ワイゲルト氏彈力纖維染色法 Weigert's Elasticafärbung.

(染色液ノ製法) 一%ふくしん水溶液及ビ二%れぞるちん水溶液各一〇〇c.c.ヲ混シ磁皿中ニテ煮沸シ、之レニ一半くらゐる鐵液二五c.c.ヲ加ヘ、攪拌シツツ猶三乃至五分間煮沸シタル後冷却スルヲ待チ、濾過シ、濾液ハ之レヲ捨テ去リ、濾紙上ニ殘リシ沈澱ヲ濾紙並ビニ乾燥後磁皿中ニ殘リシ殘渣ト共ニ二〇〇c.c.ノ九四%酒精ヲ加ヘテ攪拌シツツ煮沸シ、冷却後酒精ヲ注加シテ全量ヲ二〇〇c.c.トナシ更ニ鹽酸四c.c.ヲ加フ。斯ク製セラレタルグリユベール製ノモノアリ。

- (1) 切片ヲ右染色液中ニ浸スコト約二三十分ヨリ一時間。
- (2) 一%鹽酸酒精中ニテ肉眼ニテ何モ見ヘヌホドニ區分的脱色水洗。
- (3) 酒精、かるほゝるきしろゝる、きしろゝるばるさむ封鎖。

リ。ゴルジー氏神經及ビ膠質細胞銀浸潤法 Golgische Impregnationsmethode.

- (1) 一或ハ二c.c.大ノ片塊ヲ二十乃至三十日間二%重くらゝむ酸加里水溶液中ニ浸シ、更ニ一兩日間猶永ク〇七五%硝酸銀水中ニ入ル。
- (2) あらびあごむヲ以テ片塊ヲこるく上ニ貼附ス。
- (3) 少時間無水酒精中ニ浸ス。
- (4) 厚キ切片ヲ作ル。
- (5) 脱水、石炭酸きしろゝる、きしろゝるばるさむ封鎖(覆蓋硝子ヲ用ヒズ)。

ヌ。ウンナ氏成形細胞 Pasmazellen 及ビ肥鍊細胞 Mastzellen 染色法

- (1) 酒精中ニ固定シタル切片ヲ作ル。 洗水。

ゴルジー氏神
經及ビ膠質細
胞銀浸潤法

ウンナ氏成形
細胞肥鍊細胞
染色法

すだん染色法

すだん染色法 Sudanfärbung.

- (1) 凍結みくろとーむニテ切片ヲ作ル。
- (2) 七〇〇%酒精ニ短時間通ズ。
- (3) すだん液 \parallel 七〇—八〇%酒精濃厚溶液 \parallel ニ二三分入ル其ノ際器物ノ蓋ヲ密閉ス。
- (4) 五〇〇%酒精脱色、水洗。
- (5) 薄キへまときしりんニ數秒染メ、切片ノ極ク染マル位ニ止ム。
- (6) 水洗。
- (7) りすりんニテ封ズ。

オ。すびろへーた染色法 Spirochaetafärbung.

(一) 野口氏法。

- 一〇%ふるまわりんニテ固メタル腦ノ一部ヲ五—七密迷ノ厚サニ切り、之レヲ一〇%ふるまわりん一〇%びりちん二五%あつとーん二五%あるこほる三〇%蒸餾水ヨリナル液ニ室温ニテ五日間放置シ、次イデ二十四時間水ニテ根本的ニ洗ヒ、九六%酒精ニ三日間入レ、再ビ水ニテ二十四時間洗ヒ、次ギニ黒キ瓶中ニテ次ギノ如キ處置ヲトル。
- (1) 一五%硝酸銀液ニ入レ、三十七度孵卵器中ニ三日間又ハ室温ニ五日間置ク。
- (2) 蒸餾水ニテ二時間洗フ。

すびろへーた
染色法
野口氏法

- (3) 四% 沒食子酸一〇〇〇ニ五% ぶるまりん五〇ヲ加ヘタルモノニ入レ二十四乃至四十八時間置ク。
- (4) 水ニテ洗フ。
- (5) 八〇% 酒精ニ入ルルコト二十四時間。
- (6) 九六% 酒精ニ入レ毎日入レ換ヘ三日間同様ノコトヲナス。
- (7) 純酒精二日間。
- (8) きしろーる、きしろーるばらふん。ばらふん包埋。

レバチチー氏法

- (1) 薄キ塊片ヲふるもーるニテ固ム。
- (2) 二十四時間九〇% 酒精ニ入ル。
- (3) 蒸溜水ニ入レ其ノ沈ムニ至ルヲ待ツ。
- (4) 一五% 硝酸銀液ニ入ル黒キ瓶ニ入ル。解卵器ニ入ルルコト三日間。
- (5) 水洗。四% 沒食子酸液一〇〇〇c.c.ニ五〇c.c. ぶるまりんヲ入レタルモノヲ入ルル一晝夜。
- (6) 水ニ洗ヒばらふんニテ包埋之レヲ切ル。

第四章 大小腦及ビ脊髓ニ於ケル病的變化ヲ組織學的ニ檢スルノ順序

中樞神經系ノ組織學的檢索ハ先ヅ大腦小腦及ビ脊髓ニ於テ其ノ被膜ヲ檢スベシ即チ軟膜ニアリテハ其ノ厚サ、結締織ノ多少、其ノ變性的機轉ヨリ皮質トノ癒著等ノ有無、血管ノ變化、血管周圍又ハ遊離セル浸潤細胞等ヲ檢スルニアリ。次イデ其ノ中樞神

小腦皮質

大腦皮質

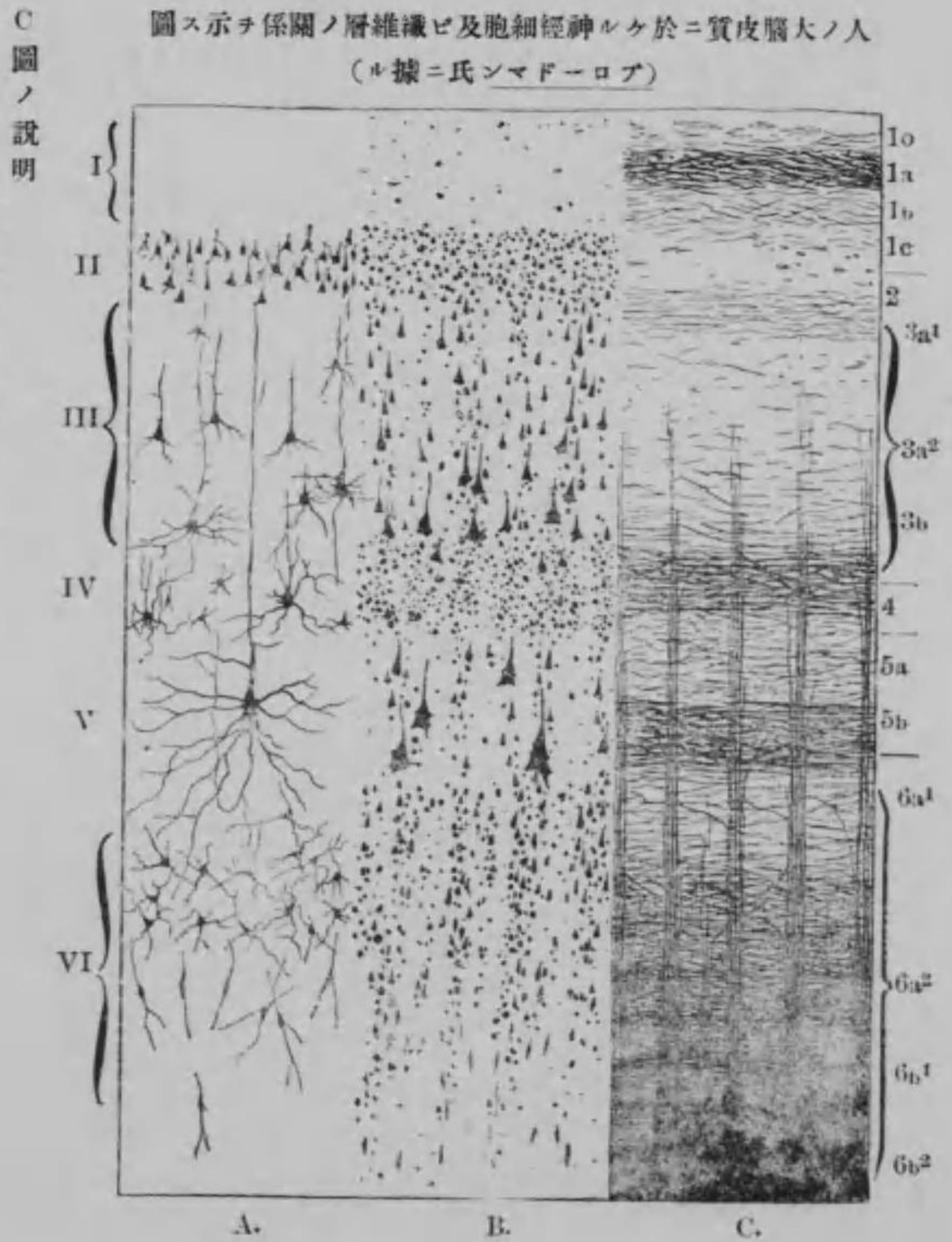
經系内部ニ立チ入り大小腦皮質ニ於テハ灰白質並ビニ白質ノ各要素及ビ其等相互ノ關係。脊髓ニ於テハ前角後角内ノ神經細胞神經纖維殊ニ白質内ノ有髓纖維ノ灰白變性並ビニ血管ノ諸變化等ヲ檢スルモノトス。

而シテ小腦皮質ニ於ケル層ノ構造ニ於テハ第一層トシテ分子層 Molecularschicht, 第二層トシテプルキンエー氏細胞層 Purkinjeschicht, 第三層トシテ顆粒層 Körnerschicht アリ。大腦皮質ニアリテハ之レヲ細胞層ニヨリ別ツトキハ其ノ模型的ナル部分ニ於テハ(一) 緣層 Lamina zonalis, (二) 外顆粒層 Granularis externa, (三) 圓錐體細胞層 L. pyramidalis, (四) 内顆粒層 Granularis interna, (五) 節細胞層 L. ganglionaris, (六) 多形細胞層 L. multiformisノ六層ニ別タレ又之レヲ髓鞘纖維ニヨリ別ツトキハ(一) 切線纖維層 Lamina tangentialis, (二) 纖維稀薄層 L. dyshibrosa, (三) 線上層 L. suprastriata, (四) 外ベラルセル氏線 Stria Ballangeri externa, (五) 線間層 L. interstriata, 及ビ内ベラルセル氏線 Stria Ballangeri interna, (六) 線下層 L. infrastriataノ六層トナル。

而カモ其ノ各層ハ大腦皮質各部位ニヨリ少ナカラザル差違アルモノナリ。而シテ其ノ切線纖維ノ各部ニ於ケル差違ヲ區別セムニ、フォグト Vogt氏ニヨレバ其ノ四層アルモノ Typus quadrizonalis, 三層ナルモノ T. trizonalis, 二層ナルモノ T. bizonalis ニ別チ、ツラルセル氏線ノ關係ヨリ其ノ二本ナルモノ Typus bistriatus, 一本トナルモノ Typus unistriatus, 一本殊ニ外ベラルセル線ノミナルモノ Typus unistriatus, 無線ナルモノ T. astriatus ニ別

圖一十四第

圖ス示テ係關ノ層維織ビ及胞細經神ルケ於ニ質皮腦大ノ人
(+ 據ニ氏ノマドローブ)



A. Golgeri氏神經細胞染色法ニヨル
 B. Nissl氏同上染色法ニヨル
 C. Golgeri氏染色法ニヨル

A及B圖ノ說明
 I Lamina. zonalis 縁邊層
 II Lam. granularis externa 外顆粒層
 III Lam. pyramidalis 圓錐體細胞層
 IV Lam. granularis interna 内顆粒層
 V Lam. ganglionaris 節細胞層
 VI Lam. multiformis 多形細胞層

C圖ノ說明
 1 切線纖維層 Lamina tangentialis
 10 Pars supratangentialis 1a Pars superficialis 1b Pars intermedia 1c Pars profunda
 2 纖維稀薄層 Lamina dysfibrosa
 3 線上層 Lamina supralinea

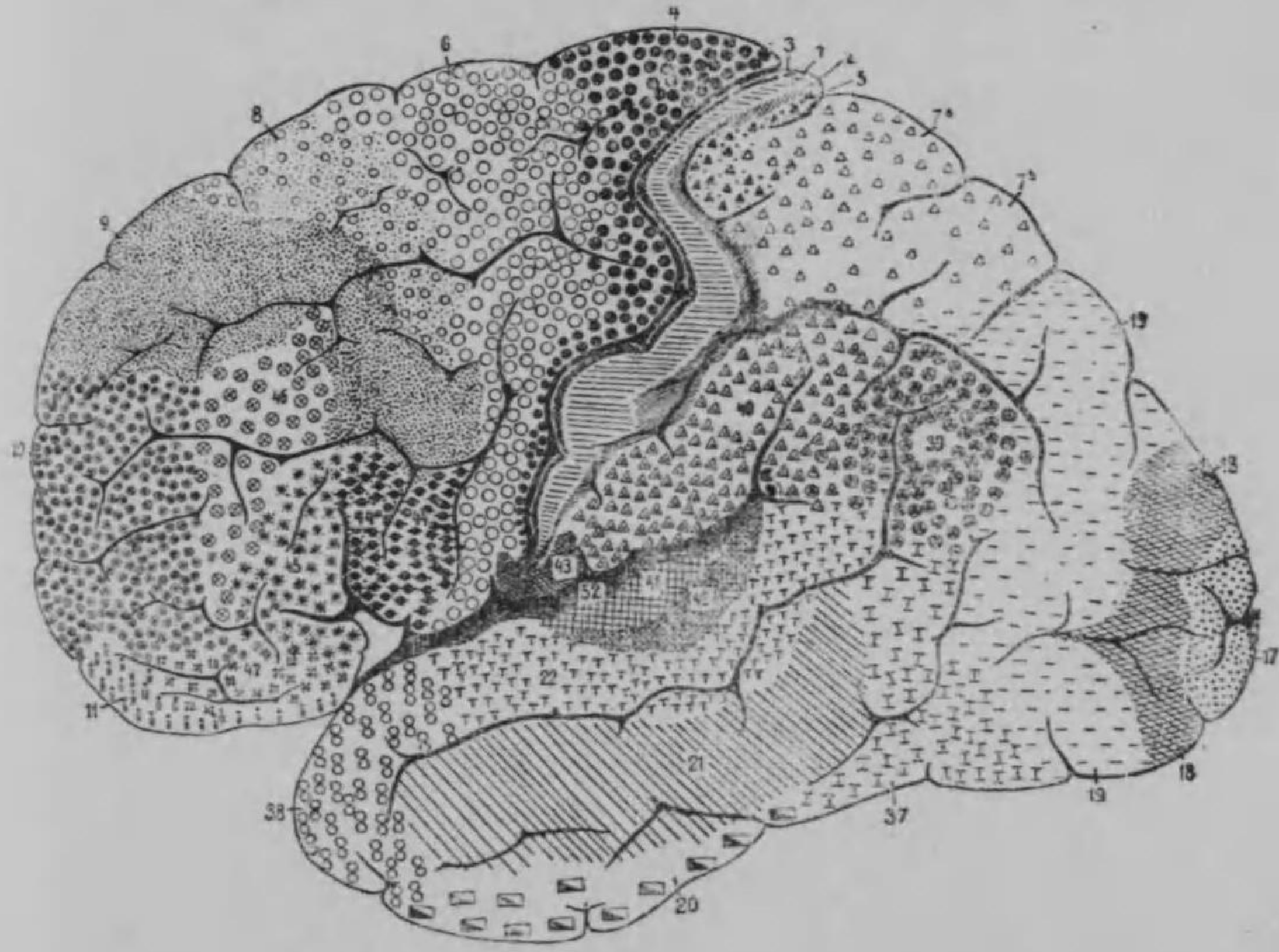
1 外層 Pars superficialis 2 Stria Kae-Bedterewi 3 Pars tyria 4 Pars profunda
 4 外層 Pars superficialis 5a 兩線内層 Lamina interstriata
 5b 内層 Pars infra-striata Stria Bailhgeri interna
 6 線下層 Lamina infra-striata
 6a1 Lam. substriata 6a2 Lam. limitans externa 6b1 Lam. limitans interna 6b2 Zona corticalis albi gyrorum
 1 IIハAeussere Hauptschicht 又ハ Hauptzoneト云ヒ IVハInnere Hauptschichtト名メク前者ハモヤンゲル氏ノ所謂 Supraradiäre 後者ハ Infraradiäre Flechtwerkト一致ス。

タレ、放射線ノ關係ヨリハ其ノ長クシテ皮質最上層ニ達スルモノニ、supraradiatus、集束ヲナシ皮質中央ニ達スルモノニ、mediaradiatus 皮質層中央マデニ達セザルモノニ、infraradiatus 等ノ別アリ。之等ノ特徴ニヨリテ大脳皮質各部ヲ區別スル時ハ各部ニ於ケル固有點ハ大凡左ノ如キモノトナル。

(一) 前正中部 Regio precentralis. コハ前正中迴轉副正中小葉ノ前二、第一、第二前頭迴轉ノ之レニ隣接セル部分ヲ云ヒ、其ノ主要ナル構造ノ特徴ハ内顆粒層ノ消滅シテ存在セザルコトニテ、其ノ正中溝ニ近キ後半部ニ於テハ所謂ベーツ氏巨大胞型 Betz'sche Riesenzellen 有シ、前半部ニ於テハ無顆粒前頭葉型 Agranulare Frontalypus ナ有スルモノナリ。
 神經纖維ノ構造ニ於テハ纖維ニ富ム單線型 Unisäuer Bau ニシテ巨大細胞型部ニ一致セル所ハ無線型 Astringe Fasern ナ示ス部トス。
 (二) 後正中部 Regio postcentralis. 此ノ部ハ正中溝ノ後ニ在リ前記ノ部ト正中溝ニヨリ境セラル。其ノ全區域ハ後正中迴轉トローランド氏蓋部 Operculum Rolandi ノ殆ンド後三分ノ一部トニ一解剖學的診斷法

甲圖二十四第

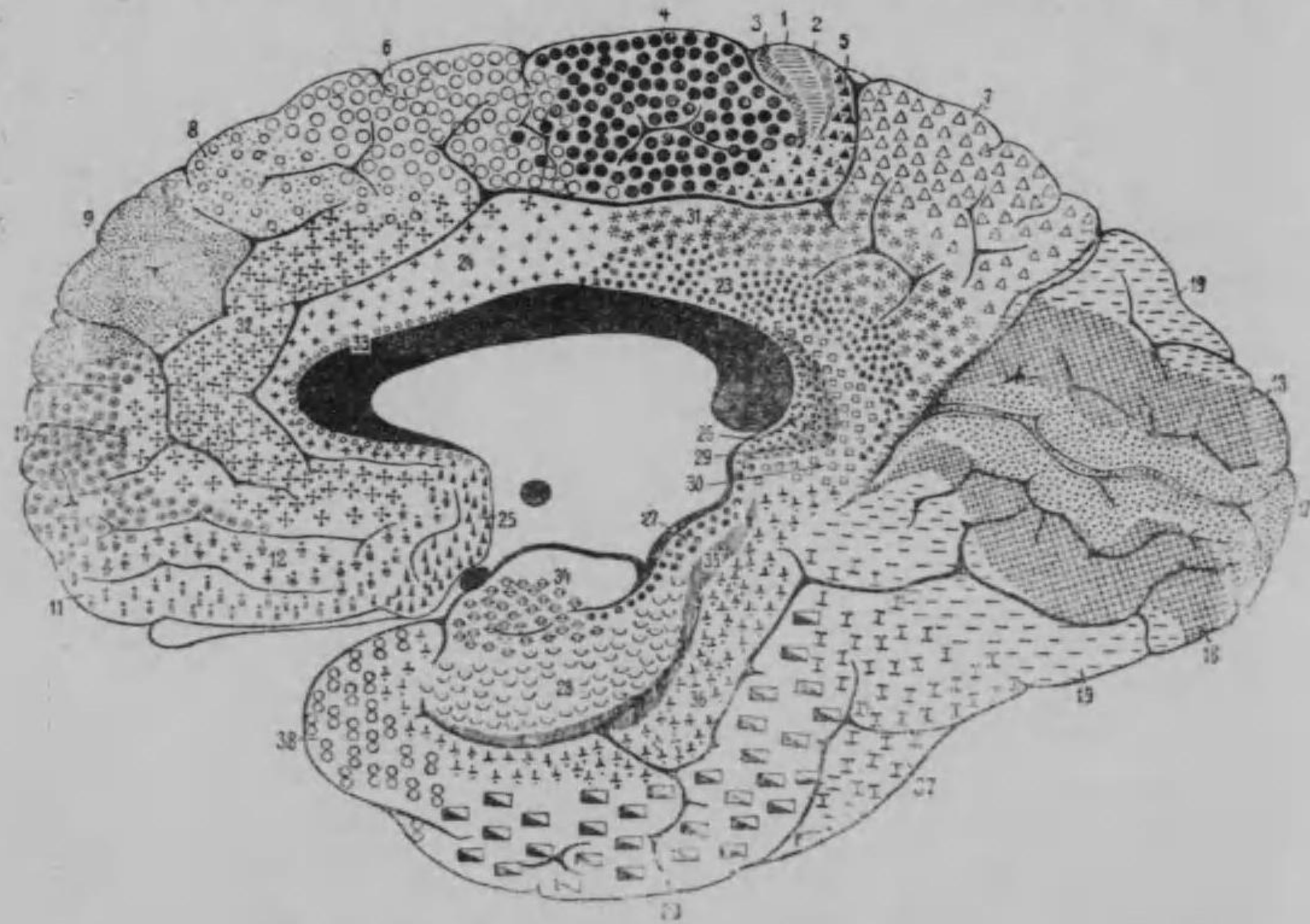
(ル據ニ氏シマド-ロア)圖劃區ルヨニ造構胞細ノ面外質皮腦大



- (三) 前頭部 *Regio frontalis*. 前正中部ヨリ前方前頭葉ノ全部ヲ占メ、内顆粒層著明ニシテ、模型的ノ構造ヲ示ス。
- (四) 島部 *Regio insularis*. 前部ハ顆粒アリ、後部ハ顆粒ナキ部ヲ示ス。
- (五) 顳頂部 *Regio parietalis*. 後正中部位ノ後方ヲ占メ、模型的六層ヨリ成ル。
- (六) 後頭部 *Regio occipitalis*. 此ノ部ノ中所謂島距部 *Calcarinotypen* ニハ固有ノ構造アリ、内顆粒層ガ二層ニ分タレ、從ツテ全顆粒層ハ三層ニ分タル。 (*Lamina granulata interna, superficialis, profunda et intermedia*). 又層ノ厚サ極メテ薄ク、細胞多ク、大圓錐體細胞

乙圖二十四第

(ル據ニ氏シマド-ロア)圖劃區ルヨニ造構胞細ノ面内質皮腦大



- 無ク、白質ト灰白質トノ境明瞭ナリ、神經纖維染色法ニヨレバ單線型 *Unistratane Typen* ナリトス。
- (七) 顳額部 *Regio temporalis*. 其ノ大部分ハ固有ノ六層ヨリ成リ、纖維ハ多線型 *Multistratane Bau* ナリ。即チ著明ノ *Keesche Streifen* アリトス。
- (八) アンモン角皮質ニ於テハ海馬廻轉 *Gyrus hippocampi s. Subiculum* ノ所ヨリ既ニ其ノ構造ヲ異ニスルモ、尙其ノ上ニ進ミテ齒狀膜 *Fascia dentata* ト同廻轉トガ癒合スル所ニ於テ殊ニ其ノ構造ヲ變ジテ終ニハ全ク別種ノ構造ヲ示スニ至ルモノナリ。其ノ異型的構造ノ一斑ヲ舉グレバ、緣邊層纖維ハ増シテ厚クナリ (*Lamina medullaris externa*)、小圓錐體細胞無ク、大圓錐體細胞ノミヲ見、而カモ其ノ尖突起ハ長ク延ビテ放射纖維ト共ニ一ノ放射層 *Stratum radiatum* ナリ

成スルモノナリ。

而シテ齒狀膜ノ之レト附著シテ眞ノアンモン角ヲ成ス部位ニ於テハ外髓葉 *Lamina medullaris externa* ハ二葉ニ分タレ、小圓維體細胞ハ全ク消へ、大圓維體細胞ノミトナル。齒狀膜ニハ其ノ表面ト平行ニ走ル小ナル圓形又ハ多形性ノ神經細胞アリ、之レヲ顆粒層 *Stratum granulosum* ト名ヅク。

第四十二圖ハ細胞構造上ノ差異ニヨル大脳皮質ノ區劃ヲ示ス。(アロードマン氏ニ據ル)

第五章 各疾病ノ鏡檢的類症鑑別

鏡檢的變化ノ主要ニシテ且鑑別ニ役立つ諸點ハ前卷精神病各論各章ニ於ケル記載ニ詳シキヲ以テ茲ニ一々述ベザルベシ、只最モ必要ニシテ又最モ著明ニ且最モ屢々來ル所ノ麻痺性癡呆ノ變化ヲ其ノ代表的記載トシテ左ニ詳シク記シ、他ハ之レニ附隨シテ略記スルニ止メムトス。

麻痺性癡呆

第一 麻痺性癡呆

A. 肉眼的ノ變化

- 一、外腦水腫(疾病ノ新ラシキ者ニハ少シ)、硬腦膜炎、即チ硬腦膜ノ溷濁、肥厚、時ニ血斑アリ。(出血性硬腦膜炎)
- 二、軟膜ノ肥厚、溷濁、浮腫(麻痺性癡呆ニ缺ク事アリ、例へバ經過ノ短クシテ急性

ニ死亡セルモノニ缺クガ如シ。又他ノ疾病ニモ存スル事アリ、例へバ老耆性癡呆、動脈硬化症、腦微毒、中酒性精神病等ノ如シ)

三、軟膜ト腦皮質トノ癒著之ハ精神ノ健全ナル者ニモ見ル事アリ、殊ニ死後多クノ時間ヲ經過シテ解剖セラレタルモノニ癒著多シト云フ。

四、腦廻轉ノ萎縮(麻痺性癡呆ノ永キ經過ヲ取リテ死亡セルモノニ多ク、短キ經過ヲ取リテ死亡セルモノニハ少ナシ。全ク無キニアラズ。麻痺性癡呆以外ノ疾病、例へバ老耆性癡呆、慢性中酒性精神病ニモ同様ノ變化アリ。又麻痺性癡呆ニハ其ノ萎縮ガ主トシテ前頭葉、次イデ顛頂葉ニ存スルヲ例トス)。

五、内腦水腫

六、顆粒性腦室被膜炎 *Ependymitis granulosa*。第四腦室底面後部ガ表面不滑澤ニシテ猫ノ舌ノ如キ觀ヲ呈シ、又其ノ外見灰白色ヲ示シ、之レニ觸ルル時ハざらざらノ感アリ。第三腦室側室ニモマタ同様ノ變化アルモノアリ。タダ本病者ニテモ其ノ經過早カリシモノニハ之レ無シ。又慢性中酒性精神病ニモ同様ノ變化存スル事アリト雖モ、此場合ニハ主トシテ側室ニ多キヲ例トス。尙腦微毒及ビ健康人ニモ稀ニ見ル事アリト云フ。

七、脊髓ニハ側索又ハ後索或ハ其ノ兩者ノ變性アルモノアリ。

八、腦重量減ズルヲ例トス。唯經過短クシテ死亡セル時ニハ反ツテ腦ノ重量増

ス事アリト云ハル。

B. 鏡檢的所見。

一、軟膜。

- (1) 細胞ノ浸潤ト軟膜ノ肥厚トヲ固有トス。
- (2) 浸潤細胞ニハ必ずマ細胞浸潤 Plasmazelleninfiltration ヲ最多トシ、其ノ他ニハ饒肥細胞 Mastzellen、淋巴球 Lymphocyten アリ。時ニ顆粒細胞 Körnchenzellen ヲ認メラレ尙遊離セル纖維成形細胞 Fibroblasten ナル新生セル結締織細胞ヲ交ユ。
- (3) 軟膜ノ肥厚ハ結締織増殖ノ爲メニ來タルモノニシテ、大脳穹隆面全部略平等ニ多少存スルモノナルモ特ニ前頭葉ニ最モ厚ク、後頭葉小腦部ニ最モ薄キヲ例トス。此ぶらすマ細胞ノ浸潤ト結締織ノ増殖トハ主トシテ麻痺性癡呆ノ軟膜ニ於ケル固有ナル變化ニシテ、本症者ノ殆ンド凡テノ場合ニ存在シ、唯疾病ノ頗ル徐ニ、慢性ニ進行セルモノニハ軟膜ノ肥厚甚シク存スルニモ關ハラズぶらすマ細胞消失セル事アリ。慢性中酒性精神病老耄性癡呆動脈硬化性精神病ノ如キモノノ軟膜ニハ又結締織ノ著シキ増殖アリ即チ甚ダシキ肥厚ヲ呈スルモノアルモぶらすマ細胞浸潤全ク無ク、又ハ稀ニ僅カ存在スルニ止マリ本病ノ如ク無數存スル事ナシトセラル。

二、大脳皮質ノ變化。

- (1) 神經細胞、ニハ有リト有ラユル凡テノ變化アリ。例之細胞體ノ急性腫脹 Arterio-
wellung、慢性變化 Chronische Veränderung、硬化 Sklerose、被染色質崩壞 Chromatolyse、強度顆粒性變性 Starke körnige Degeneration、影ノ如クナルモノ Schattenbildung、石灰變性 Verkalkung、脂肪變性、神經核ノ硬化核ノ圓形ヲ失シ、仁ノ甚ダシク正中位ヲ失ヘル者等アリ。而シテ單ニ細胞變化ノ形態ノミヨリ麻痺性癡呆ナルヤ否ヤヲ鑑別スルハ難シト雖モ、強度ナル硬化、並ビニ消失ハ殆ンド本症ニ固有ニシテ他ノ精神病ニハ斯クノ如キ著シキ變化ナキヲ通例トス。而シテ之等ノ諸變化ハ殊ニ皮質ノ第二第三層ニ多シ。尙神經細胞ト細胞トノ間ニ存スル所謂皮質灰白 Rindengrau ナルモノモ消滅廢毀ニ歸スル所アリ。爲メニ神經細胞層ト行トノ混亂ヲ來タセルモノアリ。(上卷二七〇頁第十二圖參照)。
- (2) 神經纖維ノ消失ハ先ヅ第二第三ノ髓層ニ始マリ、次イデ上放散纖維層 Supradure
Faserwerk、切線纖維層 Tangentialfaser ニ現ハレ、更ニ爾餘ノ放散纖維 Radien ノ消失トナリ、終ニ全聯合纖維ガ全ク消失スルモノトス。ピールシウスキー氏染色標本ニヨレバ細胞間原纖維消失シ、神經細胞ノ形不正トナリ、其ノ列ト行亂レ、神經細胞内原纖維ハ或ハ濃染シ、又ハ分裂シ、尙脂肪性變性ニ陥レルトコロヲ示スモノアリ。人ニヨリテハ原纖維變化ハ核ノ周圍ヨリ始マルト云フ。樹狀突起ハ其ノ數ヲ減ズルモノ多シ。(前卷二七二頁第十四圖ヲ見ヨ)。

- (3) 軸鞘ヲ有セザル纖維即チ裸軸索モ亦漸次消失ス。
- (4) 膠質組織ハ一般ニ増殖シ、核分裂ノ狀ヲ呈スル所尠ナカラズ。又本症ニ現ハルル膠質細胞ノ形態ハ一様ナラズシテ種々異ナリタル形態ヲ示スモ、就中其ノ内最モ著明ナルハ其ノ形細小ナラズシテ粗大ナル帶狀ノ纖維ヲ構成スル星狀ノ星狀細胞 Astrocyten 一名蜘蛛細胞 Spinnenzellen ノ多キ事之レナリ。其ノ他又細胞體ノ増生シ近隣ノ膠質細胞ハ原形質ヲ以テ癒合スル膠質癒合症 (Glirnaen) ヲ作り居ル所アリ。又急性ノ症狀殊ニ發作ヲ以テ死セルモノニハあめーば様細胞 Amoeboide Zellen ノ存在多キモノトセラレ。
- (5) 血管ノ變化。

a. 固定細胞 Fixzellen ノ變化。イ、内膜増殖 Endothelwucherung ハ麻痺性癡呆殊ニ其ノ急性ナルモノニ著シ。内膜細胞ノ核ハ染色質ニ富ミ、原形質モヨク染ム、血管殊ニ毛細管ハ發芽法 Hypostidung ニ依リ新生スルノ狀ヲ呈ス。彈力膜ハ多ク分裂シ、其ノ染色性ヲ失フ。□、筋肉層ハ退行性變性シ、同質性變性、彈力膜ノ分裂硬化症ヲ呈ス。ハ、外膜細胞モ亦増殖シ、殊ニ核ノ分裂桿狀細胞 Stäbchenzellen ノ増殖ヲ來タス(アルツハイメル氏等ハ桿狀細胞ヲ外膜細胞ヨリ生ゼルモノナリト云フモ、他ノ學者ハ膠質細胞ヨリ成ルト云フ)。

h. 浸潤細胞 Infiltrationszellen. 血管、殊ニ毛細管ノ周圍ニ固有ノ浸潤アリ。其ノ浸潤セ

ル細胞ハ淋巴細胞、形成細胞、即チぶらぶら細胞、饒肥細胞、或ハ其他ノ細胞ニシテ、此浸潤ハ主トシテ外膜周圍鞘ニ止マリ、其ノ鞘ノ破壊シタル後始メテ腦實質中ニ浸入スルモノトス。浸潤細胞中最モ多キハ成形細胞ニシテ、全腦ニ互ツテ汎發性ニ浸潤シ、一局部ニ止マラザル事はレ本症ニ固有ノ點トス。

斯クノ如ク麻痺性癡呆ノ大脳皮質ニハ其ノ凡テノ要素ガ變化ヲナシ、殊ニ神經要素ノ破壊セル部ヲ膠質要素ヲ以テ填補スルノ像ヲ示シ、皮質細胞ノ層ト列トガ頗ル不規則ニナリ、其ノ舊態ヲ存セザルヲ例トシ、且之レニ加フルニ血管増殖ト浸潤甚ダシキヲ以テ、其ノ本態ハ炎症ト變性トノ二者ニヨルモノトセラレ。

一般ニ麻痺性癡呆ノ病變ハ、腦ハ脊髓ヨリ烈シク、腦ニテハ前頭葉ニ最モ烈シク後頭葉ニ最モ輕キヲ例トスルモ、例外ノ場合亦尠ナシトセズ。

小腦モ亦一般ニ侵サレ、皮質ニ於テハ顆粒層ノ顆粒數減ジ、分子層ハ薄クナリ、且其ノ表面不平坦トナリ、細胞増殖シ、ブルキンエ氏細胞硬化シ、殊ニ幼年性麻痺性癡呆ニテハ該細胞ノ該二箇認メラレ、又細胞全部ノ消滅スルモノアリ。一般ニ幼年性麻痺性癡呆症ニハ小腦ノ變化烈シキガ如シ。

腦幹ノ馬尾狀體視神經床モ亦同様ノ變化ト續發的萎縮性變化ヲ呈スルコトアリ。時ニハ皮質ニ未ダ何等ノ變化ナキニモ拘ラズ、此等ノ部位ニ當リ反ツテ桿狀細胞、ぶらぶら細胞浸潤等ノ著シキ變化ヲ認ムル事アリトス。

延髓ニモ同様ノ變化アリ。殊ニ第四腦室底ニ出血斑、膠質増殖症ヲ認メラル。而シテ其ノ腦室被膜ノ膠質増殖セル時ハ顆粒狀又ハ結節狀ヲ呈シ、腦室内ニ突出セルモノアリ。而カモ其ノ部位第四腦室ノ後部ナル時ハ恰モ腦神經中樞核ノ存在部ニ該當セルヲ以テ腦神經核ハ其ノ膠質肥厚ノ爲メニ圍繞セラレテ萎縮ヲ呈スル事アルノ像ヲ認メラル。

脊髓ハ殆ンド凡テノ場合ニ變化アルヲ例トス。就中慢性ノ經過ヲ取リシ者ニ著シ。而シテ變化ノ多クハ側索、圓錐體、側索、經路、小腦側索、經路、或ハ後索ノゴル氏及ビブルダッハ氏索ノ變化、即チ變性及ビ綠邊硬化症、Randscheroseヲ主トス。麻痺性癡呆ノ爲メニ後索ノ變性スル場合ニハ後索前部 Ventrales Hinterstrangfeld、こゝニ様部、卵形部モ皆共ニ侵サレ、脊髓癆ノ初期ノ後索變性トハ、後者ニハ此等ノ部位ノ侵サル事ナキニヨリ區別セララルモノト云ハル。脊髓ノ軟膜ハ其ノ肥厚及ビ細胞浸潤少ナク、又其ノ實質内ノ細胞浸潤モ大體ニ於ケルガ如ク烈シカラザルヲ例トス。然カレドモ時ニ前角神經細胞及ビクラーク氏柱細胞ノ變性ヲ著明ニ呈スルモノアリ。

微毒性腦疾患

第二、微毒性腦疾患。

腦ノ微毒性疾患ニハ解剖上ノ變化ニ基キ、む腫性、定型、微毒、腦膜、炎、定型、血管、内、膜、炎、性、定型ノ三者ヲ別チ得ルガ如キモ、其ノ實多クノ場合ニハ此三者ガ同時ニ現ハルルヲ普通トシ、稀ニ獨立シテ來タルモノナレバ實際此三者ヲ精確ニ別ツ事ハ難シト

セラル。

而シテ主トシテ腦膜ノ侵サル場合ニハ其ノ部位ハ主モニ視神經交叉部ナルモ、亦穹窿部ニシテ就中ジルウ¹氏溝附近ノ侵サル事多キトキアリ。病變多少局部性ニシテ麻痺性癡呆ノ如ク汎發性ナラズ。之レヲ鏡檢スル時ハ所々ニ小ナル²む腫ヲ有シ、軟膜ニハ烈シキ浸潤アリ。其ノ細胞ノ種類ハりんふ³ち⁴てん⁵最モ多ク、ぶらす⁶ま細胞之レニ次グ。浸潤ハ軟膜ニ多ク皮質ニ少ナク、殊ニ其ノ深部ニハ全ク浸潤ヲ缺キ其ノ像腦質炎ト名ヅクルヨリハ寧ろ腦膜炎ト名ヅクルノ優レルガ如キ狀ヲ呈スルヲ例トス。(前卷第二四六頁第四圖ヲ見ヨ)。

血管内膜炎性定型ノモノハ主トシテ腦底ノ大ナル血管ヲ侵シ、其ノ状態ハ内膜著シク増殖シテ血管腔ヲ閉塞シ、外膜ノ部位ニりんふ⁷ち⁸てん⁹ノ浸潤多ク、然カモ破壊ノ傾向少ナキモノナリ。又其ノ血管ノ疾病ハ汎發性ナラズシテ局部性ナルヲ固トス。時ニハ小ナル血管及ビ毛細管ニモ内膜ノ増殖ヲ呈シ、又神經要素ノ減少、膠質増殖等ノ様ヲ呈スル事アルモ、麻痺性癡呆ノ夫レニ比シ遙カニ少ナキヲ普通トス。

第三、動脈硬化性精神病

動脈硬化ヲ示セル血管ハ内壁肥厚シ、時ニ分解變性セルトコロアリ。彈力膜分岐、肥厚シ、筋肉層ハ被染色性ヲ失ヒ、結締組織變性ヲナスノ像ヲ示シ、尙ホ其ノ周圍ニハ出血軟化症アルトコロアリ。之レガ爲メカ、又獨立的ニ、其ノ周圍ニ血行障礙ヲ招來シ、

動脈硬化性精神病

解剖學的診斷法

神經要素ノ實質減却ト水胞又ハ癥痕即チ膠質組織ノ増殖トヲ示シ之レニ加フルニ神經纖維ノ變性、軟膜肥厚等ヲ伴フモノトス。但シ本病ニハ其ノ病的機轉麻痺性癡呆ノ如ク汎發性ナラズシテ限局性ナル事普通ナリ。又炎性所見ハ全ク之レヲ缺キ、即チ軟膜及ビ皮質共ニりんふちりてん、ぶらすま細胞等ノ浸潤ナキヲ常トス。又小ナル動脈又ハ毛細管ト、大ナル動脈、例之基底動脈等ノ硬化症トハ其ノ程度決シテ一定セズ。又顛顛動脈ト他ノ腦動脈硬化ノ度モ一定セルモノニアラザル事ヲ注意スベシ。

第四 老耄性癡呆

老耄性癡呆ハ凡テ退行性機轉 Regressiver Vorgang ナリ。其ノ變化ノ大要ハ

- (一) 腦實質即チ神經細胞及ビ膠質細胞内ニ脂肪性色素ノ著シク増加セル事、中ニハ脂肪變性ニ陥レルモノ多キ事。
- (二) 炎症機轉ヲ缺ク事。
- (三) 膠質纖維ノ増殖セル事。所謂老耄性ぶらぐノ存在ヲ認メラルル事。
- (四) 又大ナル神經細胞ニハ粉末樣變性ノ狀ヲ呈スル事。
- (五) 血管ニ硬化症アル事(但シふれすびをふれにーヲ除ク、マタ同質樣變性多キ事、及ビ血管ノ外膜細胞ニモ脂肪増加セル事)。
- (六) 隨伴細胞 Pyruvatsäuren ニハ脂肪色素増加シ、且ツイゲルト氏ノ膠質纖維染色法ニテ

老耄性癡呆

細纖維ノ構成ヲ認ムル事。

- (七) 脊髓ニハ唯輕度ノ緣邊硬化症ヲ認ムルノ外大ナル變化ナク、唯澱粉樣小體 Amyloide Körperchen ヲ多ク認ムル事アリ。
- (八) ビルシウスキー氏染色法標本ニテハ一般ニ原纖維ノ數減ジ、細胞外神經原纖維中其ノ太キ纖維ノ侵サルル事烈シ。神經細胞ハ其ノ外形良ク保存セラルルモ、細胞内原纖維ハ著シク破壊セラレ、核ハ甚ダ濃ク染マリ一般ニ烈シキ變化アリ。殊ニアルツハイメル氏變化ノ狀ヲ示スモノ多シ。

第五 躁鬱病

特別ノ變化未ダ發見セラレズ唯比較的年若キ同病者ニ動脈硬化症ノ多キヲ認メラルルニ過ギズ。

早發性癡呆

第六 早發性癡呆

早發性癡呆ニ固有ナル病的變化ハ著明ナラザルガ故ニ從來餘リ知レ互リ居ラザリシガ近時アルツハイメル氏ノ云フトコロニヨレバ

- (一) 大腦皮質凡テノ層ニ於テ、就中第二第三層ニ於ケル神經細胞ノ汎發性變化アリ。殊ニ硬化症及ビしるらはニ因リ染色サルベキ脂肪樣物質ノ細胞體內ニ増加セルコト。(之ハ殊ニ初期ノモノニ多シ) 一二神經細胞ニハ萎縮又ハ消滅アリ。殊ニ後者ノ爲メニ多クノ場合ニ於テ皮質層ノ最輕度ノ破潰ヲ著明ニ現ハセリ。

解剖學的診斷法

- (二) 血管周圍ニ核ノ見エザル部位ノ存在スル時ハ、其ノ部位ハ分解産物ニ依リ充填サレ、或ハ蜂房狀ヲ呈シ、以前其ノ部ニ分解産物ガ存在セシ事ヲ證ス。
- (三) 血管外膜腔中ニモ分解産物(ぶろたごのいど質)又ハハシハシは被染色質多キ事。
- (四) 軟膜及ビ血管ニハ浸潤無ク、炎症機轉全ク無キ事。
- (五) ビルショウスキ一氏法ニテハ、ニッスル氏又ハハシハシは染色法ニテ著シキ變化ヲ示セル所ニモ何等ノ原纖維的變化ヲ現ハサザル所多キ事。
- (六) 又膠質細胞ハ血管ノ周圍神經細胞ノ周圍ニ増殖シ、第一皮質層及ビ深層髓質ニ於テハ殊ニ病的纖維形成ノ狀ヲ呈シ、髓質層ニテハ原形質ノ増大、あめーば様膠質變性ヲ現ハスモノアル事。
- (七) 血管周圍ノ核ノ少ナク見ユル所ニ多クノ分解産物ノ溜リ居ルハあめーば細胞ノ存在ト共ニ急性症狀ヲ以テ發病セルモノ、殊ニ緊張病患者屍者ニ多キ事等トス。

癩癩

第七 癩癩

軟膜ハ癩呆ニ陥レル癩癩患者ニハ多ク溷濁肥厚スルコトヲ認メラレ、又急性症狀ヲ以テ死セルモノニハ時ニ出血アリ。大脳皮質ノ病變ハ殊ニ顛頂葉ニ最モ烈シク認メラレ、神經細胞ノ變化ハ主トシテ硬化症ニシテ之レニ次イデ細胞蠶蝕性變性顆粒性崩潰腫脹、膨大等ノ變化アリ。殊ニ圓錐體細胞ノ破潰、其ノ周圍ニ於ケル神經細胞ノ縮小、終ニハ圓錐體細胞ノ基底部分鈍圓トナリ細胞體ガ類圓形又ハ同形ニ近キ形トナリ次イデ消滅シ。又、キビくるむト名ヅクルトコロニテハ大圓錐細胞ハ全部消滅ス。其神經細胞内ノ原纖維ハ破滅分解シ細胞外原纖維亦減少シ特ニ切線纖維消失スルノ像ヲ示ス。又膠質増殖シ時ニ烈シキ縁邊膠質増生ノ像ヲ示シ、又血管ハ内壁増生、壁ノ肥厚、ますと細胞浸潤アリ。時ニ大脳皮質第一層ニカハール氏細胞存在スルコトアリ。アンモン角ハ其ノ一側又ハ兩側ニ於テ硬化症アリ。即チ該部神經細胞ハ萎縮消滅シ膠質組織之レニ代リテ増殖スルモノアリ。

若シ癩癩發作頻發症ニヨリ死セルモノハ其所ニ充血浸潤出血等アリ。且其ノ神經細胞ニハ著明ナル急性變化アリ。殊ニペーツ氏細胞ニ於テ著シ。即チ細胞體ノ腫脹、ニッスル氏小體ノ消滅、核ノ尖突起方向ノ遷移、終ニハ細胞ノ消失アリ。膠質細胞ニハ分裂、分解産物ノ蓄積、あめーば様細胞ノ存在等アリ。然カシテ之等諸變化ハ髓質ニ於テ殊ニ烈シキヲ見ル。

第八 白癡

白癡

白癡ノ腦ヲ畸形又ハ生來的發育停止トノミ考フルハ誤リニシテ、寧ロ其ノ多クハ胎兒期ニ受ケタル病的障礙ト考フベキ變化アリ。而カモ幼時早ク病ニ罹リタルモノハ後チ其ノ病的變化漸次消失シ其ノ痕跡ノ全ク發見セラレズニ終ルモノ少ナカラズト雖モ審カニ之レヲ檢スレバ神經細胞ノ硬化症、膠質纖維増生、神經纖維ノ續發變性ヲ認メラレ其ノ單純ノ發育制止ニアラザルコトヲ知ラルモノナリ。又白癡ハ解剖學的診斷法

無腦兒
半腦兒
小迴轉症
穿孔腦

眞性穿孔腦
假性穿孔腦

腦水腫

小頭症

解剖學的診斷法

其ノ種類數多アルモ其ノウチ剖見上特ニ著明ナル種類ハ左ノ如シ。

一、粗大ナル腦ノ實質的缺損ヲ有スルモノ。之レニ又多クノ種類アリ。即チ大腦、中腦、後腦ナドノ無キ所謂無腦兒、又ハ小腦四疊體橋部ノミ存在セル半腦兒或ハ胼胝體穹窿部又ハ透明中隔體ヲ缺ケルモノ、又ハ大腦ノ廻轉ノ小ナルモノ小迴轉症、或ハ穿孔腦トテ大腦ノ表面ニ上部廣ク下部狹ク、恰モ漏斗ヲ見ルガ如キ狀ヲ呈セル缺陷ヲ示ス腦ヲ有スルモノ、又大腦皮質廻轉ノ幅ノ狹キ爲メ其ノ數頗ル多ク且頗ル細ク見ユル小迴轉症等アリ。斯カルモノノ多クハ單純ノ畸形ナラズシテ胎生期ニ早ク受ケタル病の變化ニ基クモノト思ハルガ、殊ニ穿孔腦ニ於テハ單純ノ畸形トシテ來ル眞性穿孔腦ト名ヅクルモノト外傷或ハ疾病、殊ニ血管ノ疾病ニ因リ其ノ血管ヨリ支配セララル場所ノ實質消滅シテ穿孔ヲ生ゼル所ノ假性穿孔腦ト別ツ人アリ。然カモ其ノ區別ハ中々困難ナルモノトス。

二、腦水腫性白癡。即チ腦室ニ病的腦脊髓液ノ溜マリ腦室ノ大トナリタルモノ、又ハ腦ト頭蓋骨トノ間ニ同液ノ溜マリ、之レガ爲メ腦質ハ菲薄トナリ、頭形ハ著シク膨大スル所ノ腦水腫性白癡症ハ多クノ原因ヨリ來ルモノナリ。即チ多クハ腦膜炎、脈絡膜叢炎症ニ因ルモ、他ニマタ腫瘍ノ爲メ脈管殊ニ靜脈ノ壓迫セラレテ腦室内排水ノ途塞ガリテ起ルモノアリ。

三、小頭症。本症ハ腦ノ發育身體ノ他部發育ニ比シ著シク劣リ、爲メニ頭形頗ル小ニ見ユルモノナリ。之レニモ病ノ爲メニ來ルモノト、畸形トシテ現ハルモノトノ二種アリ。

腦性小兒麻痺
ニ因ル白癡

四、腦性小兒麻痺ニ因ル白癡。本症ハ生前尙未ダ胎内ニ在ルノ頃外傷ヲ受ケ、又ハ微毒ヲ病ミ、又ハ早産、假死ノ狀ニテ出産セル爲メ、或ハ生前傳染病、殊ニ猩紅熱、麻疹、非化膿性腦質炎等ニ罹リ、又ハ外傷ヲ受ケテ生ズル所ノ種々疾病ノ總稱ニテ臨床的ニ足、或ハ手、又ハ半身ニ發育不良ナル者多ク、又癲癇發作ヲ呈スルモノ多シ。解剖上ニハ既往ニ腦病ノ存セシ痕跡、例之硬化癱痕、穿孔乃至水泡ヲ呈スルモノ多ク、又時ニ肉眼的ニハ何等變化ナク顯微鏡下ニ始メテ小變化ヲ發見シ得ルモノアリ。

結節性硬化症

五、結節性硬化症。本症ハ肉眼的ニ大腦ノ廻轉腦室、皮膚、心臟、腎臟其ノ他ノ部位ニ當リ限局セル腫瘍狀ノ他部ヨリ隆起セル結節ヲ認メ、之レニ觸ルル時ハ固ク、之レヲ顯微鏡下ニ見ル時ハ神經細胞ノ配列亂レ、其ノ數減ジ、且普通存在セザル大ナル細胞ヲ現ハシ、膠質ハ其ノ纖維細胞共ニ增多シ、神經細胞中ニモ病的變化ヲ示シ、而カモ炎症狀態ヲ呈セザルモノナリ。本患者ハ生前ニハ智力ノ缺損ト殆ンド凡テニ癲癇性發作ヲ現ハシ、内臟殊ニ腎臟、皮膚、心臟ニ存スル同様ノ結節樣硬化ヨリ來ル症狀トヲ現ハス。

家族性麻痺性
黑内障性白癡

六、家族性麻痺性黑内障性白癡トテ我國ニモ稀ニ來ル白癡アリ。ソハ一歲位マデハ健康ニテ智力良カリシモノガ漸次視力ヲ失ヒ、身體ハ衰弱シ、手足利カズ終ニ死亡

解剖學的診斷法

スルモノニテ其ノ現ハルルヤ家族的ニシテ兄弟皆同病ニ罹カル特徴アリ。此等ノ大脳ハ廻轉ノ異常アルノ外其ノ皮質神經細胞體ニハ多クノ脂肪色素ヲ生ジ殊ニ其ノ突起中ニ蓄積シテ該部ノ腫脹膨大壺狀ヲ呈スルノ固有點アリ。又原纖維ノ形變ジ又其ノ細胞ノ數ヲ減ジ加フルニ視神經ノ萎縮網膜細胞ノ變性グラチオレー氏視索ノ變性ヲ伴フ。(前卷四九二頁第三十圖參照)

甲狀腺疾病ニ
因ル白癡
もんごりすむ
遺傳微毒ニ因
ル白癡
萎縮性硬化症
早發性癡呆性
白癡
頭蓋骨異常ニ
基ク白癡

七、甲狀腺ノ異常ノ爲メニ來ル白癡即チくれちん又ハ粘液水腫もんごりすむす遺傳微毒ニ因ル白癡、萎縮性硬化症ナル疾病ニ基ク白癡、早發性癡呆ガ母體內又ハ一歳前後ニ發病シテ之レガ爲メ白癡乃至癡愚者トナレルモノ、頭蓋骨形態異常症ノ爲メニ腦ヲ害シ其ノ結果トシテ白癡又ハ癡愚トナルモノ等アルモ、之等白癡者ハ頗ル稀有ニシテ又剖見ノ機會少ナキモノナルヲ以テ茲ニ之レヲ論ズルノ要ナシト思ヒ略ス。

其ノ他ノ精神異常ノ剖見上所見ニツキテハ前卷精神病各論ニ詳シキヲ以テ之レヲ再述セズ。

第八篇 應用精神病學ニ關スル診斷學

第一章 應用精神病學概論

心理學トノ關
係

教育學トノ關
係

學校病

學校衛生

精神病學ノ研究日ニ月ニ進ムニ從ヒ斯學ノ範圍益々擴張シテ他學科トノ關係愈々多大トナリ從ツテ斯學ノ他學科ヲ助クルコト多ク又斯學ノ他ヨリ助ケヲ籍ル事少ナカラザルナリ。殊ニ心理學、教育學、刑事學、法醫學トノ關係ニ於テ然リトス。而シテ心理學ニ於テハ近來實驗心理學ノ研究勃焉トシテ興リ大ニ斯學ノ面目ヲ革メタルハ醫家、殊ニ精神病學者ノ病的精神狀態ヲ研究スル傍ラ其ノ基礎タル健全者ノ心理學的事項ヲ關係研究スル結果ニ俟ツ事多大ナリト謂フモ過言ナラザルベシ。又教育學トノニ就キテモ忽緒ニ附スベカラザルモノアリ。蓋シ凡ソ何事ニモアレ一利一害ノ隨伴スルハ數ノ免レザル所ニシテ學校教育モ亦其ノ軌範ヲ脫スル能ハザルベシ。實ニ校舍構造上ニ於ケル空氣、光線ノ不良ナルハ勿論精神ノ過勞殊ニ授業ノ過重、休息ノ不足等ガ兒童殊ニ病的兒童ニ多大ノ有害ナル影響ヲ與フル事ハ明カニシテ其等ノ結果學校ガ直接原因トナリテ或種疾病即チ學校病 *Schulkrankheiten* ナルモノヲ發生スルニ至ルコトハ現在明ラカニ之レヲ認メラルルニ至レリ。

從來學校衛生ト唱フル所ノモノハ主トシテ身體的衛生ニ關セル設備ヲ講ズルモノニシテ例ヘバ校舍ノ構造、設備、器具等ノ善惡ヲ檢シタルニ止マリ、謂ハバ兵營、工場等ニ

應用精神病學ニ關スル診斷學

教育衛生

於ケル設備ヲ論ズル衛生學ト大差ナクシテ學校ニ固有ナル教育ノ方法ガ精神ノ衛生ニ適スルヤ否ヤヲ顧慮スルトコロナカリキ。之レ本末ヲ誤マルモノト謂フベシ。然カルニ近時識者茲ニ見ル所アリ。從來ノ學校衛生ヨリ主トシテ精神作用就中教育ノ該兒童ニ及ボス衛生的利害ヲ考究スル一派ヲ立テ、名ヅクルニ**教育衛生學** Schulhygieneトシ、眞ノ學校衛生ヲ論ズルニ至レリ。是レ誠ニ斯道ノ爲メ賀スベキ所ノモノニシテ之レニヨリ始メテ教授方法ガ果シテ其ノ兒童ノ心理ニ適スルヤ否ヤヲ系統的ニ探グリ、又其ノ弊害ヲ除去スルコトヲ得ルモノトス。偶々モイマン Meumann 氏等ヨリ**實驗教育學** Experimentelle Pädagogikノ唱導セララルアリ。兩者相待タバ他日完全セル教育法ニヨリ兒童ノ教育セララルニ至ランカ。

實驗教育學

余ハ教育ニ向ツテ何等ノ經驗アルモノニアラズ。從ツテ從來ノ教育方法ト其ノ課程ガ果シテ心身健全ナル兒童ニ害ヲ與フルヤ否ヤヲ明言スルコト能ハズ。然カレドモ唯茲ニ一言シタキハ多クノ學校ヲ通ジテ多數通學スル生徒ノ内ニハ或ハ精神病者、或ハ大酒家ノ子孫モアルベク、又ハ其ノ小兒ノ尊屬ノミナラズ、其ノ小兒自己モ既ニ精神ノ變質セルモノ、又ハ低能ナルモノモ存在スベキナリ。斯カル健全ナラザル兒童又ハ抵抗力乏シキ兒童ニ對シテ、過重ノ教育ヲ行フ時ハ其ノ結果或ハ益、不良ナル素因ヲ與ヘ、或ハ厭世家トナシ、或ハ偏畸者乃至神經質トナシ、或ハ終ニ精神病ノ發生ヲスラ促ガス最大原因トナルベキ事其ノ例尠ナカラザルベシ。是レ教育ノ利益ニ伴フ一ノ

補助學校

弊害ニシテ頗ル寒心スベキモノナリ。斯カル害ノ隨伴スル事ナキ完全ナル教育ヲ行ハント欲セバ精神病學ノ力ヲ以テ斯カル兒童ヲ鑑別分離シ、早ク特殊教育ヲ施スノ外ナシ。歐洲ニ於テハ殊ニ**補助學校** Hilfschule 其ノ他ノ特殊學校ノ設ケアリ。蓋シ精神能力ノ充分ナラザル兒童ト精神ノ健全ニ發育セルモノ、殊ニ其ノ優秀ナルベキモノトヲ同一ノ教場ニ於テ教育スルハ學者間ニ多少意見ノ異ナル所アリト雖モ、歸スル所兩者ニ害多クシテ益少ナキコトヲ知得シタレバナリ。

刑事學トノ關係

犯罪者ト精神病學トノ關係尠ナカラザルハ明白ナル事實ニシテ刑事學ト精神病學トハ實ニ密接ナル關係アリ。

犯罪ノ原因

從來犯罪ハ何等法則ニ由リ消長スルモノニアラズ、犯罪ノ多キ、亦少ナキモ全ク偶然ノ出來事トシテ放任セラレ、又何故ニ犯罪ノ生ズルヤ其ノ原因スラ深キ注意ヲ以テ注目セラレザリシ。然カルニ漸次人智ノ啓發セララルルニ從ヒ社會萬般ノ事物ガ注目セラルルニ及ビ犯罪ノ多寡又其ノ原因モ考究セララルルニ至レリ。即チ犯罪ノ原因ニハ社會的原因ト個人的原因ト二者ヲ認メ、一般的原因、即チ社會的原因トシテ天候、季節、都鄙、職業、博戲、迷信社會狀況、不作、天災、酒精等之レニ屬シ、個人的原因トシテ家庭ノ狀況、教育、遺傳及ビ個人性氣質等ヲ認メラル。

一般的原因

個人的原因

而シテ殊ニ其ノ個人的原因中犯罪者其ノモノノ氣質ニハ單ニ生理的範圍ニ屬スベキ異常ノミナラズ病的ニ屬スベキ異常アル事近來多クノ人ヨリ注意セララルニ至レリ。

例之浮浪罪、小竊盜、乞丐ノ心理ニ關シ、ポーン、ヘッフェル氏ハ其等ノ中七五%ハ精神異常者ニシテ、其ノウチ責任能力無キ程度ノ重症者ハ一二%ヲ占メ、其ノ多數ハ早發性癡呆者及ビ精神發育制止者ニシテ、其ノ他ニハ少數ノ癲癇者アリト曰ヒ、ウケルマン、Wittmann氏ハハイデルベルグ市ニテ浮浪者五十二人ヲ鑑定セルニ、ウチ三十二人ハ拘留セラルル前既ニ其ノ精神異常ノ爲メニ種々ノ犯罪行爲ヲ爲セリト云フ。又一般ニ竊盜犯、強盜犯、殺人犯、猥褻行爲犯、詐僞取財政治犯ヲ敢テセルモノニツキ多クノ學者ガ之レヲ系統的ニ調査シタル結果、犯罪者ノ多數ニ精神健全ナラザルモノアル事ヲ發見シ、斯クシテ精神病學ハ刑事學ト益々親密ナル關係ヲ有スルニ至レリ。

然リ而シテ一時ロム、ブロー、ゾー氏等ノ曰ヒタル生來性犯罪者說ハ事實ニ遠ク、且ハ餘リ酷ニ失セルモノトシテ現今信ズル人少ナシト雖モ、尙ホ多少ノ眞理ガ其ノウチニ含蓄セララルルコトハ事實ナリ。即チ生來性犯罪者ノ多クハ皆殘忍、悍猛ナルモノニアラズシテ寧ろ温和ニ、只智力足ラザルモノ、生存競争ニ堪ヘザルモノ、犯罪ノ不良ナリトノ理解乏シキモノ、意思薄弱ニシテ一業ニ專心持續スル能ハザルモノ、社會ノ生存ニ堪ヘザルモノ等ナルモ、而カモ其等ノ多クハ變質者ナルモノトス。實ニネッケ、Knecke氏ハ犯罪者ノ多數ハ被働的犯罪者 Passiver Verbrecher ニシテ自働的犯罪者 Activer Verbrecher ハ少キモノナリト曰ヒ又犯罪者ノ多クハ縱令普通ノ人ト多少趣キヲ異ニスルモノナリトスルモ之レ皆病者ニアラズシテ病者ト健者ト間ニ位スベキ所謂精神病的中間者

被働的犯罪者
自働的犯罪者
犯罪者ノ多數
ハ中間者ナリ

Psychopathischer Grenzstand ヲフ現在世ニ多數存在スル變質者又ハ精神發育不良者ト考フベキナリ。蓋シ自働的犯罪者トハ猛惡ナル性質ヲ有シ單獨ニ犯罪ヲナスベキモノニシテ、被働的犯罪者トハ外界ノ事情ニ因リテ犯罪ヲナスモノナリ。又犯罪者ノ多クガ變質者タルコトノ理由トシテハ、(一)被等ニハ身體的並ビニ精神的ニ病者ニ近キ變質徵候アリ、(二)又其ノ先祖ニ病的遺傳ヲ有スルコト健者ヨリ多ク、(三)又犯罪者ハ精神病ニ罹リ易キコト健者ニ數倍スルコト等ヲ舉ゲラル。故ニ凡テノ犯罪者ヲ皆悉ク普通ノ人ト同一視シテ論ズル事ハ信ズベカラズ、又犯罪ノ原因ヲ唯社會的原因ニノミ歸スル事モ亦誤リナリ。

世人稍モスレバ犯罪ガ社會的原因ニ依リ消長スル事アルヲ以テ犯罪ノ凡テヲ社會的原因ニ歸スルモ、コハ寧ろ斯カル變質者ハ健者ニ比シ抵抗弱キモノナレバ外界ノ刺激、例之季節、天候、外界ノ誘惑ニ容易ク影響ヲ被リ、容易ニ犯罪ノ傾向ニ陥リ易キニ過ギザルモノト考フベキナリ。

斯クノ如クニシテ犯罪者ノ多數、殊ニ累犯者 Rückfallverbrecher (犯罪者中ノ七八分ヲ占ム)ハ精神能力足ラザル者カ、又ハ變質者ナレドモ、亦健全者ノ犯罪、病者ノ犯罪モナシトセズ。故ニ犯罪ヲ分類スル事ハ若シ其ノ主義ヲ單ニ病者、健者、中間者ノ三者ニ止ムル時ハ其ノ三者ノ犯罪ニ別ツヲ以テ足レリトスルモ、之レニ犯罪ノ動機ヲ顧慮スル時ハ其ノ分類ハ決シテ容易ノモノナラズ。實ニ犯罪者ノ分類ハ今尙完全ナルモノノ存

スルコトナク、クレベリン氏ハアッシュンブルグ Aschenhurg 氏犯罪分類法ヲ以テ比較的批難ナキモノトセリ。即チ同氏分類法ニ依ル犯罪ノ分類ハ次ギノ如シ。第一類 偶發犯 Zufallsverbrecher, 感動犯 Affektsverbrecher, 機會犯 Gelegenheitsverbrecher, 第二類犯 Vorbedachtverbrecher, 累犯 Rückfallsverbrecher, 習慣犯 Gewohnheitsverbrecher, 職業犯 Berufsverbrecher, 精神病性犯罪者 Geisteskrankenverbrecher, 犯罪性精神病 Verbrechlichen Geisteskranken 即チ之レナリ。

舊派

犯罪者ノ所罰ニ就キテ從來ハ所謂舊派或ハくらしく派トシテ主トシテ人ノ性ハ善ナリ、而カモ其ノ性ニ反シテ罪惡ヲ行フモノナレバ、其ノ惡大ナレバ大ナルダケ之レニ報ユルトコロ大ナラザルベカラズ。又犯罪ノ結果ニ應ジテ其ノ害大ナル時ハ重刑ニ處シ、其ノ害小ナル時ハ輕刑ニ行ヘルガ如キ方針、所謂報復主義 Vergeltungstheorie ヲ執レルモノノ性果シテ皆平等ニ善ナリヤ、又犯罪ノ凡テガ皆其ノ自己ノ善性ニ背キテ敢行セラレタルモノナリヤ、又假令然カルモノトシテモ之レガ改善ノ方法トシテ課セラレタル從來ノ刑罰ガ果シテ犯人ヲ懲治スル上ニ效果アルヤヲ考フルニ、事實其ノ點ニ於テ復仇觀念ニ胚胎セル在來ノ刑罰方法ハ其ノ效果薄ク、反ツテ之レガ爲メ犯罪者ノ増加ヲ來タスガ如キ感アリ。勿論其ノ幾分ハ社會ノ狀態ニ原因スベシト雖モ、亦此主義ガ理論ニ於テモ、實際ニ於テモ其ノ當ヲ得ザルニ因ルモノナラムカノ疑惑ヲ生ゼリ。而シテ之レニ對シテ新派又ハ目的主義 Zwecktheorie ナル學說起レリ。即チ曰ク犯罪

報復主義

新派
目的主義

人格主義

社會學トノ關係
乞巧浮浪者

不良少年感化
事業

者所謂ノ目的ハ畢竟スルニ社會ノ安寧秩序ヲ侵害スルモノヲ社會ヨリ排斥シ、尙出來得ベクンバ其ノ性情ヲ教化矯正セムトカムルニアルモノナレバ、犯罪ノ結果ハ小ナリト雖モ、其ノ犯人ノ性質ニシテ改善ノ痕ナク、再び犯罪ヲ爲シ社會ノ安寧秩序ヲ害スベキ傾向ヲ有スルモノハ其ノ性質ノ陶冶セララルマデ社會ヨリ遠ザクベキモノナリト、事實一旦入獄セシモノニテ其ノ目的トスル改善ヲナセルモノハ數フルニ足ラズシテ、其ノ大多數ハ再び三タビ獄ニ投ゼラレテ同一ノ經歷ヲ反復スルニ過キザルモノニテ其ノ茲ニ來ラシムル原因ハ或ハ社會組織ノ非ニ基クトスルアランモ、亦犯罪其ノ者ノ生來的犯罪ニ傾キ易キ性癖ニ基ク結果稀少ナラザルベキヲ信ズルモノナリ。實ニヤ、邦國ニ於テ刑法ヲ改正セラレ所謂新刑法ナルモノニ於テハ刑罰ヲ課スルニ犯罪ノ外形ニ依ラズシテ、犯人ノ人格ニ重キヲ措クニ至レルハ之レ我精神學上ノ見地ヨリシテ頗ル其ノ當ヲ得タルモノト謂フベシ。即チ後者ハ新派ノ學說、人格主義又ハ主觀主義ト謂ヒ、前者ノ舊派、即チ客觀主義又ハ事實主義ニ對峙ス。

又社會ニ散在セル怠惰者、浮浪者、乞巧、淫賣婦等ノ精神狀態ヲ檢セル結果ニ依レバ、前既ニ述ベタルガ如ク、此等ノ者ノ多クハ精神ニ多少異常アリ、殊ニ破瓜病者、變質者等ノ多カリシ事ヲ發見セリ。從ツテ將來此等ノモノノ措置問題ニ就キテモ精神病學者ハ社會學者等ト共ニ研究シテ社會ノ爲メニ力ヲ盡スベキ好個ノ問題ナリト謂フベシ。尙不良少年ノ感化事業、出獄人保護事業等ノ如キ既ニ其ノ一端ハ我國ニ行ハレ居リ、

夫ノ精神病學ノ助力ニ依リ多大ノ效アル事既ニ普ク認メラルル處ニシテ今茲ニ言フノ要ナキガ如シ。然カルニ、不良少年ノ感化事業ハ精神病學ト何等ノ關係ナシト思ヘル人アリ。是甚ダ誤レル見解ニシテ精神病學ノ内容ヲ知ラザル者ノ爲ス言ノミ。蓋シ不良少年ナルモノハ何故ニ起レルヤ、單ニ周圍ノ境遇不良ナルガ爲メノミナラズ、又教育ノ及バザリシ爲メノミニアラザルナリ。即チ其等ノ多クハ生來性マタ病的ニ能力足ラザル所ノ兒童、又ハ變質者乃至後天性ノ疾病ヲ有セルモノガ不良ノ境遇ニ惡化セラレタルモノニシテ、健全ニ精神發育シ來リテ單ニ不良ノ徒ニ交リタルガ爲メニ不良少年トナレルモノハ其ノ數頗ル少ナシ。實ニ斯カルモノコソ感化セラレ易ク、智育德育ニ關シテモ教化ヲ受ケラレ易ク、所置甚ダ容易ナルモノトス。

而シテ所謂不良少年ナルモノノウチニハ病的ナルモノ少數ナラズトハ余自カラ之レニ對スル實驗ヲ有セルノ言ニシテ、余ノ堅ク信ジテ疑ハザル所トス。即チ余ハ浦和熊谷特種學校ニ入學セル兒童八十八名ヲ檢シ、精神發育ノ先ヅ常者ト思ハハルモノハ唯一・五%ニ過ギズ、而モ其ノウチ半數以上ノモノハ常者ノ稍魯鈍ナルモノニ比スベク、賢キモノハ甚ダ少ナシ。又病的異常氣質者多クシテ變質者ト認メラルベキモノハ二〇・四五%、病的ニ精神發育不良ナルモノ實ニ六四・七九%ノ多數ヲ占メ、而カモ其ノウチ魯鈍者ト認メラルモノハ全數ノ二五%、癡愚者ト認メラルモノハ全數ノ三九%アリキ、尙癡愚者中ニハ其重症ナルモノ多ク、狹義ノ精神病ト名ケラルルモノハ僅ニ全數ノ二

二%ニ滿タズシテ、白癡者ハ一名モナカリシ事ヲ實驗セリ。爾來此ノ種少年ノ心理狀態ヲ引キ續キ研究セルニ皆殆ンド之レト略同一ノ結果ヲ得タルモノトス。

之レト同ジ經驗ハ外國ニ於テハ古キ昔ヨリ有スルモノニシテ英ノソムソン *Thomson*

氏ハ少年犯罪者ハ物ヲ學ブニ手間取リ且困難ニシテ、修學ニ興味ナク、概シテ癡愚者多シト曰ヒ、同氏ノ調査セシ人員九百四十三人中、百拾八人ハ實ニ病的癡愚者ナリシト曰ヒ、スコットランドノ在監者ノ爲メニ設ケラレタル學校教員モ少年犯罪者ノ三分一ハ低格者ナリト曰ヒ、ブレックンゼーノ監獄教師ノイマン *Zeimann* 氏モ亦同様ノ事ヲ曰ヒ、少年犯罪者ノ大部分ハ理解力足ラズ、殊ニ判斷力ニ缺點多キ事ヲ認メ、メンケメル *Menckemüller* 氏ハヘルツベルゲニテ二百人ノ少年犯罪者ヲ檢シ、其ノウチ六十八人即チ約三分一ハ癡愚者ニシテ、其ノ六十八人中三十五人即チ半數ハ德力缺損ヲ有シ、三十三人ノミ性質溫良ナリシト曰ヘリ。之レニ依ツテ見ルモ、不良少年感化事業等ノ事業ハ精神病學ト相待ツベキモノニシテ、精神病學的知識ナク漫然常者ト病者トヲ區別セズシテ感化セムト欲スルモノハ其ノ好成績ヲ得難キコト當然ナリト謂フベシ。

又應用精神病學中近來ニ至リ社會ニ最直接貢獻セル所ノ問題ハ酒精問題ニシテ、酒精ハ單ニ一回ノ酩酊ノミナラズ、常飲酒者ニハ酩酊ト異レル體質上ノ變化ヲ來シ、其ノ害延ヒテ子孫ニ至ル事ハ、或ハ統計ニ依リ、或ハ心理學上ノ實驗ニ因リ、又ハ精神病學ノ臨床的觀察ニ基キ確乎動カスベカラザル事實トナリ、其ノ毒延ヒテ國家ノ運命ニモ關

スル事多大ナレバ國家的ニ又社會的ニ本問題ハ頗ル注意スベキ重要ナル問題トナレリ。(酒精ノ害毒ニ就キテハ尙本書原因論ニ於ケル酒精ノ章ヲ參照スベシ)。

精神病者ハ自他ニ直接間接ニ危險ナルモノナルガ故ニ一ハ社會ノ安寧秩序ヲ維持スルガ爲メ他ハ病者自身ヲ保護スルノ目的ヲ以テ吾國ニ於テモ既ニ精神病者監護法(明治三十三年二月六日。法律第三十八號。精神病者保護法施行規則(內務省第三十五號)勅令第二百八十二號。明治三十三年六月二十九日等ヲ設ケ、監置ノ必要アル精神病者ハ四等親内ノ親族又ハ戸主ニ於テ之レヲ監護スルノ義務ヲ負ハシメ、行政官廳ノ許可ヲ得テ精神病者ヲ監置スルヲ得ルモノトナセリ。然カレドモ若シ此等ノ監護義務者ノ存在セザルカ又ハ監護義務ヲ履行スル事能ハザル事由アル時ハ精神病者ノ住所、所在地ナキ時又ハ不明ナル時ハ其ノ所在地ノ市町村長ガ勅令ノ定ムル處ニ從ヒ之レヲ監護スベキモノトセラル。最近又警察署令ニ於テ濫リニ精神病者ヲ徘徊セシメタルモノハ罰セラルルニ至レリ。是レ社會ト精神病者トノ關係ニ於テ注意シ置クベキモノナリ。(左掲精神病者監護法參照)。

精神病者監護法

精神病者監護法

法律第三十八號 精神病者監護法

明治三十三年三月九日

第一條 精神病者ハ其後見人配偶者四親等内ノ親族又ハ戸主ニ於テ之ヲ監護スルノ義務ヲ負フ但シ民法第九百八條ニ依リ後見人タルコトヲ得ザル者ハ此限ニテ之ヲ監護義務者數人ヲ

ル場合ニ於テ其義務ヲ履行スベキ者ノ順位ハ左ノ如シ。
但監護義務者相互ノ同意ヲ以テ順位ヲ變更スルコトヲ得

第一後見人

第二配偶者

第三親權ヲ行フ父又ハ母

第四戸主

第五前各號ニ掲ゲタル者ニ非ザル四親等内ノ親族中ヨリ親族會ノ選任シタルモノ

第二條 監護義務者ニ非ザレバ精神病者ヲ監置スルコトヲ得ス

第三條 精神病者ヲ監置セントスルトキハ行政廳ノ許可ヲ受クベシ但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監置スルコトヲ得此場合ニ於テハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ヅベシ

前項監置ノ期間ハ七日ヲ超ユルコトヲ得ズ
行政廳ノ許可ヲ受ケテ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シタル後三箇年内ニ更ニ之ヲ監置セントスルトキ又ハ民法第九百二十二條ニ依リ禁治產者ヲ監置セントスルトキハ行政廳ヘ届出ヅベシ

第四條 精神病者ノ監置ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ヅベシ

第五條 監置シタル精神病者治癒シ死亡シ若クハ行方不明トナリタルトキ又ハ其監置ヲ廢止シタルトキハ七日内ニ行政廳ニ届出ヅベシ

第六條 精神病者ヲ監置スルノ必要アルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者其義務ヲ履行スルコト能ハザル事由アルトキハ精神病者ノ住所、所在地ナキトキ又不明ナルトキハ其所在地市區町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スベシ

應用精神病學ニ關スル診斷學

第七條 行政廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルトキハ監護ノ許可ヲ取消シ監置ノ廢止ヲ命シ又ハ監置ノ方法若シクハ場所ノ變更ヲ命スルコトヲ得監置ノ許可ヲ取消サレ又ハ其廢止ヲ命ゼラレタル者監置ヲ廢止セザルトキハ行政廳ハ直接ニ監置ヲ廢止スルコトヲ得

第八條 精神病者監置ノ必要アルトキ又ハ監置不適當ト認ムルトキハ行政廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラズ監護義務者ヲ指定シ之ガ監置ヲ命ズルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政廳ハ假リニ其精神病者ヲ監置スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

市區村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキハ亦前項ニ同ジ

本條ニ依リ精神病者ノ監置ヲ命ゼラレタル監護義務者其命令ヲ履行セザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市區村長ニ於テ之ヲ監護スベシ

本條ニ依リ監護義務者ノ監置シタル精神病者ニ關シテハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其監置ヲ廢止シ又ハ監護ノ方法若シクハ場所ヲ變更スルコトヲ得ズ

第九條 私宅監置室公私立精神病院及ビ公私立病院ノ精神病室ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

私宅監置室公私立精神病院及ビ公私立精神病院ノ精神病室ノ構造設備及ビ管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 監護ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ其扶養義務者ノ負擔トス

市區町村長ニ於テ監護スル場合ニ於テ之ガ爲メ要スル費用ノ支辨方法及ビ追徴方法ハ行政病人及ビ行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス

第十一條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ其指定シタル醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル診問ヲナサシメ又ハ精神病者在ル家宅病院其他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關スル行政廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 官公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲシタル者ハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十五條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十六條ノ例ニ照シテ處斷ス

第十六條 左ニ掲クル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
一 詐僞ノ所爲ヲ以テ行政廳ノ許可ヲ受ケ若シクハ虛僞ノ届出ヲナシ精神病者ヲ監置シ又ハ拘束ノ程度ヲ加重シタルモノ

二 醫師精神病者ノ診斷書ニ虛僞ノ事實ヲ記載シ又ハ自ら診斷セズシテ診斷書ヲ授與シタルモノ
前項第一號ノ場合ニ於テハ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過グル毎ニ一等ヲ加フ

第十七條 左ニ掲グル者ハ二箇月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

一 許可ヲ受ケズ又ハ届出ヲ爲サズ若シクハ命ヲ受ケズシテ精神病者トシテ人ヲ監置シタルモノ
二 禁治産ノ宣告又ハ監置ノ許可ヲ取消サレ又ハ監置ノ廢止ヲ命ゼラレ若クハ假監置ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢セザルモノ

三許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シ若クハ命ヲ受ケタル程度ヲ超エテ精神病者ヲ拘束シタルモノ
第十八條 左ニ掲グルモノハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上ノ罰金ヲ附加シ又ハ五十圓以
下ノ罰金ニ處ス

一精神病者ノ監置ニ關シ虚偽ノ事實ヲ記載シタル願届其他ノ書類ヲ行政廳ニ提出シタルモノ
二監護義務ヲ履行スベキ順位ニ在ラザル者ニシテ許可ヲ受ケズ又ハ命ニ依ルニ非ズシテ監
置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若クハ場所ヲ變更シタルモノ
三官吏又ハ行政廳ノ指定シタル醫師ノ臨檢若クハ檢診ヲ拒ミ又ハ其尋問ニ對シ答辯ヲ爲サ
ズ若クハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタルモノ

第十九條 左ニ掲グルモノハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
一監置ノ方法若クハ場所ノ變更ヲ命ゼラレ其命令ヲ履行セザルモノ
二監護義務者精神病者ノ監置ヲ命ゼラレ其命ヲ履行セザルモノ
三第八條第四項及第九條第一項ニ違背シタルモノ
第二十條 第四條及第五條ニ違背シタルモノハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第二十一條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

本法施行前ヨリ精神病者ヲ監置シタルモノニシテ尙之ヲ繼續セントスルモノハ本法施行ノ
日ヨリ二箇月内ニ第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲スベシ第三條ノ許可ヲ受ケズ又ハ届出
ヲ爲サズシテ前項ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セザルモノハ第十七條ノ例ニ照ラシテ
處斷ス
本法中市區町村長ニ屬スル職務ハ市制區制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ市町村ニ準

ズベキモノ之ヲ行フ

第二十二條 外國人タル精神病者ノ監護ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定

ム

第二十三條 人事訴訟手續法第五十條又ハ第六十條ニ依リ裁判所ニ於テ精神病者ノ監護ニ付
必要ナル處分ヲ命ジタル場合ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用セズ

内務省令第三十五號 精神病者監護法施行規則

第一條 精神病者監護法第一條第二項但書ニ依リ監護義務者ノ順位ヲ變更シタルトキハ關係
者ハ七日以内ニ連署ヲ以テ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヅベシ

第二條 精神病者監護法第一條第二項第五號ニ依リ監護義務者ヲ選任シタルトキハ親族會ハ
七日内ニ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヅベシ

第三條 精神病者監護法第三條ニ依リ精神病者ヲ私宅病院其他ノ場所ニ監置セシムルトキハ
監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添へ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出又ハ届出ヅベシ

第三條第一項但書ニ依リ精神病者ヲ監置シタルトキハ監護義務者ハ警察官署ニ届出ヅベシ
此場合ニ於テハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘルコトヲ要セズ

第四條 精神病者ヲ監置セントスル場合ニ於テ地方長官ニ許可ヲ受クルノ暇ナシト認ムルト
キハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添へ警察官署ニ届出ヅベシ前項ノ場合ニ於テハ監護義務
者ハ三十日以内ニ前條ニ依リ更ニ地方長官ニ届出ヅベシ

第五條 前二條ノ願出又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ監置ノ方法及ヒ場所ヲ記シ若シクハ私宅
監置室ヲ設クルトキハ其構造設備ヲ記シタル書類ヲ添付スベシ

第六條 本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シ三十日以内ニ地方長官ニ監置ノ
應用精神病學ニ關スル診斷學

願出ヲナサザルトキ又ハ地方長官ニ於テ願出ニ對シ不許可ノ處分ヲ爲シタルトキハ警察官ノ與ヘタル許可ハ取消サレタルモノトス

第七條 精神病患者監護法第四條又ハ第五條ノ届出ハ監護義務者ニ於テ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ之ヲ爲スベシ但シ行方不明ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添フルコトヲ要セズ

本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病患者ニ關シテハ前項ノ届出ハ警察官署之ヲ爲ベシ

第八條 自宅監置室ハ精神病患者ノ資産又ハ扶養義務者扶養ノ程度ニ應ジ相當ノ構造設備ヲ爲シ及ビ之レヲ管理スルコトヲ要ス

第九條 府縣立ヲ除ク外公私精神病院及ビ公私立病院ノ精神病室ヲ設置セントスルトキハ其構造設備及ビ管理ニ關スル事項ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クベシ其之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十條 精神病患者監護法第七條及ビ第八條行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ニ於テ之ヲ行ヒ直チニ地方長官ノ指揮ヲ請フベシ

第十一條 精神病患者監護法第九條第一項行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ私宅監置室ニ關シテハ警察官署之ヲ行フ

第十二條 精神病患者監護法第十一條行政廳ノ職權ハ内務大臣地方長官又ハ警察官又ハ警察官署之ヲ行フ

第十三條 本則第九條ニ違背シタルモノハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 本則第一條及ビ第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條 東京府ニ在テハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

勅令第二百八十二號 明治三十三年六月二十九日

第一條 精神病患者監護法第六條ニ依リ市區町村長ニ於テ精神病患者ヲ監置スベキ場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項地方長官ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ市區町村長ハ警察官署ノ同意ヲ經テ三十日內精神病患者ヲ監置スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ノ同意ヲ得ザルモ七日內假ニ之ヲ監置スルコトヲ得此場合ニ於テハ警察官署ニ通知スベシ

第二條 精神病患者監護法第六條及ビ第八條第三項ニ該當スル精神病患者アルトキハ地方長官ハ警察官署ヲシテ之ヲ市區町村長ニ引渡サシムベシ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ハ假リニ市區町村長ニ引渡シ直チニ地方長官ノ指揮ヲ請フベシ

第三條 市區町村長ニ於テ監置シタル精神病患者治癒シ死亡シ又ハ行方不明ト爲リタルトキハ第一條第一項及ビ第二條ニ依リ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者及ビ第二條但書ニ依リ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知スベシ

市區町村長ニ於テ監置シタル精神病患者ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若クハ場所ヲ變更セントスルトキハ第一條第一項ニ依リテ監置シタルモノニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ノ同意ヲ經ベシ但シ監置ノ方法又ハ場所ノ變更ヲ要スル急迫ノ事情アルトキハ假ニ之ヲ變更シ直チニ認可ヲ受ケ又ハ同意ヲ經ベシ

第四條 市區町村長ハ其監護スル精神病患者ノ監置ヲ適當ナル公私ノ施設又ハ私ニ委託スルコトヲ得

第五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

附 則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

犯罪性精神病院

歐洲ニ於テハ犯罪者ノ犯罪行為ガ異常ナル精神狀態ヨリ生ジタルモノナリトノ鑑定ヲ得法官モ亦之レニ同意スル時ハ直チニ之レヲ不論罪トシテ刑ヲ科セザルモ之レト同時ニ社會ニ出ダシテ危險ナル精神病者ハ之レヲ一定ノ犯罪性精神病院ニ送ル手續ヲ執リ、行政機關トノ聯絡極メテ圓滑敏捷ニシテ災害ヲ未發ニ豫防セントスル到底吾國ノ比ニアラズ。吾國ニテモ上記セル精神病者監護法第八條及ビ勅令第二百八十二號第二條ヲ適用シテ此等ノモノヨリ生ズル危害ヲ未發ニ豫防スルガ爲メニ行政上之レヲ監置スル事ヲ得ザルニアラズト雖モ、之レガ規定ノ實行ヲ充タスベキ何等ノ設備ナキガ爲メ、危險ナル精神病者ヲ社會ニ出シ置クコト往々アリ。コハ恰モ猛虎ヲ驅ツテ之レヲ野ニ放ツガ如シ。故ニ縱令此等ノ聯絡ナクモ其ノ規定ノ存セルノ故ヲ以テ精神病院ノ存在スル地方ニアリテハ唯其ノ運用ニ於テ手續ニ依リ公共ノ危害ヲ豫防シ、且又監護法等ヲ徒法タラシメザルヲ得ルモノナレバ、當局者ハ此ノ點ニ深ク注意アラム事ヲ之レ切ニ希望ニ堪ヘザルナリ。

法令

法令就中民法、刑法ニアリテハ醫學殊ニ精神病學ト深キ關係アルモノナル事ハ普ク人ノ知レル處ニシテ斯カル關係アル場合ニ於テ法律適用上、問題ノ生ジタル時ハ醫師ハ法官ヨリ鑑定ヲ命ゼラルル事アルハ勿論ナルモ、精神病學ハ單ニ法官ヨリ命ゼラレ

タル鑑定事項ニ就キ之レヲ解決スルノミヲ以テ足レリトセズ、精神病學ニ關係セル法令ノ制定ニ際シテハ其ノ學理ヲ應用シ共ニ力ヲ藉スベク、又現ニ協力シツツアルモノナリ。而シテ其ノ法令トノ關係アル處ハ以下之レヲ叙述スベシ。

民法 第一編 總則 第一章人 第二節能力

第七條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ就テハ裁判所ハ本人配偶者四親等内ノ親族戸主後見人保

佐人又ハ檢事ノ請求ニヨリ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

第八條 禁治產者ハ之ヲ後見ニ附ス

第九條 禁治產者ノ行為ハ之レヲ取消スコトヲ得

第十條 禁治產ノ原因止ミタルトキハ裁判所ハ第七條ニ掲ゲタル者ノ請求ニ因リ其宣告ヲ取消スコトヲ要ス

第十一條 心神耗弱者、聾者、啞者、盲者及ビ浪費者ハ準禁治產者トシテ之一保佐人ヲ附スルコトヲ得

第十二條 準禁治產者ガ左ニ掲ゲタル行為ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 元本ヲ領收シ又ハ之ヲ利用スルコト

二 借財又ハ保證ヲナスコト

三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行為ヲ爲スコト

四 訴訟行為ヲ爲スコト

五 贈與和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト

六 相談ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト

心神喪失

禁治產

後見人

準禁治產
保佐人

七 贈與若クハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與又ハ遺贈ヲ受諾スルコト
 八 新築改築増築又ハ大修繕ヲナスコト
 九 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル貸借ヲナスコト
 裁判所ハ場合ニヨリ準禁治產者ガ前項ニ掲ゲザル行爲ヲナスニモ亦其保證人ノ同意アルコトヲ要スル旨ヲ宣告スルコトヲ得
 前二項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
 (參照第六百二條 處分ノ能力又ハ權限ヲ有セザルモノガ貸借ヲ爲ス場合ニ於テハ其貸借ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ズ
 一 樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ノ貸借ハ十年
 二 其他ノ土地ノ貸借ハ五年
 三 建物ノ貸借ハ三年
 四 動物ノ貸借ハ六箇月
 第十三條 第七條及ビ第十條ノ規定ハ準禁治產ニ之ヲ準用ス
 第十九條 無能力者ノ相手方ハ其無能力者ガ無能力者トナリタル後之ニ對シテ一箇月以上ノ期間内ニ其取消シ得ベキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スベキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ無能力者ガ其期間内ニ確答ヲ發セザルトキハ其行爲ヲ追認シタルモノト看做ス
 無能力者ガ未ダ無能力者トナラザルトキニ於テ夫又ハ法定代理人ニ對シ前項ノ催告ヲ爲スモ其期間内ニ確答ヲ發セザルトキ亦同ジ但シ法定代理人ニ對シテハ其權限内ノ行爲ニ就テノミ此催告ヲナスコトヲ得特別ノ方式ヲ要スル行爲ニ就テハ右ノ期間内ニ其方式ヲ踐ミタル通知ヲ發セザルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス
 準禁治產者及ビ妻ニ對シテハ第一項ノ期間内ニ保佐人ノ同意又ハ夫ノ許可ヲ得テ其行爲ヲ

意思表示

代理人

追認スベキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ準禁治產者又ハ妻ガ其期間内ニ右ノ同意又ハ許可ヲ得タル通知ヲ發セザルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス
 第二十條 無能力者ガ能力者タルコトヲ信ゼシムル爲メ詐術ヲ用ヒタルトキハ其行爲ヲ取消スコトヲ得ズ
 第四章 法律行爲 第二節 意思表示
 第九十五條 意思表示ハ法律行爲ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無効トス但シ表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意者自ラ其無効ヲ主張スルコトヲ得ズ
 第九十八條 意思表示ノ相手方之ヲ受ケタルトキニ未成年者又ハ禁治產者ナリシトキハ其意思表示ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ズ但其法定代理人ガ之ヲ知リタル後ハ此限ニアラズ
 第三節 代理
 第一百條 意思表示ノ效力ガ意思ノ欠缺詐欺強迫又ハ或事情ヲ知リタルコト若シクハ之ヲ知ラザル過失アリタルニ因リテ影響ヲ受クベキ場合ニ於テ其事實ノ有無ハ代理人ニ就キ之ヲ定ム
 特定ノ法律行爲ヲナスコトヲ委託セラレタル場合ニ於テ代理人ガ本人ノ指圖ニ從ヒ其行爲ヲ爲シアルトキハ其自ラ知リタル事情ニ就キ代理人ノ不知ヲ主張スルコトヲ得ズ其過失ニヨリテ知ラザリシ事情ニ就キテモ亦同シ第百二條代理人ハ能力者タルコトヲ要セズ
 第一百一條 代理權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス
 一 本人ノ死亡
 二 代理人ノ死亡禁治產又ハ破產
 此他委任ニ因ル代理權ハ委任ノ終了ニ因リテ消滅ス
 第四節 無効及ヒ取消
 應用精神病學ニ關スル診斷學

第二百十條 取消シ得ベキ行爲ハ無能力者若シクハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者其代理人又ハ承繼人ニ限リ之ヲ取消スコトヲ得

第二百十一條 取消シタル行爲ハ初メヨリ無効ナリシモノト看做ス但無能力者ハ其行爲ニヨリテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ償還ノ義務ヲ負フ

第二百十二條 取消シ得ベキ行爲ハ第二百十條ニ掲ゲタル者ガ之ガ追認シタルトキハ初メヨリ有效ナリシモノト看做ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得

第二百十四條 追認ハ取消ノ原因タル情況ノ止ミタル後チ之ヲ爲スニアラザレバ其效ナシ 禁治産者ガ能力ヲ回復シタル後チ其行爲ヲ了知シタルトキハ其了知シタル後ニ非ラザレバ追認ヲ爲スコトヲ得ズ

前二項ノ規定ハ夫又ハ法定代理人ガ追認ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セズ

第六章 時効 第一節 總則

第五十八條 時効ノ期間滿了前六箇月内ニ於テ未成年者又ハ禁治産者ガ法定代理人ヲ有セザリシトキハ其者ガ能力者トナリ又ハ法定代理人ガ就職シタル時ヨリ六箇月内ハ之ニ對シテ時効完成セズ

第五十九條 無能力者ガ其財産ヲ管理スル父母又ハ後見人ニ對シテ有スル權利ニ就テハ其者ガ能力者トナリ又ハ後任ノ法定代理人ガ就職シタル時ヨリ六箇月内ハ時効完成セズ 妻ガ夫ニ對シテ有スル權利ニ就テハ婚姻解消ノ時ヨリ六箇月内亦同ジ

第三編 債權 第三節 多數當事者ノ債權 第三款 連帶債務

第四十三條 連帶債務者ノ一人ニ付キ法律行爲ノ無効又ハ取消ノ原因存スル爲メ他ノ債務者ノ債務ノ效力ヲ妨グルコトナシ

第四款 保證債務

第四十九條 無能力ニ因リテ取消スコトヲ得ベキ債務ヲ保證シタル者ガ契約ノ當時其取消原因ヲ知リタルトキハ主タル債務ノ不履行又ハ其債務ノ取消ノ場合ニ付キ同一ノ目的ヲ有スル獨立ノ債務ヲ負擔シタルモノト推定ス

第二章 契約 第十節 委任

第六十三條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス受任者ガ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同ジ

第十二節 組合

第六十九條 前條ニ掲ゲタル場合ノホカ組合員ハ左ノ事由ニ由リ脱退ス

- 一 死亡
- 二 破産
- 三 禁治産者
- 四 除名

第五章 不法行爲

第七十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタルモノハ賠償ノ責ニ任セズ但シ故意又ハ過失ニヨリテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニアラズ

第七十四條 前二條ノ規定ニ因リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督ス可キ法定ノ義務アル者ハ其能力者ガ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ。但シ監督義務者ガ其義務ヲ怠ラザリシトキハ此限ニアラズ

監督義務者ニ代リテ無能力者ヲ監督スルモノモ亦前項ノ責ニ任ズ

第四編 親族 第二章 戸主及び家族 第三節 戸主權ノ喪失

戸主權

第七百五十六條 無能力者が隱居ヲナスニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セズ

婚姻

第三章 婚姻 第一節 婚姻ノ要件 第一款 婚姻ノ要件
第七百七十四條 禁治産者ガ婚姻ヲナスニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セズ

嫡出子

第四章 親子 第一節 實子 第一款 嫡出子
第八百二十五條 否認ノ訴ハ夫ガ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第八百二十六條 夫ガ未成年者ナルトキハ前條ノ期間ハ其成年ニ達シタルトキヨリ之ヲ起算ス。但シ夫ガ成年ニ達シタル後チニ子ノ出生ヲ知リタルトキハ此限ニアラズ
夫ガ禁治産者ナル時ハ前條ノ期間ハ禁治産ノ取消アリタル後チ夫ガ子ノ出生ヲ知リタルトキヨリ之ヲ起算ス

第二款 庶子及ビ私生子

庶子及ビ私生兒

第八百二十八條 私生子ノ認知ヲナスニハ父又ハ母ガ無能力者ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セズ

養子

第二節 養子 第一款 縁組ノ要件
第八百四十七條 第七百七十四條及ビ第七百七十五條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス

離縁

第四款 離縁
第八百六十四條 第七百七十四條及ビ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離縁ニ之ヲ準用ス

後見

第六章 後見 第一節 後見ノ開始
第九百條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス
一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フモノナキトキ又ハ親權ヲ行フ者ガ管理權ヲ有セザルトキ
二 禁治産ノ宣告アリタルトキ

後見人

第二節 後見ノ機關 第一款 後見人
第九百二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治産者ノ後見人ト爲ル
妻ガ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人ト爲ル夫ガ後見人タラザルトキハ前項ノ規定ニ依ル

夫ガ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル妻ガ後見人タラザルトキ又ハ夫ガ未成年者ナルトキハ第一項ノ規定ニ依ル

第九百七條 後見人ハ婦女ヲ除クノ外左ノ事由アルニアラザレバ其任務ヲ辭スルコトヲ得ズ
四 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト但配偶者其系血及ビ戸主ハ此限ニアラズ

第九百八條 左ニ掲ゲタルモノハ後見人タルコトヲ得ズ
一 未成年者

二 禁治産者及ビ準禁治産者

第九百九條 前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

保佐人又ハ其代表スル者ト準禁治産者トノ利益相反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

第三節 後見ノ義務

第九百二十二條 禁治産者ノ後見人ハ禁治産者ノ資力ニ應ジテ其療養看護ヲカムルコトヲ要ス

禁治産者ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム

第五編 相續 第一章 家督相續 第二節 家督相續人

應用精神病学ニ關スル診斷學

第九百七十五條 法定ノ推定家督相續人ニ付キ此ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニヨリ家政ヲ執ルニ堪ヘザルベキコト

四 浪費者トシテ準禁治産ノ宣ヲ受ケ改悛ノ望ミナキコト

第九百七十七條 推定家督相續人ノ廢除ノ原因止ミタルトキハ被相續人又ハ推定家督相續人ハ廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第二項略

前二項ノ規定ハ相續開始ノ後ハ之ヲ適用セズ

第三章 相續 承認及ビ拋棄 第一節 總則

第一千九條 相續人が無能力者ナル時ハ第一千七十七條第一項ノ期間相續ノ承認又ハ拋棄ノ三箇月ハ其法定代理人ガ無能力者ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六章 遺言 第一節 總則

第一千六十一條 滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

第一千六十二條 第四條第九條第十二條第十四條ノ規定ハ遺言ニハ之ヲ適用セズ

第一千六十三條 遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス

第二節 遺言ノ方式 第一款 普通方式

第一千七十三條 禁治産者ガ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會アルコトヲ要ス

遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者ガ遺言ヲナス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニアラザリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス但秘密證書ニ依リテ遺言ヲナス場合ニ於テハ

其封紙ニ右ノ記載及ビ署名捺印ヲ爲スコトヲ要ス

第一千七十四條ニ掲ゲタル者ハ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ズ

一 未成年者

二 禁治産者及ビ準禁治産者

第二款 特別方式

第一千八十四條……………及ビ第一千七十三條……………第一千七十四條ノ規定ハ前八條普通遺言方式ニヨルコトヲ得ザル特別ノ場合ノ規定ニヨル遺言ニ之ヲ準用ス

第四節 遺言ノ執行

第一千百十一條 無能力者及ビ破産者ハ遺言執行者タルコトヲ得ズ

刑法

第一編 總則 第七章 犯罪ノ不成立及刑ノ減免

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條 瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條 十四歳ニ滿タザル者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ

第二編 罪 第二十二章 猥褻及ビ重婚ノ罪

第一百七十九條 人ノ心神喪失若クハ拒抗不能ニ乘ジ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ拒抗不能ナラシメ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同ジ

第三十六章 窃盜及ヒ強盜ノ罪

第二百四十條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ズ

應用精神病学ニ關スル診斷學

第三十七章 詐欺及ビ恐喝ノ罪

第二百四十九條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財產上不法ノ利益ヲ得若シクハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

第二章 精神病ニ關シ鑑定ヲ命ゼラルル事項ノ大要

竝ビニ心神喪失ト心神耗弱ナル字義ニ就テ

一般ニ精神病學ノ應用ナル名目ノ内ニ入ルベキ項目ノ頗ル多キ事ハ前章ニ記セルガ如シト雖モ其ノ多數ハ實地臨床醫家ガ日常接渉スル所ノモノニアラズ普通醫家ノ最モ直接關係アルトコロノモノハ法規ノ關係ニシテ就中前掲刑法第三十九條ノ「心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ。心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ輕減ス」トアル事項責任能力ト民法第七條及ビ第十二條ノ自己ノ財產ヲ危險ナク管理處分シ得ル能力ヲ有スルヤ否ヤノ處分能力即チ禁治產準禁治產宣告申立事件竝ビニ第十條及ビ第十三條ノ處分能力ナキ爲メニ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルモノガ其ノ能力ノ快復シタルヤ否ヤノ禁治產準禁治產宣告取消申立事件及ビ同第七百十三條心神喪失ニ基キ他人ニ加ヘタル不法行爲事件ニ關セル事項損害賠償結婚其ノ他ノ縁組ノ時ニ完全ナル意思表示ヲ爲シ得タルヤ否ヤ又裁判所ノ訊問ヲ繼續シ得ルニ足ル精神狀態ナルヤ否ヤ又訴訟ヲ提起スルノ能力證人タルコトヲ得ルノ能力等ニ基キ法官ヨリ鑑定ヲ命ゼラルル事柄

禁治產

後見人

準禁治產

保佐人

等其ノ主ナルモノナリ。而シテ之等鑑定ヲ爲スベク命ゼラルル時ニハ故ナクシテ其鑑定ヲ拒ムコト能ハズ爲メニ精神病學專家ハ勿論普通醫師ニテモ其等鑑定ヲ命ゼラレタル際執ルベキ方針ニツキテハ豫メ熟知スルコトヲ要スルモノナリ。

凡ソ民法上ニ於テ裁判所ハ民法ガ規定セル處ノモノヨリ請求アル時ハ某人ガ心神喪失ノ常況ニアルモノナリヤ否ヤヲ鑑定セシメ若シ然カルモノトセバ之レヲ禁治產トナシ財產上ニ關スル一切ノ行爲ヲナス權能ヲ奪フニ至ルモノトス。而シテ又法律ニヨリ其ノ人ニ代ルベキ後見人ヲ定メ其ノ後見人ガ治產ノ事ヲ全部取り計フモノナリ。而シテ禁治產ヲ宣告セラレタル心神喪失者ト禁治產者タラザル心神喪失者ノ財產上及ビ身分上ニ關スル法律行爲ハ其ノ結果ニ於テ效力ナキ事同一ナリト雖モ其ノ相違スベキ點ハ禁治產ガ爲シタル法律行爲ハ法律ガ常ニ不完全ナル事ヲ認定シ居ルヲ以テ其ノ行爲ノ當時心神ノ喪失シアリタルトノ證據ヲ要セズシテ後日不利益ナル事項ハ之レヲ取消ス事ヲ得。然カルニ禁治產者ニアラザル心神喪失者ガ爲シタル法律行爲ハ之レヲ無効トナシ其ノ法律行爲ヲ消滅セシメントスルニハ其ノ行爲ノ當時精神錯亂シ居リタル事ヲ立證セザルベカラザルナリ。

然モ若シ其ノ鑑定ノ結果某人ハ心神喪失者ナラズシテ心神耗弱者ナル場合ニハ之レ全然治產ノ能力ヲ奪ハズシテ之レニ一定ノ制限ヲ與フルモノトス準禁治產者即チ是ナリ。此ノ時ニハ其ノ一般法律行爲ヲ代理スベキ後見人ノ生ズル代リニ保佐人ナ

ルモノ生ジ、準禁治產者ガ(一)元金領收、資産全部ノ利用、(二)借財、保證、(三)不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利得喪ヲ目的トスル行爲、(四)訴訟、(五)贈與、和解、仲裁、契約、(六)相續ノ承認、又ハ拋棄、(七)贈與若クハ遺贈ノ拒絶、又ハ負擔附ノ贈與又ハ贈遺ノ受諾、(八)新築、改築、又ハ大修繕、(九)或期間以上ノ貸貸借、(十)其他裁判所ガ附加シタル行爲等ヲ爲サントスル場合ニ於テ之レニ同意ヲ與フル機關トナリ、準禁治產者ガ保佐人ノ同意ヲ得ズシテ此等ノ法律行爲ヲナシタルトキハ之レヲ取消シ得ルモノトナルナリ。

而シテ民法上ニ於ケル心神喪失ノ常況テフ文字ノ意義ハ單ニ無意識ナルモノト考フベキモノニアラズ、法律ノ要求スル眞意ハ自己ノ財産ヲ管理處分スル能力ナキ程度ノモノヲ云フニアリ、即チ斯ルモノヲシテ其ノ財産ヲ管理處分セシムルハ危險ニ陥キルベシト云フ事ガ心神喪失者ナリヤ否ヤノ標準トナルベキモノナリ、故ニ抽象的ニ觀察スル時ハ同一ノ精神狀態ニ於テモ饒富ニシテ大ナル資産ヲ有スルモノト輕微ナル家産ヲ所有スルモノトハ其ノ財産管理ニ要スル能力ニ逕庭アルヲ以テ從ガツテ心神喪失者ト云ヘル文字ノ適用モ其ノ人ト事情トニ因リテ多少其ノ狀況ヲ異ニスル場合アルベシ、然カモ之レヲ一般ニ云フ時ハ自家意識ノ損傷、觀念聯合作用ノ健全ナラザルモノ、即チ智力ノ充分ナラザルモノ、一般記憶力ノ著シク正確ナラザルモノ、健全ナル判斷力ノ甚ダ犯サレタルモノ、妄想、妄覺、偏曲シタル感動、意思作用ニ依リ感想ヲ誤リ易キモノ等ハ心神喪失者ナル判定ヲ爲スコトヲ得ベク、即チ生來往癡呆、白癡、重症癡

愚後天性癡呆、老老性癡呆、中酒性癡呆、麻痺性癡呆、早發性癡呆、器質病ノ著明ナルモノ等ハ勿論、其ノ他癲癇、ひすてり、ノ、朦朧狀態等之レニ屬シ、輕度ノ癡愚變質者、低能者ナドハ其ノ度ト境遇トニ應ジテ心神耗弱者ナル部ニ入ルベキモノナリ。

而シテ如何ナル智力ノ缺損程度ヨリノ者ガ心神耗弱者ニ入り、如何ナル缺損程度以上ノモノガ心神喪失者トナルヤノ問題ニ對シテハ其ノ寸尺ヲ定ムベキ精密ナル尺度ナク、又斯カル尺度ハ存在スルモノニアラズ、畢竟スルニ心神耗弱ナルモノハ聾者、啞者、盲者、浪費者ト、民法上同一視セラルモノニシテ、準禁治產者トセラレタル場合ニハ其ノ結果トシテ彼ノ意思ノ如クニ行ヒ得ル範圍ガ彼ノ財産ニ對シ危險ナラズヤ否ヤノ結果ヲ講究シ、各例ニ就キ他ノ標準ト比較シテ法律ノ精神ノアル所ヲ考ヘテ判斷スル事最モ必要ニシテ他ニ又方法ナキモノトス、殊ニ妄想ノ著明ナルモ他ニ病的症狀著シカザルモノニ對スル治產ノ能力ハ諸學者間ニ其ノ意見一致セザルトコロアリ、宜シク各例慎重ノ態度ヲ以テ之レヲ定ムベキトコロノモノナリ。

又刑法ニ於テハ心神喪失者ノ行爲ハ之レヲ罰セズト云ヒ、心神耗弱者ノ行爲ハ其ノ刑ヲ輕減スト規定セラレタリ、裁判官ハ精神病其ノ他ノ理由ヨリ犯人ガ犯罪當時心神喪失者ナリヤ又ハ耗弱者ナリシヤヲ鑑定セシムルコトアリ。

而シテ民法上ニ於ケル心神喪失ナル語ヲ又心神即チ精神ト解シ、喪失即チ消滅、或ハ皆無ト解スル時ハ心神喪失者ト謂ヘバ精神無キモノ、即チ無意識ナルモノト理解スベ

キモノナリ。然カレドモ立法者ガ用ヒタル心神喪失ナル語ノウチニハ無意識者ハ勿論其ノ包含スル處ノ一部トナルベシト雖モ、單ニ之レノミニ限定セララルモノニアラザル事ハ十四歳以下ノモノノ行爲ハ之レヲ罰セズト規定スル主意ヨリ考フルモ明カナリ。蓋シ縱令十四以下ノモノト雖モ彼ハ自由ニ日常ノ自用ヲ便ジ、意識明清理解判斷ニ相當ノ能力ヲ具有シ、全ク無意識ノ状態ニアラザレバナリ。

又舊刑法ニ於テハ犯罪行爲ヲ目シテ刑ノ標準ヲ立テ、即チ罪ヲ犯カセル時是非ノ辨別ナカリシヤ否ヤヲ以テ刑ヲ定ムルノ目標トナシ、新刑法ハ其ノ人格ニ重キヲ措キテ心神喪失者ノ行爲ハ即チ心神喪失セルモノノ行爲トシテ不論罪トスベシトノ意氣ヲ示ス。而シテ此ノ說ノウチニモ精神病者ハ即チ心神喪失者トシテ精神病者ノ行爲ハ凡テ問責セザルヲ正シトスルノ意見アリ。此ノ思想ニ從ヘバ醫家ハ精神病者ナリト鑑定スレバ事足り頗ル事態ノ簡易ナルモノタルモ而カモ此ノ說ニハ尙同意セラレザル點アリ。即チ精神病者中ニモ二通りノ階級ヲ設ケ、一ハ心神喪失者トシ他ハ心神耗弱者トスベキモノトナシ又同ジク精神病者ナリトモ其ノ犯罪ノ動機並ビニ其ノ當時ノ精神状態ガ其ノ疾病ニ關係アルヤ否ヤ、又其ノ病的状態ノ程度如何ニヨリ之レヲ區別シ其ノ輕キモノニ於テハ其ノ責任能力ヲ全然放棄セザルヲ可トスルノ學者アリ。從ツテ學理上ニ於テハ理由ナキトコロナルモ、實際上少ナクモ現今我國ノ法曹家ニ對シテハ單ニ某人ハ精神病者ナリト云フ事ヲ以テ足レリトセズ宜シク其ノ犯罪的行爲

心神喪失者

ト其ノ病的症狀トノ關係ヲ追究スルノ要アルガ如シ。而シテ余ハ後者學說ヲ採ル場合ニ如何ナル行爲ガ法律ノ所謂心神喪失ナル名稱ニ相當スルモノナルヤ、從ツテ其ノ犯罪ノ瞬間ニ於テ其ノモノハ心神喪失者ナリシカノ箇狀ヲ列舉シ、之レニヨリ鑑定ヲ命ゼラレタル各個ノ場合ニ比較推察スルノ便ヲ與ヘムト欲ス。

一、即チ犯罪當時心神喪失者ニ屬スベキモノトシテハ

一、意識ヲ全ク失ヘル時ノ行爲。例ヘバ模型的癲癇性又ハ、ひすてり、性、癡、癡、發、作、又ハ深キ、く、ろ、ろ、ふ、る、む、麻、醉、ノ、時、或ハ甚哉ナル、酪、酩、ノ、時、等、ノ、如、シ。然カレドモ斯カル場合ニハ精神作用全ク無ク、從ツテ複雑ナル身體的動作ヲ缺キ、犯罪トナルベキ動作ヲ來ス事極メテ尠ナケレバ此等ノ場合ニ應ズル鑑定ハ極メテ稀ナルモノトス。

二、之レニ反シ全精神作用中一部ノ缺損殊ニ其ノウチ最高等ニテ且複雑ナル精神機能ノ缺損セル場合、即チ意識溷濁ノ場合例之癲癇又ハ、ひすてり、一患者ノ精神の發作、即チ朦朧状態ノ時又ハ譫妄状態ノ時又ハ酒客譫妄莫比、こかいん、くろろ、ほむ、或ハ藥品中毒ノ爲メニ來タル意識溷濁熱性譫妄傳染病性精神病ノ時ニ來ル意識溷濁及ビ出產時ノ一時性精神障礙ノ意識溷濁ヲ呈セル場合等ニシテ殊ニ是等ノ時ニハ單ニ意識ノ溷濁セルノ外概ネ尙妄覺妄想又ハ興奮ヲ伴ヒ、而カモ案外複雑セル行爲ヲ爲シ、他ノ人ニ危害ヲ與ヘ、或ハ風俗壞亂的行爲ヲ行ヒ、或ハ殺人窃盜放火途上徘徊

上位、下位意識

猥褻罪等ノ舉動ヲ敢テスルモノアリ。殊ニひすてりー者ノ朦朧狀態ノ時ニハ意識渾濁スルニモ關ハラズ其ノ行爲ハ外見上秩序アルガ如クニ見ユルコト多シトス。此一部意識喪失即チ意識渾濁ノコトヲ理解シ易キヤウニ説ク多クノ説明法アリ。其ノ一ハ一部精神ノ缺損セルモノニハタトヘ其ノ精神ニ缺クルトコロアルモ日常練習シテ何ノ考ヘモナク行ヒ得ル動作或ハ深キ考ヘモ無クシテ殆ンド反射的ニ行ヒ得ル動作ハ自動的又ハ衝動的ニ其ノ下位ニ位スル一部分ノ精神活動ノミニ因リ動作シ得ルモノナリ。例ヘバ讀書ニ熱中セル時ニ傍ヨリ話シカケラレバ其ノ讀書シツツアルニモ關ラズ簡單ナル問ヒニ返答ヲナス事アリ而カモ其ノ後其ノ答ヲナセシ事ハ全ク追想スル事能ハズ又ハ其ノ答ノ豫テノ考ヘト全ク矛盾セルニ氣附ク事アリ。又圍碁ニ熱セル人ガ往々傍人ヨリ用談ヲ受ケ自己ノ心ニモナキ事ヲ答ヘテ後チ之レヲ悔ユルナドノ事ハ日常人ノ知ル例トス。斯ノ事實ヲ假リテ凡ソ人ニハ上位意識 Oberes Bewusstsein ト下位意識 Unteres Bewusstsein トニアリト云ヒ以上二例ノ場合ニ於テハ讀書又ハ圍碁ニ傾注セル精神ハ即チ上位意識ニシテ他ノ質問ニ答フルガ如キハ下位意識ノ働キナリトシ人ニハ二箇意識ガ同時ニ存在スルモノナリト説明シ其ノ上位ニ位スベキ意識内容ガ消滅シ又ハ縱令存在スルトモ活動シ來ラザルトキハ下位意識ノ精神機轉ノミニテ働クニ至ル。然カル時ノ所業ハ所謂心神喪失ノ狀態中ニアル時ノ所業ト認ムベキモノニテ而カモ此ノ下位意識ノミ

自家意識

ノ存在ヨリ來ル所業トテ必ズシモ常ニ無意味ナル單純ナル反射的動作ノミナラズ、時ニ複雑ナル動作ヲモ爲シ得ル事アルヲ以テ斯カル時ニハ刑法上ニ問ハルベキ所業ヲナスモノ頗ル多シトス。勿論斯カル二箇以上ノ意識ガ常ニ同時ニ存在シ、時ニ其ノ一ヲ缺クベシトノ説明法ハ現今多ク用ヒラレザル所ノ考ヘニシテコハ只意識完全ナラザル一部意識ノ渾濁セルモノト理解スベキモノナレドモ、理解ニ容易ナル説明法ナルヲ以テ暫ク此説ヲ掲グ。

又自家意識ナル名稱アリ。即チ之ハ人間生レテ一定ノ年齢ニ達スル時ハ茲ニ精神ハ一定ノ發達ヲ遂グ多クノ經驗ヨリ自他ノ別、竝ビニ時ト場所トノ認識ヲ得自己ノ舉動ガ自己現在ノ境遇竝ビニ自己現在ノ希望ニ適合シ居ルヤ否ヤノ識別ヲ有スルニ至ルモノニテ、此ノ能力存在ヲ自家意識ノ存在ト名ク。而シテ心神喪失者ハ普通意識ハ存在スルモ此自家意識ノ存在セザルモノト解釋スル人アリ(ゾムメル、メンデル等)。

三、又縱令意識ノ渾濁ナクトモ、(一)精神疾病ノ爲メニ行爲實行ノ動機ガ異常ニ強ク他ノ抑制ヲ待タザル内ニ既ニ行爲トナルモノ、(二)其ノ行爲ヲ抑制スル力主トシテ感情ノ制御力ニ異常アル時、(三)健者ガ或刺戟ニ對シテ反應的ニ動作スル時ニハ、殊ニ其ノ所業ノ未知又ハ慣レザル重大ナル事ナル時ハ必ズ熟慮ナル機轉ヲ以テ其ノ行爲ノ爲不爲ヲ計ルモノナリ。然カルニ此熟慮ナル機轉ヲ病的ニ全然缺ク事アリ。此三

者ノ場合ハ其ニ心神喪失者ノ行爲ト認ムル事ヲ得ベシ。
 而シテ第一種ニ屬スベキモノハ病的觀念ノ強度頗ル強キモノニシテ衝動性動作
 ニ因ル行爲ノ如キ又ハ妄想妄覺ニ因ル行爲ノ如キ苦悶ニ因ル行爲ノ如キ又ハ烈シ
 キ病的性慾ニ因リ暴發セル行爲ノ如キ等ニシテ即チ衝動行爲、症、躁鬱病、早發性癡呆、
 麻痺性癡呆、めらんこりー、偏執病、好訴病者ノ衝動行爲、妄想或ハ妄覺ノ爲メニ爲セル
 犯罪行爲、就中めらんこりーノ苦悶、暴動、發作ノ爲メニ爲セル犯罪行爲、興奮性癲癇、酒
 客、譫妄者等ノ苦悶ノ爲メニ爲セル行爲等ノ如キモノ即チ之ナリ。又躁揚病、白癡、早
 發性癡呆、癲癇等ノ烈シキ性慾ノ爲メニ風俗壞亂症、或ハ他ノ犯罪行爲ヲ爲スモノモ
 亦此種ニ屬ス。

第二種ニ屬スベキモノ即チ不慮行爲ヲ制止、又ハ反抗スル制取力ノ發育惡シキカ、
 又ハ缺損セルモノハ強迫觀念性精神病、白癡、癡愚、悖德病、後天性癡呆、殊ニ麻痺性癡呆、
 早發性癡呆、中酒性癡呆、老耆性癡呆者等ノ風俗壞亂、竊盜、暴行等之ニ屬ス。而シテ斯
 カル際ニハ往々智力ノ程度ハ比較的佳良ニシテ是非ノ辨別アルニモ關ハラズ犯罪
 行爲ヲナス事アリ。之レ全ク智力判斷力ノ缺損ハナキモ之レヲ制取スベキ感情ノ
 發動不充分ナルガ爲メニ來タルモノナリ。

第三種 即チ熟慮ヲ缺クモノハ生來性精神發育足ラザルモノ、後天性癡呆者ヲ初
 メ、躁鬱病ノ輕度ナル躁揚病、意識混濁ヲ伴ヘル精神發作以外ノひすてりー、及ビ癲癇

者、變質者等ノ甚重症ナルモノ等之ニ屬ス。

刑法上又心神耗弱者ト名ヅクル事ヲ得ベキモノハ(一)輕度生來性精神病の發育不良
 ナルモノ、即チ重症魯鈍者、輕症癡愚者、(二)神經症、Neurosis患者ニシテ中等度ノ精神障礙
 ヲ有スルモノ、(三)精神病者ト健者トノ中間ニ位スベキ變質者等ヲ名ク可キモノニシ
 テ、而カモ其ノ犯罪當時稍重キ病的症狀ヲ有スルモノニ限ルモノトス。

而シテ民法上ニ於ケル「心神喪失」ノ常況ニ在ルモノ「云々」ト刑法上ニ於ケル「心神喪失」云々トノ
 兩語ハ全然同一視シテ解釋スベカラザルモノナリ。蓋シ其ノ差異ノ生ズルハ此等法律ガ各其
 ノ成立シ居ル立脚地ヲ異ニシ刑法ハ國家刑罰權ノ執行ヲ目的トシ民法ノ主タル目的ハ個人ノ
 保護ニ存在スルヲ以テナリ。又民法ニ所謂心神喪失ノ常況ニ在ルモノトハ其ノ狀態ガ將來多
 少繼續スベキモノト推定スル事ヲ得ルヲ以テ足レリトスルモノニテ其ノ狀態ノ持續ガ短期タ
 ルト長期タルト、又其ノ病症ノ可治ナルト不可治ナルト、何等酌量ヲ要セザルモノナリ。刑法ニ
 於テハ之レニ反シ寧ろ過去ノ精神狀態ヲ觀察スルコトヲ主トシ、犯行當時犯人ガ心神ヲ喪失シ
 居リテ爲シタル行爲ナルヤ否ヤヲ鑑定スベキモノナリ。故ニ縱令鑑定當時ニ於テハ既ニ其ノ
 病的狀態ヲ認メ得ズトスルモ犯罪當時ニ於テ心神ヲ喪失セル確證ヲ得ル時ハ其ノ責任ヲ問ハ
 ザルモノナリ。

又民法上ニ於テ一時性ノ極メテ短時間ノ心神喪失ニ關シテハ其ノ多クノ場合ニ其ノ狀態ガ
 常況ニ在ルモノト云フ事ヲ得ザルベキニ因リ禁治產ノ宣告ヲナスベキモノニアラザルナレド
 モ刑法上ニ於テハ之レニ反シ既述セルガ如ク病的ニアラザル短時間ノ一時性ノ精神障礙ト云
 ヘドモ其レヨリ生ジタル行爲ハ全然責任ナキモノトセラル。之レ亦注意スベキ事ナリ。

場合ヲ示シタルニ過ギズシテ民法又刑法ニ於テモ立法ノ主意ヨリ考フル時ハ老衰ノ餘リ生理的ニ精神作用ノ充分ナラザル者等モ亦之ニ屬ス可キモノト爲サザルベカラズ。

責任能力

責任能力 *Zurechnungsfähigkeit* ナル文字ハ本來ハ物ヲ數ヘ込ム能力ト云フ意義ニシテ、即チ法官ガ或者ヲ罪人ノ内ヘ數ヘ込ム能力ト云フ意ニテ法官ノ能力ヲ指示セルモノタリシガ、後チ犯罪者ガ犯人中ニ數ヘ込マルト云フ意ニ變ジ、更ニ轉ジテ**責任能力** *antwortheit* ナル字ト混ゼラルルニ至レルモノナリトノ説アリ(ゾムメル氏)。而シテ

理性
自由ナル意思

其ノ文字ノ正確ナル科學的意義ハ刑法學者間ニモ多ク區々タル意見アルモノニシテ現今尙統一セザルヤノ觀アリ。而シテ之レヲ既往ニ溯ルニ所謂舊派ノ學說ハ人生レテ一定ノ年齢ニ達スル時ハ精神病者又ハ、白癡者ヲ除ケル凡テノモノハ各自所謂理性 *Vernunft* ナルモノヲ有シ其ノ理性ニ從ヒテ是非ノ辨別ヲナシ行動スル自由ナル意思 *Willensfreiheit* ヲ有シ其ノ理性及ビ自由ナル意思ニ依ツテ活動スルモノナリ。而カモ健全ナル人ニシテ其ノ理性、自由ナル意思及ビ是非ノ辨別アルニ關ハラズ犯罪行為ヲナスモノハ其ノ行為ニ對スル責任ナルベカラズ、之レ即チ刑罰ヲ受クル所以トセリ。然カシテ白癡者、精神病者ノ罪セラレザルハ其ノ者ノ行為ハ其ノ者ニ理性ナク、又所謂意思ノ自由ヲ缺キ自己ニ是非ノ辨別ナクシテ行ヘルモノナレバ、其ノ者ノ行為ハ其ノ實其ノ者ノ爲セル行為ト認ムル事ヲ得ズ即チ其ノ犯罪者ノ犯罪的行為ハ犯意無キニ因リ犯罪ハ成立セズ、從ツテ刑罰セラルベキモノニアラズ(不論罪)ト曰ヒ、斯カルモノヲ責

任能力ナキモノト稱セリ。

刑事政策
刑罰適應症
輕減セル責任能力

然カルニ近來其ノ自由意思ナルモノガ果シテ凡テノ行為ニ存在スルモノナリヤ、又理性是非ノ辨別ノ有無ヲ以テ小兒、精神病者ノ行為ヲ論ズトセバ小兒又ハ或病者ニモ理性是非ノ辨別ヲ有スルモノ少ナカラズ、從ツテ是等ノ理由ヲ以テハ小兒又ハ精神病者ヲ罰セザルノ理由トナスニ足ラザルヲ知ル。又一面ニ犯罪ノ原因、竝ビニ其ノ撲滅策ヲ考フル時ハ刑罰ノ目的ハ何所ニアルヤノ根本問題ヲ考究セザルベカラザルニ至リ、現今ニ及ムデハ其ノ刑事政策上從來信セラレタル報復主義、威嚇主義ハ果シテ當ヲ得タル者ナリヤ否ヤヲ疑ヒ、刑ノ適用ニハ報復主義、變ジテ目的主義、又人格主義トナリ、罪其ノ者ヲ徒ラニ罰シテ人意ヲ安ズルヨリモ其ノ者ヲ社界ヨリ隔離スル方道カニ安寧ナルベキヲ覺リ、從ツテ責任能力ノ思想モ犯罪ノ方面ヨリ考フル代リニ刑罰ノ方面ヨリ考究セラルルニ至リ、其ノ極責任能力ヲ刑罰適應症ト云ヒ、刑罰ヲ行フテ效アルモノニノミ罰ヲ科シ、刑ヲ行フモ何等効ナキモノニハ之レニ刑セズ、即チ無責任トスルモノナリトノ説出ヅルニ至レリ。之レニ依レバ精神病者、幼者、白癡者ノ如キモノハ刑ヲ施スモ何等効ナキヲ以テ無責任トシテ刑セズト云フニアリ。

輕減セル責任能力 *Verminderte Zurechnungsfähigkeit* トハ尙威嚇主義、報復主義ニ基ク舊派ノ考案ヨリ胚胎セルモノニシテ、理性全ク無キモノハ其ノ罪ヲ論ゼザレドモ、苟モ半理性アルモノ、例ヘバ幼年ト成年トノ間ニ位スル中年者、又ハ病者ト健者トノ間ニ位

スル精神薄弱者即チ癡愚者魯鈍者ノ行為ハ半バ責任ヲ有スルモノニシテ半バ刑罰ヲ受クベキモノト考ヘ之等ニ輕減セル責任能力ノ文字ヲ附帶セリ。然カレドモ之レヲ社界防衛主義即チ目的主義ヨリ考フル時ハ批難ナキニアラズ殊ニ精神薄弱者ノ場合ニ於テ然カルモノニシテ斯クノ如キモノヲ普通犯人ニ比シ短期ナル刑期ニ於テ其ノ惡性ヲ俊メシメトスルハ難キモノト思ハザルベカラズ。實ニ斯カル種類ノモノニ對スル刑罰法ハ現今學者間ニ於ケル爭點ニシテ頗ル混淆タルノ狀況ニ在ルモノナリ。蓋シ畢竟スルニ今日ハ尙未ダ目的主義ト威嚇主義乃至報復主義トヲ適當ニ調和セントシテ未ダ其ノ半バニモ達セザルノ時機タルヲ免レザルガ故トス。

今若シ余等ノ希望ヲ言ハシムレバ犯罪者ノ過半数ハ前記セルガ如ク精神病者ニアラザルモ尙少ナクモ世ノ文明ニ連レ生存シ得ベキ素質ヲ有セザルモノ即チ世界ノ水平線下ニ位スルモノカ又ハ感情其ノ他ノ點ニ於テ多少常者ト異ナル性格ヲ有スベキモノナルヲ以テ徒ラニ其ノ行為ヲ罰シ之レニ威嚇法ヲ行フモ何等効ナカルベキヲ信ジ寧ロ彼等ニ與フルニ常職ヲ以テシ生活ニ保護ヲ與ヘ少數ノ自働的犯罪者ヲ嚴シク禁錮スベキヲ以テ當ヲ得タルモノト考フベシクレベリン氏ハ刑期ヲ設ケザルノ説不定期刑 Abschaffung des Strafusses ヲ唱ヘ犯罪ニ對スル懲罰ノ時期ヲ定メズ危險性ノ存スル間其ノ者ヲ社界外ニ隔離スルヲ優レリトセリ。蓋シ同氏ハ精神病学ノ進歩ニ連レ輕症精神異常者ハ益々研究セラレ之レガ爲メ精神病者ト健者トノ區別ハ愈々困難

トナリ延テハ犯罪當時ノ精神状態如何ノミヲ以テ責任能力ノ有無竝ビニ其ノ程度ヲ論ジ刑期ヲトスル事ハ將來永續シ得ベキ學說ナラザル事ヲ信ズレバナリ。

第三章 鑑定書ノ書式及ビ鑑定書調製時ノ注意

「鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其ノ手續結果及ビ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記スベシ」トハ我國ノ法律ニ規定セラレタル事ナレバ鑑定書ヲ作ルニハ此規定ニ則ル事ヲ要ス。若又同一事件ニ付キ數人ノ鑑定人存在シ其ノ得タル鑑定ノ結果各自意見ノ同一ナル場合ニアリテハ一通ノ鑑定書ヲ以テ足レリト雖モ若シ各自其ノ意見ヲ異ニスル場合ニハ各自別々ノ鑑定書ヲ作り又ハ一個ノ鑑定書ナリトモ各自別々ノ意見ヲ記載スベキモノナリ。

又鑑定書ノ記載順序ニ就テハ法律上別ニ要求スル所ナシ。故ニ各事件ノ難易又ハ其ノ鑑定人ノ意見ニ因リ標準一ナラズト雖モ要ハ裁判官ヲシテ了解シ易カラシムルニ注意スルニアリ。普通鑑定書ヲ記スル順序トシテハ法律ノ規定以外ニアリテハ鑑定人ノ自由ナリト雖モ第一ニ鑑定ヲ命ゼラレタル官衙法官ノ姓名ヨリ其ノ理由時日場所ヲ記シ次ギニ鑑定人が被檢者ヲ診査シタル場所時日日數ヲ明記シ第二被檢者ノ一身ニ關スル既往及ビ現在ノ事項第三鑑定人自己ノ診察ニ依リ得タル事項竝ビニ其レヨリ得タル疾病ノ診斷第四説明トシテ診斷ニ基キタル事項ト事實ヲ對照シテ結論

ヲ與ヘ、第五、結論タル鑑定ヲ明記シ、第六、鑑定時間、第七、鑑定書提出ノ月日及ビ記名捺印ヲ以テ終ルベキモノトス。

鑑定文ハ成ルベク平易我國文ヲ以テシ何人ニモ了解シ易カラシメ、成ルベク簡潔明瞭ニシテ不必要ナル點ヲ省キ矛盾ヲ避ケ、曖昧ナル語句ヲ遠ザケ、術語ハ成ルベク之レヲ用ヒズ、已ムヲ得ズンバ其ノ條下ニ説明ヲ附記シ、一意鑑定命令ノ問題ヲ簡潔明瞭、正確ニ記入スル事ヲ務ムベシ。若シ鑑定ノ結果其ノ命令ニ答フル事ヲ得ザル時ハ明白ニ其ノ旨ヲ記シ、又自己ガ推測スル所ヲ明記スルモ妨グナシ。又某ハ心神喪失者ナリヤ否ヤノ問題ニ對シテ鑑定ノ結果其ノ者ガ心神喪失者ニアラザル時ハ其ノ然カラザル旨ヲ記スベキハ勿論ナルモ、若シ其ノ者ニシテ心神耗弱者ナリトセバ其ノ旨ヲ記シ、法官ニ輕減ノ處置ヲ促ス事ハ適當ノ注意ト云フベシ。然カレドモ心神喪失者ノ鑑定ト共ニ監置ノ必要ヲ法官ニ助言スル事、及ビ何法第何條ニ依ル心神何々者ナルヲ以テ何々ニ爲スベキモノナリトノ法文等ヲ記示スルハ外國ノ鑑定例ニハ少ナカラザルモ、コハ醫師ノ範圍ヲ脱シタル行爲トシテ我國ニハ好マレザルナリ。又責任能力心神喪失者ナル文字ハ法律上ノ問題ニシテ、事實上ノ問題ニアラズ。從ツテ鑑定ノ際、某ハ心神喪失者ナリヤ否ヤ云々ノ鑑定命令ハ果シテ適當ナリヤ否ヤノ問題アリ。或一派ノ人ハ法官ハ唯醫師ニ鑑定ヲ命ズルハ自己ガ某ハ心神喪失者ナリヤ否ヤヲ定ムル爲メニ必要ナル事實ヲ提供セシムベキモノニシテ、直接ニ其ノ法律問題ナル心神喪失者ナ

リヤ否ヤヲ定メシムベキモノニアラズ。從ツテ醫師モ亦某ハ精神病者ナリ、又ハ白癡者ナリト曰ヒ得ルモ直チニ某ハ心神喪失者ナリト曰ヒ、又ハ否ラズト曰フハ其ノ當ヲ得ザルモノナリト曰フ。近來漸次法官ノ命令ニ心神喪失ノ文字ヲ減セルハ蓋シ之レニ因ルナラム。余ハ至當ノ事ト考フ。

又刑法上ノ鑑定ニ於テハ犯罪ヲ爲セル時ニ精神ノ異常アリシモノカ、又ハ其ノ後ニ發病セシモノカ、或ハ精神ノ異常ハ犯罪以前ニアリタルモ犯罪當時ニ既ニ無カリシヤ等ノ時間的關係ヲ充分ニ明記シ、同時ニ犯人ガ罹レル精神病ト其ノ犯罪行爲トノ關係ヲ説明スルヲ要ス。

余ハ鑑定書ノ作例ヲ示ス事其ノ説明ヲ舉グルニ數等優レルヲ信ズルガ故ニ、左ニ數多ノ鑑定例ヲ舉ゲムトセシモ本卷餘白既ニ盡キタルヲ以テ僅カニ二三ノ小例ヲ附スルニ止メタリ。他日書ヲ更ヘテ數多ノ鑑定例ヲ公ニスベクレバ之レニツキ讀者ノ一覽ヲ得レバ幸ヒナリ。

附 錄

鑑 定 例

其 一

禁治産申立事件鑑定例 麻痺性癡呆例證

明治三十〇年〇月〇日某區裁判所判事某ヨリ禁治産宣告申立事件ニ關シ齋藤勇太郎ハ心神

鑑定例

喪失ノ狀況ニアルヤ否ヤヲ鑑定ス可キ命ヲ受ケ明治三十〇年〇月〇日ヨリ同年〇月〇日迄十
〇日間ノ間某所ニ於テ〇回診察ノ結果左ノ如キ鑑定ヲ得タリ。

原籍

住所

齋藤 勇太郎

生年月日

既往證

甲 遺傳歴

父母既ニ不明ノ原因ニ因リテ死シ、一名ノ姉目下健在。 勇太郎ニ三子アリ、長女二十二歳、長男
十七歳、末子六歳ニシテ皆健在。

乙 本人歴

胎生時小兒期ニ於ケル疾病ハ不明ナリ。 生來健康ニシテ明治二十七年頃風邪ノ爲メ就褥セ
ル事アリシホカ、病ニ罹レル事ナシト云フ。

十歳ノ頃兩親ニ別レ、叔父母ニ育テラル。 氣質躁急、交際ヲ好ミ、人ニ愧ルルノ風アリ。 明治十
一年根室ニ行キ金貸業ヲ營ミ二箇年ノ後、其ノ得タル利潤ヲ以テ貸座敷業ヲ始メ、爾來其ノ業
ヲ繼續シツツアリ。

教育ハ別ニ受ケタル事ナケレドモ、才智業ヲ拔ク、然カレドモ特ニ秀デタル技能ナシ。

今年六月上旬ヨリ近隣ノモノ「勇太郎さんはおかしくなれり」ト注意スルニ至レリ。 蓋シ彼一
日數回同一ノ家ヲ訪問スル事アリ、而カモ其ノ何故ナルヤ全ク不明ニシテ、縱令所用アリテ來レ
ルモ其ノ所用ヲ果タサズシテ辭シ去レル事屢々之アルテ以テナリ。 次イデ其ノ月中旬ヨリ言

語舉動ニ著ク變調ヲ認メラルルニ至レリ。

七月ニハ金ヲ貸シアル家ニ行キ無暗ニ「今返せ今返せ」ト迫リ、或ハ夜中市中ヲ歩キ廻ルナドノ
事アリ。 殊ニ其ノ言フ所纏ラザル事烈シキヲ以テ藥療ヲ勸ムレドモ勇太郎ハ自ラ精神身體共
ニ壯健ニシテ藥療ノ要ナシトシテ之レニ應ゼズ。 又偶々某醫ノ診ヲ受ケタル事アルモ、服藥ヲ
拒ミ、且其ノ藥液中ニハ毒ノアルアリ、以テ己ヲ毒殺センカト憤レル事アリキ。 爾來現今ニ至ル
迄大差ナシ。

現在證

甲 身體症狀

顔面神經力左
右不同

耳血腫

脈

中等大ノ男子、身體發育年齡ニ相應シ、顔面蒼白、顔貌弛緩シ、力ナク、鼻梁低ク、口大ニ、眉太ク、一見
粗野ノ風アリ。 衣服ヲ纏フニ整然タラズ。 鼻翼ノ兩側ヨリ始マリ唇ノ側方ニ沿フテ下方ニ走
レル左右各一本ノ淺キ溝アリ、之レヲ鼻唇溝ト名ク。 普通人ニハ此鼻唇溝左右殆ンド同一ノ深
サナルヲ例トスレドモ、彼ニアリテハ左右不同ニシテ左側淺シ、之レ彼ノ顔面神經力ノ左右等シ
カラザル事ヲ示スモノナリ。 口ヲ開カシムルニ齒列其ノ大半ヲ失ヒ、舌ハ大ニシテ幅廣ク、萎縮
震顫等ナシ。 舌ヲ出セト命ズルニ彼ハ舌ヲ出サズシテ反ツテ頭ヲ左右ニ振搖セリ、即チ彼ノ理
解力ノ鈍キヲ知ル。 然カレドモ舌ノ運動ニ於テハ全ク障礙ナキヲ認メタリ。

左側耳殼ニハ其ノ中央部ニ小指ノ頭位ノ大サナル腫アリ、之レ耳血腫ト名ケラルモノニシテ、
多クハ營養障礙ニ因ツテ來ルモノナリ。

脈搏七十八、軟、不整、四回目ニ一ノ結代ヲ觸ル。 結代トハ俗ニ脈ノときれト云フモノナリ。

筋肉稍衰へ、皮下脂肪織ニ乏シケレドモ皮膚ノ弾力性普通ナリ。

胸廓胸部器關(心臟肺臟等)ニ異常ナシ、唯左ノ乳線ノ處ニ當リ二三ノ癢痕ヲ認ム、其ノ故ヲ問
フニ彼ハ「らん」何ノ意味ナルカ不明ナリ、柱ニ打チテ破リタル爲メナリ、シカモ其ハ何千年モ前

陰萎

ノ事ナリト答フ。此答ニ依ルモ彼ノ言フ所ノ癡呆のナルヲ會得セラルナル可シ。腹壁ハ中等度ニ膨脹シ、壓スルモ疼痛ヲ訴ヘズ。生殖器ハ形態上ノ異常ナシ。自ラ陰萎ナリト云フ、陰萎トハ陰莖勃起セザルノ謂ニシテ、神經衰弱症、糖尿病又ハ脊髓癆等ノ神經病ニ屢々現ハル症狀ノ一トス。

腹反射亢進

兩側ノ鼠蹊部ニ五六個連結シテ腫脹セル雀卵大ノ淋巴腺アリ、之レニ觸ルルニ固シ。左側大腿内側ニ暗褐色ヲナセル手掌大ノ一帯アリ。之レ數日前自カラ船中ニ在リシト考ヘ盜賊來リ、已ガ所持ノ(假想ノ)二十萬圓ヲ盜ミ去ラムトノ幻想起リ、其ノ盜賊ヲ椅子ヲ以テ逐ハムトシ誤ツテ戸ニ當リ、得タル打撲傷ニ沃度丁幾ヲ塗リタルモノナリト云フ。

瞳孔強直

ハ左右兩側トモ亢進ス。腹壁反射亦缺如ス。眼球ハ不安ニシテ瞳孔ハ左右同ジ大サナルモ、中等度ノ光線即チ冬ノ日中部屋ノ内ニテハ帽針頭大ノ大ナリ、遠キモノヲ見サス時ハ縮少シ、近キ所ヲ見サス時ハ散大ス。即チ調節反應ナルモノアリ。然カレドモ眼ニ光線ヲ送ル時ハ普通人ニ見ルガ如キ瞳孔ノ縮小ヲ致サズ、之レヲ瞳孔ノ強直又ハ瞳孔ノ對光反應ノ缺如ト云ヒ、脊髓ノ或病ナドニ來ル必要ノ症狀トス。又皮膚ニ於テハ痛覺ノ脫失症トシテ針ヲ皮膚ニ烈シク刺スモ痛ミヲ覺エザルノ症狀アリ。然カレドモ觸覺ハ存在シ、彼ニ目ヲ閉ザサシメ、竊カニ彼ノ身體ノ一部ニ觸ルル時彼ハ良ク其ノ位置ヲ指示ス。

痛覺脫失

握力ノ差

ロンベルグ氏
症狀

彼手ヲ以テ余ガ手ヲ握ラシメ、其握力ヲ檢スルニ左手握力ハ右手握力ニ比シ著シク弱シ。又眼ヲ塞ギ、兩足ヲ揃ヘテ直立セシムル時ハ彼ノ全身ハ左右前後ニ動搖シ、靜カニ立チ居ル事難シ、之レヲロンベルグ氏症狀ト名ケ、又必要ナル一病的症狀トス。今又更ラニ彼指尖ヲ以テ彼鼻端ニ當テシメ、又ハ彼一側ノ踵ヲ以テ彼他側ノ膝ニ當テシムル

失調

時ハ其ノ運動極メテ拙ナク、或ハ上ニ、或ハ下ニ行キ、思フ處ニ行カザル事ヲ認ム。而カモ其ノ眼ヲ閉ヂタル時ニ一層著シキヲ見ム。之レ所謂失調又ハ失節ト名クル一病的症狀ナリ。

言語蹉跌症

今若シ彼ニ又ハリト各一音ヅク發音セシムル時ハ彼ハ良ク明瞭ニ發音ス。然カレドモらりるれろト連續シテ發音セシムル時ハらるるれろ、又ハらりれろ、又ハらりるるれろト言葉ノ恰モ蹉キナガラ進ムガ如クニ發音ス。之レヲ言語蹉跌症ト名ク。

手蹠振顫

彼記セル手蹠ハ其ノ文字ニ振ヘアリ、又二三字劃ノ脫失セル所アルヲ認ム。之レ皆或特別ノ疾病ニ來ル必用ナル症狀トス。

乙、精神症狀

指南力喪失

彼ハ現在自己ノ居ル所ヲ明カニセズ、或時ハ船中ニアリト言ヒ、此所ヲ京都ナリト云ヒ、又ハ東京ナリト云ヒテ、自己所在ノ判然何處ナルヤヲ知ラズ。又時日ニ關シテモ周圍ノ狀況ニ就キテモ共ニ正シキ認識ナシ。之レ指南力ノ喪失ト名クル所ノモノニシテ精神病者、又ハ生來ノ白癡者ニ多ク存在スル狀態トス。

人物誤認症

彼ハ余ヲ嘗テ某所ニテ診察ヲ受ケタル米川某ナル醫ナリト誤認ス。精神病者ニハ斯カル事多クシテ之レヲ人物誤認症ト名ケ、或ハ妄想ノ爲メ、或ハ妄想ノ爲メ、或ハ注意散亂ノ爲メ、或ハ記憶ノ減弱ノ爲メニ來ル理解力異常ノ結果トシテ來リ、或ハ一般ノ智力衰弱ノ狀態トシテ現ハルモノトス。而シテ彼ニ此症狀ノ現ハル原因ハ其ノ大半彼ノ智力一般ノ衰弱ニ歸ス可キモ、又其一部ハ注意散亂ニ因ルモノトス。

注意力減退

斯ク彼ニハ注意力減退症ノ存在シ居レバ從ツテ外界ノ刺激ヲ領解スル事精細ナラズ、又腦裡ニ殘ス可キ印象不確實ニシテ、其ノ結果新ラシキ事物ヲ覺エントスルノ能力薄シ。即チ所謂記憶力ナル作用ニ大ナル障礙アリ。余ハ嘗テ暗室ニ伴ヒ彼ノ眼底ヲ檢セル事アリキ、其ノ後二三分ノ後チニ其ノ事ヲ問フニ彼ハ全く其ノ事ヲ覺エズ、又昨夕ノ晚餐ノ菜ノ何ナルヤヲ問フモ既

領解力不真

鑑定例

鑑定例

鑑定例

四九四

記憶力不真

誇大的妄想

ニ之ヲ失念セリト云フハ其ノ例ナリ。斯ク彼ニハ近時ノ事實ニ對スル追想力ノ頗ル悪キノミナラズ。又幼時ニ習得セシ所ノいろは、日本ノ最大都府ノ名稱等ヲスラ既ニ記憶セザルナリ。斯ク彼ニハ其ノ智力ノ貧弱ナルト共ニ又其判斷力モ著シク犯カサルヲ以テ、頗ル簡易ナル計算、即チ暗算ヲスラ行フ事能ハズ。然カシテ彼ハ自カラ自己ヲ日本帝國長官冠鎌足公ナリト自稱シ、且之レヲ確信ス。又彼ハ何億圓ノ財力アルモノト誇大的ニ妄想セリ。其ノ智力ノ淺薄、陋愚ナル概ネ斯クノ如シ。

觀念聯合ニハ其ノ速度ニ於テ大ナル障礙ナキモ其ノ聯絡ノ狀態ニ異常アリ、例之余ガ彼ノ此處ニ來レル理由ヲ問ヒタルニ、彼ハ「齋藤武造次男、吉田くめの子供でござす、此處は西本願寺、東本願寺、日本全國冠鎌足公が持つたんです」ト答ヘ。又他ノ時ニハ「八月になると花盛り、年中花盛り、花盛り花盛り」トドト云ヒ、前者ニハ前後不揃ナル言語配列ヲ示シ、後者ニハ無意味ニ同一ノ句ヲ繰返シ共ニ健全ナル觀念聯絡ト言ヒ難キ狀態ヲ呈ス。

快楽性

彼ハ概ネ快楽性ニ日ヲ送り居ルモ感情ノ發動極メテ變換シ易ク、或時ハ相當ノ理由ナクシテ泣キ、又忽チ笑フ等ノ事アリ。彼ノ舉動ハ多動的ニシテ安靜ナラズ、其ノ行爲ハ概ネ癡呆的ニシテ淺薄ナル觀念内容又ハ誇大的ニ基ケル所ノモノナリ。

反響症狀

彼ニハ又他ニ反響症狀トテ人ノ眞似ヲナス所ノ症狀アリ、即チ彼ノ目前ニテ「天」ト云ヘバ彼ハ「天」ト云ヒ「地」ト云フ時ハ又「地」ト云フ。又彼面前ニテ急ニ手ヲ廻轉シ見スル時ハ彼ハ意義モナク唯其ノ眞似ヲ爲シテ自ラ其ノ手ヲ廻轉ス。之レ彼ガ意思ノ他人ノ意思ニヨリテ非常ニ動カサレ易キ結果トス。

診断及ビ説明

以上列舉セルガ如ク齋藤勇太郎ニハ多クノ病的症狀アリ。即チ感情ノ轉換症、意思ノ薄弱症、著明ナル叡智ノ損害、就中誇大的ニ妄想ト判斷力理解力ノ甚シキ障礙アリ。加之身體上ニハ痛覺脫

治産能力

失、瞳孔強直、言語障礙、失調等ノ諸徴候アリ。之等ヲ綜合シテ考フル時ハ齋藤勇太郎ハ麻痺性癡呆ナル病ニ罹リ居ルモノト診斷セラル。

而カモ其程度頗ル重症ニシテ最早健全ナル判斷ト熱感ヲ缺ケルモノニシテ之レニ加ルニ誇大的ニ妄想アレバ治産ノ能力ヲ失ヘルモノト斷定スルニ難カラズ。

鑑定

依ツテ余ハ鑑定ヲ作ル左ノ如シ。

齋藤勇太郎ハ精神喪失ノ常況ニアルモノトス。
此鑑定ハ明治三十年〇月〇日ヨリ同年〇月〇日ニ至ル〇十日間トス。
明治三十年〇月〇日

住所

鑑定人

姓

名

其二

大正三年〇號第〇〇號禁治産宣告申立事件

山田君造精神狀態鑑定書

余ハ大正〇年四月七日東京市某區某町八番地山田君造方ニ於テ東京區裁判所判事〇〇〇ヨリ山田某ガ申立ニカカル大正〇年〇號第〇〇號山田君造ニ對スル禁治産宣告申立事件ニ關シ左ノ如キ鑑定ヲ命ゼラレタリ。

鑑定事項

東京市某區某町八番地戸主士族

被申立人

山田君造

安政元年八月二十五日生

鑑定例

四九五

右者後天的白癡者ナリヤ、又民法上所謂心神喪失ノ常況ニアリヤ、
依ツテ余ハ先ヅ其ノ近親ノモノニツキ被申立人ノ遺傳歴、本人歴ノ詳細ヲ聽キ糺シ就イテ本
人ノ身體及ビ精神狀態ヲ檢シ此ノ鑑定書ヲ製作セルモノトス。

既往歴

甲、遺傳歴

父三十年前八十四歳ニテ郷里某縣ニテ老病ニテ死ス。生前健康、性質溫篤、酒量少許、酒癖ナク、
微毒ナシ、精神ノ病ナク學ヲ好ム。其ノ同胞三名アリ、兄ヲ松本剛ト云ヒ、弟ヲ松本幾三ト云フ。
剛ハ今ヲ去ル五十年許前國難ニ殉ジテ斃ル、快活ノ風アリ、變人ノ噂ナシ。其ノ子二子アリ、長ヲ
松本虎吉ト云ヒ健ニシテ腦ノ病ナシ。其ノ弟ハ生後直チニ麻疹ニテ死ス。松本幾三八明治二
十四年五十九歳ニテ死ス。大酒ナルノミナラズ酒癖アリ。之レガ爲メ年老ユルマデ家ヲ作ス
ニ至ラズ死スル數年前ニ至リ兄ヨリ財産ヲ分與セラレ辛フジテ一家ヲナスニ至レルモノトス。
父系祖父大酒家ニシテ遂ニ家録ヲ典ジテ酒ヲ飲ムニ至レルヲ以テ家族ノモノ藩主ニ乞ヒ私
ニ違島スルニ至ル終ニ其處ニ死ス。其ノ性行ハ詳カナラズ。其ノ妻ハきよト云ヒ六十年前六
十餘歳ニテ死ス。賢夫人ノ噂アリ、夫ノ島ニ行ケル間、三人ノ子女ヲ養育シテ身ヲ全フス。
父系遺傳中其ノ他ノコトハ不明ナリ。

被告人ノ母ハきよト云ヒ生來虛弱死スル數年前ヨリ半身不隨トナリ四十餘歳肺病ヲ發シテ
死ス。性勝氣ナル所アルモ先ヅ普通ト認ムベク腦病ナシ。

きよノ同胞ハ林民十、山田寅吉、同性敏三、きよ、よし、みわノ順ニシテ林民十八普通ノ人ト認ムベ
ク八十歳以上ノ高齢ヲ保チ四人ノ子アリ。其ウチ一人啞者、生來アリシモ他ニ異レルモノナシ。
寅吉ハ某ト稱シ子ナシ、其性行ハ普ク人ノ知ルトコロナリ。敏三亦普通共ニ子ナシ。よしハ今
尚ホ健在八十何歳ニ達ス。よしニ四人ノ子アリ其ウチ一人強度ノ低能兒アリト云フ。みわハ

今七十歳ニテ生存ス、健在、みわニ子ナシ。

被申立人ニハ弟一名アリ道治ト云フ、三十九歳ノ時臺灣ニテ土匪ニ殺ロサル生前大酒家ナル
ガ健康五人ノ子アリ、ウチ長女ニ癩痢アリ而カモ同人ハ精神發育不良ニシテ目下三十歳以上ニ
達スルモ嫁スルコト能ハズ、其ノ弟ハ山田家ヲ襲ギ妹ハ山田君造ノ養女トナリ申立人ニ配ス。
他ニ一弟アリ、常ニ腦惡シク大學ヲ卒ヘ工學士ナルモ職ニ堪ヘザルノ狀況ニアリ。
之レヲ要スルニ被申立人ノ親近ノモノニ病的異常者少シト云フベカラズ。

乙、本人歴

本人ノ母ノ胎内ニアル頃ハ夫ハ國事ニ奔走シ居リシヲ以テ母ハ頗ル精神ヲ過勞セシコトア
ルハ事實ナリ。而カモ胎生期母ノ病ニ罹カレルコトヲ聞カズ。産期不明ニシテ生ル。間モナ
ク腦ノ病ヲ受ク、當時俗ニ驚風ト云ハレ又蟲ニ閉ヂラルト稱セラレ。蓋シコハ恐ラク痙攣類發
スベキナラムモ而カモ當時ノ詳シキ狀況ハ不明ナリ。爾來七歳マデハ立ツコト能ハズ、歩キ方
智惠附キ共ニ一般ニ頗ル不良ナリ。而已幼少ノ時ヨリ痙攣ク僅カノ事ニ激シ、然カル時ハ手足
ヲ擲チ、物ヲ投ゲ、又自己ノ頭ヲ壁ニ打チツクルコト稀ナラズト云フ。

十二三歳ニ及ビテ明芳塾ニ學ビタルモ物覺頗ル不良ニシテ何事モ覺ヘズ、終ニ廢學ス。十五
六マデ〇〇ニアリ當時知ラザル家ニ上リ其ノ家ノ神棚ノ所在ヲ問ヘル等ノ奇行アリ、郷土彼ヲ
目スルニ異常兒童ヲ以テセリ。十九歳ノ時婚ス、交情良好ナルモ色情ニ關スル異常ヲ聞カズ。
子ナシ。社界的ニ友人一人モナク職業ナシ。嗜好トシテ只酒ヲ好ム。酒ノ上惡シカラズ、其量
亦一日二三合許。

斯クテ事ナク年ヲ積ムモ爾來精神發育不良ノ度變ルコトナクシテ近日ニ至ル。サレバ其長
子ナルニ關ハラズ、實家ヲ襲ガズシテ山田ノ姓ヲ名乗ルモノナリ。蓋シ山田家ハ實父ノ實家ノ
姓トス。本人ハ年老ユルニ從ヒ痙ノ起ルコト減ジ、近來ニ至リ立腹セルコト殆ンドナク痙攣モ

更ニ覺ヘザルニ至レルモ常人ト異ナリ。毎日家居シ一室ニ端座シ無爲ニ其ノ日ヲ暮ラシ晝ト晩ニ酒ヲ用フルヲ無上ノ樂ミトシ。又線香ノ香ヲ好ミ妻ノ死セル時モ其ノ線香ノ薫ルヲ樂メルモノナリシト云フ。又數年前マデハ葬式ヲ見テ樂シミトセシガタメ家ニアリテモ何時カ外出シ青山ニ至リテ葬列ヲ見テ樂シメルコトアリト云ハル。又食物ハ凡テ丸呑ミニシテ嚙ムコトナシ。而カモ便所ニハ自ラ行キ不潔ノコトナシ。食事入浴共ニ普通睡眠亦常他ニ徘徊ナク盜癖色慾共ニ異常ナルヲ聞カズ。

現在證

甲。身體證狀

被申立人ハ身長稍ヤ常人ニ比シ低ケレドモ其低キコト著シク目立ツ程ナラズ。又身長各部ノ發育ニ著シク不調和ナル點ナシ。姿勢稍前屈ス。其ノ動作ハ鑑定人ニ對セル時ハ概ネ安靜ニシテ周圍ノ上ニ端座シ不安ノ狀ヲ認メラレズ。只應對ノ間ニ顔面殊ニ右側上顔面ヲ顧メ又ハ手殊ニ右ノ肩ヨリ以下ノ上肢凡テヲ搖擗様ニ色々ノ方向ニ動カシ恰モ舞踏病様擗縮又ハちぢく様運動ノ如キ運動ヲナスコトヲ認メラル。然レドモコレヲ詳シク檢スルトキハ其不安狀態ハ眞ノ舞踏病又ちぢく症ニ屬スベキモノニ非ザルコトヲ知ラル。次ギニ近寄りテ身體ヲ檢スルニ顔面細長ク鼻下及頤ニ粗髯アリ。頭形ハ圓顛ニ屬シ其顛頂部ハ坦平ナリ。又頭部皮膚ニハ顔ト共ニ小ナル母斑様ノ増生物多數散點シ頭ノ中央ハ毛髮薄キモ周圍即頭蓋骨側後面ニハ頭髮稍ヤ密生シ其ノ増生物モ亦渺ナキコトヲ知ラル。耳殼ハ大ナルモ其ノ形態ニ著シキ變質徵候ナシ。眼裂細長。眼瞼緣稍ヤ濕潤シ睫ヲ缺ク。瞳孔紅彩ニ異常ヲ認メズ。眼球ノ運動ニ著變ナク瞳孔ノ對光調攝反應ハ共ニ常。鼻筋通リ鼻翼輕ク張ル。口腔内ニ異常ナシ。齒列異常ナク胸腹器内臟ニ精神異常ト關係アルベキ構造及作用上ノ異常ヲ發見セラレズ。四肢ノ運動及感覺作用ニ異常ナク殊ニ其ノ左右ノ不等症ヲ檢スルニ之ヲ發

乙。精神狀態

鑑定人ト應對セル間ニ被申立人ノ示ス顔面表情ハ甚シキ感情ノ激變ナク只輕キ喜悅ノ情ヲ以テ滿タサレ常ニ機嫌ヨキ顔貌ヲ示シ他ニ獨リ笑ヒ泣キ又憂フル風ナク又異常ニ茫然タル癡呆狀ノ表情ヲ示サズ。其ノ着衣亦整然トシテ不締ノ所ナク態度尋常タダ時ニ稍ヤ小兒ヲシカラズヤト思ハルル行爲アリ。而カモ余ガ彼ニ數回接スル間ニ烈シキ興奮又異常ニ茫然タル精神病學上所謂昏迷ト名ヅケラルル様ノ狀態ヲ示セルコト一回モナシ。之レヲ要スルニ一見セルトコロニテハ其ノ風丰殆ンド常人トモ見ラル可キモノナリ。而シテ又之レト對話ヲ試ムルニ應對ニ差間ナク言語ニ錯亂ナク自己及ビ近親ノモノノ經歷境遇殊ニ自己ノ實經驗ヤ近親ノ事柄中ノ或モノニ對シテハ深カク之ヲ記憶熟知スルモ人若シ具體的ナラザル形面上ノ概念殊ニ數ノ觀念ヲ間ハバソノ著シク不良ナルコトヲ知ラルモノナリ。今其一例トシテ左ニ四月九日及ビ十八日ニナセル余トノ應對記錄一節ヲ舉グベシ。

貴下ノ年齢は、

六十。

生れ年は、

〇〇元年八月二十五日。

此の所は、

○○區○○町(正)五十八番地。

今の月日は、

大正〇年四月九日(正)。四月十八日ノ時モ正答ス。

貴下の身分は、

士族。

父の身分は、

○○(正)。

父の名は、

○○○○(正)。

父は何をして居た人か。

○○○○○……○○○知事……○○○○○……○○○○○官……○○○○(正)。

何時お歿くなりになりましたか。

〇年〇十四歳で死にました。

母は、

〇子(正)。

何歳で歿くなられた。

明治〇四年一月三十日に四十三歳でなくなりました(正)。

母の兄弟は、

○○○(正)……○○○○子(正)……○子(正)……○子(正)……○○○○(正)。

學校は、

私は驚風の爲め學校に行きません。

本は好きですか。

讀書は好です。

新聞は読めますか。

新聞も少しは読めます。

假名は、

漢字は少し知つて居ます。

新聞は、

今は讀みません。

外國語は、

出来ません。——習ひません。

今まで何をして居られましたか。

腦が悪くて自家に遊んで居ました。

何が好きですか。

寺と神が好きですから毎朝参ります。

何の宗旨が好きですか。

何の宗も好みません。

外には、

酒が好きです。

外には、

今は寄席と活動が好きです。

近頃は何をして居ます。

神様に水を上げたりお膳を上げたりする丈です。
退屈しませんか。
しません。

貴下が奥様を貰つたのは何時か。
覚えません。

何處からお出ででした。
〇〇と云ふ軍人の處から。
妻君が貴下を可愛がつたか。
い、え可愛がらぬ。

今は如何したか。

死んだ。

何時死去せしか。

大正三年一月十日

偶々室ニ入り來レル人アリ余ハ被申立人ニ誰レカト問フニ嫁ナリト答フ。誰レノ嫁カト問
フニ息子ト答ヘ其ノ御子息ニ子供何人アリヤト問フニ〇〇子〇〇子〇〇ト云ヒ其ノ年
ヲ問フニ六年二ツハツ一ツト答フ。一番上ハ何歳カト問フニ九日ニハ三十六歳ト答タルガ後
十八日ニハ〇〇子六歳〇〇八歳〇〇子二歳〇〇一歳ト答ヘタリ。

次イデ具體的物品ノ名稱殊ニ其ノ手近ニアルモノヲ示シテ聞クニ火鉢ハ火鉢ト答ヘ何製ナ
ルカト問フニ唐金ト答ヘ。五徳ヲ指示シテ何カト問ヘバ五徳ト云ヒ其鐵製ナルコトヲ正答ス。
之レト同ジク炭ヲ指示シテ何カト問フニ炭ト答ヘ何炭カト問ヘバ土釜ト答ヘ細カキ區別ヲナ
スコトヲ得。又茶碗茶托ハ欄花瓶寫真額等ヲ示シ其ノ何ナルヤト問フニ悉ク之レヲ正解シ而

カモ茶碗ハ瀬戸物茶托ハ鍋戸欄ハ黒柿額ハ〇〇トテ父ノ書寫眞ハ母ノ像ナリトテ正答ス。

然カルニ四月九日一錢銅貨ヲ示シテ何カト問フニ銀貨ナリト答ヘ十錢銀貨ヲ示シテ何錢ノ
カト問フニ一錢ノ銅貨ナリト云ヒ再ビ他ノ十錢銀貨ヲ示セシニ二十錢ナリト云フ。更ラニ一
錢銅貨ヲ示シテ何カト云フニ銀貨ト答ヘ十錢ト一錢ヲ并ベテ何レガ貴キカト云フニ十錢銀貨
ヲ指シテ貴キトナス。又一錢ヲ出シテ幾ツデ十錢トナルカト問フニ知ラント云ヒ顔ヲ背向ケ
五圓紙幣ヲ示シテ何カト問フニさつト云フ。更ニ一圓紙幣ヲ示シテ何カト問フニ一圓札ナリ
ト云ヒ後再ビ札ト云フハ幾何ナルヤノ價ヲ問フニ知ラズト云フ。再三問フニ二錢札ト答ヘタ
リ。後五圓札二枚ヲ示シテ幾何ナルカト云フニ知ラント答フ。

次ギニ物價ニ對スル觀念ヲ試ムベク傍ニアル小ナル机ヲ示シテ其大凡ノ價ヲ問フニ知ラヌ
ト答ヘ此ノ札ニテ買ヘルカト云ヒ五圓ヲ示スニ買ヘヌト云フ。更ラニ患者ノ着用セル着衣ノ
大凡ノ價格家ノ價地面ノ時價自己ノ財産ヲ問フニ凡テ知ラヌト云ヒ平然タリ。然ラバ如何ニ
シテ御飯ヲ食ベマスカタ問フニ箸ト茶碗トニテ食ベマス答ヘタリ。之ニ於テ余等ハ一笑シ
タルモ彼ハ其意ヲ解セザルモノノ如シ。然ラバ如何ニシテ御飯ガ出來マスカタ問フニ答ヘズ。
買ツテ來ルカタ問フニ否百姓ガ作リマスト云フ。然ラバ百姓ガ直チニ汝ノ家ニ持テ來ルカタ
問フニ答ヘナク。米ノ時價ヲ問フニ知ラズト云フ。又此等ノコトニツキ四月十八日再ビ之レ
ヲ檢スルモ大同小異ニシテ貨幣物價ニツキテハ其ノ概念無キモノタルコトヲ信ゼシメラル。
次イデ色ノ名稱ヲ問フニ白黒ヲ明確ニ正答シ桃色ヲ示スニ黄色ナリト云ヒ再三問ヒ返ヘセ
ルニ暫クニシテ後ニ桃色ト云ヒ直シ綠ヲ示スニ蓬よもぎ青ヲ示スニ淺黄紅ヲ示スニ紅色ト云
フ。即チ色ニ對スル概念ハ略ボ正シキモノトス。

次ニ數及ビ計算ヲ試ムトシテ失ヅ「計算は出來ますか」ト問フニ答ナシ。依ツテ十ガ十ヨル
ト幾何デスカト問フニ出來マセント答フ。指ハ何本アリマスカタ問フニ五本。兩方ノ指デハ

何本カト問フニ暫時考ヘテ出来マセント云ヒ、後左ハ指ガ二本右ハ五本アリマスト答フ。又二本ト五本デ幾本カト問フニ暫時考ヘテ出来マセント答ヘタリ。次イデ指三本ヲ示シ幾本ナルカヲ問フニ五本デスト云ヒ、尙問フニ指指デスト云フ。其數ハ終ニ正答シ得ズ。次イデ數ヲ順序ニ云フテ御覽ナサイト云フニ出来マセント答ヘ、銀貨六個ヲ示シテ何個ナルカヲ問フニ出来マセント答ヘタリ。又名刺十枚ヲ示シテ何枚ナルカヲ問フニ又不能ナリト云フ。偶々傍ニアル煎餅若干ヲ示シ、何枚ナリヤト云フニ煎餅ト答フルノミニシテ其數ヲ舉ゲズ。其後ノ應答左ノ如シ。

一つと一つとは何程。

二つ。

一つと一つは。

三つ。

三つと一つは。

四つです。

四つと一つは。

一つ。

改メテ一二三ヲ順序ニ云ハシムルニ、一二三四五六一九ト答ヘ、二ト二トヲ加ヘテ何程カト問フニ答ヘズ、知ラザルカト云フニ知ラズト答フ。此ノ數ノ概念ニツキテモ後日之ヲ再ビ檢スルニ以上ノ答ヘト略同様ノ結果ヲ得タリ。而カモ指ハ右ガ五本左ガ二本ト答ヘ、二ト二、三ト四ノ加算不能ナリキ。

次イデ方角ニツキ、左右ヲ問フニ左手、右耳、左足等ノ區別ヲ確カニナスコトヲ得タリ、東西南北ヲ順序ニ問フニ先ヅ右方或點ヲ指シ、東ト云ヒ西ハト問フニ其ノ隣ナリト云ヒ北ハ其ノ隣南ハ

其ノ隣ト云ヒ、方角ノ思想誤リ甚ダシ。依ツテ太陽ハ何方ヨリ出ヅルカト問フニ西ヨリト答ヘ、何レニ歿スルヤト問フニ又西ト答フ、晝間ハ何處ニアリヤト問フニ答ナシ。南カト問フニ南デスト答ヘタルモ、夜ハト問フニ北ナリト答フ。

更ラニ親戚關係ヲ問ヘリ。即チ叔母トハ誰ヲ云フカト問フニ母ノ兄弟ト答ヘ、叔父トハ誰ヲ云フカト問フニ父ノ兄弟ナリト云フ。然ラバ伯母ト伯父トノ差ハ何カト問フニ伯母ハ父ノ兄弟ト答ヘ、伯父ハト問フニ答ナク、兩者ノ差ヲ明ニセズ。尙ホ祖父祖母ノコトヲ聞クニ祖父トハ父ノ父、祖母トハ母ノ母ナリト云ヒ、父ノ母ハト問フニヨクハ判ラヌト云フ。依ツテ孫ハト問フニ祖父様ノ孫ダカラ孫ダト答ヘ、從兄弟トハ何カト問フニ甥ノ子ダカラ從兄弟ダト云ヒ、其等ノ親戚關係ノ眞意差別ヲ明ニセザルコトヲ知ラル。

時ニ關スル概念思想ヲ問フニ一年ハ幾日ナルカヲ知ラズ。一ケ年ハ何ケ月ナルヤヲ答ヘズ、一日ハ幾時間ナルカヲ知ラズ。今何時頃カト問フニ(四時半ナルニ)三時ト答ヘ、日暮ハ何時ナルカヲ問フニ六時ト答フ。朝ハ何時ニ明クナルヤヲ聞クニ五時ト答ヘ、朝起キル時ハト問フニ六時頃。夜ハ何時ニ眠ルカト問フニ六時半ト答ヘ、大凡正答シ得タルモ、朝起キテヨリ眠ルマデ何時間アルカト問フニ全ク答ナシ知ラズト云フ。又一時間ハ何分カト問フニ知ラズト云フ、時計ヲ示シテ何時ナルカヲ問フニ又知ラザルモノノ如ク、即チ五時四十分ナルニ四時前デスト答フ。依ツテ四時トハ何處カト其針ノ所在ヲ問フニ長キ針ノ十二時ノ處ニアルヲ指示ス、反復シテ之ヲ問ヘバ知ラズト云フ。

次イデ抽象力ニツキ檢セントシ、先ヅ魚ハ何ガスキカト問フニ鰓(かます)あいなめ刺身ト答フ。刺身ハ何ガヨキカト問フニ鯛、鯖ト答ヘタルモ、魚トハ何カト其ノ名稱ヲ定義セシムルニ答ナシ、次イデ鳥トハ何カト問フニ九日ニハ鴨、雁、雞、鶩、鷹、兎、ほうほうト云フ。ほうほうハ鳥カト問ヒ、又魚ト鳥トハ何處ガ異ナルカト問フニ答ナシ、後日之レヲ再問スルニほうほうハ魚、兎ハ獸ト

云フ。而カモ獸トハ何カト問フニ知ラズト云フ。次イデ魚ハ何處ニ居ルカト問ヘバ、山ニ居ルト云フ。依ツテ東京ニハ鳥ハ居ラヌカト問フニ答ヘナシ。後知ラザルカト問フニ知ラズト云フ。地理上ノ智識ニツキ聞クニ東京ニハ奈何ナ町ガアルカト問ヘバ、銀座、日本橋、淺草ト云フ。其レヨリ無キカト問フニソレダケナリト答フ。淺草ニハ何ガアルカト問フニ見世物ガアルト云フ。他ニ何カアラズヤト云フニ外ニハ知ラヌト答ヘ銀座ニハ何ガアルカト問フニ答ナク東京ニハ他ニ町ハナキカト云フニ四谷ヨリ他ニナシト云フ。九日之レヲ再ビ問フニ同一ノ答ヲナス。社界上ノ智能トシテ電氣ヲ示シテ何カト問クニ電氣ト答フ。瓦斯燈ヲ指示シテ何カト問フニまんると云ヒ、何ニ用フルカト問フニ瓦斯ヲ答フ。燈ハ何時點ゼラルルヤト問フニ夜ト答ヘ、何故點火スルヤト問フニ六時頃ト云フ。其理由ヲ問フニ答ナク、反復シテ問フニ暗イカラト答ヘタリ。電氣ハ如何ニシテ點火スルカト問フニ知ラヌト答ヘ、又汽車ハ早キカ遅キカト云フニ早キコトモアリ遅キコトモアリト云フ。車ハト問ヘバ、遅イ。船ハ早キカ遅キカト問フニ船ハ遅イト云ヒ、ズウト前ニ一度乗ツタコトアリト云フ。乃木大將ヲ知ルヤト問フニ知ルト云ヒ、會ヒタルコトアルカト問フニ道デ會ヒタルコトアリ、又ヨク〇〇ノ處ヘ來タルコトアリト云ヒ。乃木氏ハ如何ニセシカト問フニ腹切ツテ死セリ。其ハ一昨年九月十三日ノコトニシテコハお上ノ爲メニ死セルナリト正答ス。其ノ何故ニお上ノ爲メニ死スルヤト問フニ兵隊ヲ殺シ子供ヲ殺セル故ナリト云ヒ、乃木氏ハ何スル人ナリヤト問フニ大將ナリト正答セリ。後日西郷隆盛ハ陸軍大將ナリト答ヘタルモ何ヲナセル人ナリヤト知ラズ、又世界中最モ偉キ人ハ誰カト問フニ己ノ父ト〇〇ノ叔父ナリト云フ。又日本デハ何處ト戰ヘルコトアルヤト問フニ露國ト戰ヘリト云ヒ、何處ノ戰ガ一番劇シカリシヤト問フニ知ラズト云フ。日本デハ其他如何ナル國ト戰ヘルカト問フニ露國ト滿州ニテ戰爭セリト答フ。其ノ外ニハト問フニ暫時考ヘタル後答ナシ。反復問ヘバ無シト云フ。依ツテ支那トハト反問セ

ルニ前ニ戰爭シタルコトアリト云ヒ、又維新ノ時ニハ京都ト江戸ニアリシト答フ。

尙ホ資産上ノ關係ニツキ聞クニ左ノ如キ答ヘアリ。

妻君は金を費つたか。

金を皆費してしまつた。

貴下は金を幾何持ちしか。

知らん。

印形を持つて居ますか。

知らん。

印形とは何をするものか。

印形ですか何をするものか知らむト云フ。

茲ニ於テ後日印ヲ示シ何ナルヤト問フニ印判ナリト云フ。何ヲナスモノカト問フニ書キタルモノニ捺スモノナリト答フ。然ラバ捺セルモノハ如何ニナルヤト問フニ答ヘナシ。汝ハ印ヲ有スルヤト問フニ息子ニ預ケアリト答フ。若シ息子が印ヲ捺シ汝ノ金ヲ借りタラ誰ガ拂フカト聞キタルニ息子が拂フト云ヒ、又貴下ガ印ヲ捺シタラ汝ガ拂フナラズヤト問フニ「さうだげど構はん……私は拂はん」ト云ヒ平氣ナリ。

以上述べタルトコロヲ實驗的ニ試験セムトシ先ツ尋常小學讀本卷ノ一ヲ手ニ取り試ミニ其第一葉國旗ノ圖ヲ示シテ何カト問フニ軍旗聯隊旗ト云フ。旗ナラズヤト問フニ旗ナリト答フ。他ノ圖即チ獨樂ト繩トヲ示シ何ナルカト問フニ知ラズト答フ。桃太郎ガ鬼ガ島ヨリ歸リタル時ノ圖ヲ示シテ何ヲ意味スルカト問フニ判ラズト云ヒ、田植ノ圖ヲ示シ何カト問フモ知ラズト云フ。五條橋ノ上ノ牛若丸ト辨慶ノ圖ヲ示スモ其ノ意ヲ解セズ汝ハ牛若ナル人ヲ知ラズヤコハ即チソレナリト教ヘ其ノ傍ニ立テル人ハ何ナルヤト問フニ單ニ坊主ナリト云ヒ辨慶ナル意

義ヲ知ラズ。又更ニ其讀本中ニアル圓形ノ畫ヲ示シテ何カト問フニ知ラズト答ヘ其後四角菱形ヲ示シテ其ノ形ノ名ヲ問フニ答ナシ、依ツテ其畫中ヨリ三角ハアルカト問フニ答ナシ、尙本同書中鶴、鹿、牛、猿ノ圖ヲ示シ其何ナルヤヲ問フニ正シク答ヘタレドモ又猿蟹合戦ノ圖ヲ示シ何カト問フニ猿ト云フノミ蟹ヲ指シ其ノ名ヲ問フニ知ラズト云ヒ其ノ持テ握飯ヲ問フニ之レ亦知ラズト答フ。尙ホ進ミテ片假名アイウエオ五十音等ヲ一々示指シテ之レヲ讀マシムルニ全ク讀メズ平易ノ漢文ヲ示シ之レヲ讀マシムルニ亦之レヲ知ラズ讀メズト答フ。

斯クテ之レヲ要スレバ彼ノ精神狀態ニ於テハ其ノ舉動姿勢態度ニ於テハ著シク異常アリト思ハルルトコロナキニ反シ之レト對話ヲ試ムルニタトヘ普通ノ應對ニ差開ナクヨク他人ノ言語ヲ理解シ、又之レニ相應スル答ヘヲナシウルトコロアリトモ而カモ其内容ニ於テ頗ル注意サルベキ點少ナカラズ。

即チ彼ハ日常眼前ニ觸ルル物品ノ名稱ヲ知り又其製セラレル物質ノ何タルカヲ知り良ク器具ノ使用法ヲ知り又自己ノ經歷、父母ノ名、近親ノ人ノ稱呼其等ノ人ノ死亡年月日乃至己ノ經驗セシ事柄ノ一般的事項ハ暗ズルトコロアルモ、稍ヤ常ニ遭遇スルトコロヨリ遠ザカレ物ニ對シテハ其物品ノ名稱ヲ知ラズ又之レヲ教ユルモ習フコト能ハズ況ンヤ其ノ用途製法ニツキテハ之レヲ辨ヘズ。又兒童スラ既ニ熟知ス可キ繪本ヲ見セ其ノ何タルヤヲ問フニ其ノ一部の物品又ハ人物ノ名稱ハ知ルモ全般ノ意義ヲ明ニセズ近親ノ者ノ間柄關係ニツキ之レヲ抽象的ニ定義スルノ能力ヲ缺キ殊ニ數ノ觀念ニ至ツテハ全ク零ト謂フモ不可ナキナリ。而カモ又單ニ數ノ觀念ヲ器械的ニ熟知セザルノミナラズ之レヲ應用シテ運用ス可キ力ニ至ツテハ全ク無能ニシテ此ノ點ニ於テハ五六歳ノ普通兒童ト大差ナキモノナリ。

余ハ以上ノ諸點ヲ基礎トシテ被申立人ノ精神狀態ヲ診斷シ得ルモノト考フ。依ツテ次ギニ項ヲ改メテ其ノ診斷ヲ記サムト欲ス。

診 斷

- 以上列記セル諸項中被申立人ノ精神狀態ヲ鑑定スルニ必要ナル要素タルベキ事實ヲ列舉スレバ左ノ如シ。
- 一。被申立人ノ近親ノモノ殊ニ其ノ母系中ニ多クノ變質者アリ。
 - 二。家人ノ言ニヨレバ被申立人ハ幼ニシテ驚風ヲ煩ヒ時ニひきつけアリ。稍長ズルモ精神發育一般ニ遅ク學齡ニ達スルモ普通ノ教育ヲ受クルニ堪ヘズ更ラニ長ジテモ社界上ノ人トシテ働クコト能ハザルモノナリ。
 - 三。鑑定人ノ見タルトコロニヨレバ其ノ身體上ニハ特殊白癡者ノ種類ニ固有ナリト認メラルル身體症狀ヲ缺ク。
 - 四。精神作用ニ於テハ單簡ナル事物ニ對スル記憶理解力ハ相應ニ發育スルモ稍ヤ遠キ物事ニ對シテハタトヘ其モノガ具體的ノモノナリトモ之レガ理解ナク眞ノ觀念ヲ缺キ抽象的ノ觀念ニ至リテハ全然發達無シ。サレバ其精神能力ハ外見上常人ノ如ク見ユルトコロアルモ其ノ精神内界ニ立チ入りテ深ク之レガ内景ヲ探レバ忽チ其ノ常人ノ域ニ達シ居ラザルコトヲ知ラルルモノナリ。即チ抽象觀念發育ノ具體的觀念發育ニ比シ著シク劣ルコトヲ知ラルルモノニシテ此ノ能力ノ全然缺ク居ルコトハ低能者殊ニ其度強キ癡愚者又白癡者ニ於テ特有トシテ現ハルルトコロノモノナリ。
 - 五。依ツテ余ハ被申立人ノ現在證ヨリ彼ガ輕症白癡又重症癡愚ノ狀態ニアルモノナルコトヲ信ズルモノニシテ、コハ又會々近親ノモノノ言ノ信ズベキコトヲ合點セラレ且其等ノ言ニヨリ益々被申立人ノ斯カル狀態ニアルベキコトヲ推測セラレベキモノナリ。
 - 六。然レドモ此際被申立人ガ何等カノ目的ヲ以テ其ノ近親ノモノト共ニ故意ニ白癡ヲ裝ヒ居ラザルナキヤヲ疑ハザル可ラズ。然レドモ深く被申立人ノ智能缺損ノ狀態ヲ考フルニ其智

能ノ足ラザル點ガ全然先天性精神薄弱者ノ其ニ該當スルモノニシテ殊ニ近親ノモノノ事蹟ニツキ容易ニ答ヘ得ルモノガ算數ノ念ニ於テ全ク之レヲ缺如シ繪畫ニ對シ部分的ノ說明ハナシ得ルトスルモ全般ニ互レル理解ヲ缺キ又知人ノ經歷ヲ深カク知レルモノガ時場所ノ觀念魚類鳥類ノ概念ヲ有セザルコト等ハ全然先天性精神薄弱狀態ノ型ニ適合スルモノニシテ之レニヨリ被申立人ガ故意ニ僞ツテ白癡者ヲ眞似ルモノトハ信ジガタキモノナリ。又此點ハ被申立人ガ成長シテ後チ享ケタル他ノ精神病ノ結果ニ基ヅク精神衰弱ノ狀態トモ考ヘラレザルモノナリ。

七、依ツテ余ハ彼ガ先天性精神薄弱狀態ニアルモノト断定スルモノナリ。

八、然レドモ彼ガ幼時腦質炎ニ罹リシタメ斯カル狀態ニ陥リシカ又ハ胎生期ニ母胎ニアリテ腦水腫等ノ發生ニ基キ斯カル狀態ニ達セシカ又ハ全然家系ノ變質狀態ニ基ヅク遺傳的關係ニヨル白癡ナルカハ其ノ身體的の特徴ニ何等頼ルモノナキヲ以テ断定シガタキモ恐ラク後二者ノ原因ニ待ツトコロ多大ナルベキヲ豫想セラレモノナリ。

說明

凡ソ白癡者癡愚者トハ共ニ先天性又ハ胎生期乃至初生期ニ於テ腦ノ病ヲ受ケ爾來精神ノ發育阻害セラレ終ニ常人ノ域ニ達シ得ラザル狀態ヲ謂ヒ其ノ程度若シ一生ヲ通ジテ三四歳ノ兒童ノ智能發育ニ止マリ如何ニ教育ヲ施スモ七歳兒童ノ域ニ達シ難キ時ハ之レヲ白癡ト謂フ。而シテ之等ニハ其ノ多クノ者ニ身體上ノ畸形又ハ病的症狀例之癲癲癩癩等ノ伴フモノナリ。然カルニ其ノ度稍ヤ輕ク言語通ジ日常動作ハ常人ノ如ク且身體ノ異常尠ナク觀念ノ内容ニ富ミ而カモ抽象概念發育頗ル不良ニシテ殊ニ數方角色時ノ觀念定義類別ノ念ニ乏シキモノハ之レヲ癡愚ト名ヅクヲ例トス。而シテ此者ハ其ノ多クガ變質即チ遺傳的原因ニ基ヅキテ起リ只少數ノモノノミガ幼時受ケタル腦疾ニ基ヅクモノトス。

斯ク吾人ハ生來能力不良ナルモノニ程度ニヨリ此二者ノ區別ヲ設クルモ其兩者ノ間ニハ移行性ノモノ頗ル多ク其區別ハ絕對的ノモノナラザルモノトス。サレバ被申立人ノ精神發育不良ノ程度ハ或ハ白癡トシテモ差間ヘナキモ然カル場合ニハ其ノ輕キモノタルハ免レガタク又癡愚トシテハ其重キ部ニ屬スベキモノタリト考フルヲ至當トスベキナリ。

而シテ治産ノ能力ヲ定ム可キ民法上ノ所謂心神喪失ノ常況ニアルモノトシテハ白癡者ノ程度ヲ指示スルモノナレドモゴハ又一定不變ノ繩墨ト認ムベキモノナラズ要ハヨク其ノモノガ自己ノ財産ヲ危險ナク正常ニ使用シテ悖ラザルヤ否ヤヲ寸尺トス可キモノナレバ此點ニ於テ被申立人ノ如キ狀態ニ於テハタトヘ外見上ニハ辭令ニ富ミ事儀ヲ解シ一見常人ノ如ク見ユルモ深ク其ノ精神内景ニ立チ入りテ其ノ能力ヲ説考スレバ彼ニハ抽象的觀念全然缺亡シ數ノ觀念ニ於テ全ク缺ケ治産ニ直接關係アルベキ社會的智識頗ル貧弱ニシテ該能力ハ全然五六歳ノ兒童ニ比較スベキモノナレバ之レニ資産ヲ託シテ處理セシムベキコトハ不可能ニシテ假令之ヲ爲シ得ルトスルモ他ノ誘惑推感ニ拮抗スルダケノ意志表示ナキハ明カナリ。而カモ其ノ程度未成年者ノ程度ニ及バザルコト遙カニ遠キヲ以テ余ハ彼ヲ心神喪失ノ常況ニアルモノト推定斷言シテ差間ナキモノト考フ。

次ギニ斯カル智能發育不良ノ狀態ハ他ノ病ニ於ケルガ如ク其ノ病ノ經過中ニ一進一退弛張スルモノニアラズ。サレバ少ナクモ彼ガ有セシト云フ他ノ病的症狀例之興奮又ハ憤怒ノ如キ症狀ハ一時的増悪又輕減スルトコロアラムモ全智能ノ發育ノ狀況ハ過去ニ於テハ現在ヨリ劣レルトコロアリトモ優レルトコロナキハ確實ナリ。隨テ彼ハ現在ニ於テハ勿論過去ニ於テモ亦未來ニ於テモ之レト同様ノ心神喪失ノ常況ニアリ又アリシモノト考フベキモノニシテ即チ鑑定ヲ下スコト左ノ如シ。

鑑定

一、東京市〇〇區〇〇町八番地戸主士族被申立入山田君造ハ先天性精神發育制止者ニ屬シ其ノ程度ハ白癡者トシテハ輕症ナルモノトスベク寧ろ其レヨリ稍ヤ輕キ種類ニ屬スル癡愚者ノ極メテ重キモノト考フルヲ正シトス。

一、其ノ原因ガ先天性ノモノナリヤ又後天性ノモノナリヤハ不明トス。

一、然レドモ現在彼ガ民法上ノ所謂心神喪失ノ常況ニアルモノト名ヅケ得ベキ程度ノ人タルコトハ疑ヒナシ。

一、而シテ其ノ狀態ハ彼ガ丁年以前ヨリ引キ續キ存シテ現在ニ至ルモノニシテ又此ノ狀態ハ將來モ繼續スベキモノト信ゼラル。即チ約言スレバ彼ノ過去ノ經歷ニ於テ斯カル常況ヨリ一度モ解脱シタル時ハ無カルベキモノナリ。

右及鑑定候也

本鑑定ハ大正〇年四月七日ヨリ同二十日ニ至ル十四日間トス

大正〇年四月廿二日

住 所

姓

名印

其 三

法庭ニテ尋問ヲ受クル度毎ニ異ナリタル申立ヲナシ又己ガ姓名ヲモ屢々變ジタルモノノ鑑定例。早發性癡呆例證

伊澤紹見事松村林太郎強盜被告事件鑑定書

明治四十〇年〇月〇日某地方裁判所ニ於テ余ハ某豫審判事ヨリ裁判所書記某立會ノ上伊澤紹見事松村林太郎強盜被告事件ニ就キ次ギノ件ヲ鑑定ス可キ命ヲ受ケタリ。

鑑定事項

一、明治四十〇年〇月〇日被告ハ埼玉縣〇〇郡〇〇村大字〇〇村百三十一番地小澤豐三郎

方ニ強盜ニ押シ入りタリトノ事ナルガ其當時被告ハ精神病者ナリシヤ否ヤ又其行爲ハ精神ノ疾病狀態ニ基因シタル病的行爲ト認メ得ルヤ否ヤ。

余ハ本鑑定ヲ次ギノ五項ニ分チテ記スル事トセリ蓋シ之レ理解上便利ナル可シト信ズレバナリ。

- 一、被告ノ犯罪事實及ビ豫審所ニテ己ガ姓ヲ偽リ又前後矛盾セル申立ヲナセシ事。
- 二、被告ノ既往ニ於ケル人トナリ殊ニ其病ト思ハルル節ト鑑定日限内ニ被告ノ示セル精神狀態。
- 三、診斷
- 四、説明
- 五、鑑定

原籍

現在住所

被告 自稱伊澤紹見事 松 村 林 太 郎

甲、犯罪事實

被告伊澤紹見事松村林太郎ハ本年即チ明治四十〇年〇月〇〇日夜埼玉縣〇〇郡〇〇村大字〇〇百三十一番地小澤豐三郎方ニ強盜トシテ押シ入りタリ。今其詳細ヲ記スル時ハ當夜豐三郎方家族皆悉ク寢ネ、豐三郎ノ娘ハ獨リ起キ居リシニ突然知ラヌ男己ガ傍ニ入り來ルヲ以テハ驚キ父豐三郎ヲ呼ビ起セリ。此時早クモ其男ハ寢ネ居ル豐三郎ノ後ヨリ馬乘リニ乘リテ金ヲ出セト迫レリ。豐三郎ハ愕キ起キ上リ己ガ肌ニ掛ケアリシ衣類ヲ著セムトシタルニ賊ハ忽チ其著物ヲ奪ヒ自ラ之レヲ著シ更ラニ金ヲ出サン事ヲ強ユ。豐三郎金ノ無

キヲ陳ジタルニ賊ハ臺所ニ行キ種棒ヲ携ヘ來レリ然レドモ之ヲ以テ家族ヲ脅サントモセズ。唯其側ニ置キタル儘ニテ金ヲ出ダセト迫ル。豊三郎ハ窃ニ其妻ヲ出シテ大聲人ヲ呼ビ助ケヲ求メシム。近隣ノ人某其聲ニ應ジ來タルニ及ビ豊三郎力ヲ得先ヅ奪ハレタル己ガ著物ヲ取戻シ次イデ賊ヲ取り押ヘ駐在所ヘ連レ行カムトセシニ途ニ警官ニ遇ヒ其賊ヲ引キ渡セリ。其賊ハ即チ被告伊澤紹見事松村林太郎トナス。

乙 豫審所ニ於テ姓名ヲ偽リ前後矛盾申立ヲナシタル事。

明治四十年〇月〇日〇〇地方裁判所豫審所ニ於テ豫審判事ノ調ベタル時ハ被告ハ栃木縣〇〇郡〇〇村大字△△ニ住メル無職伊澤紹見ナルモノニシテ七八年前〇〇裁判所ニ於テ窃盜犯ノ爲メニ重禁錮一箇年監視不知ノ刑ヲ受ケ四五年前××ノ裁判所ニ於テ強盜罪ニテ一回處分ヲ受ケ△△裁判所ニ於テモ窃盜罪ノ處分ヲ受ケタル事アリト自白シ更ニ本年十月十八日夜小澤徳三郎方ニ強盜ニ押シ入りタル事ヲ承認セリ。然カレドモ以上記セルガ如キ處刑ハ全然事實無根ニシテ被告ハ斯ク虚偽ノ申立ヲ爲セルノミナラズ尙又豫審審理中ノ答辯ニハ前後矛盾シ又ハ問ヒニ對シテ不適合ナル答ヲナセル事多ク且始メ伊澤紹見ト名乗り後チ夫ハ偽リニテ實ハ松村林太郎ナリト云ヘルガ如キ申立テヲ爲セルハ果シテ正氣ノ沙汰ナル可キカ果タ又故意ニ病ヲ偽リテノ言カ之レ本鑑定命令ニハ直接關係ナキガ如シト雖モ又被告ノ精神狀態考究上多少ノ材料ヲ與フル要所ナレバ今次ギニ其當時ノ審問調書中必要ナル要點ヲ略記セム。

(〇〇月〇〇日調書中)

(前略)

問 這入てどんな事をしたか。
答 家に這入つて家の人は寢て居ました其寢て居る人の半纏を取らうとしました。

問 寢て居る人の著て居る半纏を何うして取らうとする事が出来たか。

答 死んだ人を取らうとしました。

問 死んでは居らぬ其人に掴まつたではないか。

答 慾に絡らまつて爲た事です。

(中略)

問 お前は十八日の夜強盜をして夫れを免れむ爲めに發狂を装ひ居るのではないか。

答 私は世界から放逐令を發せられて居て殺されて仕舞ふのです。

問 お前は十八日の夜強盜をしたと云ふが委しく云へないか。

答 アナタニ注意します早く殺して仕舞つた方が宜しく御座います。

(中略)

問 お前の父は何と云ふか。

答 タモツと云ひます。

問 何をして居るか。

答 活版屋です。

問 最明寺の住職ではないか。

答 はい。

問 今でも住職をして居るか。

答 へい。

問 何故活版屋と云ふか。

答 笑談です。

(中略)

問 お前は何日原籍地を出た。
 答 永い前です。
 問 何日か。
 答 今申立てた通りです。
 問 まだ謂はぬではないか。
 答 二年ばかり前です。
 問 其間何處に居つたか。
 答 川越の方に居りました。
 問 川越の何處に。
 答 知人です。
 問 誰か。
 答 安齋と云ふ人です。
 問 其外の人は。
 答 其處だけです。
 問 其處に幾日位居た。
 答 半年計かり居りました。
 問 安齋とは何處か。
 答 川越の一丁目です。
 問 安齋とは何屋か。
 答 蠟燭屋です。
 問 幾歳位の人か。

答 十二三の人です。
 問 そう云ふ小供の家か。
 答 三十二三の人です。
 問 お前は何處に居つたか。
 答 そんな事はもー聞かないでも宜しいでしょう。
 問 何處に居つたか。
 答 無し。
 斯クノ如ク○月○日審問ノ時ハ彼ハ己ヲ伊澤紹見ナルモノニシテ○月○日前ハ川越ニ居レリト云ヘリ。然カルニ次ギノ○月○日審問ノ時ニハ之レト全ク相違セル答ヲナセリ。即

問 ○月十八日強盜に這入る前は何處に居つたか。
 答 所澤です。
 問 所澤は何處か。
 答 吉澤仁齋と云ふ人の宅です。
 問 それは何う云ふ人か。
 答 友達です。
 問 何をする人か。
 答 餅屋です。
 問 お前は其處で何をして居たか。
 答 職人をして居りました。
 問 お前に出来るか。

答 出来ませぬ。

問 其處に居る前何處に居つた。

答 鑑、鈍屋に居りました。

問 何の位居た。

答 一週間位居りました。

問 お前は府中の警察署で拘引處分を受けた事があるか。

答 受けました。

問 何う云ふ罪か。

答 浮浪罪です。

又ツノ後〇月〇〇日ニハ嘗テ己ガ住所ナリト云ヘル〇〇郡〇〇村〇〇ヨリ伊澤紹見ナ

ル僧侶ヲ招キ彼ト對審セシメタルニ被告ハ己ハ伊澤紹見ニハアラズト無難作ニモ答ヘタリ

其ノ時ノ調書ニ曰ク。

問 此人が伊澤紹見ト云フ人であるがお前は偽名して居るではないか。

答 嘘の名です。

問 然らば本當の名は。

答 今云つた通りです。

問 夫れでは判らぬではないか。

答 無シ。

(中略)

尚ホ其後書記ハ當日其ノ供述ヲ被告ニ讀ミ聞カセ被告ノ相違ナシトノ言ヲ聞キ之レニ記名セシメタルニ被告ハ己ノ名ヲ吉澤拜山ト記入セリ、依テ何故ニ其姓名ヲ變換シタルヲ詰リ

シ「今の人が伊澤紹見だから變へました」ト答ヘタリト云フ。

二、被告ノ既往ニ於ケル人トナリ、殊ニ其病ト思ハルル節ト鑑定日限内ニ被告ノ示セル精神状態

甲、既往歴。

(イ) 遺傳歴。

父系祖父ハ七十歳ノ頃中風ニ罹カリ、父ノ伯父ニ腦病ニ罹カリシモノ一人被告ノ弟ニ癲癩ノモノ一人アリ。又被告ノ母ハ年三十六歳ノ頃子宮病ノ爲メニ死シ、生前多少腦ニ故障アリシト云フ。其他ニハ著シキ精神病者、犯罪者、大酒家異常氣質者等ノアリシヲ聞カズ。

(ロ) 本人歴。

被告ハ精神發育常、智力普通、氣質負嫌ヒニシテ五六歳ノ頃マデ驚風ノ氣アリシモ概シテ達者ナル方ナリ。十六歳ノ時ヨリ東京ニ遊學、錦城學校ニ在學セリ。十九歳ノ折鐵道雇員トナリ朝鮮ニ行ケリ、其後被告ハ折々神經衰弱ニ罹リ物ニ倦キ易ク、眩暈頭痛ニ悩ミツツアリト家郷ニ通信セリ。昨年五月六月ノ頃我國ニ歸リ東京大學病院ニ於テ鼻草ノ治療ヲ受ケ同年七八月ノ頃郷里ニ歸ヘリ父ノ宅ニ住マヘリ。被告ガ朝鮮ニアリテ如何ナル状態ニアリシヤハ殆ンド不明ナリト雖モ、歸國後父松〇方ニ止宿セル間ハ何事モ爲サズ、只己ガ部屋ニ極メテ不性ニ茫然トシテ横ハリ居ルノミニシテ人ノ來タルヲ甚シク厭フノ風アリ。又時トシテハ蒲團ヲ被リテ床中ニ臥セル事アリ。其間多クハ獨語殊ニ内容不明ナル獨語ヲ爲スヲ常トシ、三食モ家人ト共ニ爲ス事殆ンド稀ニシテ、食物ハ其ノ量ト時刻トニ於テ甚ダ不規則ナリ、又戶外ニ出ヅル事アレバ無意味ニ途上ノ小兒ヲ泣カス事往々アリ。又家庭ニ於テハ原因モ無ク突然父ニ打チカカリ、又ハ繼母ニ逆ヒ之レヲ怒ラシムル事數回ナラザリシト云フ。

以上ハ被告ノ日常動作ノ概況ナルガ本年五月東京ノ大學病院ニ鼻葦ノ治療ヲ受ケニ行ク
トテ上京シ六月東京橋區〇〇門町九番地警視廳巡查山田善助方ニ寄宿セリ然カルニ其
折或朝八時頃突然家出シ行衛不明トナリ茲ニ被告ハ常人ナラザルモノト認メラルルニ至レ
リ即チ其夜被告ハ深更ニ獨リ向島ヨリ小松川ニ至ル方面ヲ沈メル様ニテ考ヘ乍ラ逍遙シ
爲メニ投身者殊ニ精神ニ異常アルモノトシテ須崎分署ヘ留置セラレ翌日山田喜助ニ連レラ
レテ歸宅スルノ途スガラ吾妻橋ニ來レルヤ突然被告ハ警察ナンドニ自分ヲ止メタルハ如何
ナル理由ナルカト喜助ニ詰リ且何ノ理由モ無キニ往來ニテ泣キ崩レ強ヒテ之レヲ連レ歸ヘ
ラムトセシニ被告ハ振り拂ヒ逃ゲ失セ而カモ山田喜助ノ歸宅スルヤ早クモ既ニ在宅シテ少
シモ耻ヅル色ナク又其翌日喜助ハ被告ヲ其兄ニ引キ渡シタルニ其後被告ハ警察署ヲシテ僕
ヲ氣違ト思ハシタルハ貴様ナリ左様ナモノトハ絶交スト記セル端書ヲ喜助ニ送レリト云フ
又其後七月頃〇〇町ノ醫師池田芳之助ヨリ屢々治療ヲ受ケタル事アリ其ノ當時同醫師ハ
被告ノ言語舉動ニ於テハ著シク常人ト異ナル處ナケレドモ頗ル寡言ニシテ尋ネタル事ヲ直
チニ答ヘタル事ナク又甚ダ疼痛ヲ感ズ可キ手術ヲ行フモ平氣ニテ受術シ無神經ノ人ト氣附
カレ又手術代藥價等ノ支拂フ可キモノモ拂ハズシテ一向平氣ニテ歸ルハ常人ト多少異ナル
人ト考ヘラレキ

乙

斯クノ如クニシテ本年九月ニ至リ被告ハ突然己ガ家ヲ出奔シ其ノ後何處ニアリシカ全ク
不明ニシテ〇月十八日小〇方ニ強盜ニ押シ入り取押ヘラレ現今ノ狀態ニ至ルモノトス
鑑定日限内ニ示シタル被告ノ精神狀態
余ガ始メテ被告ヲ豫審所ニ見タル時ハ其後屢々監獄ニ於テ見タル時ト同ジク被告ノ顔貌
被告ノ動作共ニ氣力無キ癡呆狀ヲ呈セリ即チ被告ノ先ヅ部屋ニ入り來ルヤ茫乎トシテ外
界ニ對スル注意頗ル乏シク舉動モ亦極メテ遲鈍ニシテ偶々傍人アレドモ之レニ會釋セズ

又何等ノ感情ヲ表ス事ナシ彼ノ歩ヲ進ムルヤ極メテ鈍シ椅子アレドモ直チニ之レニ倚ラン
トセズ人ニ勸メラレテ始メテ之レニ著ス椅子ニ坐シテ後チハ傍人ニ面シテ顔ヲ向
クニモアラズ只下ヲ向キ又ハ茫然壁ノ方ヲ向クノミニシテ眼ハ開キ居レドモ力ナク瞬目亦
少シ眼瞼及ビ其周圍ノ皮膚ニ變化乏シク恰モ假面ヲ被リ居ルガ如シ手ハ之レヲ拱キ又
ハ己ガ頬ニ當テ手足ノ隨意運動頗ル少ク言語ハ他人ニ數回問ヒカケラレテ始メテ力ナキ平
氣ナルマタ沈ミタル聲ニテ簡單ナル返事ヲ爲スニ止マリ自カラ話ス事殆ンドナシ之レ余ガ
被告ノ舉動ニ於テ第一ニ注意セル點ナリトス今試ミニ被告ノ手ヲ取り之レヲ高ク上ゲ然
カル後チ己ガ手ヲ放ツ時ハ彼手ハ共ニ下ル事アレドモ若シ斯カル事ヲ二三回續ケテ行フ時
ハ其手ハ終ニ舉ゲラレタル儘ニ止マル事アリ之レ強硬症ト名ケラルル一症狀ニシテ斯カル
症狀ハ病的ニ茫然トセル人ニ屢々來ルモノトス

又試ミニ被告ニ舌ヲ出サシメ又ハ眼ヲ開カシメ置キ之レニ針ヲ刺サントテ脅シ又鉄ヲ以
テ切り去ル可シト迫ルモ平氣ニテ其儘舌ヲ出シ居リ又ハ眼ヲ開キ居ル事多ク稀ニ顔ヲ背ケ
之レヲ避ケントスル事アルモ數回之レヲ強ヒテ試ムル時ハ飽クマデ之レニ抵抗セントスル
氣力ナク終ニハ平氣ニ舌ヲ出シ又ハ眼ヲ開キ居ルニ至ル可シ斯クノ如ク彼ハ異常ニ感情ノ
鈍ク氣力ニ乏シキモノナリ

若シ彼ニ二三ノ問ヲ發シ或事柄ヲ問ハンカ概ネ答ナシ若シ之レニ答フル事アラムカ時ニ
正シキ答ヲナス事アレドモ多クハ唯口ヨリ出任カセニ其當時心ニ浮ビタル事ヲ其儘正シキ
カ正シカラザルカヲ願感スル事ナク全ク放心ノママニ答フルモノナリ例之

問 お前の名は何と云ふか。
答 ヘナシ。

問 今は明治何年何月だ。

答へナシ。

問 今は何時だ。

答へナシ。

問 時計がないから判らぬか。

答 ウンウンウン。

問 此處は何の部屋ですか。

答へナシ。

問 傍らに居る〇〇醫師を指して此の人は何と云ふ人だ。

答 診察所長だ。

問 何をする人だ。

答 醫者です。

問 身體は何處が悪しきか。

答 悪くはない。

問 汝は何年何月生か。

答 明治二十年三月です。

問 お前は精神病と云ふではないか。

答へナシ。

問 毎日何をして居るか。

答へナシ。

問 毎日退屈はして居らぬか。

答ナシ。

問 家に歸り度くはないか。

答 歸り度くない。

問 余を見た事はあるか。

答 裁判所で見た。

問 朝鮮で何をして居たか。

答 朝鮮に行つた事なし。

問 〇〇〇と云ふ人を知て居るか。

答 へズシテ傍ノ骨盤計ヲ弄ビ居リ。

問 此處へどうして来たか。

答へナシ。

此ノ如ク被告ノ答ノ凡テガ成長セル常人ノ夫レノ如ク普通ノ聯絡ヲ爲シ得タルモノト云ヒ難シ。故ニ余ハ彼ノ答ヲ信ジテ直チニ認識力判断力ヲ推察シ得ルトハ信ジ難シ。從ツテ彼答ヲ媒介トシテ彼精神状態ヲ探究スル事ヲ止メ客觀的ニ認メ得ル彼身體的徴候ヲ檢スル事ニ重キヲ措キ彼ノ答ヘハ只其聯絡ノ異常形式ヲ知ラシムルノ參考トナスニ止ム。

彼身體ヲ檢セントスルニ少シノ抵抗モナク余ガ爲ス儘ニ診察ヲ受ケ其結果顔面ノ蒼白細面ニシテ年齢ニ相當シ著シキ變質徴候ヲ缺キ頭形ハ長狹ニシテ頭蓋周圍五四仙迷縱徑一九仙迷横徑九〇仙迷瞳孔口腔胸腹諸器ニ特記ス可キ事ナク左鼠蹊部ニ數個腫脹セル腺ノ連リ存セルアリ陰莖ニ下疳アリ縷帶ヲ以テ纏ハル。脈搏遲徐六十至。六七十回毎ニ一回ノ結代アリ。上下肢ニ振顫ナク筋ノ機械的刺戟ニ對スル興奮性亢進セズ。痛覺アレドモ之レニ對スル苦痛ノ情乏シク膝蓋髓反射亢進シ居ル事等ヲ知り得タリ。

又長キ觀察時間ニ互リテ彼舉動ヲ客觀的ニ目撃スルニ彼日常ノ動作ハ部屋ニアリテ同一

ノ姿勢ヲ執リ、床ノ内ニ臥シ、獨語スルヲ例トシ、其薄團ヲ剝ガントスル時ハ之レニ抵抗シ變化ナキ空房ニ日夜獨居シ居レドモ別ニ退屈スル事モナク、意思頗ル減弱シ、妄想幻覺ヲ故キ時ニ不潔症狀、放歌等ノ輕度興奮狀態ヲ認メラル事アルノミナリ。

三、診斷

以上記セルガ如ク被告伊澤紹見事松村林太郎ハ二三年前既ニ朝鮮ニ於テ頭痛眩暈、倦キ易キ等ノ病的症狀ヲ覺エ、昨年歸國後著シク不性トナリ、日々何事モセズ己ガ部屋ニ閉ジ籠リテ獨語シ、人ノ己ガ部屋ニ入り來タルヲ嫌ヒ、外出セル時ハ途上ノ小兒ヲ泣カシメ、家ニアリテハ些細ノ事ニテ父ト母ト逆フ事アリ。本年九月上旬途ニ突然家出シ、一時行衛全ク不明トナリシガ、本年〇月十八日小澤方ニ強盜ニ押シ入りタル結果法廷ニ於テ審理ヲ受ケルニ至リ、其答辯ニ前後矛盾シ又對照セザル事アルモ一向平氣ニシテ尙ホ己ガ姓名住所、原籍ヲ偽ル等ノ舉動アリ。尙ホ余ノ見タル所ニテハ彼茫乎タル表情ニ乏シキ顏貌、平氣ナル舉動、意思ノ減退シテ何モセズ不性ニ日ヲ暮ラシ、同一狀態ニ甘ンジ退屈セサル事、現在ノ時日、場所、周圍ノ狀況等ヲ聞キ糺スモ答ヘザルカ、又ハ誤レル答ヲナス事殊ニ答ノ正シカラザルニ少シモ介意セザル事、強硬症狀ノ存スル事、及ビ日常在房中ノ被告ノ舉動概ネ床中ニアリ、而カモ薄團ヲ頭ニ被リ、人ノ來リ之レヲ剝ガムトスルニ極力之レヲ肯ゼザル事併セテ時々放歌、獨語ノ興奮狀態アル事等ヲ綜合シテ考フル時ハ被告ノ早發性癡呆ナル病ニ罹リ居ル事ヲ容易ニ診斷スル事ヲ得。

四、說明

早發性癡呆トハ概シテ青年期ニ發病シ、其末期ニ於テハ主トシテ感情ノ鈍麻ト意思ノ減退トヲ現ハシ併セテ特種ノ智力衰弱ヲ呈スル精神病ナリ。而シテ本病ハ其ノ現ハレ來ル初期症狀ノ如何ニ因リ種々ノ小別ケアレドモ其ノ内全經過ニ互リ始メヨリ別ニ之レト云フ烈ゲ

シキ症狀ナク、漸次精神ノ荒廢ニ陥ルモノヲ特ニ單一性癡呆ト名ク。此ノ如キ病型ニ侵サルルモノハ、初メヨリ著シキ興奮、幻覺、妄想モ無ク自然ニ癡呆トナリ、凡テノ事ニ興味ヲ失ヒ、平氣トナリ、別ニ鬱ギ、又考フルニアラズシテ室ニノミ閉ジ籠リ、何モセズニ日ヲ暮シ、偶々人ト語ル時ハ其言フ所纏マラズ、又行ヒニ奇ナル事多キヲ特徴トス。然カルニ被告松村林太郎ノ罹カレル精神病ハ此種ノモノニシテ其茫然タル顏貌、空漠タル舉動、矛盾セル言語等皆其ノ精神ノ衰弱セル癡呆ノ狀態ニ基クモノトス。

却説スカル疾病ガ被告ニ何時頃發病セシカハ明言シ難キモ、朝鮮ニアリテ神經衰弱症ニ罹カリシトノ事ハ或ハ被告ノ現病初期ナラザリシヤト考ヘラル。事實本病ノ初期ニテ久シク神經衰弱症ノ如キ狀態ヲ呈シ居ル事多キモノナリ。又殊ニ其後チ自宅ニ在リテ一室ニ閉ジ籠リ、獨語シ、人ニ會フヲ嫌ヒ、意味ナク人ト爭ヒヲナス等ノ舉動アリシ時ハ既ニ本病ノ著明ニ發シ居レル時期ニシテ、次イデ本年夏山田喜助宅ヲ出デテ深夜途上ヲ徘徊シ、警官ニ捕ヘラレ精神ニ異常アルモノト注意サレ、又池田醫師ニ無神經ナル人ト思ハレタルガ如キハ皆共ニ其疾病狀態ノ經過中ノ出來事ト考ヘラル。

而シテ此種ノ病ハ極メテ慢性ノ疾病ニシテ或他ノ精神病ノ如ク、突然發病シ、突然輕快、治癒スル事ナク、縱令病勢ニ多少ノ消長波瀾アリテ舉動ノ好惡ト言語ノ通ズル時ト通ゼザル時ハアレドモ、夫ハ只一時の病勢ノ進退ニ外ナラズシテ、全然疾病ノ治癒又ハ再發セシモノニアラズ、隨ツテ被告ノ去年來發セル病的症狀ト十月十八日以後ノ鑑定日限内ニ示セル病的症狀トハ同一疾病ノ持續セル一經過ニシテ、十月十八日被告ノ強盜ニ入りシ時モ亦其ノ疾病ノ經過中トス。實ニ十月十八日被告ノ行ヘル強盜ハ極メテ其方法ノ拙劣ニシテ、逃ゲ得ラル可キ時ニモ逃ゲズシテ容易ニ押ヘラレタルガ如キ、又其後直チニ巡查ニ調べラルルヤ言語纏マラズシテ巡查ヨリ故意ニ狂者ヲ裝ヘルモノト目ザサレタルガ如キ、共ニ其ノ當時ノ被告精神ノ常

答意即當症

態ナラザリシ事ヲ證スルニ足ルモノナリ。豫審所ニ於テ彼前後矛盾セル答ヲナシ又ハ己レノ姓名ヲ偽リ平氣ナリシ等ノ事ハ本病患者ニ屢々見ル所ノ觀念聯合病の障礙ニシテ、夫ハ問ヒニ對シテ深カク考フル事ナク其折々偶然胸裡ニ浮ミタル事ヲ其儘無責任ニ答フルモノニシテ、精神病學上當意即答症ト名ヅケ得可キモノナリ。

次ギニ被告ノ十月十八日ニ強盜ヲ爲サムトセル直接ノ動機ハ病的觀念、例之妄想幻覺等ニ基因スルヤ否ヤハ明言スル能ハズ然カレドモ其動機ノ何ニアルニシテモ其動機ヲ批評判斷自裁スルノ能力ハ癡呆者ニ於テ之レヲ缺キ、殊ニ早發性癡呆者ニ於テハ一般感情ノ鈍麻ト共ニ或物ニ對シテ注意的張力ヲ要スル統覺作用ヲ缺クガ故ニ偶然胸ニ浮ミタル動機ハ些細ノ熱慮モ無ク殆ンド反射的ニ行爲トナリテ現ハルモノナリ。故ニ動機其モノノ病的動機ナリヤ否ヤハ暫ク措キ動機ノ行爲トシテ現ハスマデノ道行キニ於テ病的障礙ノ有スルモノト考ヘラル、依ツテ其當時ノ行爲ハ病的障礙ニ因スル病的行爲ナリト考フル事ヲ得ルモノナリ。又被告ノ伴狂ニアラザル理由トシテハ、第一、被告ノ示セル症狀ノ早發性癡呆ナル疾病症狀ト寸分違ハザル事。第二、被告ノ示セル病的症狀ハ渺ナクモ昨年以降ノモノニシテ本年十月十八日以降ノモノニアラズ、隨ツテ斯ク久シキ時間ニ互リテ系統的ニ且合理的ニ伴狂ヲ試ムル必要何レニアルヤ、之レ常識ヲ以テ判ズル能ハズ、又病者ヲ除キ常人ニハ斯ク久シキ時日ヲ通ジテ伴狂スル事殆ンド不可能ナリ。依テ余ハ鑑定ヲ作ル事左ノ如シ。

五、鑑定

一、明治四十〇年十月十八日被告ノ〇〇縣〇〇郡〇〇村大字〇〇百三十一番地小澤豐太郎方ニ強盜ニ押シ入りタル時ハ被告ハ精神病患者ナリシ。

一、其當時行ヘル強盜ナル行爲ハ其精神病ニ基ク不健全ナル精神機轉ニ基クモノト認メラル。右鑑定ハ明治四十〇年〇〇月〇〇日ヨリ同年同月〇〇日ニ至ル十四日間トス。

明治四十〇年〇〇月〇〇日

其四

ひすてりー性障礙狀態中ニ己ガ實子ヲ殺セシモノノ例證、謀殺被告人世良たけ

精神狀態鑑定書

明治四十二年五月十一日余ハ〇〇地方裁判所第〇刑事部ニ於テ裁判長判事某ヨリ被告人世良たけニ對スル謀殺被告事件ニ關シ、次ギノ件ヲ鑑定ス可キ命ヲ受ケタリ。

一、被告世良たけガ明治四十一年九月十二日午後二時頃本〇區〇〇町〇〇丁目〇十一番地被告ノ住宅ニ於テ其實子まさヲ殺害シタル行爲ハ被告ノ正常ナル精神狀態ニ基キテ行ハレタルモノナルヤ。

二、若正常ノ狀態ニアラズトセバ其精神障礙ノ程度ハ

(イ) 喪心狀態、即チ全然是非辨別ノ能力ヲ缺損シタル程度ナリシヤ、又ハ

(ロ) 精神薄弱ノ狀態、即チ是非辨別ノ能力ガ完全ナラザリシ程度ナリシヤ。

余ハ世良たけヲ同年同月同日ヨリ同年七月〇日マデ〇〇監獄内ニ於テ診察ノ上鑑定ヲ下ス事左ノ如シ。

本籍地

出生地

住所

被告 無職平民

世良たけ

明治十〇年七月二十八日生

一、事實

明治四十一年九月十二日午後二時頃東京市本〇區〇〇町〇丁目十一番地世良榮作宅ノ一室ニ於テ榮作妻被告同姓たけハ其實子まさ明治四十年七月生當時一歳二箇月ヲ殺害セリ。其當時ノ狀況中鑑定ニ必要ト認ムル事項大略ヲ其前後ノ事情ト對照シテ記スル時ハ大凡左ノ如シ。

世良榮作ノ住宅ハ四疊半六疊及ビ八疊ノ三間アリ、八疊ノ部屋ハ最奥ニ位シ、被害者まさノ切害セラレタル處ニシテ其當時神藏計一ナル人ニ部屋貸シアリシモノナリ。

同日兇行ノ存セシ事ヲ始メテ知リシハ(調書ニ因レバ)此神藏計一ニシテ即チ同人ハ同日午後二時頃歸宅セントシテ榮作宅附近ニ來タリシ途中被告世良たけニ會ヘリ。たけハ日常ト變レル様子モナクシテ神藏ニ向ヒ、只今世良ヨリ電話カカリ、世良ガ至急汝ニ用アレバ會社マデ來リ吳レトノ依頼アリシト云ヒ、過ギ行カムトス。神藏ハ汝ハ何處ニ行クヤト反問セシニたけハ無難作ニモ己ハ他ニ所用アリト言葉短ク云ヒ去レリ。神藏ハ其言ヲ信ジ、直チニ世良ヲ會社ニ訪ハムトシタレドモ、同人ノ尙會社ニ在ルヤ否ヤ判然セザレバ一應電話ニテ尋ネント思ヒ日頃知レル近隣ノ下宿屋精陽館ニ至リ聞クニ、世良ヨリ電話ノカカリタル事ハナク、反ツテ之レヨリ先キ世良たけノ同館ニ至リタル事ヲ知レリ。之ニ於テ電話ニテ榮作ノ會社ニ在ルヤ否ヤ問ヘルニ既ニ退社セリト答ヘナリシカバ、同人ハ暫ク精陽館ニ止マリ主婦ト雜談ヲ爲シ三時過ギ歸宅セリ。然カルニ表口ニハ錠前オリテ入ル事ヲ得ズ、裏ニ廻リ己ノ借レル八疊ノ室ニ入り見ルニまさノ殺害セラレタル事ヲ發見シ、驚キ斷セテ精陽館ニ至リ其主婦ト共ニ再ビ歸宅シ次イデ其旨ヲ一方警察署ニ通知セリ。之レ木件發生ノ端緒トス。

同日〇〇地方裁判所豫審判事〇〇〇同裁判書記△△△ト始メテ臨檢セル時ニハ其調書ニ因ルニ他室ニハ別ニ異常ナカリシモ奥ノ八疊ニハ其中央ニ蒲團ヲ敷キ、其上ニ白毛布ヲ擴

グ被害者まさハ西ヲ枕ニシテ仰臥シ、枕ノ下ニハ女用肩掛敷キアリ、上ハ蒲團ヲ以テ覆ヒ、屍體ノ傍ニハ綿繻帶及ビ女用ノ木枕等散在シ、枕頭ニハ花筒アリ之レニ生花ヲ供フ、室ノ南隅ニ机アリ、其上ニ長サ八寸幅五寸位ノ鏡ヲ置キ、障子ニ立テ掛ケ、室外ノ縁側ニハ金盥アリ水ヲ盛り、中ニ手拭ノ入レアルヲ認メタリ。

被害者まさハ無邪氣ナル顔ニ一點ノ醜狀ヲ呈セズ、兩眼ハ閉チ眠レルガ如キ様ニ死シ居リ、頸部ニハ綿及ビ繻帶ヲ卷キ、陰部ニモ同ジク綿及ビ繻帶ヲ當テアリ。頸部ノ綿及ビ繻帶ヲ除ケバ其部ニ當リテ中央ニ一箇所ノ突キ傷アリ、其上部ニ二箇ノ線狀ノ創傷ヲ認メラル、まさノ死因ハ其等ノ負傷ニ因スル事疑フ可カラズ。尙其傍ニ兇行ニ供セル小刀ト加害者即チ被告世良たけノ遺書三通アリキ。被告世良たけハ其當時行衛不明ニテ兇行後逃亡セシモノト思ハル。

翻ヘツテ被告世良たけノ人トナリテ考フルニ(調書ニ因レバ)同人ハ素ト明治十〇年福〇縣出生ノモノニシテ幼ニシテ同地高等小學校ヲ卒業シ、其後チ高等女學校ニ居ル事數月家事上ノ都合ヨリ次イデ福〇縣縣立病院ニ三年間看護婦ヲ奉職シ、後チ叔父ガ米國ニ居レバ之レニ頼リ渡米シテ己ハ獨立身ヲ立ムト志シ、父ノ許可ヲ得テ明治三十八年上京シ本郷區三組町〇〇方ニ止宿シ、先ヅ其目的ノ爲メニ英語ヲ習ヒ、尙渡米後必要ナル可シトノ考ヘヨリ日本醫學校ニテ産婆學講習ヲ受ケ其講習終レル後チハ割庖修業ヲ爲サムトテ某學校ニ入レリ。斯カル轉學ノ必用ヨリ諸所ニ轉宿セル内偶たけハ榮作ノ渡米志望アルヲ聽キたけハ榮作ヲ其下宿精陽館ニ訪問シ、渡米ノ方法等ヲ問ヘル事アリ。然カルニたけハ婦人ノ單獨渡米ハ法律上許可セラレザルヲ知り、兩人協議ノ末名義上夫婦トナリテ渡米ノ目的ヲ達セントセリ。而シテ後チ同人等本郷〇町ノ下宿〇〇〇方ニ同宿スルニ至リ其ノ極情ヲ通ズルニ至ル。(尙被告ノ言フ所ニ因レバ其ノ初メ情ヲ通ジタルハ榮作ノ爲メニ強ヒテ身ヲ汚ガサルルニ至レルモ

ノナリト云フ。其ノ後たけハ榮作ノ子ヲ宿セル事ヲ知ルニ及ビテ兩人意ヲ決シたけノ弟古賀圓定ノ媒介ノ下ニ明治三十九年暮正式ニ結婚ス。其當時榮作ハ尙正則英語學校ニ居リテ修業中ナリシガ本郷湯島四丁目ニ家ヲ借り家庭ヲ作り假住シ、次イテ四十年三月神田神保町ニ相應ノ家ヲ見出し之レニ引移リ文房具、煙草紙等ヲ商ヒ以テ渡米後ノ實業見習ト爲サントセリ。同年七月三日一女ヲ舉グ即チ被害者まさ之レナリ。

夫婦間ノ交情ハ爾來餘リ親密ナラス、妻ハ夫ヲ無情ナリト云ヒ夫ハ妻ヲ剛情ナリト考ヘ、ノ間面白カラザリシモノト見ユ。會々榮作ハ尙一層ノ勉強ヲ爲サンガ爲メ一時被告ヲ離別シまさテ他人ニ托シテ養育セシメント考ヘ、其ノ相談時々起レリ。然カルニたけハまさテ他人ニ托スルハ恰モ其ノ子ヲ死地ニ陥ルルガ如キモノトシ、サリトテ又其ノ子ヲ連レテ故郷ニ歸ヘルモ面目ナシト考ヘ、小供ノ處置ニ窮シ居レリ。殊ニ明治四十〇年九月初旬ヨリ夫婦ノ間ニ面白カラヌ事續キ十一日ノ夜モ亦夫婦間ニ離別ノ話起リ、被告ハ榮作ガまさテ桂庵ニ托スルモノナリト推察シまさテ他人ノ手ニ托スルヨリハ寧ロ自ラまさテ殺害シ己モ亦自殺シ、相果テント決意シタルガ如シ。

たけハ犯罪當時ノ狀況ニ就キ捕ラワレテ後チ直チニ第一回豫審廷ニ於テ次ギノ如ク述べタリ(左調書抜粹參照)。

(前略)十二日朝夫ガ會社ニ行ケル後チ、まさテ殺シ己モ自殺セント考ヘタルニ病ヲ忘レ氣ガ晴ミトナレリ。起床シテ後チ書キ置キテ書ク紙ヲ取ラントセルモ其眼無キ爲メ封筒ニ書キ自分ノ荷物ヲ行李ニ入レ、俚屋ニ頼ミ三崎町ニ行キ、飯田町マデノ切符ヲ買ヒ、行李ヲ預ケチスツキテ賈ヒ、弟ノ處ニ送り、駿河臺下ノ刀屋ニテ小刀ヲ買ヒ、歸途其附近ニテ綿ヲ買ヒ、本郷一丁目ノ左側ノ吳服屋ニテ木綿一反ヲ買ヒ、歸宅ノ後チ子守ニ今日ハ澤山菓子ヲ遣ツテモ眠ラセヨトシテ吳レト頼ミ、湯ニ行キ死後不潔ノ感ヲ與ヘザル爲メ子供ニ化粧ヲナシ、子守ト三人ニテ遊ビ次ギ

ニ邪竈ニナラヌ様子守ヲ活動寫眞ヲ見ニ行カシメ、帶側ト買物ノ殘金全部ヲ與ヘ、己ハ奥ノ八疊間ニテ其押入ヨリ蒲團ト毛布ヲ取り出ダシ、之レヲ八疊ノ真中ニ敷キ、其上ニまさテ鏡カシ、肩掛ヲ敷キ、添乳シテ眠カサムトセリ。然カレドモまさハ中ノ眠ラズ、終ニ膝ノ上ニ乗セ乳ヲ與ヘテ眠ラシメ、後チ蒲團ノ上ニ腰セ代ヘ、小刀ヲ以テまさノ咽喉部ヲ突カントセシガ其時まさ目ハ醒メタルヲ以テ眠ニ就カシメ後チ殺セリ。

其當時ハ己ノ着物ノ袖ヲまさノ顔ニ當テテ物ヲ云ハザル様ニシ、尙口ニ手ヲ當テテ突ケリ。まさガ動カザルヲ見濟シ小刀ヲ拔キ、腰ニテ用意セル綿及ビ綿帶ヲ傷口ニ當テ、尙まさノ頭部下ニ座蒲團ニ敷キ、頭部ヲ高メ、口中ヨリ出血セザル爲メニ備ヘ、又小便ヲ洩ラサズトモ限ラザレバ腰ノ邊リニモ木綿ヲ巻キ、蒲團ノ上ニ鏡ヲ立テ、尙己ノ首ノ廻リニハ木綿ト綿トヲ巻キテ咽喉ヲ突ケリ。然カレドモ之レニテ死ス事ヲ得ズ、依ツテ再度其孔ニ及物ヲ入レ、刺リタルモ更ニ疼痛ヲ覺ヘズ、又便所ノ傍ノ釘ニ子供ノ頸ヲ懸ケテ縊死ヲ計リタルモ釘ノ低カリシ爲メ死スルヲ得ズ。次ギニ釣リらんぶノ鏡ヲ懸ケ夫ニ紐ヲ下ケ縊死セントシタルニ釘ハ拔ケ又死スルヲ得ズ。然カル間ニ表ノ戸ヲ叩ク音アリ、人來リシニアラズヤトテ己ノ首ニ巻キアル綿帶ヲ解キ、更ニ新ラシキ綿帶ト取り替ヘ、着物ノ襟ヲ正シテ表口ノ方ヘ出テ見タルニ誰モ居ラズ。斯ク自宅ニ愚圖愚圖シテ徒ラニ時ヲ過ゴサバ到底自殺モ叶フマシ、一層海ニテモ入り死スルニシカズト覺リ、外出シ、精陽館ニ行キ、金ヲ借ラントセルニ唯三十錢ヲ調達シ得タルノミ。斯カル小頼ニテハ何ノ益ニモナラザルヲ以テ再ビ自宅ニ引キ返ヘシ、蠅蠅傘ヲ出シテ質屋ニ行キ、之ヲ質トシテ金ヲ借り、俚ニテ新橋ニ行キ、鏡子ニ行カントセシモ新橋ヨリ鏡子ニ行ク汽車ハナシトノ事ヲ知り、更ニ轉ジテ蠅蠅町ノ汽船宿ニ行キ、船ニ搭シテ午後八時出帆、鏡子ニ向フ。其ノ途中川ニ飛ビ込マント思ヒ何回カ鏡ヲ投ジテ川ノ深淺ヲ計リタルモ常ニ川ノ淺クシテ死ムル事叶ハズ、上陸後更ラニ其ノ川ニ投身シ死セントセシニ人來リテ死スル事能ハズ、俚ニ乘リ最モ近キ宿ナル柏崎ニ至リ、弟ニ電信ヲウチ、其ノ來ル間ニ死ナント考ヘ居リシガ夫モ亦果サズシテ終ニ捕

然カルニ十一月二十五日ノ第二回ノ豫審ニ於テハ以上記セル事ニ係リノ點アリ尙又申シ
殘コシタル點モ少ナカラズ殊ニ兇行當時ハ全ク夢中ナリ即チ十二日朝ハ頭痛烈シクシテ牀
ヲ離ル能ハズ其後ハ一切夢中ニシテ何モ知ラズ物心地ツキタルハ船中ニ始マリ前回詳述セ
ル事ハ朦朧ニ覺ヘ居リタル事弟固定ヨリ聞キタル事及ビ新聞ニテ讀ミタル事等ヲ綜合シテ
陳述セシモノナリト述ベ。尙明治四十二年一月二十九日〇〇地方裁判所第〇刑事部法廷ニ
テ同様ノ事ヲ繰リ返シ詳述セリ。

即チ以下調書ニ因ル四十二年九月四日ノ夜八時頃己ハ買ヒ物ニ行キ九時三十五分頃歸宅セ
ルニ月締リシテアリ戸ヲ叩キタルモ開ケズ餘儀ナク精陽館ニ至リ主婦ニ伴ハレテ家ニ入
ル事ヲ得タリ。然カレドモ其日外出ノ時吳モ榮作ニ頼ミ行キタル事ナド思ヒ合セバ悔シ
サ限リナク一言二言云ヒタルニ榮作ハ之レニ逆ヒ其極己チ毆打シ出テ行ケト云フ。己ハ出ル
程ノ事ナシト答ヘタルニ彼ハ然カラバ己ガ出テ行ケバ後悔スルナトテ着物ヲ著替ヘ外出セリ。
己ハ驚キ精陽館ニ行キ其主人ニ頼ミ其力ニ依リ其日ノ事ハ片付キタルモ後ノ事ナド思ヒ浮ベ
テ心細キ事限リナシ。翌五日早朝自ラ精陽館ニ行キ主婦ニ子供ヲ他ニ預ケム事ヲ謀ル。主婦
ハ子ヲ預カル預ケ親ナルモノハ大概不買ナル人ナレバ茲一年奉公人ト思フテ辛抱ス可シト諭
サレ歸宅ス。偶々榮作ハ家ニ在リテ何處ニ行キタリシヤナ問フ何氣ナク有リノ儘ヲ話シタル
ニ彼ハ然ラバ其様ニ爲シヤラムト云ヒ離縁ノ話アリキ。越エテ七日榮作ハ食後子ヲ桂庵ニ送
ルト云フ己其不可ヲ唱ヘタルニ其夜ヨリ外出シ三日間外泊シテ歸宅セズ。其間子供ハ發熱シ
愈々心配ト悔シサトテ増シタリ。(中略)十一日彼ハ夕飯後再ビ外出シ九時半頃歸リ直チニ牀
ニ就キ桂庵ノ所ニ行キタリ何レ分ルルナラ早ク分ルル方真カル可シト云フ。己之レニ承知セ
ザリシニ榮作ハ執著スル丈ケ苦勞増シ損ナリ子供ヲ里ニ預クレバ多クノ金ヲ要シ桂庵ニ頼
ム方便ナリト主張セリ。己ハ其ノ當時子設シノ記事新聞ニ多ク記載セラレ其ノ多クハ桂庵ナ

ドノ手ニ握ルモノナル事ヲ話シ(中略)尙二三問答セルウチニ悲シサ道ル方ナク終ニ悲シ泣キ
ニ聲ヲ發シタリト覺ユ。榮作ハ之レヲ聞キ悲シケレバ死ヌガ増シナリ烈キ浮世ニ居ル要ナシ
死ダトテ面倒ナシト云ヘリ。己ハ其後如何ニセバ善カラムト考ヘ、餓死スルヨリモ一層遺ツ付
ケテ仕舞ヘ(調書原文ノ儘)中略家ニ歸リテ耻シキ思ヒヲ爲スヨリモ寧ろ死ヌガ増シナリ死ヌバ
榮作モ不憫ト思ヒ改心スルナラン殺サン、金物屋ヨリ刃物ヲ買ツテ來テ遺ラント思ヒ其ノ夜
ヲ取り來リ牀ノ中ニテ父ニ宛テテ手紙ヲ書キ次ギニ榮作ト己ノ妹ト弟ト宛テ書面ヲ書キ机ノ
抽斗ニ入レ夫レヨリ子供ハ眠ヲ醒シタレバ乳ヲ遣リ其間種々ノ事ヲ思ヒ出シテ泣ケルニ子供
ハ戯レテ笑フ。己ハ其子ノ笑ヘル様ヲ見テ殺ハ心モ失セ妙ナ事ヲ考ヘテ怖ロシカリシ己狹キ
心ヨリ死セバ父モ亦死スルナラン。嗚呼危カリシ!恐シカリシト直チニ國ノ方ニ向ヒテ父ニ
詫ビ父子供ニ向ヒテモ善クコソ我等ヲ助ケテ呉レタリ母ハ馬鹿ナリシト思ハズ知ラズ云ヘリ。
其ノ後眠ラントセシモ眠ラレズサレバ今晩手紙ヲ書ント思ヒ立チ上ラントセシニ眩暈ヲ覺エ
立ツ能ハズ。止ムナク寢テ考フルニ彼手紙(遺書)ヲ翌朝他人ニ見出サレテハ面目ナシ之レヲ棄
テムトセシモ其力ナク明朝如何ニカナル可シト思ヒ居ルウチ耳ガ入ノトシ頭ハ烈シク痛
ミ頭ヲ動かカス事スラ出來ズ翌朝起キントシタルニソレモ叶ハザリシ。

然カルニ榮作ハ己チ足ニテ蹴リタル故之レハ己チ逐ヒ出ス積リナラント思ヒ悔シサ堪ヘ難
ク終ニ氣ノ茫然トスルニ至レリ。其ノ内ニ桂庵ノ室内ニ入り來レル如ク思ヘルモ如何ナルカ
判然セズ又己ガ寢テ居ル所ニ桂庵ハ子供ヲ連レ行ケト云ヒタレバ蒲團ヲ頭ヨリ被セ之レヲ拒
ミタルニ是非連レ行ケト云フ。己ハ鬼ニテモ連レ行カレル如ク思ヒテ振り放チタリ。再ビ子
供ヲ殺ロス氣ニナリシハ實ニ此時ニ起リタルモノト覺ユ又表ニ世真々ト云フ聲ヲ聞ク己ハ
ソレヨリ戸欄ニ火ヲ放タント思ヘリ。而カモ石油ヲ注ガントセル時戸口ノ處ニ桂庵ガ來リ居
ル故戸ヲ締メ鍵ヲ懸ケタルガ其後ノ事ハ全ク知ラズ。

飯〇町停車場ニ行キ事ヲ知ルモ如何ニシテ行キヤ新〇行ノ切符ヲ買ヒ荷物ヲ新〇行キ

二預ケタル事ハ共ニ知ラズ。ちつきとナ受ケ取り妹ニ送り矣レト弟ニ手紙ヲ送りタル事モ覺
 エズ。歸途小刀ヲ買ヒタル事知ラズ飯〇町停車場ヨリ歩キタルカソレモ覺ナシ小刀ニテ子供ヲ
 殺シタル事ハ覺エ居ルモ小刀ハ何時買ヒシカ知ラズ蒲團ノ内ヨリ出テタルモノト思フ。小刀
 ナ三十五錢ニテ買ヒタル事ハ覺エナシ又本〇二丁目ノ吳服店ニテ白木綿ヲ買ヒタル事モ覺エ
 ナシ歸ツテ後ヲ湯ニ小兒ト下女ヲ連レテ行キタル事モ覺エズ子供ニ化粧セシ事モナシ下女ニ
 活動寫眞ヲ見セニ遣リシハ桂庵ノ來タ前ト覺ユ。下女ニ帶側ヲ遣リタル事モ覺エズ。子供ハ
 寢セツケタルモノニアラズシテ前ヨリ寢テ居レリ。綿入ト肩掛ヲ卷キテ遣リ自分ノ方ヲ先キ
 ニ突キ夫レヨリ押ヘ居リテ子供ノ咽喉部ヲ刺シタルガ動キタル故自分ヲ縛リ手繼チカケ
 テ殺シタリト覺ユ。子供ハ直チニ死セリ。袖ヲ顔ヲ押ヘタル事ハ覺エズ。血ノ出タル事モ覺
 エズ。ソレヨリ寢タルニ騒ミシカリシカバ己モ三尺ニテ首ヲ絞リタレドモ釘ノ落チテ死スル
 事ヲ得ズ。首ヲ縛リタル儘暫時居タルニ表ノ格子戸ヲ叩ク人アリガたんト云フ音セリ。
 驚キテ外ニ飛ビ出シタリト覺ユ。子供ノ枕ヲ高クシタル事子供ノ尻ト前ニ綿ト布ヲ置キタル
 事子供ノ枕許ニ花ヲ生ケタル事自分ノ頭ヲ突ク時鏡ヲ見タル事等皆ナ覺エ無シ。其後新橋ニ
 行キタル事ヲ思ヒ出セリ。又〇殺町ニ行キタル事モ思ヒ出セリ。精陽館ニ行キタル事モ神藏
 ニ會ヒタル事モ知ラズ。唯時經テ船中ニテ物心附キシナリ。其時ノ事ヲ考フルニ云々(以下後
 條現在症中ニ記セル被告ナリ)言ヘル當時ノ狀況ト殆ンド同シキヲ以テ略ス。
 尙二月二十六日ノ調ベノ時二前回申シタル事ニ申シ殘コシタル所アリトテ彼ハ夫ヨリ罵
 詈セラレ狂人視セラレタル事毎々アルヲ語り終リニ豫審ニテ云ヘル事ノ偽リナル事ヲモ再
 述セリ。

二、被告世良たけ二對スル精神病學的觀察事項。

甲、既往歴。

(イ)遺傳以下被告ノ言被告ノ祖先及ビ近親ノモノニハ著明ナル精神病者ナク、只叔父ニ一名

異常氣質者アリシノミ。即チ父ハ目下現存シ六十一歳〇歳ト云ヒ健全ニシテ大酒ナラズ酒
 亂精神、神經病等ニ罹リタル事ナシ。母モ〇モ亦健康ニシテ持病ナルモノナク、性質溫良世人
 ヨリ賞セラルル程ナリシ。但被告七歳ノ折四十一歳ニシテ急性疾患(傳染病カ)ノ爲メ死セリ。
 父系ノ叔父〇之助叔母〇野〇〇〇母系政〇郎福〇郎ゆ〇辰〇郎ナル叔父母等中政〇郎ヲ除キ
 テハ何レモ著明ナル精神病者、神經病者、並ビ之ニ類スルモノナク皆生存ス。政〇郎ハ生來
 疳強ク機ニ觸レテハ理由ナキ傍ノ物品ヲ破壊スルナドノ行ヒアリタリト云フ。

叔母ゆ〇ハ被告ノ母ト同様ナル急性疾病即チ流行病ニテ死シ叔父辰〇郎ハ米國ニ渡リ實
 業ニ従事シ居ルト云フ。祖父母ノ事ニ關シテハ父母兩系トモニ全く不明ナリ。

母被告ヲ妊娠セル頃其ノ當時流行セル赤痢病ニ感染シ身體衰弱シ居レリト云フモ、被告ハ
 早産ニモアラズ熟産ニテ生レ又被告ノ受胎セル頃父ノ特ニ甚ダシク飲酒セシ事アリシトモ
 聞カズ。

(ロ)本人ノ生後ヨリ鑑定時日マデニ示セル事實中精神病の觀察ニ必要ナル事項。

被告ハ生來精神發育ノ病的ニ制止セルモノニアラズ、即チ被告自ラノ言ニ因ルニ正規出產
 産モ亦難産ニアラズ。出產後健全歩行言語ノ發育常人ト大差ナク七歳ニシテ母ヲ失ヒ八歳
 ニシテ小學ニ入り十歳頃一年間傷寒ナル病ニ罹カリタル事アレドモ其ノ後名ク可キ程ノ病
 ナシ。十六歳ニシテ小學校ヲ卒業シ其ノ後家ニ在リテ裁縫ニ従事シ十七歳ノ時〇〇高等女
 學校ニ行キ在學九箇月成績ハ小兒ノ時ハ良好ニシテ上席ヲ占メ居タリシガ十歳傷寒ヲ病ミ
 シ以來稍々不良トナレリ。然カレドモ落第セル事ハ嘗テナシト云フ、即チ生來魯鈍者トハ認
 メラレズ。

生來氣質快調ナリシモ七歳ノ時母ヲ失ヒ次イデ父繼母ヲ迎フルニ及ビ妹ノ身ノ上ヲ案ズ
 ルノ極始メテ被告親ヲ悲觀ノ感ヲ覺エタリト云フ。然カレドモ小兒期ヨリ奇癖暗所ヲ異常

ニ恐ル事、夜中遊行夢中遊行、痙攣等未ダ嘗テ之レ有リシヲ覽エズ、又自ラハ交際普通ニシテ友人ト交リ争ヒシ事ナク、又勝氣ニモアラズ、疥癬ヲモ起コシタル事ナシト云フ。
 長ジテ後チ、前既ニ記セシガ如ク一時福○病院ノ看護婦タリシガ、渡米ノ目的ヲ以テ之ヲ止メ、明治三十八年上京シ其目的ヲ遂ゲン爲メ種々ノ學業技藝ヲ修業シ、其間ニ世良榮作ト知り、後チ情ヲ通ジ妊娠セルニ及ビ三十九年十二月結婚シ、後チ一子ヲ舉ゲタリ。其ノ出産以前ハ強壯ナリシニ其後ハ身體虛弱トナリ、産後ノ日立面白カラズ、百日モ經過スルニ出血モ續キ、氣分鬱ギ、且當時ヨリ左下腹部ニ手掌大ノ腫物生ジ之レニ觸ルルニ硬ク、而カモ氣分勝レザル時ニハ其腫物ノ一層大トナル事ヲ自覺セリ。之レカ爲メ餘義ナク一日二日ト就褥セル事アレドモ、夫榮作ハ之レヲ厭ヒ、五月蠅ガレリト云フ。尙明治四十一年春以來眼病ヲ病ミ、駿河臺井上眼科病院ニ通院治療ヲ受ケ居レリト云フ。

以上ハ被告タケノ自ラ云ヘル事實ナルガ、其性情ニ就キ客觀的ニ見タル觀察トシテ、夫榮作及ビ圓定ノ言ヲ聽クニ(以下調査ニ因リ)夫榮作ハハ結婚後ハ不性ニシテ從順ナラズ、反抗スル事多ク、且自己ノ一旦云ヒ出ダシタル事ハ飽クマデ之レニ逆ヒ強情ニシテ己ノ意思ヲ貫徹セザレバ止マザルノ風アリ。又まさニ對シ時ニ非常ニ愛シ、時ニ非常ニ心配スル事アルモ、又時ニハ少シモ之レニ關ハズ、例ヘバまさニ夜中腹ヲ出シ寢ネ居ルモ之レニ少シモ關ハザル事アルガ如ク、一般ニ冷熱甚ダシク、且人ニ親シムノ風無ク、榮作ノ友人來ルモ之レニ會フ事ヲ避ケ、心ノ變化烈シクシテひすてり性ノ女ナル事ヲ氣附キ、又而カモ陰氣沈鬱ニシテ時々話シカクルモ、返事ヲセザル事、夜陰ニ至ルモ點火セズニ居ル事、無斷外出シテ夜遅ク歸リ來タル事稀ナリトセズ。又外出後ハ其ノ都度其故ヲ問フニ何モ答ヘザル事多ク。九月十二日ノ朝モ胸ガ痛ムトテ起キ來ラザリシ故例ノ伴病ト思ヘリ云々。
 又弟圓定ハ(調査ニ因リ)姉タケノ性狀ニ就キ、郷里ニ居ル間ハ別ニ性質ニ異常モ無カリシガ

明治四十年春上京シテ之レト會見シタルニ、時ニ怒リ、時ニ喜ビ、其氣質ノ甚ダシク變化セル事ヲ認メ、尙翌四十一年九月上京セル時ニハ其年春以來眼病ニテ困ルト云ヒ居リシガ、他人ヨリ見テハ何ノ異常モナシ、然カルニタケハ醫師ヨリ其儘ニナシ置ク時ハ大變ニナルト云ハレタレバ、榮作ニ金ヲ出シ吳レト迫ルモ出シ吳レズト愁訴シ居レリト云フ。
 又入監後ニハ(以下東京監獄ニ於ケル世良タケニ關スル報告書ニ依ル)。

明治四十一年九月十六日世良タケガ入監直後當時ノ監獄醫久○井○直ノ診察セル時タケハ悲哀ノ狀ヲ呈シ、其入監ノ理由ヲ問ヘルニ子供ノ承諾ヲ得テ子供ヲ殺害セリト言ヒ、更ニ其子ト同居シ度シト云フテ其矛盾セル事ヲ少シモ怪メル氣色ナリ、舉動落着カズ、多少不審ノ點アリシガ、九月二十一日再診セル時ニハ舉動落着キ、始メテ平常ニ復シタルガ如シ。依ツテ前回ニ云ヘル事ヲ問ヘルニ、斯カル事ヲ云ヒタル覺エ無シト答ヘタリ。
 十二月十八日、不眠、記憶減退、頭痛烈シキ事ヲ懸フ。

四十二年一月三十一日某女監取締監房ノ検査ニ來リタル時之レニ向ヒ「お叔母さんよく來て呉れた」ト云ヒ、舉動ニ多少不審ノ狀アリシガ、翌二月一日午前二時頃ニ眼ヲ醒マシ、吳ミ、モ子供ノ行末ヲ頼ミ、尙女監取締醫師ト見誤マレルガ如キ態對テ爲シ催眠藥ヲ希望シ、次イテ大聲ニテ笑ヒ、又ハ無意味ノ事ヲ繰リ返ヘシ、語リ續ク居リシ、翌朝何故ニ斯カル事ヲナセシカチ尋ネタルニ、入監後ハ夫ガ定メシ嘆キ居ルナラント思ヒ居リシニ、裁判所ニテ聞ケバ夫ハ情婦ト横濱ニ住居シ居ルトノ事ヲ知り、殘念ノ餘リ、斯カル事ヲ爲セシナラント云ヒ、又立チ上リ衣服ヲ改メ、急キ横濱ニ行カムト云フ。此處ハ監獄ナレバ蓋リニ外出スル事能ハザル旨ヲ云ヒ諭シタレバ之レニヨリ始メテ思ヒ止ミタリ。

其日即チ二月一日晝食ノ差入辨當ナ與ヘタルニ少量ヲ食シタル後チ、此辨當ニハ毒アリ、食ス可ラズ、已ハ其毒ニ當リ腹痛甚ダシクレバ醫師ヲ迎ヘ貰ヒ度シト懇願ス。翌二月二日暖ナレバ外ニ出テ掃除ヲ爲シテハ如何ト云ヒシニ掃除ナドハ馬鹿氣テ居ルトテ之レニ從ハズ、其夜ハ早

ク安眠セルカ翌朝二時頃起キ出テタリ餘リ早シト云ヒタルニ今夫が歸リタリ御身等ハ料理ノ嗜味ヲ持タザルニ困ル己ハ料理ノ學校ヲ卒業シ居ルモノナリ。折角ノ心盡クシモ毎日歸宅時聞ノ定マラザル故冷ヘテ食シ難シ今暖メントスル所ナリナドト妙ナ事ヲ口走レリ云々。

又翌二月三日ハ腹痛烈シケレバトテ藥劑ヲ求ム今食セシ辨當ニハ毒アリ異様ノ嗅氣アリシガ之レヲ食セシニ腹ノ皮ガ破レタリナドト云フ醫師暗示的ニ沃度丁幾一滴ヲ與ヘタルニ速治セリ。

二月四日出廷ス。晝食ノ麵麩ニ毒藥混ジアリトテ食セザリシ事アリ。而シテ以上ノ精神變調ハ數日前辯護士來リ榮作ガ横濱ニテ某女ト同棲セルト云ヘル事ヲ苦ニシテ起コレルモノナリト云フ。

之ヲ要スルニ被告たけノ既往症ニ於テハ母ノ弟ニ精神過敏ニシテ時々憤怒スルモノアルノ外他ニ著シキ精神病神經病者又ハ之レニ類スルモノナク、ただハ生來精神發育常人ト大差ナク、相當ノ教育ヲ受ケ、身體上ニモ特記ス可キ疾病ナク、渡米ノ目的ヲ以テ二十一歳上京シ種々修業スル所アリ、翌明治三十九年世良榮作ト結婚シ、其ノ後所ニ轉居シ、明治四十一年九月十二日即チ兇行ノ當時ハ本〇區〇〇町ニ住居シ居レリ。幼時ハ性質快調ナリシモ七歳母ヲ失ヒ、繼母ノ來ルニ及ビ多少苦勞ヲ覺ユ、上京後、殊ニ榮作ニ嫁セル後チハ自カラモ沈鬱的ノ性質ナル事ヲ識リ、夫榮作及ビ弟圓定モたけノ剛情一轍ニシテ又好惡怨ヲニシテ變ジ精神感覺過敏俗ニひすてり性ノ女ト云ヘル性格ニ符合スル事ヲ氣附カルルニ至レリ。然シテたけノ言ニヨレバ四十年七月一子まさヲ舉グルニ及ビ産後ノ經過面白カラズ、腹痛頭痛ヲ覺エテ就牀スル事アリ、又氣質變調一層烈シクナレリト云ヒ、又夫ノ言ニ因レバ、時ニ家外徘徊人ノ問ヒニ答ヘザル事アリ、又四十一年春ヨリ眼疾ヲ患ヒ、家計上ノ苦慮モ全ク無シトセズ、且たけノ考フル所ニ因レバ夫榮作ヨリ漸次輕ロシゼラルルノ風アリ、會々夫ハ進ムテ修業セムトノ志

ヨリまさヲ他人ニ托シ、夫婦分散シテ各方針ヲ附ケムトノ相談アリ、之レガ爲メ數日前ヨリ苦慮スル所尠ナカラザリシガ、九月十一日夜ニ至リ又モヤ其相談アリ、たけハまさヲ他人、殊ニ柱庵ニ委スルハ恰モ生キナガラ其子ヲ殺ロシニ遣ルト同ジト考ヘ、然カラムヨリハ自ラまさヲ殺ロシ己亦自殺セムニシカゾト思ヒ極メ、縱令一度ビハまさヲ殺サムトセル事ノ非ヲ覺リ、殺意稍ヤ失セシ事アリト雖モ、其後又直チニ不眠頭痛、眩暈腹痛等起リ、十二日朝六時夫榮作出動ノ折ニハ牀ヲ離ルル能ハズ、終ニ午後二時まさヲ殺シ、其後自殺セムトシテ果タサズ、走ツテ柏驛ニ至リ捕ヘラレ、獄ニ投ゼラルルニ至リ、第一回豫審ニ於テまさヲ殺害セル前後ノ狀況ヲ聊カモ失念セル所ナク詳細ニ語り、其後ノ公判ニ於テハ前回ノ供述ニハ伴リアリ實ハ兇行前後ノ出來事ニ失念セル事多シトテ其覺エ居ラザル處ヲ列舉シ、尙入監後時々發作的ニ常識ヲ失セル行爲ヲ呈セルモノトス。

乙. 現在證.

鑑定時日内ニ示セル彼身體的竝ビニ精神的状态

(イ) 身體症狀.

年齢ニ相當セル教育ヲ遂ゲタル丈ケ低キ(一四五)二仙迷骨格營養共ニ不良ナラザル一婦人、顔貌ハ時ニヨリ差アレドモ概シテ沈ミタル方ナリ。身體的變質徵候(即チ精神病者又ハ犯罪者ナドニ多ク現ハルル身體的特徵例之耳、頭眼、齒列、口蓋ナドノ形態上ノ異常)ハ特記ス可キ程ノモノナシ。頭形ハ圓顛ニ屬シ、周圍五三・五仙迷、前後徑一八仙迷、左右徑一五仙迷ヲ算スルモ形態ニ著シキ異常ナク、顔面左右相對ニシテ眼球ノ運動、舌唇、口蓋手足ノ運動ニ變化ナク、咽喉ノ反射異常ナク、瞳孔左右等大形正圓中等大光線反應鈍、眼球震盪症ナク、唯展ベタル手指ニ細キ震顛アルト、膝蓋髓反射ノ兩側トモ稍亢進セルヲ認ムノミ。言語運動常ナリ。足間代ナシ。足趾反應常。パピンスキー反應ナク、又手足共ニ失調ヲ呈セズ。皮膚ニ浮腫其他客觀的ニ認

メラル可キ變化ナク唯喉頭部ニ小指頭大ナル小サキ放散狀ヲ呈セル癢痕ヲ認ムルノミ。胸腹部諸内臟例之肺臟腸胃ニ著シキ變化ナシ。

然カルニ最モ著明ナル身體的病的疾候トシテ(一)甚ダシキ視野ノ狭小ト(二)皮膚感覺ノ異常トヲ認メラル。視野ノ狭小トハ視界ノ狭クナレル事ノ謂ニシテ視野トハ吾人一眼ヲ閉ヂ片眼ニテ其眼ニ垂直ナル一點ヲ見詰メ同時ニ其ノ眼ヲ轉ズル事ナクシテ見得ル區域ヲ謂ヒ普通之レヲ計ルニハ其眼軸即チ垂直ナル線ト爲セル角度ヲ以テ標準トス。然ルニ其ノ視野ノ範圍即チ角度ハ色ト方角トニヨリ差アリ例ヘバ白色ニテハ外方九十度上方ニテハ約五十五度乃至六十度下方ニテハ約六十度乃至六十五度内方ニテハ大凡六十五度乃至七十度ナルヲ例トシ青色赤色綠色皆各其角度ヲ異ニスルモノナリ。然カルニ病的ニハ殊ニ外方半分ノ見エザルモノ内方半分ノ見エザルモノ四分一圓ノ見エザルモノ又ハ中央部ノ見エズシテ周圍ノ反ツテ良ク見ユルモノアリ。而シテ今被告世良たけノ視野ヲ測定スルニ白青赤綠色兩眼トモ殆ンド五六度乃至十度ニ止マリ常人ノソレニ比シ著シク狭クナリ居ル事ヲ認メラル。斯ク各色ノ見得ル視野ガ大凡ノ方向ニ於テ平等ニ四方トモ同様ニ狭クナリ居ルモノヲ同心性視野狭小症ト名ク。(原文ニハ尙茲ニ視野圖ト圖解アルモ茲ニ掲ゲズ)。

次ギニ彼女ノ身體諸所ニハ普通ノ人ニテ感ジ得ル程度ノ觸レテ全ク感ゼズ又ハ其ノ反對ニ強ク感ズル所アリ。又針ヲ以テ輕ク刺シ試ムルニ或部位ニハ痛ミヲ全ク感ゼズ他ノ所ニハ異常ニ烈シク覺ユル所アリ。冷温ノ感覺ニ於テモ亦同様ニシテ強ク感ズル所ト弱ク感ズル所ト有ルヲ知ル。(圖ト圖解アルモ茲ニ省ク)。

然カル時ハ腹部殊ニ左下腹部ハ痛覺觸覺トモ頗ル過敏ニシテ次イデ左背肩胛下部ト名ケラルル場所ニ痛觸覺過敏著シク胸部殊ニ左側ハ痛觸覺共ニ過敏ナレドモ左胸部ハ觸覺ノミ過敏ナリ。之ト同ジク右足趾あしのうらハ觸覺ノミ過敏ニシテ左足趾ト右足背下側ハ痛覺

ノミ過敏ナル事ヲ示ス。

又前額部右上方搏共ニ其前面一帶左上膊及ビ前膊ノ外側下肢及ビ下腿ノ内側足ノ内側及ビ足趾ノ之レニ接スル内側面ニ觸覺ノ減退ヲ認メ右上方背全部左下腿内側前面足背左下腿前面ニ觸覺消失ノ部アリ。痛覺消失ハ左上膊前膊ノ後面外側ト手背一面下腿中有側大

腿外前面下腿外前面左側大腿外面下腿前後後面足背等ニ認メラル。温覺冷覺ハ圖表ニ示スガ如ク右ト同一ノ符號ヲ以テ現ハス時ハ其障礙同ジク腹部殊ニ左下腹部ニ最モ烈シク右下腹部左右胸部ハ之レニ次ゲル温冷感覺ノ異常過敏ヲ示シ背面左側季肋部ニ温覺ノミノ過敏帶アリ下肢ノ外側ハ大腿下腿トモ温覺ノ脱失ヲ示シ尙下腿ニハ其ノ脱失區域内面ニモ及ビ足趾ハ共ニ温覺ニ對シ感ジナシ右手背ハ温覺ニ對スル感覺稍ニ減退ス。

斯クノ如クシテ被告世良たけハ常人ト違ガヒ或場所ニハ温覺冷覺觸覺ニ對シ或ハ異常鋭敏ニ或ハ異常遲鈍ニ又ハ稍々減退スルノ狀ヲ呈ス。

其ノ他又たけハ耳ニ何物カ入り來ラントスル時ハ甚ダシク之レヲ厭フ。其ノ故ヲ問フニ耳ノ傍ニ何物カ來ル時ハ恐怖甚ダシト答フ。又凡テノ音が強ク響キ苦メル事ト時々何モ聴ヘザル事アリト云フ。然カレドモ後者ノ症狀ハ余ハ鑑定時日内ニ之レヲ見出ス事能ハザリキ。

又彼女ハ六月二十三日ニハ前夜來左ノ下腹部ニ手掌大ノ腫物アリ之レガ心窩部ニ上リ來リ且大サヲ増シ尙動ク如ク思ハレ疼痛甚ダシト云フ。然カモ容觀的ニハ斯カル異物ヲ觸ルル事ナシ。又左腸窩部ハ一般ノ壓迫ニ對シ感覺鋭敏ナルヲ例トスルモ殊ニ或部ハ壓迫ニ對シ疼痛烈シク人若シ其部ノ皮膚ニ觸レムトスル有様ヲ示ス時ハ唯其ノミニテ早ヤ顔ヲ歪メ疼痛ヲ覺ユルガ如キ顔貌ヲ示ス。又同ジク六月二十三日ハ胸骨ヲ壓スル時ハ何レノ部位ノ

壓スルモ異常ニ疼痛ヲ覺ユト訴フ。其ノ他頭顱ノ中央部、乳房部、季肋部著柱等ニハ壓迫ヲ與フルモ痛ミヲ覺エズ。味覺、嗅覺ヲ委細ニ檢スルモ著變ナシ。

(ロ)精神症狀

余ハ彼ヲ〇〇監獄ニ於テ前後數回診察シタルニ何レノ時ニ於テモ起居應對動作一見常人ノ如ク短時間ノ對話ニ於テハ聊カモ狂者ナリトノ念ヲ惹キ起コセルノ時ナシ。然カレドモ稍々暫ラク彼ト對話セル後チニハ、余ハ彼ノ精神狀態ヲ見ル度毎ニ多少ノ變調アルヲ認メ、殊ニ其ノ内一回ハ一瞥シタル所ニテハ假令其外見常者ノ如キモ、其實著シキ病的狀態ニ陥レル事ヲ認メタリ。

即チ六月十六日午前余ガ始メテ彼ヲ見タル時ハ彼ハ沈メル面持チニテ低キ力無キ聲ニテ話シ平氣ナル可キ對話ニモ涙ヲ拭キ乍ラ屢々泣ク事ヲ認メタリ。從ツテ余ハ當日ハ特ニ意ヲ用ヒ、犯罪當時ノ狀況ト榮作トノ關係ナドヲ聞ク事ヲ避ケ、現在ノ時日場所、周圍ノ狀況ヨリ遺傳、經歷ナドヲ尋ネ、悲哀ノ念ヲ促サン事ヲ避ケタリ。然カレニソレニモ關ハラズ彼ハ斯カル事ヲ答フルニモ既ニ潛然トシテ泣キ、時ニ答フル事スラ能ハザリシ。

斯ク彼ノ感情ハ悲哀的ナレドモ、其ノ答フル事ハ常理ニ叶ヒ聊ノ錯亂ヲ呈セズ、談話ハ稍々贅長ノ傾キアルモ、現在ノ時日場所、周圍ノ狀況ニ關スル認識完全ニシテ聯合ニ大ナル病的異常ナク、既往ノ事實ニ關スル追想モ略ボ可ナリ。唯其ノ語ル事實ノ或ハ兩親、伯父、伯母ノ事、自己ノ上京ノ年月、高等女學校ニ入學セシ時ノ事柄ナドヲ聞クニ、或ハ其年月ヲ審カニセザル事アリ、又ハ事實ヲ前後シテ語り、ハ誤リナラズヤト問ハレテ始メテ其誤リヲ正シ、又ハ正事スラ能ハザル事、又榮作トノ關係及ヒ犯罪當時ノ事ヲ聞クニ、其ハ既ニ裁判所ニテ毎度申シタルバ最早申上グル事ヲ許シ、吳レト云フヲ耻ヅルガ如キ風アリシハ、多少余ノ注意ヲ惹ケリ。之レヲ要スルニ余ハ此日彼皮膚感覺異常、並ビニ視野ノ大ナル缺損アル事ヲ發見セルト感情

ノ悲哀的ナル事トヲ認メタルノ外種々、彼ノ經歷ナドヲ數時間ニ互リ聞ケル間ニ著シキ精神病者ナリトノ點ヲ見出ス事ヲ得ザリキ。

然カルニ第二回目、即チ六月十九日ニ余ガ彼ヲ見タル時ハ寧ろ樂シゲナル面持ヲナシ自ラ進ムデ己ノ經歷其他ノ事實ヲ語ラントスルノ風情アリ、其際言語應對共ニ前回ニ比シ一層明晰秩序正シク、且稍々迅速ナリ。而シテ其ノ答ニヨリ、彼ハ前回ト同ジク現在ノ場所時日、周圍ノ認識モ正シク、聯絡判斷モ常ナル事ヲ認メ、身體的ノ檢査ヲ行ヘル間ニ何等カノ病アルヤヲ問フニ自ラ全ク無病ナリト云ヒ、病アリト云ヒテ故意ニ病ヲ伴ルコトナゾ更ラニナク、又後日認メタル心氣性念慮等モナカリシ。

然カルニ之レニ反シ、二十三日即チ第三回目ノ診察ノ時ハ一見其應對舉動前回ノ時ト大差ナカリシモ、余ガ深く問ハントスルニ當リ、本日ハ昨夜ヨリ頭痛ヲ覺エ朝來腹痛之レニ加ハリ尙腹部ニ腫物ヲ觸ルトテ左下腹部ヲ指ス。余ハ此言ヲ聞キ彼ノ顔貌ヲ注意スルニ平日ニ比シ苦悶ヲ帶ビ且稍々茫乎タルノ風アリ。茲ニ於テ余ハ或ハ彼ガ意識渾濁ノ狀ニ陥レルモノニアラズヤト推シ、特ニ後日ノ參考ニ供セムトシテ種々ノ事ヲ問ヘリ。余ハ先ヅ彼ニ指南力ヨリ問ヒ始メタルニ現在居ル所ヲ〇〇監獄ト云ヘルモ、現在ノ時日ヲ詳知セズ、今日ハ二十日ナラント云ヒ疑フ色アリ、又月ハト問フモ知ラズトテ訝カリ、余ノ名ヲ問ヒシニ三宅様ト答ヘ、何故ニ此所ニ來タレルヤト問ヘルニさち子ガ私ヲ此處ニ入レタリト答ヘ、さち子トハ夫ノ情婦ニテ今ハ夫ト共ニ横濱ニ住居シ、私ガ邪魔ニナル故此處ニ入レタルナリト云フ。尙重ネテ先生モさち子ヲ御存ジナラント云ヘリ。余ハ更ニさち子ガ入ルルトシテモ犯罪ヲセヌモノガ監獄ニ入ル事ナカル可シト云ヘルニ、夫ハ判カラズト答フ。汝ハ子ヲ傷ケタルニ因リ此處ニ來レルニアラズヤト問フニ、不審ナル顔ヲナシ、否ト曰ヒ、まさハ家ニ居ルト言ヒ張リ、汝ハ誰ト共ニ此所ニ來リシヤト問フニ、世良ト兩名ニテ來レリ、其時ハ子供ハ家ニ居レリ、まさハ私ガ

出タル時ハ健康ナリシガ其後ハ如何ニ爲シ居ルヤ知ラズ私ハ其ノミヲ案ズル故早く歸リテ
 子供ヲ見度シト思フト云ヒ全クまさ子ハ自己ガ殺セシモノトハ思ヒ居ラザル風ナリ。依ツ
 テ余ハ然カラバ問ハンソノ頭部ニアル瘰癧ハ如何ニシテ生ゼシヤト其瘰癧ヲ指シテ問フニ
 彼ハ不審ナル顔ヲナシ暫ク答ヘズ。依ツテ余ハ示スニ鏡ヲ以テシ其瘰癧ヲ見セシメシニ時
 久シク眺メタル後チ不思議相ニ之レハかきこわしたルナラント云ヒテ鏡ヲ見詰メ居レリ。
 余ハ次イテ汝ハ汝ノ子ヲ殺シ然ル後チ自殺セントテ此所ニ負傷セルニアラズヤト反問セル
 ニ彼ハ驚キト怒リノ風ヲ示シ暫ク無言ニテ余ヲ瞰ミ居リシガ後チ我子ヲ如何ニ殺ス可キト
 云ヒ次デ稍々憂フル色ヲ爲シ斯カル事ヲ問ハルルハ何カ我子ニ變事デモアリシナラズヤト
 反問セリ。余ハ彼ガ全クまさノ死セル事ヲ現在ハ追想シ得ザルモノト知リタレバ更ニ語ヲ
 轉ジテ種々ノ事ヲ問ヘルニ昨夜來烈シキ頭痛腹痛ヲ覺エ殊ニ左下腹部ニ硬キモノヲ觸レ其
 腫物ガ胸ニ上リ來リ苦惱堪ヘ難キヲ以テ醫藥ヲ乞フモ未ダ之レニ接セズト愁訴シ又自ラ肺
 病ナリト自信スル旨ヲ述ブ余ハ其故ヲ問ヘルニ咳嗽喀痰多キ爲メナリト答ヘ醫師ニ診察シ
 テ貰ヒ之レヲ問フニ醫師ハ匿クシテ其實ヲ告グズト訴ヘ現ニ今モ我ガ左肺ニテぶつぶつ
 大ナル音聞ユ其音ハ貴下ニ聞ヘザルカト反問シ又常ニ同房者ニ寤メラレ現ニ今朝モ同房者
 ヨリ罵詈サルルト云ヒ何ト云フテいぢめらるヤト問フニ多クハさち子ニ關セル事ヲ聞カサ
 ルト答ヘさち子ノ事ハ同房ニ誰モ知ル人ナカル可シト問フニ否誰モ皆知リ居ルト答ヘ尙己
 ノ事ヲ氣遣ヒ々々ト五月蠅キ程細キ聲ニテ云ヒ又其他茲ニ語ルヲ耻ヅ可キ事スラモ云フト
 訴フ。更ニ計算ヲナサシムルトテ百ヨリ十三ヲ減ジ其残りヨリ又十三ヲ減ズル如ク連續的
 ニ百ヨリ十三ヲ減ゼシムルニ先ツ九十七ト云フ。次ギニ其ヨリ十三ヲ減ゼシムルニ急ニ答
 ヘズ急ギ答ヘヨト命ズレバ左様早クハ出來ズト答ヘ餘程時經テ始メテ九十三ヨリ十三ヲ減
 ズレバ八十八十ヨリ十三ヲ引ケバ五十七五十七ヨリ十三ヲ減ズレバト云ヒタルノミニテ其

ノ後チ暫ク時經ルモ答ヘ全クナシ。

試ミニ再ビ犯罪ノ事ヲ聞クニ彼ハ全ク知ラザルガ如クまさ子ノ健否ヲ却ツテ余ニ向ツテ
 問ヒ余ハ調書ヲ出シ其中ニアル被居宅ノ圖ヲ示スモ誰ノ家ナルヤ不明ナリト云ヒ其ノ表記
 ニ謀殺云々ノ文字アルヲ不審ニ思ヒ謀殺トハ何ナルヤト余ニ反問シ又榮作ニ遺書ヲ書キタ
 ル事ナドヲ問フニ其意更ニ解セザルガ如ク答ナシ又電報ヲ圓定ニ出ダシタル事無キヤト問
 フニ此所ヨリカト反問シ又何處ヨリニテモヨケレドモ出シタル事アリヤト問フニ然リ打チ
 シ事アリソハ神田ヨリ佐度ニ打チシナリト答ヘ犯罪當時及ビ其ノ前後ノ模様ハ全ク追想シ
 得ザルガ如シ。斯カル精神變調ハ前日同房者某十年ノ服役ニ處セラレタルヲ聞クニ歸因ス
 ト云フ。

越エテ六月二十九日ノ第四回目診察ノ時ハ余ガ彼ヲ見タルウチニ最モ意識明瞭ナル時ニ
 シテ指南力即チ現在ノ時日場所ノ認識ハ勿論記憶モ正確ニシテ感情モ激シ易スカラズ犯罪
 當時ノ事ヲ語ル可ク命ゼルニ心地好ク語レリ。勿論其事ヲ語ル間ニ悲シキ所ニ至レバ悲シ
 ゲナル様ヲ呈スル事アルモ夫ハ別ニ原因無キ悲哀ト異ナリ普通ノ事ト認ム可キナリ。而シ
 テ彼犯罪當時ノ事ニ關シテ言フ處ハ前記二月二十六日ニ云ヘル調書筆記ト大差ナシト雖モ
 尙多少ノ差違ナシトセズ。然カレバ犯罪當時ノ模様ニ就キ彼ガ云フ所ノ言ノ毎回如何ニ異
 ナルヤヲ明カニシ又其ノ言ハ其ノ當時意識明瞭度及ビ其内容ヲ察知スルニ重大ナル關係ア
 ルヲ以テ稍々重複ノ感ナキニアラザルモ彼ガ云ヘル儘ヲ茲ニ詳記スベシ。

(前略)九月四日ニハ私ヨリ夫婦分レノ相談ヲナシ子供ヲ他人ニ預ケテ夫ノ勉強出來ル様ニナ
 シヤラムト考ヘ五日朝九時頃ニ精陽館ニ行キ其旨ヲ語リ己ハ產婆ニモナラバ知己親戚ニモ醫
 師アリ自活ノ出來ザル事モアルマシト語りタルニ家婦ハ然カル事ヲ云フヲ止メヨト諭シ突レ
 十時半頃歸宅ス。然カルニ夫榮作ハ己ノ平常ノ著物ニアラザル事ヲ認メ何處ニ行キタルヤト

問フ、妾ハ包マズ凡テノ事ヲ語レリ。榮作ハ然ラバ汝ノ思フ様ニセヨト云ヒ、夫婦別レノ話シテナセリ。後チ六日午後二時榮作ハ他ヨリ歸ヘリ來タリ之ヨリ他ヲ訪問セントスルモ其人ハ夜ナラデハ居ラヌ故夜行カントテ夕方外出セリ。然カルニ其後歸ヘリ來ラズ、後チニ思ヒ出セバ其日外出ノ時ハ平素外泊スル時ト違ヒ手帳其他ヲ携フル事ナク、且何トナク潤レテ見エタリ。之ハ或ハ此方ヨリ離縁ナドヲ云ヒ出シタルニ因ルナラズ、相濟マヌ事ヲセリト心配セリ。其後二三日歸ヘリ來ラズ、其間ニ子供ハ病氣ヲナシ、熱高カリシカバ尙一層心配ニ堪ヘズ、若シ其間ニ子供ノ死ニモヤセバ取り返シ附カズト思ヒ、出先ヲ開カムト思ヒ煩ヘル事アリキ。然カルニ夫ハ歸ヘリ來リタレバ一先ヅ安心シテ留守中ノ話シナドヲナシ、又繼母ノ事ナドヲ話シテ離縁ノ事ハ思ヒ止マル方宜シカレ可シト相談シテ、然ルニ十一日ノ夜夫榮作ハ酒量素ト大ナリシモ其前二三日外泊シテ飲酒シタルニヤ胃惡シトテ其日一盞ヲ傾ケタルノミニテ外出シ、外出後一時間モ立チテ歸リ來リ、曰ク桂庵ニ行キ子供ヲ預ケル極メテ來レリ云々。妾ハ其當時新聞紙上ニ桂庵ノ人殺ロシ人鬼ナド云フ記事多ク連載セラレタルヲ讀ミ居リシカバまさ子ハ桂庵ニ渡スハ恰モ子ヲ殺ロシニ遺ル様ナリト思ヒ、ソハ止メラレタシト榮作ニ述ベタルモ、更ニ聞キ入レズシテ眠リタル様ナリ。己モ今ハ是迄ナリト思ヒ、就キ眠ラムトスルモ眠ル事能ハズ、考ヘハ湧キ出テ、頭ハ痛ミ、益々眠ル事能ハズ。一時ハ國ヘ歸ヘランカトモ思ヒシガ成功モセズニ歸リテハ親兄弟ニモ面目ナシ、然レバ一思ヒニ死スル方ヨカラント決心シ、何時頃力定カニ明カナラザレドモ神藏ノ部屋ニ行キ其室ニ置キアル榮作ノ机ノ上ヨリ硯ヲ持チ來リテ机ノ中ニテ四通ノ遺書ヲ書ケリ。其ノ當時机ノ上ヨリ硯ヲ下シタル事、又遺書ヲ書キ居ル間ニ榮作ガ眼ヲ開キタル様ナレバ驚キ書キツアリシ遺書ヲ蒲團ノ下ニ入レタル事モ微カニ知ル。次イテ神藏ノ部屋ニ行キ、其遺書ヲ机ノ下ニ擴ゲアル新聞紙ノ下ニ隠シ電車ニテ轢死セント思ヘリ。然カレドモ轢死シテハ死後ノ風體見苦シカレ可シト氣附キ、又思ヒ直シテ刺シ殺ロサント考ヘ、子供ノ傍ラニ行キ子供ヲ連レ來ラントセシニ、子供ハ逃ゲ加留シナガラ部屋ノ彼方ニアルらん

ぶ臺ノ方ニ行キらんぶニ向ヒテ手ヲ擴ゲ嘔トシテ笑ヒ樂シメリ。其時ノ笑ヒハ日頃ニ無キ高笑ヒニシテ妾ハ其様ヲ見テ急ニ正氣附キ、死ヲ決ヒシ事ノ淺基ナリシ事ヲ思ヒ出シ、嗚呼吾ナガラ恐ロシクモ斯カル無分別ナル事ヲナシタルカ。吾自殺セバ親モ國元ニテ恨ミ死スナラム、若シヨクトナレバ兄弟親戚モアレバ助ケテモ呉レルモノナ。何トテ人ヲ殺ロシ又己モ死セムナドノ考ヘチ起コセシモノゾト、思ヘバ己ノ罪仇恐ロシク、身ヲ切ラレル思ヒアリ、幸ヒニモ思ヒ返シタルハ之レ偏ヘニ子供ガ笑ヒ吳レタレバナリ。斯ク考ヘテハ急ニ子供ガ有難クナリ子供ニ禮ヲ云ヒ、尙如何ナレバ斯モ己ハ馬鹿トナリシト、悔シクモアリ、又恐ロシクモアリ、今後ハ凡テノ事ヲ實行スルニハ何事ニヨラズ他人ニ相談セネバ爲スマジト思ヒテ牀ニ入り子供ヲ抱キ寝タリ。

然カレドモ再ビ榮作ノ事身ノ行末ナドヲ考ヘ出シテハ如何ニシテモ榮作ニ勉強セシメ遺ラム、榮作ニ氣ヲ落サシメズシテ勉強チナサシメタルナラバ自カラ遊蕩モ止ミ、身ヲ入レテハ、スルナラン、ナドト思ヒ煩ヒ、又一睡モスル事能ハズ。斯ク眠ル事出來ホバ一層手紙テモ書キ時ヲ費ヤサント思ヒ立ツテ書翰紙ヲ取ラムトス。未ダ立チ上ラザレニ眩暈シテ體ト倒レ、一時夢中トナレリ、醒メテ見ルニ言ヒ知レヌ不快ノ感ヲ覺エ、頭ハ重クシテ破ルルガ如ク、到底筆ヲ執ル事スラ叶ハズ、サレバ餘儀ナク又眠ラムトセルニ色々ノ事胸ニ浮ビ一時ハ前ニ書キシ書キ置テ後日人ニ見ラレルヲ耻ヅル故破ラントテ起キントセシ事アリシモ立ツ事スラ能ハス。又留ヒ出サントスルモソレモ叶ハズ。斯クテ全ク不眠ノウチニ夜ハ明ケタリ。其日ハ兼ネテヨリ早ク起クルノ必要ヲ知レバ起キントセルモ頭痛、胸痛、腹痛ノ爲メ起クル能ハズ。困リ居レル所ニ榮作ハ來リテ起キヨト云フ、自カラハ其聲ニ應ジ起キンスルモ起クル能ハズ。榮作ハ怒リテ己ノ頭ヲ輕ク蹴リタリ。妾ハ悲シサ差シ込ミ返事ヲセムトスルモ言葉出ズ、返事ヲセヌニ榮作ハ益々立腹シ、返事モセヌトテ此度ハ力ニ任セテ強ク頭ヲ蹴タリ。頭ハ碎クルカト思ハン許リニ痛ミ出セリ。心ハ口惜シクテ堪ラズ。直チニ其足ニ噛ミ附カント思ヒタルニ、其ノ後覺エズ

如何ニモ様子ガ變リ船ノ様ナリトテ四圍ヲ見廻ハスニ正シク船ノ様ナリ。半信半疑ニテ歩
 キ見ルニ汽鐘モアリ正サニ船ナリ。サレバ其處等ニハ子供ハ居ラズヤト探セルニ見當ラズ。
 何處ヲ見ルモ知ラヌ人ノミナリ。歩キ乍ガラ不圖鏡ノ前ニ至リ己ノ姿ヲ見ルニ淺マシヤ己ノ
 風ハ平素トハ異ナリ。他ノ人ハ單衣ニ羽織位ナルニ己ハ綿入ノ羽織ト綿入ノ衣服ニ長下襦袴
 ト二枚ノ襦袴ヲ著十四五歳ノ小娘ノ挿ス如キ大ナル花簪ヲ挿シ居レリ。妾ハ一目見ルヨリ悔シ
 サノ餘リ其ノ簪ノ花ヲめちやめちや破リタリト覺ユ。如何ナレバ斯カル所ニ居ルカ不思議
 ニテ堪ラズ。夢ナラズヤ。若シ夢ナラバ早ク覺メヨカシ。暫ク眠ムルウチニハ醒ムルナル可
 シトテ伏スモ醒ムル景色更ニナシ。其ノウチ船ハ停マリタリト見ユ。又動キ出ダシタリト見
 ユ。愈々事實ナリ。何時マテ經ツモ同ジ事ナリ。不思議ト思ヒ起キ出ダセルニ隣ノ人ハ御氣
 分ハ如何アスト問フ。妙ナ人カナ。己ヲ病人トテモ思ヘルニヤ。不思議ナリトト。暫ク見
 詰メ居レリ。夫レニシテモ不思議ト思ヒ此所ハ何處ト問ヘルニ彼人ハ又不思議ナル問カナト
 云ハン許リニ己ヲ眺メテ答ヘズ。己ハ再ビ此所ハ船ノ様ナルガト云ヘルニ彼人ハ始メテ口ヲ
 開キ妙ナ顔ヲナシ然リ船ナリ。貴女ハ私ト一緒ニ蠟燭町ヨリ來リタルニアラズヤト答フ之レハ
 失策セリ。茲ハ正サニ船中ナリ。シカモ妾ハ蠟燭町ヨリ來タリシニヤ。ソレニシテモ餘リ其場ノ
 氣マシ惡ルサニ否妾ノ問ヘルハ今停船セル所ハ何處ナリヤト問ヘルナリト云ヒ紛ラシ夫レヨ
 リ其人ノ語ル所ヲ聞クニ己ハ蠟燭町ノ汽船同屋ニ入りテ待合ノ廣間ノ隅ニ其男ノ傍ニ横ニナ
 リ居リシガ其男ハ己ガ如何ニモ病人然トシテ居リシトノ事ニテ惻隱ノ情禁シ難ク何處ニ行ク
 ヤト問ヘルニ己ハ銚子ニト答ヘタリト。然カル後チ船ノ出ヅル様ニナリテ妾ハ其男ニ促ガサ
 レ其男ニ仕末セラレテ船ニ乗リ船中ニテモ其男ヨリ介抱セラレ此處マテ來レルモノナリト云
 フ。茲ニ於テ不審ハ愈々増シ今ハ何時ナリヤト問フニ五時頃ナリト答フ。扱テ不思議。今朝
 六時ニハ確カニ家ニ居リシニ今又五時トハ受取レズ間違ヒナラン。己ハ今朝六時ニ醒ラレ殘

念ト口惜サトニ家ヲ飛ビ出ダシタルト思ヘルニ今五時ニテハ勘定合ハズト考ヘ數回念ヲ押シ
 テ之レヲ確メタルニ同ジク五時ナリト云フ。而カモ今迄此處ニ寢テ居レリト云フヲ聞クニ至
 リテハ妾ハ何チ狼狽ヘテ家ヲ飛ビ出シタルカ嗚呼子供ハ定メテ泣キ居ラン子供ハ他人ノ手ニ
 ハ馴レザルモノナリ。まゝハ牛乳ヲ好マズ己ガ不在ニテ定メテ空腹ニ泣キ居ラン斯ク思ヘバ忽
 チ腸ヲ斷ツノ思ヒアリ。急ギ歸ツテまゝニ會ハント思ヘバ聊カノ猶豫モ出來ズ。次ギノ停
 船場ニテ彼男ニ何矣レトナク世話ニナリ傘ナドモ出シテ貰フヒテ船ヲ降りタリ。其際彼ハ井
 上半藏ト云フモノナリトテ自己ヲ紹介シ己ハ又シカシカノモノトテ宿所マテ教ヘ再會ヲ約シ
 其親切ヲ謝シテ別レタリ。

次イテ鎌屋ニ入りテ後チ弟古賀圓定ニ電報ヲ以テ金子届ケ賈ヒ度シト申シ送レリ。之レモ
 一ニハ斯クセバ彼ハ子供ヲ連レ來ル事ト思ヒテナリ。鎌屋ニテ乳ハ張リ其乳ヲ見テハ子供ノ
 事ヲ思ヒテ泣ケリ。其聲ニテ女中來レリト覺ユ。斯カル間ニ空腹ト疲勞ト覺エル事甚ダシ
 クレバ一休ミセムトテ寢タリ。午後二時頃頭痛ノ痛ムニ因リ目醒メタリ。指チ其痛ム所ニ當テ
 タルニ傷アルヲ知リ驚キ下女ヲ喚ビ鏡ヲ借リ見タルニ一寸位ノ傷アルヲ發見シ驚キ且怪シミ
 何故ニ傷ノ有ルカ其ノ理由ヲ説明スルニ苦メリ。又乳ヲ見テハ子供ノ事ヲ想ヒ其度毎ニ泣ケ
 リ。下女ハ左程泣クトモ何ノ致ナケレバ顔ヲ洗フガ宜カラント勸メ呉レタリ。己ハ其好意ヲ
 謝シ階下ニ降り鏡ヲ見テ驚ケリ。己ノ顔ハ化物ノ様ニ御化粧チナシ居レルナリ。何タル風ヲ
 シテ今迄諸所ヲ彷徨ヒ居リシカト己自ラ我身ヲ蔑ムノ念禁ズル能ハズ再ビ階上ニ上リ寢テ考
 フルニ漸々茫然トシテ家ニ子供ヲ殺シタル事ヲ夢ノ如ク憶ヒ出セリ再ビ考フルウチニハ榮作
 ガ負傷シ入院セル様ニモ思ハレ且恐ヒ且疑ヒ考フルウチニ若シヤ己ガ自ラ子ヲ殺セシニアラ
 ズヤ若シ然カラバ最早生き長ヘルモ何ノ甲斐ナキ事ナリ一思ヒニ裸死セント考ヘ外出シ其夜
 巡查ニ捕ヘラルルニ至レリ。(中畧)

其夜ハ全ク不眠ナリシガ其間モ家ニ在ルガ如ク又ハ旅宿ニ在ルガ如ク萬事半信半疑ナリシ

時ニ又家ヲ飛ビ出サントセルニ隙子ニ釘ヲ打テ附ケアリテ出ヅル事叶ハザル事モアリシ様ニ思ヘリ。又子供ガ其處ニ居ル様ニモ思ヘリ。實ニ萬事ガ不思議ノミナレバ子供ノ生死ハ翌朝早ク新聞ヲ借リ見テ其眞偽ヲ決セント思ヒ翌朝早ク心待チニ待チタル新聞ヲ借リ見タルニ無殘。萬朝報ニ本郷ノ會社員愛兒殺云々ノ記事アリ。正シク己ガまさナ殺ロセルナリ。其時ノ悲シサ、今茲ニ言ヒ難シ、又、死ヲ決シタルモ果タサズ。間モナク古實圖定來タレリ。弟ハ最早死セルナラント思ヘル姉ニ會ヘルヲ以テ喜ビ自首ヲ勸メ、尙矣、モ自首シテモ裁判所ニテハ其當時ノ事實ヲ知ラヌ様云ヘト教ヘタリ。妾ハ始メ何故ニ斯カル事ヲ云フヤナ解セザリシ。後チ之レハ己ノ罪ヲ免レシメムガ爲メナルヲ知り、罪ノ免ガレルハ素ト己ノ望マザル所、死刑コソ求ムル所ナルヲ以テ新聞ニテ讀ミタル事古賀ヨリ聞キタル事、己ノ茫然ト記憶シ居ル事ナドチ忘レザラン様ニ暗誦シ、第一回豫審ニテハ之レニ知ラザル事柄マデモサモ知レルガ如ク述ベタリ云々。

又前回、即チ二十三日余ガ彼ヲ檢シタル時ニ彼ハ其當時意識瀟灑シ居ル可シト思ヒタルガ故ニ特更種々ノ事ヲ問ヒシガ試ミニ今其當時ノ事ヲ聞クニ彼ハ全然之レヲ知ラズ、其日余ノ來リタル事サヘ知ラズ、例之余ガ前回何ヲ檢シタリヤト問フニ視味、嗅覺等ノ檢査ヲ爲セリト云フ。余ハ否、其後チニ何ヲ檢セルヤト問フニソハ今日ナリト答フ。然カラバ余ハ何回汝ノ所ニ來レルヤト問フニ今日ニテ三回目ナリト答ヘ、各回彼ヲ伴ヒ來レル監守ノ名ヲ問フニ各回ノ監守ノ姓名ヲ舉ゲタルモ前回附キ添ヒ來レル人ノ名前ヲ思ヒ出サズ。又其時自ラ訴ヘタル肺病云々ノ事同房者ヨリ窺メラルル事等ヲ問フニ更ニ知ラズト云ヒ、計算ナドヲ試ミシ事モ知ラザルガ如シ。次ギニ前回ノ精神狀態ト對照センガ爲メ故意ニ百ヨリ十三ヲ連續的ニ減ゼシムルニ先ヅ八十七ト曰ヒ、次ギニ七十四ト答ヘ、其暗算頗ル迅速ニシテ又巧妙ナル前回ノ時ト雲泥ノ差アリ。

斯ク彼ハ其日ハ聊モ病的症狀無カリシガ只時々同房者ガ己ヲ狂者ナリト云フ事アリ、又折々、おんほ燒きノ嗅氣アリナド云ヘル事ハ注意ス可キ事ナリ。

斯クノ如ク彼精神狀態ハ日ニヨリ大差アリ。而カモ多クハ常人ノ如クニシテ唯時ニ全然精神病者ト見做ス可キ時アリ。即チ常人ト見ユル時ハ應對ニ差聞ナク認識記憶判斷ニ大ナル異常ナク、只感情ハ變化シ易ク、談話ハ冗長ニシテ、簡潔ナラズ、尙僅ニ判斷、追想ニ障礙ヲ來セル事ヲ認メラル、又假令犯罪當時ノ事ハ明瞭ニ之レヲ辨ヘ居ラズトモまさ子ヲ己ガ殺セシ事ヲ信ジ、著シキ精神病者ト名ヅク可キ程ノ事柄ナシ。

之レニ反シ精神異常ノ發セル時ハ一見應對動作常時ト大差ナキガ如シト雖モ、其實指南力缺亡シ、幻聽妄想、判斷ノ減退等ヲ來シ、意識瀟灑シテ所謂朦朧狀態ト名ケラルル病的狀態ヲ呈シ居ル事ヲ信ゼラル。而シテ斯カル病的狀態ニ陥レル時ハ動作一見平常ノ時ト同ジケレドモ後チニ其間ニ行ヘル事ハ全ク之レヲ追想シ得ズ、且斯カル狀態ニ陥レル前ニハ烈シキ腹痛頭痛ヲ訴フルヲ例トシ、又まさ子ノ生存シ居ル事ヲ確信シ、己彼ヲ殺セル事ヲ知ラズ、尙斯カル病的狀態、即チ朦朧狀態ハ時々發作的ニ現ハレ、少ナクモ入監後一月三十一日ヨリ二月初旬ニ互レル一回ノ發作ト鑑定時日中六月二十三日前後ニ一回之レヲ呈シ、後者ハ余ニ親ク之レヲ目撃セラレタルナリ。

三 診 斷

余ガ以上諸項ニ列舉セル諸點中殊ニ精神病學的診斷ニ必要ナル諸點ヲ摘記スル時ハ、(一)彼ノ身體的症狀トシテ視野ノ狹小、殊ニ其各色ニ對スル極度ノ同心性狹小、(二)感覺異常、殊ニ溫冷痛觸覺ノ過敏減退、脫失、而カモ其異常區域ノ末梢神經分佈區域ニ一致セザル事、及ビ時ニヨリ差違アル事、(三)下腹部特ニ左下腹部ノ壓痛、(四)自覺的ニ其部ニ硬キモノヲ觸レ、其ノ處ニ出來物アリト信ゼル事、又時ニ其硬結部ノ位置變轉シ氣分惡シキ時ハ特ニ疼痛及ビ轉位ノ烈シキ事、

(五)胸骨部ノ甚ダシキ壓痛又精神病的症狀トシテ兇行前ヨリ(六)ひすてりー性氣質即チ自志剛情感情ノ變化烈シキ事ヲ示セル事(七)發作性ニ一時性ノ幻覺妄想追想ノ異常ヲ伴ヘル意識濁濁ヲ有スル病的精神異常即チ朦朧狀態ト名ケラル微候ヲ有スル事等ヲ認メラル。之レニ因リ彼ハひすてりー殊ニひすてりー性精神病ニ罹カリ居ル事最早疑フ可カラズ。

然カラバひすてりートハ如何ナルモノナリヤ其精神變調ノ特異トスル所ハ何ゾヤ、ひすてりー性ノモノハ皆直チニ心神喪失者ト名ケラル可キモノナリヤ否ヤ、世良たけハ其ひすてりー性精神病ヲ何時頃ヨリ得タルカ明治四十一年九月十二日兇行當時ニハ同病ノ存在セシヤ否ヤ、又彼ハ心神喪失ノ狀態ナル程度ニアリシヤ否ヤ、ゾハ後條說明ノ條ニ於テ詳記セン。

四 說明

ひすてりートハ生來性變質ニ屬スル一種ノ精神病又ハ病的狀態ニシテ感情ノ變ジ易キ爲メ種々ノ症狀ヲ呈スルモノナリ。

其ノ症狀ハ身體的ニ發シ他ハ精神的ニ現ハル。前者ニハ(一)感覺作用ノ異常即チ視聽觸味嗅覺ノ異常(二)運動異常(麻痺痙攣等)(三)分泌異常(四)循環異常等之ニ屬シ視野ノ狭小(即チ周圍部分ノ見えザルモノ)一時性聾聽覺過敏皮膚感覺ノ過敏脫失下腹部ノ壓痛ひすてりー球即チ腹部ニ硬キ球ノ如キモノアリテ諸所ニ運動スト考フルモノ、諸所ノ壓痛點胸骨部位ヲ壓スル時ハ疼痛烈シキモノ等皆此類ナリ。

而シテ以上列舉セルひすてりー性身體特徵ハ又其固有點トシテ其起ル原因身體ニ實質的變化アルニアラズシテ感動ノ變化ニ基キ變化シ易キ精神的ノモノナレバ時ニ因リ變化シ易ク殊ニ感情氣分ノ如何ニ因リ其強度及ビ部位ノ變動ヲ來スモノナリ。然カレドモソハ自ら伴リテ然カルニアラズ又故意ニ變化スルモノニモアラズ畢竟病ニ因リ常人ニハ感ジ難キ程輕微ナル感情的變化ニ應ジテ種々ノ病的症狀ヲ無意識ニ換言スレバ意識下ニ現ハスモノト

考ヘラル。

次ギニ精神的症狀トシテハ又種々ノモノアリ、其一ハひすてりー性氣質ト名ケラルモノニシテ他ハ發作性ニ現ハルル一時的精神病及ビ持續的慢性精神病ナリ。

第一者ハ自恣、自尊、好惡忽ニシテ變ジ喜怒哀樂ノ性轉換シ易ク人及ビ物ヲ批評判斷スルニ概ネ皮相的觀察ヲ基トシ、一度ビ斯カル可シト憶斷スル時ハ反省熱感スル事ナク己ノ意ニ應ゼルモノハ忽チ之レニ附加雷同スルモ己ノ好マザルモノハ飽クマデ之レヲ退ケ、新奇ヲ好ミ陳舊ヲ棄テ不快ナル時ハ其極常識ヲ逸セル行爲ヲ敢テスルヲ憚カラザルモノナリ。第二者即チ一時的精神異常ハ其長短内容共ニ千種萬態ニシテ一様ナラズ、或ハ一瞬間ニ現ハル意識濁濁ヲ兼ネ又ハ兼ネザル幻覺妄想モアリ、又ハ數日ニ互ル意識濁濁ヲ有スル朦朧狀態又ハ謔妄ト名クルモノアリ、或ハ又意識濁濁烈シカラザルモ一時性ノ躁揚病鬱憂病ノ如キモノ又ハ妄想ニ驅ラルル疾病狀態ヲ呈ス。第三者ニ屬スルモノハ經過久シクシテ慢性疾病狀態ト名ケラル、モノトス。而カモひすてりー性精神病ハ他ノ精神病ト異ナリ、其ノ特異點トシテ多ク感動ノ變化ニ誘ハレテ發病スルヲ例トス。

而シテ被告世良たけハ其有セル身體的症狀ト云ヒ又精神狀態ト云ヒ上記ノひすてりー性精神病ト名ケラルモノニ全然符合シ余ガ彼ヲ現在ヒすてりー性精神病ニ罹カリ居ルト信ジテ疑ハズ、殊ニ調書ニ因ルニ弟古賀園定ハ被告たけハ家郷ニアル頃ト違ヒ出京後之レニ會ヘルニ氣質變化烈ゲシクナレリト云ヒ、又同ジク調書ニ因ルニ夫榮作モ彼ハ剛情沈鬱好惡忽チニ變ジ愛憎極マリナキひすてりー性ノモノナリト云ヒ、又世良たけ自ラモ余ニ向ヒ從來健康ナリシモ産後病多クナリ頭痛腹痛ヲ覺エ且腹部ニ硬結ヲ觸レ其腫物ハ感情ノ如何ニ因リテ其レガ大サヲ變ジ又位置ヲモ轉ズト云ヘル事ヲ考フル時ハ、兇行當時以前既ニ被告ハひすてりーナル病、少ナクモひすてりー性氣質ヲ有セシモノト認メラル。

然カレドモひすてりト名ケラルルモノハ常ニ必ズ以上記セル諸徴候ヲ具備スルモノト限ラズ殊ニひすてりト性氣質ノミニ止マリ他ノ一時性又ハ慢性ノ精神病ヲ兼有セザルモノアリ。斯カル場合ノ犯罪行為ハ氣質異常ニ基ク病的感動ノ激變ニ由ル行為ナリト雖モ之ヲ以テ直チニ喪心ノ状態ニ基ケルモノトハ謂ヒ難キ事アル可シ普通斯カル状態ニ行ヘルモノハ心神耗弱ノ程度ヲ以テ律セラレモノトス。之レニ反シ著シキ意識濁濁ヲ伴ヘル疾病状態ノ加ハリ來ル時ニハ其ノ一時性ト慢性トヲ問ハズ共ニ喪心状態トシテ問ハル可キヲ普通トシ殊ニ朦朧状態間ニ於ケル行為ヲ以テ然リトス。蓋シ此際ニハ意識ノ濁濁シテ到底正シキ判斷ヲ營ム能力ナク其ノ當時行ヘル動作ハ縱令一見深キ考ヘアリテ爲セルガ如ク見ユルト雖モ畢竟他動的乃至自動的聯合作用ニ基クモノニシテ自動的ニ注意ヲ集注シテ彼我考究シテ爲セル行為ト認ム可カラズ所謂熱慮ヲ缺ケル反射作用ト略同一ナレバナリ。況ンヤ之レニ加フルニ朦朧状態ニ妄想幻覺ノ現ハルル時ハ左ナキダニ妄想幻覺ノ行為ニ及ボス特長トシテ判斷ヲ以テ其ノ誤リヲ反省セシムルノ暇ナク一圖ニ妄想幻覺ニ從ヒテ動作セシムルヲ例トスルモノナレバ意識濁濁ニ因リ益々健全ナル判斷ト識別トソノ辨別ニ基ク行為ノ制肘トヲ缺キ一層其ノ妄想幻覺ニ盲從シ行動ヲ敢テセシムルニ至レバナリ。

今此事ヲ被告世良だけノ兇行當時ノ場合ニ適用シテ考フルニたけハ當時朦朧状態ニアリシモノト考ヘラル。何トナレバ彼ハ數日前ヨリ深ク憂慮セル所アリ殊ニ十一日夜ニ於テ若慮甚ダシク其ノ夜半ニ烈シキ腹痛頭痛加ハリ眩暈之レニ伴ヒ歩行スラ十分ナラザルニ至ルト云フハ之レ朦朧状態ノ初期ニシテ其後翌朝頭痛烈シクナリ夫榮作ニ蹴ラレテヨリ口惜サ増シ終ニ夢中トナリシト云ヒ又桂庵來ルト幻覺シ桂庵ニまさノ奪ハレントシタリト考ヘ恐怖ノ念ニ驅ラレタリト云ヒ榮作ガ負傷シタリト考ヘ又家ニ火ヲ付ケタリト云ヒまさヲ殺ロセシ時ノ事ヲ判然知ルト云ヒ又想ヒ出サズト云フハ其ノ當時意識濁濁最モ甚ダシクシテ思

想全ク亂レ居レルノ時ニシテ之レ朦朧状態ノ極期ト考ヘラル。後チ翌朝船中ニテ始メテ多少意識明清トナリ漸次物心ヲ知ルモ尙十分明亮ナラザリシト云フハ此期ヨリ朦朧状態ノ末期始マリ漸次平常ニ復シ九月二十日頃ニ至リ始メテ正常ノ精神ニ歸ヘリ來レル者ト察セラ。而シテ普通通ひすてりト者ノ朦朧状態ハ感動ノ激變ニ因リ惹キ起コサルモノニテ時ニひすてりト球ヲ伴ヒ後チ之レヲ知ラザルモノナルガ被告たけノ入監後感動ノ變化ヨリ時々朦朧状態ヲ呈セシ時ハ常ニ腹痛ヲ以テ始マリ後チ之レヲ知ラザルヲ例トシ殊ニ兇行當日ハ其ノ前日來苦惱甚シク且其ノ朝ヨリ腹痛烈シク且漸次茫然トナレリトノ事ハ其ノ當時朦朧状態ナリシト考フル一證ナリ。

又鎌屋主人ガ二月二十二日法廷ニ於テ(以下調査ニ因ル)十三日午前十時世良だけノ來レル時ハ來ルヤ否ヤ直チニ錢無ケレハ此指輪ヲ入質シテ金ヲ拵ヘテ吳レト云ヒ舉動如何ニモ落チ着カズ惻陰ノ情禁ズル能ハザリシトノ言及ビ精神ニ異常アルモノト見タレバ家内ノ者ドモニ氣ヲ附ケヨト申シタリ云々ノ言並ビニ巡查白石幸之助ノ同日尋問調書ニアル同人ノ言即チ同氏ガ九月十三日夜平服ニテ巡回中柏停車場附近(南約二丁)ニ婦人下駄アリ不審ニ思ヒ進ミタルニ雨中鐵道線路内ニ婦人ガ歩ミ居ルヲ認メ其ノ婦人ノ舉動如何ニモ不審ナレバ捕ヘテ尋問セルニ躑足ニテ足袋モ穿カズ袴ヲ著頸ニ綿襪ノ物ヲ卷キ落チ著カザリシ云々及ビ汽車ノ來タル時ハ夫レニ飛ビ込マント意氣込ミ見エ之レヲ捕ヘ汽車ヲ行キ過ゴサシメ二丁許リ戻リテ彼ノ下駄ノ處ニ連レ行キ其ノ下駄ハ汝ノモノナル可シト問ヘルニ然カリト答ヘタレバ之レヲ穿カシメ柏屋ニ連レ歸リタルニ足ヲ拭ヒモセズ上ニ上リ後チ種々尋問セルニ相應ノ答ヘラセルモ同人ノ舉動變ナル故餘リ追究スルモ宜ロシカルマジト思ヒ就寢セシムルニ如カズトテ同家ニ十分注意スル様ニ云ヒ聞カセ云々(中略)又翌日彼女ハ今朝早ク萬朝報ヲ見タルニ實子ヲ殺シタル事實アリ之レハ己ノ事ナリ己自身モ自殺セントシテ頸ニ刀ヲ當

テタレドモ死ニ切レズ釘ニ首ヲ懸ケタレドモ死ニ切レズ中略此處ニ來リ自首セント思フト云ヒ又直ク此處ニテ己ヲ殺シテ吳レト云ヒ其舉動氣ノ毒ニテ貫ヒ泣キセズニ居ラレズ聽テ同人ヲ慰メ松戸署ニ連レ行カントシテ汽車ニ乘リタルニ松戸停車場ニテ同女ハ私ノ子供ガ生キテ居リ乳ヲ飲ミ度シト泣キ居レバ乳ヲ遣リ度シナド泣ク斯カル事四五回アリ精神ヲ全ク喪失セリト云フ程ニハアラザルモ兎ニ角精神ニ異常アルモノト思ハレタリ云々又弟圓定ノ言ニ徵スルモ調書ニ依ル十四日始メテ會ヘル時會フヤ否ヤ直チニ刀ヲ買ヒ來レ早ク行カンデハマサ子ニ遅ルル一日遅ルレバ一里遅ルル杯妙ナ事ヲ申シタリト言及ビ入監後モ尙精神沈著セザリシトノ監獄醫ノ報告ハ其ノ當時即チ九月十三四頃尙未ダだけハ健全ナル精神ヲ有シ居ラザル事ヲ證明ス

然カルニ唯彼ガ第一回豫審廷ニ於テ詳シク兇行當時ノ事ヲ追想シ得タルガ如ク述ベダル事ト兇行當時ニ最モ近クだけヲ見タル二三ノ人例之本郷〇〇町〇丁目〇十一下宿業精陽館家婦〇〇はつハだけガまさヲ殺ロセル後直チニ面會セシモ一見異常ノ人トハ認メザリシト云ヒ調書ニ因ル殆ンド之レト前後シテだけト言語ヲ交ハセル神藏モだけガ平生ト異ナレルヲ氣付カズト云ヒ又〇〇新〇町十三質屋番頭〇鳥〇久ガだけノ兇行ノ後チ蝙蝠傘ヲ買入レニ來レル時ノ模様及ビ〇田〇川町二十四番地刀物商酒井〇次郎ガ兇行前だけニ及物ヲ賣リシ時モ狂者トハ思ハザリシト云フノ言ハだけガ犯罪當時斯カル精神異常ノ状態ニアリシトノ言ニ對シ疑念ヲ挿マシムルノ餘地ヲ與ヘザルニアラス

然カレドモ之レ共ニ余ガ斷定ヲ否定スル證言トシテ價值少ナキモノト考ヘラル何トナレバ之等ノ人ノだけトノ會見ハ極メテ短時間ノ事ニシテ斯カル短時間ノ會見ニテ殊ニ素人ニ狂者ト見エザルモノモ其ノ實狂人ナルモノ多クレバナリ殊ニひすてり性臆腫状態ニハ悟性アリ一見常者ト見ユルモノ稀ナラザレバナリ現ニ余自カラ目撃セル六月二十三日ノヲ認メタルナラム

又だけノ第一回豫審廷ニ於テ述ベタル言モ亦立證トシテ價值少ナシ何トナレバ其ノ當時ノ調書ニ因レバだけガ審カニ兇行當時ノ事ヲ述ベタル後チ豫審判事ガだけノ希望ヲ問ヘルニ「希望」としては直ぐに殺して貰らつて昨晚もまさガ來て早く來て呉れと云ひましたから私は明日裁判所へ出るから明晩まで待て呉れよと云ふて置きました唯今も其所に居ります云々」ト云ヒ己ガ殺セル子供ニ現存シ居レルガ如ク考ヘ又前後矛盾セル答ヲナシタルガ如キ彼ガ臆腫状態ノ時ニ屢々現ハセル判斷ノ障礙ト追想ノ異常即チまさノ生死不明ニシテ自ラまさヲ殺セル事ヲ知ラザル事ヲ示シ其當時精神尙健全ナラザリシ事ヲ證スレバナリ

然カラバ何故ニ當時斯ク詳細ニ兇行當時ノ事ヲ云ヒ得タルカ或ハ後日彼云フガ如ク眞實覺エ居ラザル事マデモ希死ノ念盛ニシテ一意唯死ヲ思ヒタレバ新聞ニテ讀ミタル事弟ヨリ聞キタル事茫然ト思ヒ出ダシタル事ナドヲ眞事虛事打混ゼテ眞事シヤカニ述ベタルヤ或ハ然カラム事實斯カル症状ハひすてり者ニ多クシテ殊ニ臆腫状態中又ハ其後ニ及ビ其間ニ起レル事實ヲ夢ノ如ク想ヒ出ダシ之レヲ事實ト混シテ眞事シヤカニ述ブル事アレバナリ例之臆腫状態中ニ人ニ強姦サレタリナド云フテ人ヲ誣言スルモノ此類ノ人ニ多キガ如シ然カレドモ亦然カラズシテ臆腫状態中又ハ其直後ニハ其常事ノ事ヲ良ク記憶シ居リ後チ之レヲ失念シタルヤモ知レス即チ第一回豫審當時ニハ詳シク知レルモ後チ之レヲ失念

シタルヤモ知レズ。斯カル事ハ吾人が日常眠ヨリ醒メタル直後ニハ眠レル間ニ見タル夢ヲ知リ居ルモ後チ暫クシテ忘ルルト同ジクヒスデり一者ノ朦朧状態後ニ往々現ハルモノナリ。又或ハ彼ハ現在モ其犯罪當時ノ事ヲ詳シク知リ居リ然カモ偽ツテ知ラズト云ヒ居ルヤ是レ亦絶対的ニ然カラズト否認シ得ルノ證據ナシ蓋シ人ノ心ハ神ナラデシカク囊中ノ物ヲ探ルガ如ク明カナラザレバナリ。然レドモ之レハ多クノ他ノ患者ヨリ得タル經驗ト本被告ガ鑑定時日内ニ示セル彼朦朧状態ガ其當時ノ事ヲ後日ニ至リ追想シ得ザル事實トニ徴シテ全然凡テノ事ヲ明瞭ニ知リ居ルトハ信ジ難ク恐ラク彼ノ追想シ得ル事實ハ断片的ニシテ其半バニ止マルモノナル可シ。實ニ彼ガ第一回豫審當時ニ犯罪當時ノ事ヲ明瞭ニ述ベタルハ寧ロ彼ガ想像的潤飾ノ混ジ居リシモノニアラザルナキヤヲ疑フ。

畢竟スルニ朦朧状態中ニ言ヘル事實及ビ朦朧状態中ノ出来事ヲ後チニ追想シテ言ヘル事實ハ共ニ其儘何等ノ疑ヒナク直チニ之レヲ正シキモノト信ズル事ハ頗ル危険ナリト言ハザル可カラズ殊ニヒスデり一者ハ他人ノ問ヒ様如何ニヨリテモ暗示サレ種々心ニモナキ事ヲ答ヘ得ベケレバナリ。又假令本例ニ於テ彼ハ當時ノ事ヲ詳シク追想シ得タリトスルモ喪心ノ状態トハ後ニ追想シ得ザル時ノ事ノミニ限ルニアラザレバ被告ガ當時ノ事實ヲ追想シ得タルト否トハ當時喪心状態ナリト否トノ問題ニ全然同一ナルニアラザル可シ。蓋シ當時ノ事ヲ追想シ得テ後チ之レヲ自白シ得トスルモ當時錯亂シ又ハ幻覺妄想ノ念ニ驅ラレ自己ノ本心ヲ失ヘル時ナレバ之ヲ以テ亂心又ハ喪心ト言ヒ得ケレバナリ。依ツテ余ハ彼供述ヨリ得タル事實ヲ参照スル事無論ナレドモ單ニ其レノミニ基カズシテ寧ロ彼犯罪以前ノ性行ト疾病ノ有無入監後殊ニ鑑定時日内ニ示モル病的状態犯罪當時ノ被告ニ對スル他人ノ客觀的觀察ニ重キヲ措キ彼當時ノ追想ヲ之レニ參酌シテ鑑定ヲ下ス事左ノ如シ。

五、鑑定。

一、被告世良たけが明治四十年九月十二日午後二時頃本〇區〇〇町〇丁目十一番地被告ノ住宅ニ於テ其實子まさヲ殺害シタル行爲ハ被告ノ正常ナル精神状態ニ基キタルモノト認ム可カラズシテ兇行前ヨリ有セルヒスデり一ナル病的的精神變調ニ基ケルモノト認メラル。

二、而シテ其當時ハ單ニ是非辨別ノ能力完全ナラザルヒスデり一性氣質ノ程度ニ止マラズシテ、兇行前夜ヨリ起リ其後數日間續キタル發作性ニ顯ハルルヒスデり一性臟腑状態ト名ケラルル幻覺妄想意識潤濁等ヲ有スル一時性精神病の發作ノ現ハレタル時ニシテ其時ノ行爲ハ健康時ノ人格ニ全然違背セル判斷ヲ以テ營マレ又其ノ判斷ヲ全然否定スル能力ナキモノナレバ所謂是非辨別ノ能力ヲ缺損シタル程度即チ下命ノ喪心状態ニアルモノト認メラル。

右鑑定ハ明治四十年〇月十〇日ヨリ同年〇月〇〇日ニ終ル五十五〇日間トス。
明治四十年〇月〇〇日

鑑定人 宿 姓 所 名印

精神病診断及治療學下卷終

精神病診断及治療學上下卷索引

(普通活字數字ハ上卷ノ頁數ヲ示ス) (ゴヤ活字數字ハ下卷ノ頁數ヲ示ス)

あ之部

- 亞酸化窒素中毒 一八九
- あだもーん 二二三
- あだりん 二二三
- あつとん反應 一八六
- あとろびん中毒 一八九
- あぶせんつ 三六九
- 阿片 二二〇
- 阿片療法 二七〇
- あみーれんひとらーと 二二八
- あめんちあ(妄覺病参照) 二〇八、二四四、二七〇
- あるかれせんつ 二四七
- アルツハイメル氏法 一八二、四三三
- アルツハイメル氏病 三一一
- アルツハイメル氏變化 三〇九
- ありひりー 二二
- あんちちれわいじん 二三四

いゝる之部

- 意志 六、七、一〇五
- 意志運動ノ検査法 八七
- 意識 一九、三〇、三一
- 意識濁濁(尙朦朧状態参照)

索引

意識作用ノ同形症

五三、三四四

意志行爲

一〇七

意志減退

二五二

意志障礙

一〇五

意志ノ阻碍

一〇五

意志ノ脱線

二二五

意志ノ轉導性

二二〇

意志ノ動機

一〇六

意志發揮性

二一六

意志發動

二一五

意志被影響性

二一八

意志表示

四六七

異種遺傳

四三六

萎弱

四四五

異時聯合

四八

異食症

一一一

異常酒精反應

一五八

意想奔逸症

五八、三四五

意想奔逸性錯亂

五六、五八

意想奔逸性抑鬱状態

四〇、二四四

遺傳

三二五

遺傳性精神病

三三一

遺傳性特徵

一四四

遺傳性變質性變型

三三二

遺傳的負因危險度

三三六

遺傳徵毒

二五二、三〇

一般感覺

一四

一般感情

一五八、九

畏食症

一一一

畏閉恐怖症

一〇〇、四七一

飲酒不堪症

一五八

陰部暴出症

三七二、四七五、三五〇

いんふるえんざ

二〇三

う之部

ウエルト氏記憶計

四五

ウエルベル氏實驗

八五

ウエルニツケ氏感覺性失語症

一三三、一一

ウエルニツケ氏出血性灰白質炎

二二八

ウエルニツケ氏傳導性失語症

一一四

うれたーん

三三〇

運算症

一〇〇、四六九

運動心迫

一一五

運動性幻覺

二二

運動性興奮

一一五

運動性失語症

一四四

運動慾

一三三、一一

九〇

えゑ之部

運動理由 一〇六
 ウンナ氏法 四二四
 エッピンゲハウス氏智力測定法 六一
 叙智障礙(智力参照) 八
 營養療法 二五二
 似而非幻覺 二九
 似而非幻病 四六三
 似而非昏迷 二四
 似而非癲癇性癡呆 一七八
 鹽酸もるひれ 二二三
 厭世 九六
 鉛中毒 一八七
 えーてる中毒 一八八
 エルレンマイエル氏合劑 二二六
 をお之部
 横縦指數 一七
 おぼりん 二二四
 おぼつみれぶりん 二三四
 音言 一三〇
 か之部(クワ)
 下位意識 四八〇
 快感 二一八八八九三四八

同歸狂 三九一
 外傷後癡呆 二二二
 外傷性似而非癲癇性癡呆 二三五
 外傷性神經症 四四六、三九一
 外傷性精神病 二二二、三九五
 外傷性譫妄 二二三、三〇〇
 ガイスレル氏反應 一五五
 カイセルリング氏液 四一四
 外的聯合 四八四九、五八
 概括性健忘症 四二
 概念 三七
 快復性 一三九
 外部變質徵候 一二四
 解剖學的診斷法 四〇九
 過價觀念 三八
 客觀主義 四五三
 譫語 一三三
 學校醫 二〇六
 學校病 四四七
 各狀態ノ決定 三三三
 隔代遺傳 三三六
 家系調査法 三三五
 過誤反應 八七
 假死ノ狀態 四三六
 假性眼瞼下垂症 四二一
 假性幻覺 二九

假性硬化症 二二〇
 假性嗜酒病 一六〇
 家族看護 二六五
 かたれぶし 一五五
 満酒病 一六〇
 化膿性腦膜炎 二二六
 カハール氏法 四〇
 訛辯 四〇七
 灌水法 五〇九
 感覺 八、〇
 感覺過敏症 二〇
 感覺性失語症 一三三、一三二
 感覺ノ障礙 一五一
 喚起性(注意力、精神作業能力) 一八一、三九三、四一〇、七三

關係妄想 七三
 眼瞼閉鎖反應 一三四
 頑固 一一一
 監獄 一五三
 監獄性精神病 一五八
 感情 六
 感情概論 八三
 感情興奮症 一〇三、三四八
 感情轉換症 一〇三
 感情ノ検査 八三
 感情ノ分類 八六

鑑定書書式 四八七
 感傳性精神病 五一九
 間接遺傳 三三六
 ガンセル氏癲癇狀態 四三三
 間代性癲癇 一四六
 感動 八五
 感動激變 一五五
 感動性錯亂 五七
 感動性妄想 七八
 觀念 三六
 觀念結合ノ隨意性 一一二
 觀念性行爲倒錯症 四一
 觀念ノ再生 三六
 觀念ノ障礙 五二
 觀念ノ粘著 一三四
 觀念反應 三九
 觀念ノ構成 四八
 觀念聯合ノ検査 一五、六五
 觀念聯合ノ障礙 六四
 觀念聯合ノ促進 六五
 觀念聯合速度ノ障礙 八五
 觀念聯合ノ遲滯 一三六、三三
 顔貌 一二九
 顔面左右不等症 一三〇
 顔面表情倒錯症 一三〇

假面狀 二四
 環輪試驗 一八八
 かるみん染色法 四一五
 過勞 三二六
 我慾症 三二八
 き之部
 疑感症、疑念症 六四、四六九
 嗅覺 一〇、一一五
 急癲 一九〇
 急性昏迷 四〇七
 急性錯亂症 二〇八
 急性譫妄 二〇五、四〇七
 急性中酒性妄覺病 四〇五
 急性癡呆 三二七
 急性腦震盪後精神異常 二二二
 急性偏執病 三六八
 既往證 一一一
 記憶 四〇
 記憶検査法 三九
 記憶ノ障礙 四〇
 記憶ノ衰弱又ハ記憶減弱 四五、三四二
 飢餓感情 九一
 氣質異常 二二二、四二三
 吉光寺氏(尿)試驗法 一九〇
 繻草根 二二三

毒物破棄ニ對スル處置 二七五
 氣分 八五
 筋覺 一五三
 禁斷症狀 八三
 禁治産 三三〇、三三七
 緊張病 四六五、四七五
 緊張病性興奮 三三〇、三三七
 緊張病性昏迷 三三三
 記銘力 三三三
 記銘力障礙 四一、三六
 逆行性健忘症 四三、三八、三四二
 拒食症 九二、一一、二七六
 拒絶症 一三、三五
 虛脱性譫妄 二〇六、二二四
 虛構(構)症 四四
 虛構(談)性偏執病 三四二
 虛無的妄想 七六、三四六
 狂大病 二〇四
 強梗症 二〇四
 胸腺白癩 二一九、三五
 胸腺淋巴腺型 四九三
 強直性痙攣 四九三
 胸内苦悶 一四六
 強迫衣(器) 九七
 強迫觀念 二五三
 強迫觀念性精神病 五二六、三、二六、三四四、四六七

強迫行為	一二五	クレペリン氏法	一〇〇	結婚性精神病	三三三
強迫的危懼	九八、三四九	くろろふをるむ	三三三	結婚問題	二〇五
強迫的幻覺症	四六九	くろろふをるむ中毒	一八九	研究強迫症	六四
強迫的考慮	四六九	輕快	三三三	健忘性失語症	一三六
強迫的制止	二二六	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	三三六	原因ニ依ル診斷	二九七
健肥療法	二五八	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	四五六	原纖維染色法	四一九
恐怖、恐怖症、病的恐怖症	九八、四七一、三四四、三四九	傾性者	四五六	現在證	七、一四
恐怖性神經症	四四六	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	二九一	顯在ノ觀念	五
空笑	一二八	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	四五六	幻覺	三三
空想性めらんこり	四〇一	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	二九一	幻覺性麻痺感覺	三三
具體的又ハ形而下ノ觀念	三七	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	四五六	幻覺發生ノ理由	二七
驅療療法	二五七	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	三三四	幻覺性妄想	七八
苦悶	九七、二七、三四八	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	四七三	幻視	三三
苦悶性興奮	九八、二八	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	一四五	幻視運動ノ障礙	一〇一
苦悶性緊張	九八	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	三五六	幻視觀念構成ノ障礙	一〇一
苦悶性刺戟症	九六	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	一五四、一六八	幻視	一〇一
苦悶性譫妄狀態	三七四	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	一〇七	言語障礙	一三
苦悶性憂鬱病(めらんこり)	三七九	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	一四二	言語障礙検査法	一〇五
くらしつ派	四二二	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	二三四	言語ノ常同症	一三三、一三
グリースバツム氏疲勞測定法	一〇〇	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	二〇四、三〇三	言詞失格症	一三五
グルチツツユキ氏(まときしり)	四一六	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	二二五	眩暈發作	三七〇
人染色法	一九五、三八六	輕症又ハ神經性腦動脈硬化症	五六	衍奇症狀	一三四
くれちにすむす		輕症又ハ神經性腦動脈硬化症			

く之部

け之部

こ之部

さ之部

原素性妄想	一五	個人性即チ人格	一四〇	罪業妄想	七六、三〇六
犬意妄想	七六	個人性素質	三二五	催眠劑	二二六
行為倒錯症	一一三	悟性	二〇	催眠術	二二六
構音不正症	一一三	悟性譫妄	三七五	催眠狀態	四二八
構音不能症	一三〇	誇大妄想	七四、三四七	躁病	三九〇、三七三、四〇一
構音ノ障礙	一三〇	誇大性定型	二五八	躁病(躁鬱病参照)	三七五
交互性人格	一三二、一〇六	こ、でいん	二二四	躁病	三九六
甲狀腺性精神病	四三八	固着妄想	八一	躁病性昏迷	四〇三
好訴性妄想	一九二	骨折	一五三	躁病性體質	四〇五
好訴病	七五	昏睡前譫妄狀態	一九一	躁病性體質	三九五、四二四
興奮ニ對スル處置	三六八	昏睡、昏倦症	一九、三四〇	躁病性體質	一一
興奮性白癡	四七八	昏迷及ビ昏迷狀態	二一七、三三三	躁病性體質	三〇
興奮性憂鬱狀態	三七九	昏迷性憂鬱病	五七	躁病性體質	一一九
興奮性抑鬱狀態	四〇二	混合狀態	三七八	躁病性體質	三三
恒定性幻覺	二四	孤立性幻覺	四〇一、三八一	躁病性體質	一一九
後天性神經衰弱症	二二六	孤立性瞳孔強直	二六	躁病性體質	一一九
後天性精神病的低格者	四五〇	孤立性瞳孔強直	一三二	躁病性體質	一一九
考慮進行	五〇	ゴルサコフ氏精神病	一七二、三〇一、四〇四	躁病性體質	一一九
考慮制止	六九、三四五	ゴルジョー氏法	四二四	躁病性體質	一一九
こ、かみん中毒	一八四、四〇五	こるとぞーる反應	一七五	躁病性體質	一一九
語論	一三五	孤惡妄想	七六、三四七	躁病性體質	一一九
呼吸増多症	四二〇	語論症	一三四	躁病性體質	一一九
誤字症	一三六	サテテ症	一一二、四七八	躁病性體質	一一九
誤信	七二	災害性神經症	四四六	躁病性體質	一一九

酸化炭素瓦斯中毒
 殘缺性治療
 殘語
 三叉神經顔面神經反射
 殘存性妄想
 さんごにん中毒
 さるばるさん

し之部

厭姦
 習慣性
 宗教的妄想
 重症めらんこり
 重症妄想性癡呆
 臭素あんにうむ
 臭素加里
 臭素曹達
 羞耻感情
 從命運動
 視覺的失語症
 自我
 自家意識
 自家意識ノ虛閃
 自家中毒
 字劃脫漏症
 屍姦

一八一
 三三六、三三八
 一一一
 一三四
 八一、一〇六
 一八九
 一一一
 一一二
 一四〇、一四五
 七六
 四〇〇
 三四四
 三二七
 三二五
 三二六
 九五、三四九
 一一〇、三五一
 一一二
 一四〇
 一三七、一四〇、一四八
 一四一、三五一
 一九〇
 一三六
 一三、四七六

譫言
 色慾異常症
 色情
 色情狂
 刺戟性
 刺戟性纖弱
 自己血清れをさるばるさん
 詞語新作症
 思考力
 自殺
 嗜酒狂(病)
 事實主義
 膝蓋腱反射
 失語症
 失神發作
 失節性手書
 嫉妬妄想
 質問症
 姿勢
 指南力
 持續浴
 脂肪性硬化
 四反應
 人格
 人格主義
 人格分裂症

一四七五
 四七五
 九四、一一三、三五〇
 一〇九
 四〇五、三四八
 四五七
 二四三
 六〇、一三五
 六九
 二〇〇、二七四
 一六〇、三七一、四〇〇
 四五三
 一五〇、一三六
 一三三
 三七〇
 一三六
 七五、三四七
 六四
 二五
 二〇、四七、二八、三四二
 二四八
 三〇九
 一五六
 一四〇
 四五三
 一四二

酒客譫妄
 主觀主義
 酒精中毒
 酒精問題
 手術後精神病
 手淫
 就寢療法
 初期譫妄
 書字不能症
 職業
 食鹽水皮下注入
 食人症
 喰糞症
 職業譫妄
 食慾
 初老期精神病
 初老期めらんこり
 上位意識
 上位觀念
 消魂大悅症
 衝動
 衝動性動作
 衝動動作性精神病
 小腦
 情緒

一六七、四〇一
 四五三
 一五七
 四五五
 三〇九
 一一二、二七六
 一一五
 二五二
 二〇一
 一三六、一一五
 三三四
 二四五、二八〇
 一一三
 九三、一一一
 一六八
 一一一
 三三三
 三三三
 四八五〇
 一〇二、三七一
 一〇八
 一〇八、三五〇
 四七三
 四二七
 八五、一〇二

す之部

情緒反應ノ障礙
 將眠時幻覺(就眠時参照)
 水銀劑注射
 水銀中毒
 推時力
 水治療法
 衰弱ニ基ク精神異常
 睡眠
 睡眠不良ノ處置
 睡眠状態
 睡眠發作
 睡眠深度測定法
 數多ノ我
 すこぼらみん
 すだん染色法
 すびろへーた染色法
 すへるみん
 するふをさりちいる酸試驗
 するふをなれる
 するふをなれる中毒
 制止作用
 精神運動興奮

一〇二
 三三九
 二三八
 一八八
 四六、三七
 二四七
 二二四
 三三
 二七五
 二二〇
 四三五
 一〇〇
 一四二
 二二五
 四二五
 四二五
 一八八
 三二二
 一八八
 九六
 三五二

精神運動制止
 精神過勞
 精神作業能力
 精神作用
 精神神經痛
 精神衰弱症
 精神制止
 精神性癲癇
 精神電流現象
 精神發作
 精神發育制止
 精神反應
 精神病院ノ種類
 精神病者監護法
 精神病者屍體ノ剖檢
 精神病者ノ監置
 精神的原因
 精神の兩性者
 精神病的素質者
 精神病的變質微候
 精神病的低格者又ハ中間者
 精神病傳染
 精神官
 精神療法
 生殖機能
 怔忡

一一六、三五二
 二九九
 一〇一
 九六
 七八、四六二
 六六
 三七〇
 八六
 三七〇
 一四九
 二六四
 四〇九
 二六四
 二六四
 四七三
 四五六
 四五六、一九八
 三一九
 四六
 二五九
 三二五
 九七

頭蓋測定 一一五
頭形異常 一一五
つべろくりん療法 二二五

て之部

定位説(古位説参照) 三
定期狂 三九〇
定期性不機嫌 三七〇
轉換性妄想 七九
癲癇性個人性 三六六
癲癇性昏迷 三七五
癲癇性精神病 三六五、三九二、四〇二
癲癇性人格 三六七
癲癇性癡呆 三六六、三七七
癲癇發作頻發症 一四七
癲癇性變質 三六六
癲癇樣癱瘓性癡呆發作 二六一
電氣療法 四〇六
傳染性精神病異常 四〇六
傳染病 四〇二
傳染病性精神病 一九七
傳染病性譫妄 二〇一
傳染性失語症 一三三
天然痘 二〇二

こ之部

同一運動ノ反復症 一二五
同一觀念ノ固執症 五二
同一觀念ノ執著症 三四四
同位聯想 四八
統覺作用 七、一八、一三八
統覺性幻覺 二九
統覺性錯覺 三〇
同化作用 一七
瞳孔 一四八、二七
瞳孔ノ左右不等症 一八
同種遺傳 三三六
同時聯合 一六
同性色慾倒錯症 一一、四七、六
同性相親症 四七五
疼痛感情 九三、一一二
疼痛性運動不能症 四六二
疼痛性譫妄 三〇一
疼痛反應 一四九
疼痛點 一五三
疼痛ニ對スル處置 二七四
同張力 一四七
同病遺傳説 三五〇
動脈硬化性精神病 四三九
動脈硬化性癡呆狀態 二九三
動脈硬化ニ伴フ精神病 三九五
特殊記憶 一〇四

な之部

讀書不能症 一二二
臍病 一九八
頓挫性酒客譫妄 一七〇
頓挫性發作 三六七
食食症 九二、一一一
ドモリア氏智力試驗法 七一
吃噴 一三三、一〇八
とりななる 一三三
どるみなる 二二九
とるばるかいはん 一八九
トロムメル氏法 一八八

腦穿刺 一八五
腦軟化症 二二三
腦膿瘍 二二七
腦微毒 三三六、三九七
腦皮質反應 一三四
喃語性譫妄 一九九

に之部

ニランデル氏法 一八八
入院療法 二六二
乳房痛 四一七
肉體的感情 一〇五
肉體的感情過敏症 一〇三
二重考慮 二九
二重人格 四三八
ニッスル氏法 一七四、四一八
認識不能症 三四
妊娠妄想 七七
妊娠性精神病 三二四
尿毒症 一九〇
尿検査 一八五

ぬ之部

ぬくれいん酸なとりうむ 二二六

ね之部

索引

の之部

れなざるばるさん 二四三
熱性譫妄 一九八
粘液水腫 三八六
粘液水腫性精神病 一九四
粘着語 一三一
年齢 二一〇
眠惚(ネボク) 三三三
のいろなる 二二一
のいろふふりん 二二二
野口氏法 二七七
ノンネ、アヘルト氏法 一七五

は之部

徘徊症 三七一、四三七、四二八
悖德狂 四八〇
悖理現象 一五〇、一三一
微毒 三〇四
微毒性神經衰弱症 二二七
微毒性精神障礙 二二六
微毒性癡呆 二三八
ハイルブロンネル氏智力測定法 六四
放火狂 一〇九、三五〇
貌言 一二六
抱水くららる 二二六

ばらのいあ
ばらあるでいど

三五八、三六七
一八八、二一九

ひ之部

被影響妄想 七四
 ひなすらん 一八九、二一五
 ビール氏鬱血療法 二四七
 被害妄想 七四、三四七
 被教化可能性 四八五
 被教化不能性 一三九、四八五
 鼻腔消息子營養法 二七七
 被幻妄想 七四
 皮質下運動性及感覺性失語症 一一三
 皮質下又ハ純粹運動性失語症 一一三
 皮質相互性運動性及感覺性失語症 一一三
 皮質癲癇性痙攣 一四六
 微小妄想 七四
 ひすてりー球 四二一
 ひすてりー性かたれぶしー 四三三
 ひすてりー弓 四三三
 ひすてりー性似而非癲癇性癡呆 四二一
 ひすてりー性痙攣 四二一
 ひすてりー性昏迷 四二一
 ひすてりー性精神病 四二一
 ひすてりー性譫妄状態 四二一

ひすてりー性特徴 四二三
 ひすてりー性ばらのいあ 四四〇
 ひすてりー性夢中遊行 四三七
 ひすてりー性朦朧状態 四三二
 ひすてりー大發作 四二五
 ひすてりー發生點 四一八
 ひすてりー發作ノ際ニ現ハルル精神障礙 四二八
 ひすてりー癲癇 四二八
 ヒツア氏くろのぐらふ筆蹟計 三八五
 筆蹟検査 九六
 筆蹟計 九六
 筆蹟検査 七四、三四七
 被毒妄想 一二四
 ひれくれたる行爲 六四
 ビネー氏智力測定法 六四
 皮膚感覺 一一一、一二、五二
 ひぼこんでりー 二二七、四九九、三九一
 ひぼこんでる妄想 七四
 實位ノ聯合 四九
 質困妄想 一二八
 癲癇 三六九
 非模型的發作 二六
 表出運動 八六
 表出方法(表情運動) 一五八
 病(病的)酩酊参照 四六二
 病的意志薄弱症 四六二

病的意志被定症 一一八
 病的快樂性情緒 一〇〇
 病的感情 九五
 病的記憶増進症 四四
 病的蒐集症 一〇九
 病的虛言者 四六四
 病的恐怖 九八
 病的潔癖症 一〇〇、四七〇
 病的實問症 九五
 病の手淫者 四七六
 病的情緒 九五
 病的意識制止 三五
 病的性慾行爲 二〇
 病的爽快 三四九
 病的不快感情 九五、三四八
 病的酩酊(病叢参照) 三七一
 疲勞感情 九〇
 疲勞測定法 一三九、一〇五
 疲勞測定法 四一九
 ビルショウスキー氏銀浸潤法 四一九
 貧困者 一九九
 フネツシャイ氏症 二七四
 フネールエツグ氏法 四三
 癲癇村 二六五

ふ之部

夫婦間ノ攝生 二〇五
 ふまちしすむす 四七六
 ふるまりん液 四一三
 不快感 八八
 不快情調ノ減退症 二一、八九
 不快感覺受性 三四八
 不快情調ノ亢進症 二一、八九
 不管性(平氣) 一〇四、三四七
 輻輳反應 一四九、二一九
 不潔症ニ對スル處置 二七五
 プーテンコ氏反應 一八七
 舞蹈病 二〇四
 舞蹈病ニ伴フ精神病 五九二
 物理學的追跡妄想 七六
 不反省性 七九
 不眠ニ對スル處置 二七五
 文盲 一三五
 憤怒 一二九
 憤怒性刺戟症 九六
 憤怒すびなふれにー 三〇五、三九七
 プロイカ氏運動性失語症 一三三、一一一
 ぶろみびん 二二〇
 ぶろーも樟腦 二二〇
 ぶろむらーる 二二九
 ぶろもこーる 二二〇

へ之部

平氣、冷淡 一〇四、三四七
 平衡感覺 一三
 へまときしりんあらうむ 四一五
 へまときしりんをじん染色法 四一五
 へまとぼるふかりん反應 一八六
 偏執 八二、一〇九
 偏執狂 三五八、三六七
 偏執病 三五八、三六七
 偏執病癡呆(ばらふれにー) 三五八
 變質者 四六〇
 變質性精神病 四六〇
 變質性精神病 四六〇
 變質微候 四七七
 變性女子 四七七
 變性女子裝者 四七七
 變性男子 四七八
 變性男裝者 四七七
 變性男裝者 四七七
 ヘンネルグ氏智力測定法 六一
 ヘンネルグ氏試驗法 六一
 變容強迫症 一九〇
 べらくら中毒 六四
 べらなーる 一八七
 ペロシチー氏液 二二二
 一八八

ほ之部

輔位的妄想 七七
 步行佇立不能症 四二二
 保續症 五二
 補體結合試驗 一五五、一五〇
 發作 一四五
 發作性躁病 四一六
 發作頻發症 三七九
 本人重複症 一四二
 本人歴 四二一
 ホーヘツエル氏法 四二

ま之部

マイネルト氏法 四一〇
 妄覺 一六二、三、四九、五三九
 妄覺病 二〇八、二二四
 妄想 七二、四九五
 妄想性癡呆 三四一、三六五
 妄想病癡呆 三七一
 妄想性抑鬱状態 三七八
 マソヒ症 一一七
 まっさーじ 二五〇
 麻痺症狀 一四四
 麻痺性癡呆 二五五、三六九、四三二
 マンコッブ氏症狀 四五〇
 慢性、かいん中毒症 一八五
 慢性酒精中毒 一六一、四〇〇